

令和6年11月12日
総務常任委員会資料
政策企画部政策戦略課

第3期宇治市人口ビジョン、 宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略（初案）等について

第3期宇治市人口ビジョン、宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、令和7年度から11年度を計画期間として、現在、策定に向けて検討を進めているところですが、この度、初案として取りまとめましたので、報告いたします。

また、パブリックコメントを実施し、本初案に対する市民の皆様からの意見を募集しますので、あわせて報告いたします。

【資料】

第3期宇治市人口ビジョン 宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略（初案）	資料1
定住・転入・転出に関するアンケート調査 調査結果報告書	資料2
意見募集について	資料3

第3期
宇治市人口ビジョン
宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略
(初案)

宇治市

目次

1	宇治市人口ビジョン	1
1.1	はじめに	1
(1)	人口ビジョン策定の背景	1
(2)	宇治市人口ビジョン策定の意義	1
1.2	人口動向分析	2
(1)	人口の推移	2
(2)	人口増減の状況	8
(3)	昼間・夜間人口の状況	15
1.3	将来人口推計	16
(1)	人口動向の総括と将来的な地域への影響	16
(2)	第3期宇治市人口ビジョンの方向性	18
(3)	第3期宇治市人口ビジョンの将来展望	20
2	宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和7～11年度）	24
2.1	基本的な考え方	24
(1)	戦略の目的	24
(2)	戦略の位置付け・計画期間	24
(3)	戦略の構成	24
(4)	第2期創生総合戦略の中間総括	25
(5)	地方創生の実現・推進に向けて	26
2.2	地域ビジョンと基本目標	27
(1)	地域ビジョン	27
(2)	基本目標	27
2.3	基本目標ごとの方向性・具体的な施策	28
(1)	基本目標1 『新たな時代の宇治ブランドの向上』	28
(2)	基本目標2 『希望をかなえる子育て・子育てにやさしいまちづくり』	33
(3)	基本目標3 『住み続けたい「ふるさと宇治」の創生』	40
(4)	基本目標4 『活力あふれる産業振興と多様な働く場の創出』	44
(5)	基本目標5 『未来を拓く都市基盤の整備』	49

1 宇治市人口ビジョン

1.1 はじめに

(1) 人口ビジョン策定の背景

人口減少や少子高齢化が進展する中、東京への一極集中によって地方から東京圏に人口が流入していること等により、地方における生産年齢人口の減少が続いている。そのため、地方においては、地域社会の担い手の減少だけでなく、働き手と商品・サービスの買い手の減少による経済規模の縮小といった課題のほか、年齢別の人口構成が極端に高齢者に偏ったものになることも見込まれ、医療や介護などの社会保障制度を維持するための負担が非常に大きくなることが懸念されている。

こうした状況を踏まえ、2014年（平成26年）に国は「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、日本の人口の現状と将来の姿を示し、人口減少をめぐる問題を共有するとともに、今後、目指すべき将来の方向性を提示することを目的とした「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（以下、「国の長期ビジョン」という。）」を策定した。

その後、人口減少に対する意識や危機感が徐々に浸透し、人口減少のスピードはやや遅くなっているものの、2019年（令和元年）に改訂された国の長期ビジョンによると、我が国の人口は、2060年（令和42年）には約9,300万人まで減少し、2100年（令和82年）には6,000万人を大きく割り込むと推計されている。

人口減少は、その歯止め時間に時間を要し、歯止めをかけたとしても一定の人口減少が進行していくと見込まれることから、出生率の向上により人口減少を和らげることに限らず、生活・経済圏の維持・確保や生産性の向上などに取り組み、人口減少に適応した地域をつくる必要があり、将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と、東京圏への一極集中の是正を共に目指す必要がある。

(2) 宇治市人口ビジョン策定の意義

本市の人口は減少傾向にあり、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の2020年（令和2年）国勢調査の人口を基にした推計によると、2030年（令和12年）に約16万人、2040年（令和22年）に約14万人とさらに減少し、少子高齢化がさらに進むと見込まれている。

第3期宇治市人口ビジョンは、これまでの第1期宇治市人口ビジョン（2016年（平成28年））や、第2期宇治市人口ビジョン（2020年（令和2年））の検討を基にしつつ、国の方針を踏まえた推計を行うとともに、人口の維持と持続可能な発展に向けた「まち・ひと・しごと」を創出するための創生総合戦略を策定する上での分析や本市の目標とする人口を定めるものとする。

1.2 人口動向分析

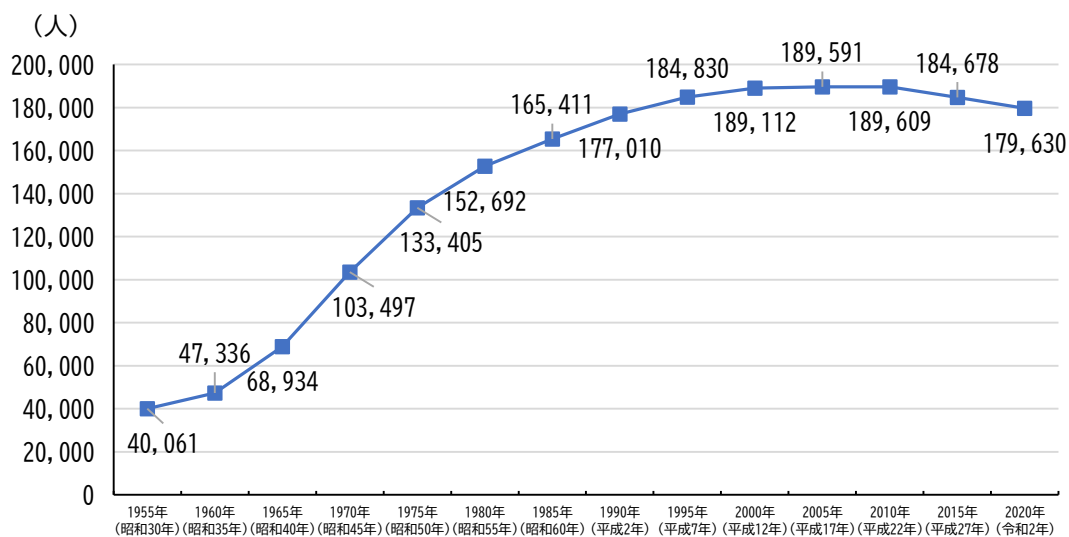
(1) 人口の推移

① 人口の推移

本市の総人口は、1955 年（昭和 30 年）から増加を続け、2010 年（平成 22 年）の 189,609 人をピークに減少している。

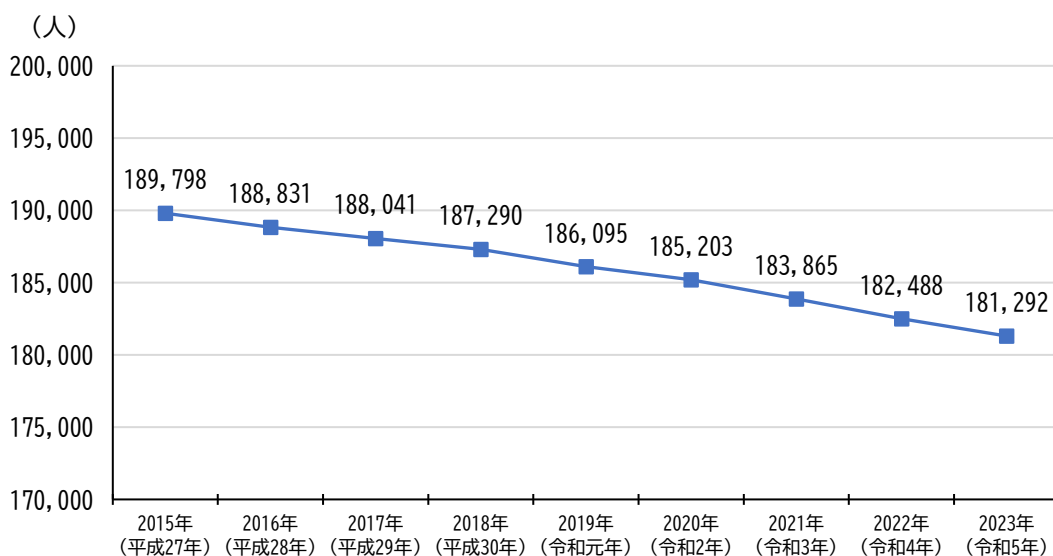
住民基本台帳より 2015 年（平成 27 年）以降の各年の推移をみても、減少が続いている。

図 1.2-1 宇治市の人口推移（国勢調査人口）



出典：総務省「国勢調査」

図 1.2-2 宇治市の人口推移（住民基本台帳人口）

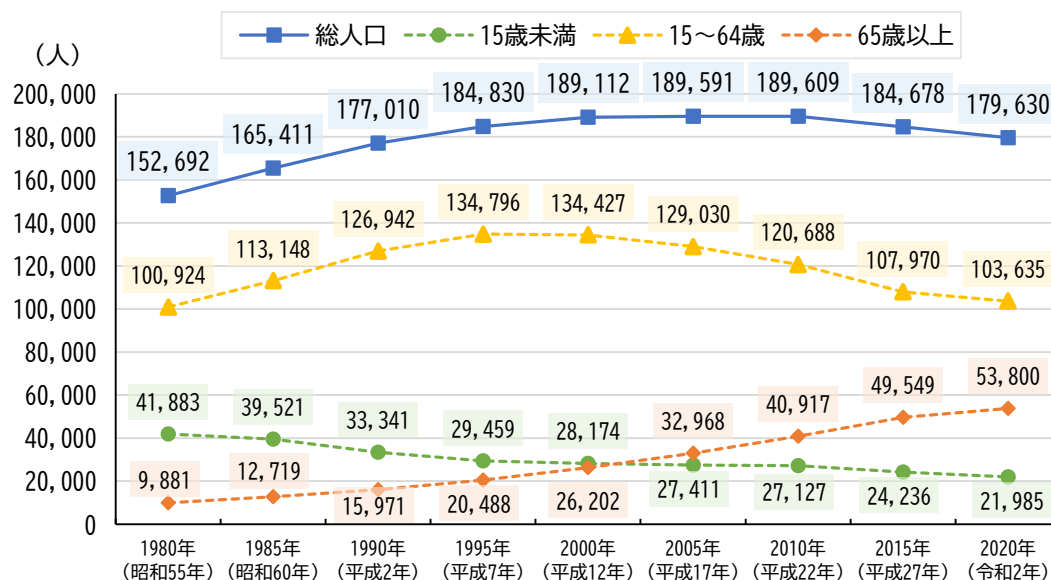


出典：「住民基本台帳（各年 10 月 1 日現在）」

② 年齢3区分ごとの人口の推移

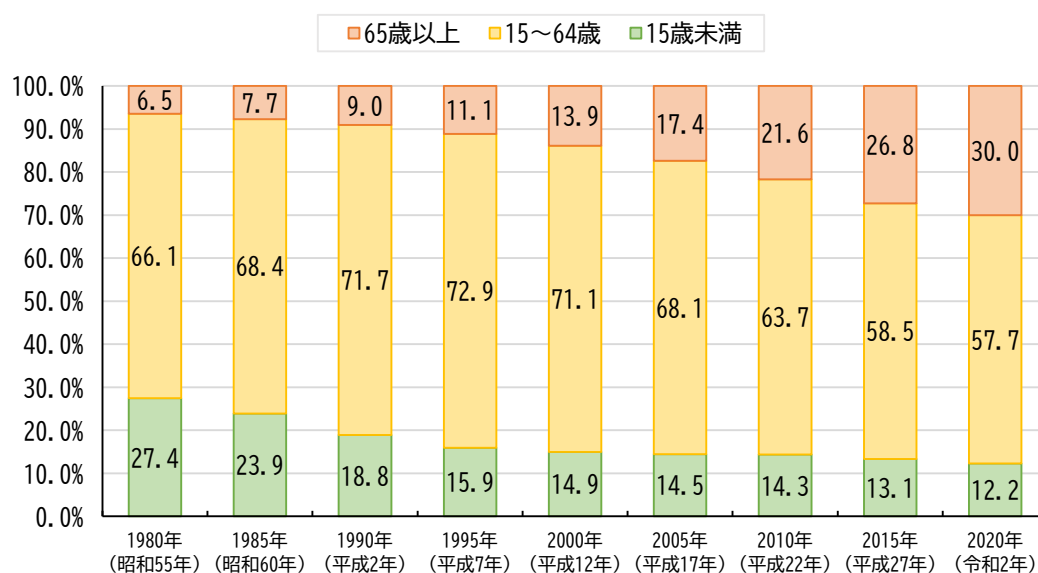
年齢3区分ごとの人口推移をみると、15歳未満人口は減少傾向、65歳以上人口は増加傾向にあり、15～64歳人口は1995年（平成7年）をピークに減少傾向にある。また、2020年（令和2年）現在の高齢化率は、30.0%となっている。

図 1.2-3 宇治市の人口推移



出典：総務省「国勢調査」

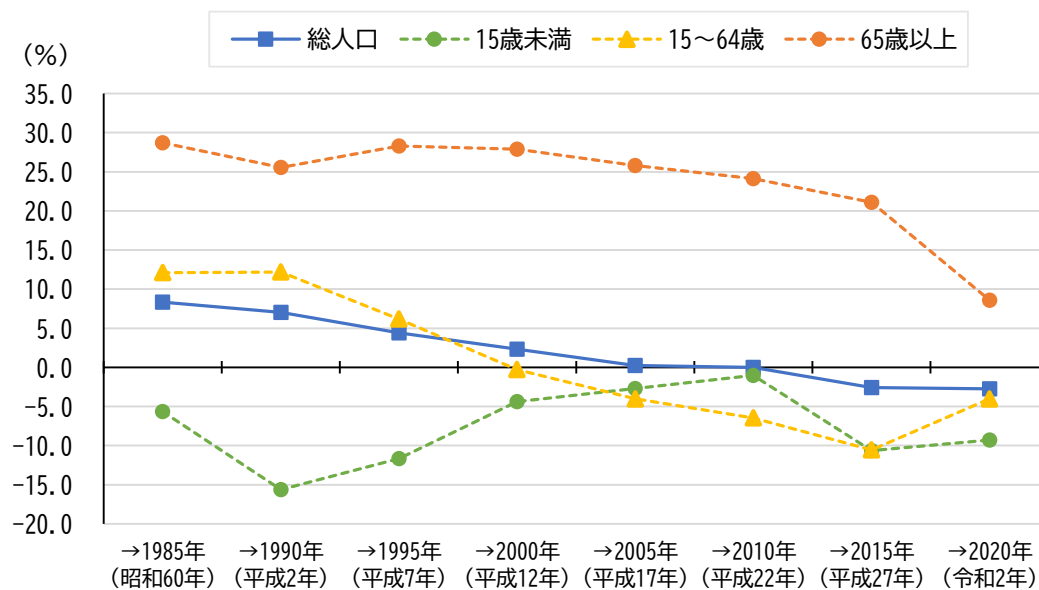
図 1.2-4 宇治市の年齢3区分別人口割合の推移（国勢調査人口）



出典：総務省「国勢調査」

年齢3区分ごとの前年比増減率の推移は下図のとおり。次頁以降に、区分ごとの詳細を示す。

図 1.2-5 宇治市の前年比人口増減率の推移（国勢調査人口）



出典：総務省「国勢調査」

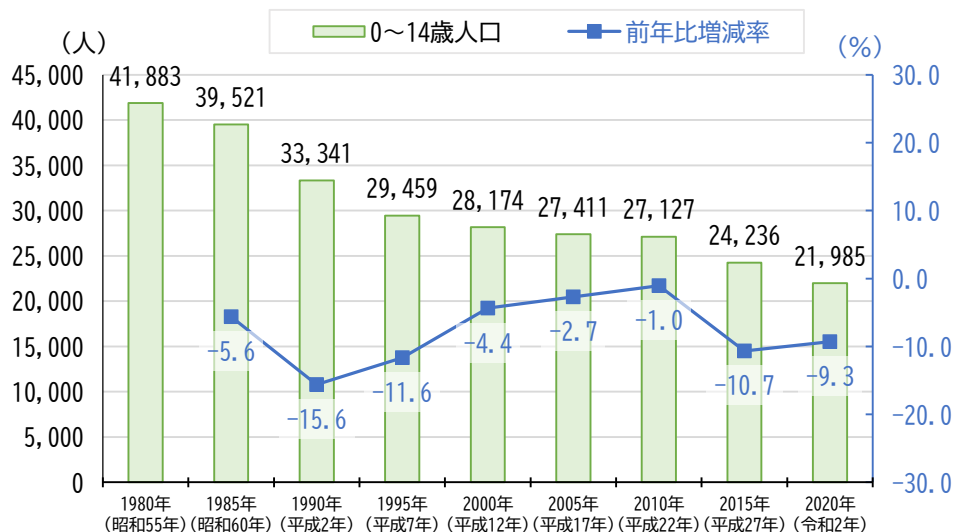
注）国勢調査は5年間隔のため、ここでの前年比は、5年前値との比較となる。

<15 歳未満人口>

15 歳未満人口について、国勢調査人口を基に 1980 年（昭和 55 年）以降の推移をみると、2020 年（令和 2 年）にかけて人口減少が続いている。

前年比増減率をみると、1990 年（平成 2 年）から 2010 年（平成 22 年）にかけて減少率が小さくなっていたが、近年は再び大きくなっている。

図 1.2-6 宇治市の 0～14 歳人口および前年比人口増減率の推移（国勢調査人口）

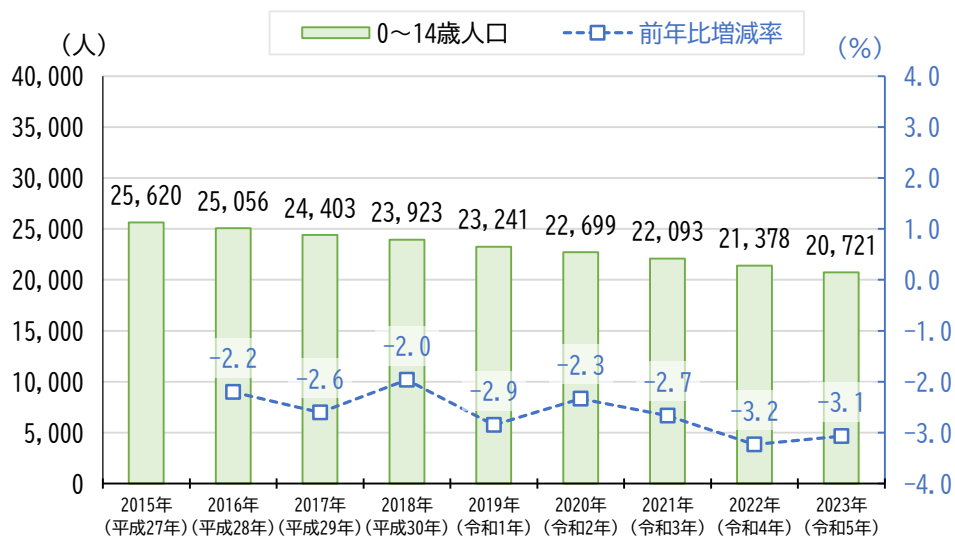


出典：総務省「国勢調査」

注）国勢調査は 5 年間隔のため、ここでの前年比は、5 年前値との比較となる。

住民基本台帳人口を基に 2015 年（平成 27 年）から 2023 年（令和 5 年）までの前年比増減率をみると、減少率が拡大する傾向にある。

図 1.2-7 宇治市の 0～14 歳人口および前年比人口増減率の推移（住民基本台帳人口）



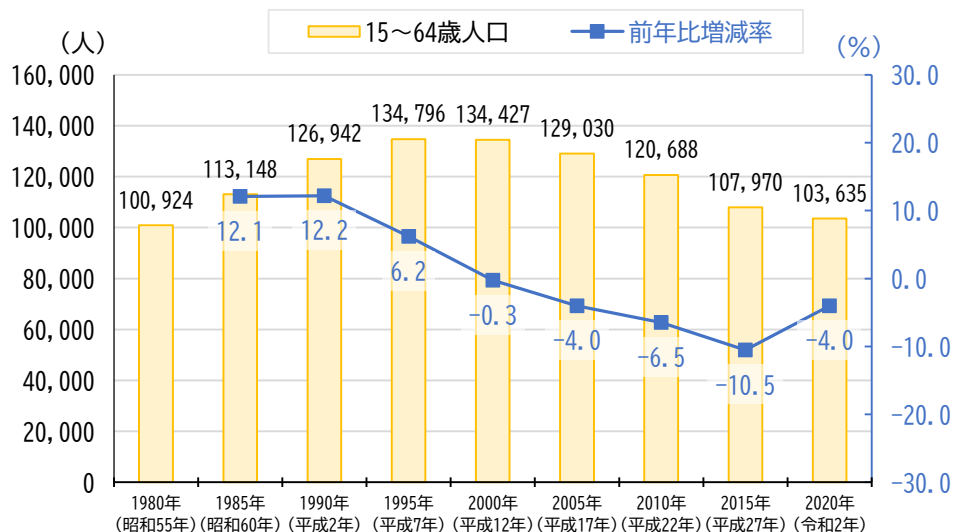
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

<15～64 歳人口>

15～64 歳人口について、国勢調査人口を基に 1980 年（昭和 55 年）以降の推移をみると、1995 年（平成 7 年）をピークに減少傾向にある。

前年比増減率をみると、2015 年（平成 27 年）にかけて人口減の傾向が強くなっていたが、2015 年（平成 27 年）から 2020 年（令和 2 年）にかけての減少率は小さくなっている。

図 1.2-8 宇治市の 15～64 歳人口および前年比人口増減率の推移（国勢調査人口）

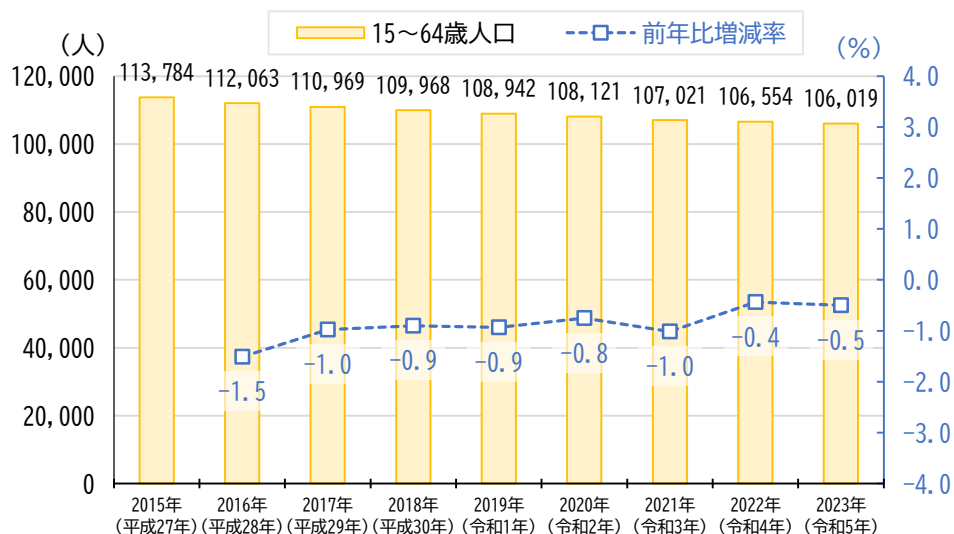


出典：総務省「国勢調査」

注）国勢調査は 5 年間隔のため、ここでの前年比は、5 年前値との比較となる。

住民基本台帳人口を基に 2015 年（平成 27 年）から 2023 年（令和 5 年）までの前年比増減率をみると、減少率は縮小している。

図 1.2-9 宇治市の 15～64 歳人口および前年比人口増減率の推移（住民基本台帳人口）



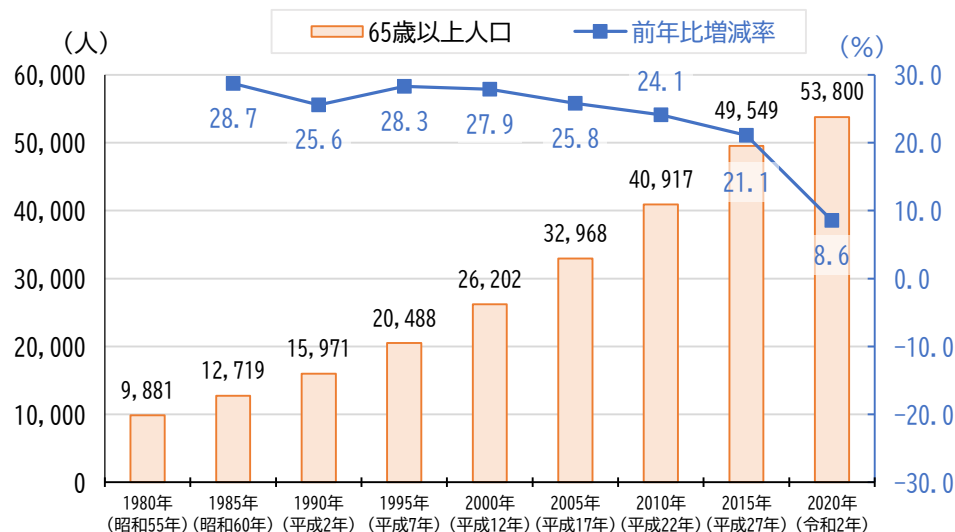
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

<65 歳以上人口>

65 歳以上人口について、国勢調査人口を基に 1980 年（昭和 55 年）以降の推移をみると、2020 年（令和 2 年）にかけて増加傾向が続いている。

一方で前年比増減率をみると、1990 年（平成 2 年）以降、増加率は減少傾向にあり、特に 2015 年（平成 27 年）から 2020 年（令和 2 年）にかけて大きく減少している。

図 1.2-10 宇治市の 65 歳以上人口および前年比人口増減率の推移（国勢調査人口）

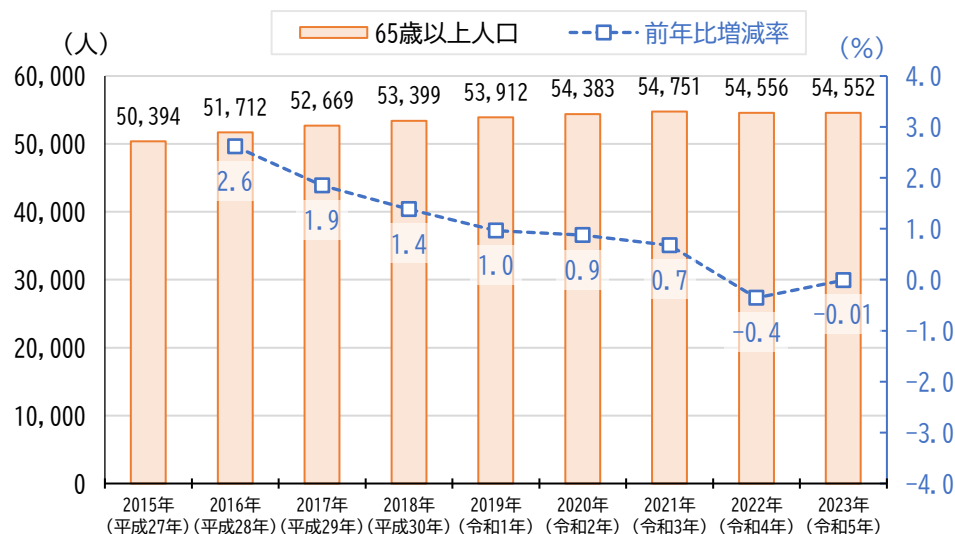


出典：総務省「国勢調査」

注）国勢調査は 5 年間隔のため、ここでの前年比は、5 年前値との比較となる。

住民基本台帳人口を基に 2015 年（平成 27 年）から 2023 年（令和 5 年）までの前年比増減率をみると、増加率は減少傾向にあり、2022 年（令和 4 年）には人口減となっている。

図 1.2-11 宇治市の 65 歳以上人口および前年比人口増減率の推移（住民基本台帳人口）



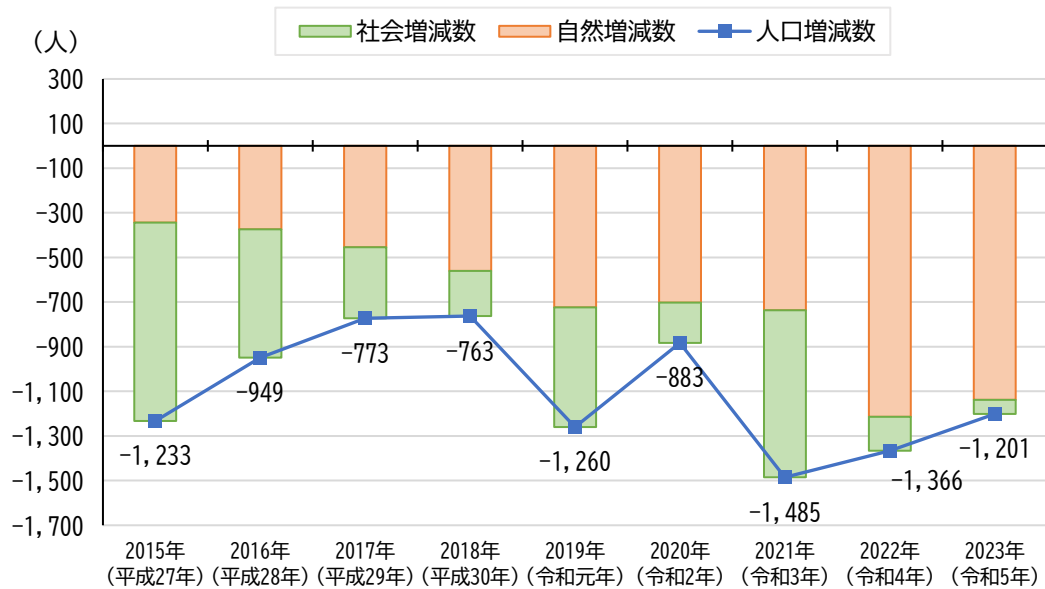
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

(2) 人口増減の状況

① 人口増減の状況

本市では人口減の状況が続いている。特に近年は、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」による影響を大きく受けている。

図 1.2-12 宇治市の人口増減の推移



出典：「住民基本台帳（すべて年間の届出数による）」

表 1.2-1 宇治市の人口増減の推移

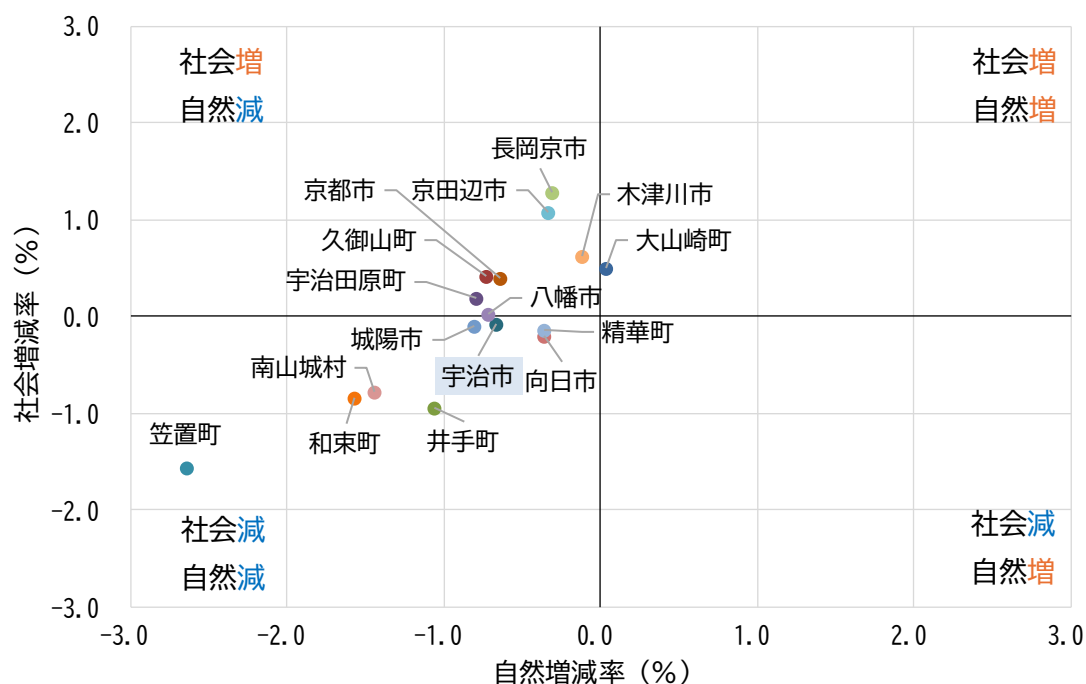
	2015 年 (平成 27 年)	2016 年 (平成 28 年)	2017 年 (平成 29 年)	2018 年 (平成 30 年)	2019 年 (令和元年)	2020 年 (令和 2 年)	2021 年 (令和 3 年)	2022 年 (令和 4 年)	2023 年 (令和 5 年)
自然増減数	-344	-374	-455	-561	-724	-703	-737	-1,215	-1,138
社会増減数	-889	-575	-318	-202	-536	-180	-748	-151	-63

出典：「住民基本台帳（すべて年間の届出数による）」

<参考：京都府南部の他自治体の状況>

2022 年（令和 4 年）における人口増減の状況をみると、自然増減率・社会増減率がともにプラスである自治体は大山崎町のみとなっている。社会増減率のみがプラスとなっている自治体は、長岡京市、京田辺市、木津川市、京都市、久御山町、宇治田原町で、このうち京田辺市、木津川市は人口が増加傾向にある。本市と自然増減率・社会増減率の比較的近い自治体としては、八幡市、城陽市が挙げられる。

図 1.2-13 京都府南部における人口増減の状況（2022 年（令和 4 年））



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（2022 年（令和 4 年））

表 1.2-2 京都府南部における人口増減の状況（2022 年（令和 4 年））

	社会増減率 (%)	自然増減率 (%)		社会増減率 (%)	自然増減率 (%)
宇治市	-0.08	-0.66	大山崎町	0.50	0.03
京都市	0.38	-0.65	久御山町	0.42	-0.73
城陽市	-0.10	-0.81	井手町	-0.94	-1.06
向日市	-0.20	-0.36	宇治田原町	0.19	-0.79
長岡京市	1.27	-0.32	笠置町	-1.57	-2.64
八幡市	0.03	-0.72	和束町	-0.84	-1.57
京田辺市	1.07	-0.34	精華町	-0.13	-0.36
木津川市	0.62	-0.12	南山城村	-0.78	-1.44

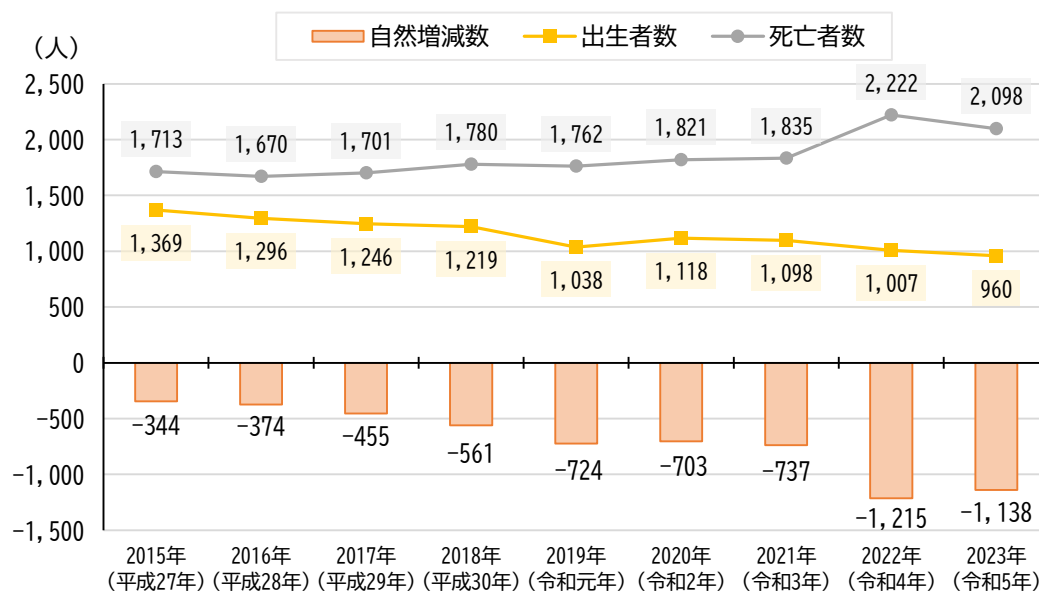
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（2022 年（令和 4 年））

② 自然増減の状況

自然増減数（＝出生者数－死亡者数）をみると、出生者数が減少傾向にある一方で、死亡者数は増加傾向にあり、自然減（出生者数＜死亡者数）の傾向が強くなっている。

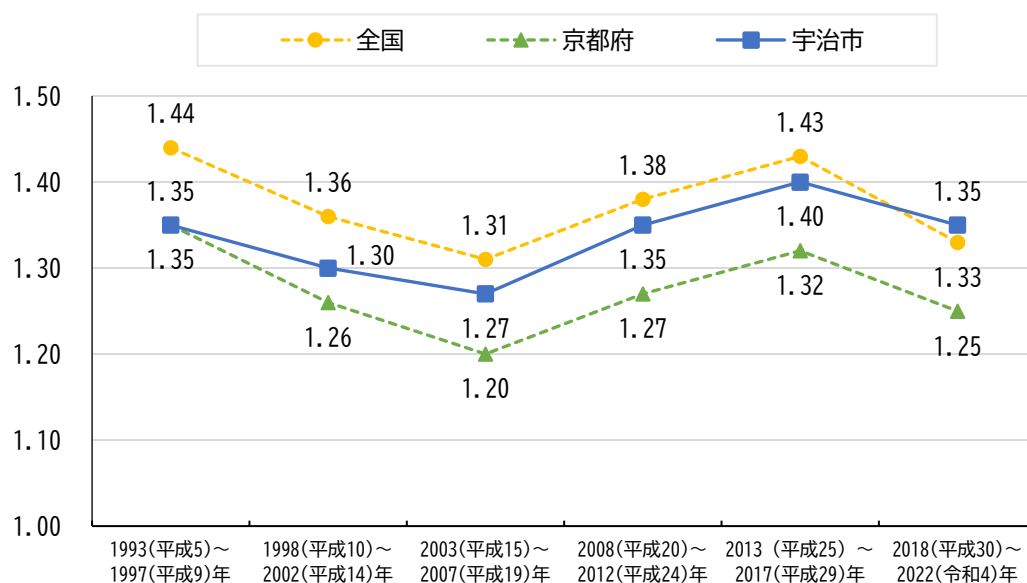
また、合計特殊出生率をみると、京都府の水準よりも高くなっている。全国との比較では、全国水準よりも低い状況が続いていたが、2018（平成30）～2022（令和4）年においては全国の水準よりも高くなっている。

図 1.2-14 宇治市の自然増減の推移



出典：「住民基本台帳（すべて年間の届出数による）」

図 1.2-15 合計特殊出生率の推移



出典：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」

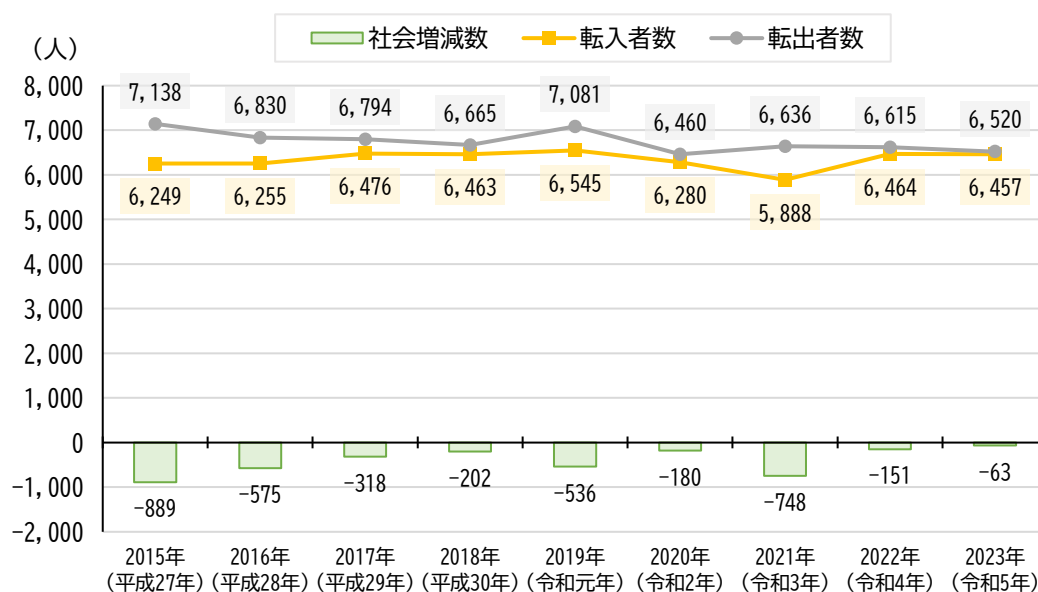
③ 社会増減の状況

社会増減（＝転入者数－転出者数）をみると、転出超過（転入者数＜転出者数）の状況が続いている。直近の2023年（令和5年）値は、2015年（平成27年）以降最も小さくなっている。

転入者数は、2016年（平成28年）から2019年（令和元年）にかけて微増し、2020年（令和2年）、2021年（令和3年）と減少したが、2022年（令和4年）以降は再び増加している。

転出者数は、2015年（平成27年）に7,000人を超えて以降、減少傾向にあったが、2019年（令和元年）に7,081人にまで増加した。その後は再び減少し、2020年（令和2年）～2023年（令和5年）はおよそ6,500人程度で推移している。

図 1.2-16 宇治市の社会増減の推移

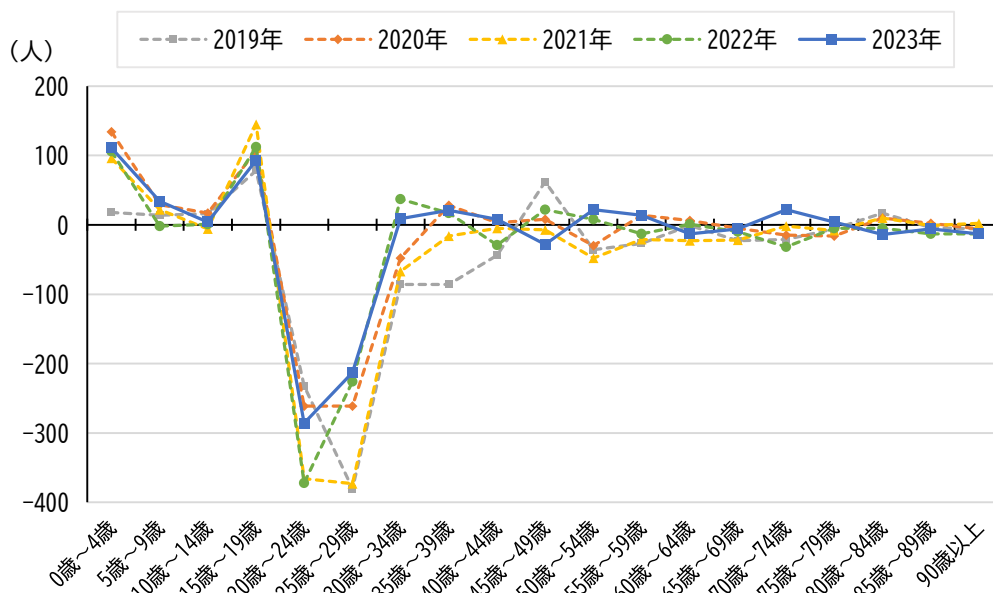


出典：「住民基本台帳（すべて年間の届出数による）」

ア. 年齢別の傾向

社会増減の2019年（令和元年）から2023年（令和5年）までの年齢ごとの傾向をみると、特に20代の転出超過が続いており、0～4歳、15歳～19歳では転入超過が続いている。また、2019年（令和元年）から2021年（令和3年）にかけて転出超過であった30代は、2022年（令和4年）から2023年（令和5年）では転入超過となっている。

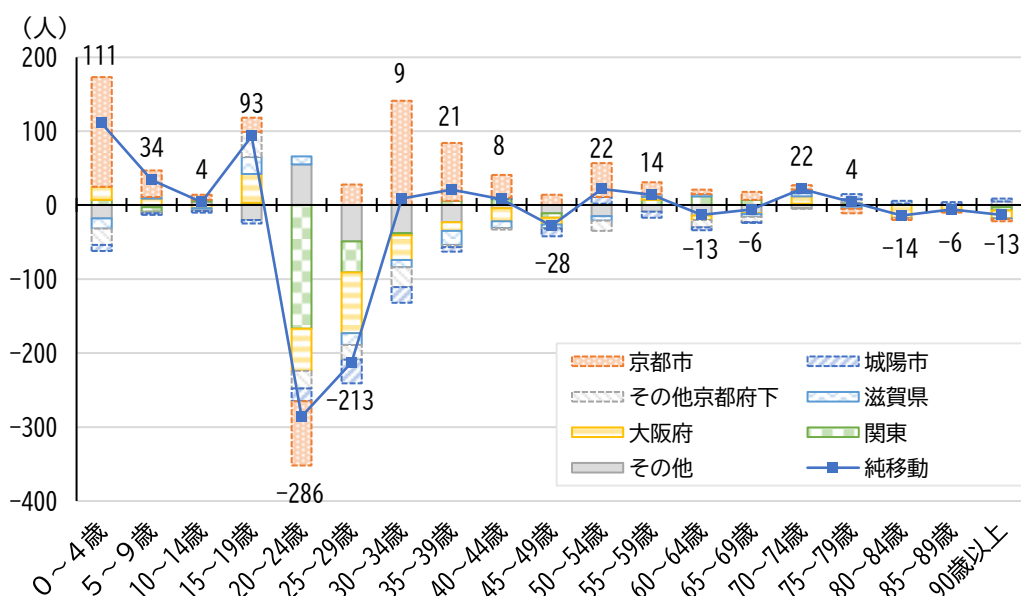
図 1.2-17 年齢5歳階級別純移動数の比較



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

2023年（令和5年）における年齢別・地域別の社会増減の状況をみると、転出超過の大きい20代の転出先としては、特に関東の転出超過が大きくなっている。20代前半では関東に次いで京都市、20代後半では関東に次いで大阪府となっている。全体としては、京都市に対して転入超過となっている。

図 1.2-18 年齢5歳階級別の転入元・転出先の内訳（2023年（令和5年））



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2023年（令和5年））
 注）「関東」は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県を対象として抽出。

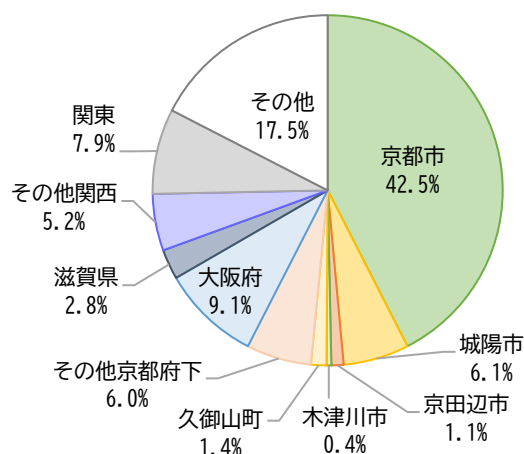
イ. 子育て世帯の傾向

6歳未満の子どもがいる世帯（子育て世帯）の転入元をみると、最も多いのが京都市、次いで大阪府、関東となっている。京都府下市町村からの転入割合は57.5%と半数以上を占めており、中でも京都市からの転入が多い。

転出先をみると、京都府下市町村からの転出割合は48.4%と半数近くを占めているが、転入と企画すると京都市の占める割合は下がり、京都市以外の京都府下市町村の割合が増加している。

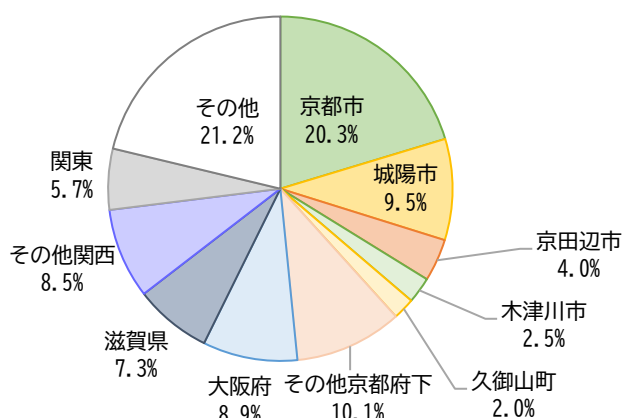
これらより、本市においては、子育て世帯を京都市から取り込んでいる一方、城陽市などの近隣市町村へ流出している状況にある。

図 1.2-19 6歳未満の子どもがいる世帯の転入元（2020年（令和2年）～2023年（令和5年））



出典：「住民基本台帳（2020年（令和2年）～2023年（令和5年））」
 注）「関東」は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県を対象として抽出。

図 1.2-20 6歳未満の子どもがいる世帯の転出先（2020年（令和2年）～2023年（令和5年））

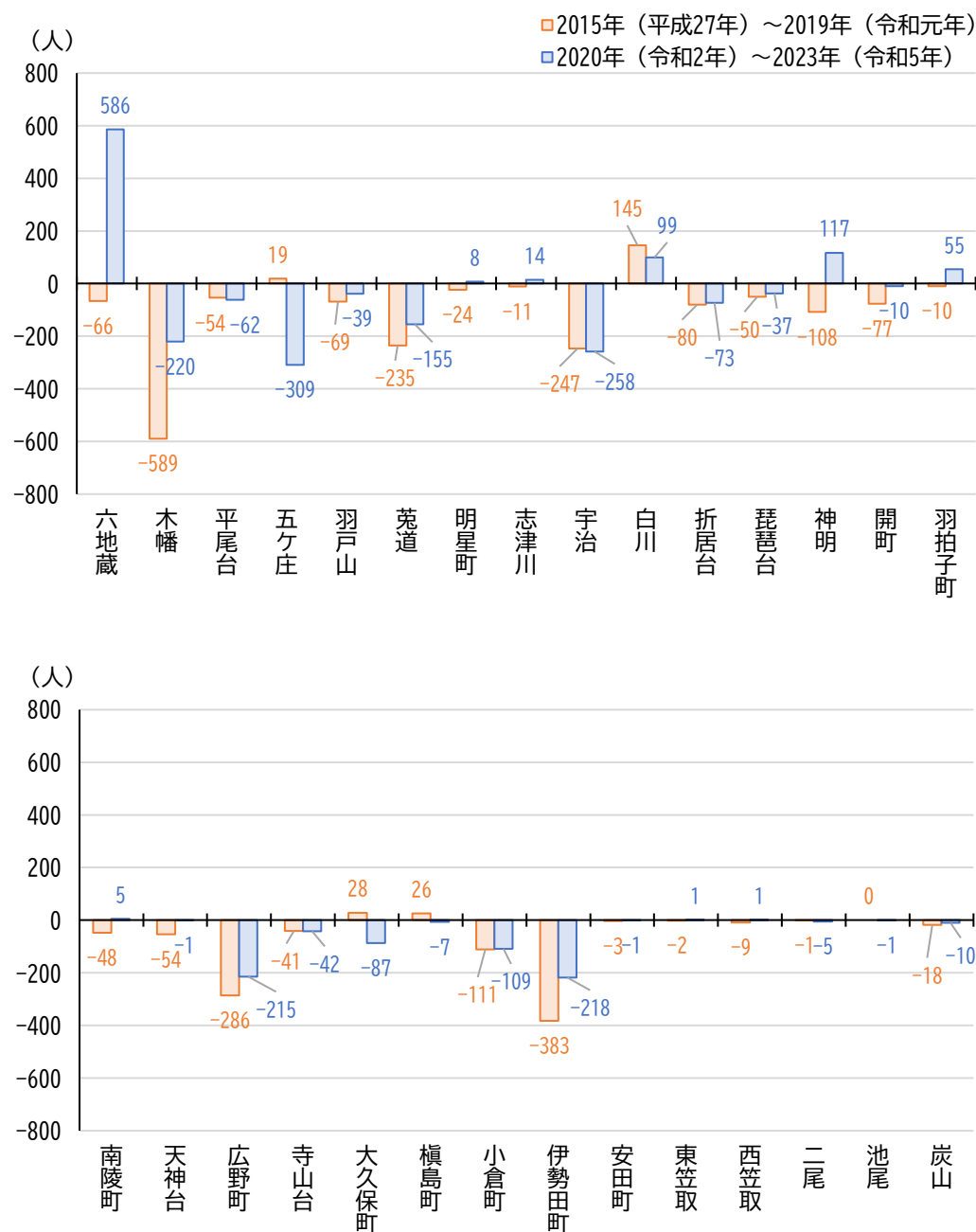


出典：「住民基本台帳（2020年（令和2年）～2023年（令和5年））」
 注）「関東」は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県を対象として抽出。

ウ. 地区別の傾向

2020 年（令和 2 年）～2023 年（令和 5 年）における地区別の社会増減数をみると、全 29 地区中 20 地区で転出超過となっている。特に五ヶ庄や宇治、木幡、広野町、伊勢田町では、200 人以上の転出超過となっている。一方で六地蔵では 586 人の転入超過となっており、ほか白川や神明などは比較的に転入超過数が大きくなっている。

図 1.2-21 地区別の社会増減数



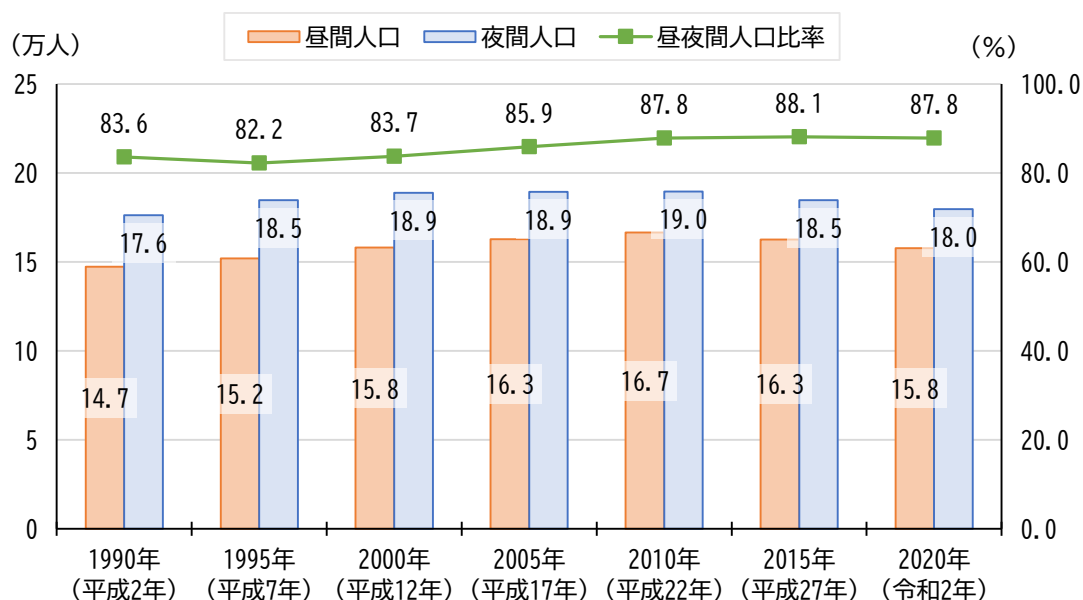
出典：「住民基本台帳」

(3) 昼間・夜間人口の状況

昼夜間人口比率は、近年増加傾向にある。昼間人口、夜間人口は、ともに 2010 年（平成 22 年）をピークとし、以降は減少している。

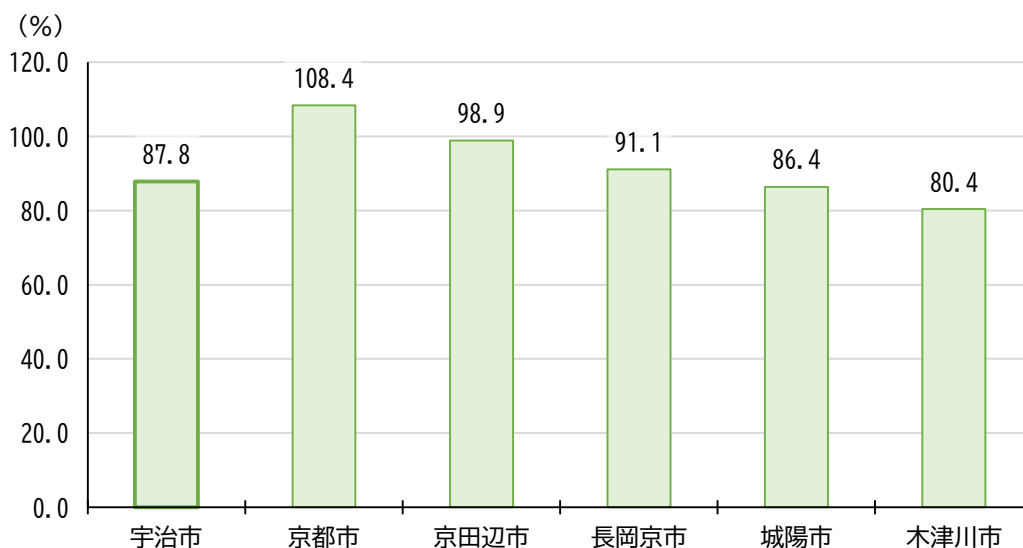
2020 年（令和 2 年）の昼夜間人口比率を近隣市と比較すると、京都市、京田辺市、長岡京市より低く、城陽市、木津川市より高くなっている。

図 1.2-22 宇治市における昼夜間人口の推移



出典：総務省「国勢調査」

図 1.2-23 近隣市との昼夜間人口比率の比較（2020 年（令和 2 年））



出典：総務省「国勢調査」（2020 年（令和 2 年））

1.3 将来人口推計

(1) 人口動向の総括と将来的な地域への影響

① 人口動向の総括

本市の人口は、2010 年（平成 22 年）をピークに減少傾向にある。本市の人口動向について、年齢構成の変化、出生と死亡による「自然増減」、他地域との転入出による「社会増減」の 3 点から以下に示す。これらを踏まえ、転入者数の増加や出生者数の増加に向けた取組を推進していく必要がある。

<年齢構成>

国勢調査では、2020 年（令和 2 年）にかけて 65 歳以上の高齢者人口は増加している一方で、0～14 歳の年少人口や 15～64 歳の生産年齢人口は減少しており、全体として人口減となっている（図 1.2-3）。

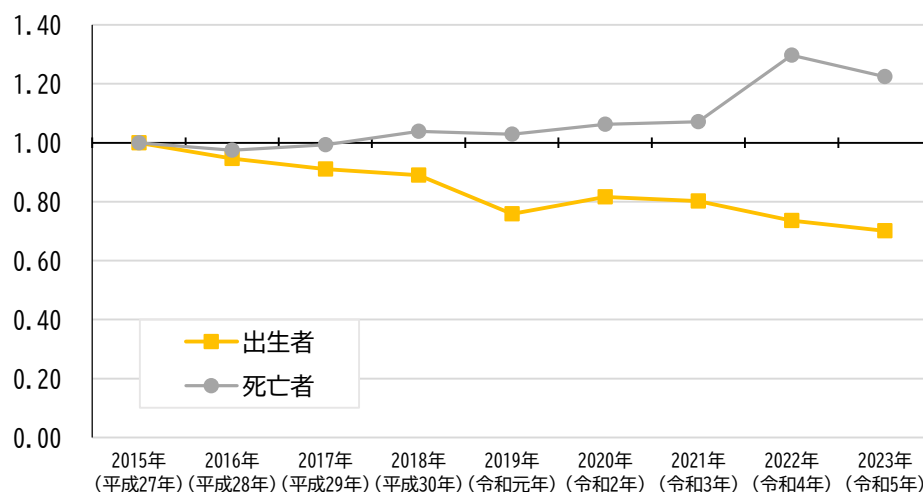
なお、年齢構成ごとの増減の傾向は変化しつつある。住民基本台帳より高齢者人口をみると、その増加率は縮小傾向にあり、2023 年（令和 4 年）に高齢者人口は減少に転じている（図 1.2-11）。一方で、生産年齢人口においては、人口の減少は続いているものの、その減少率は縮小傾向にある（図 1.2-9）。

<自然増減>

自然減の傾向はより強くなっている（図 1.2-14）。

出生者数は、2019 年（令和元年）にこれまでの傾向より大きく減少したものの、2020 年（令和 2 年）に増加に転じた。ただ、その後はまた減少しており、増加する死亡者数との差は広がっている。

図 1.3-1 宇治市の自然増減の推移（2015 年（平成 27 年）を 1 とした場合）



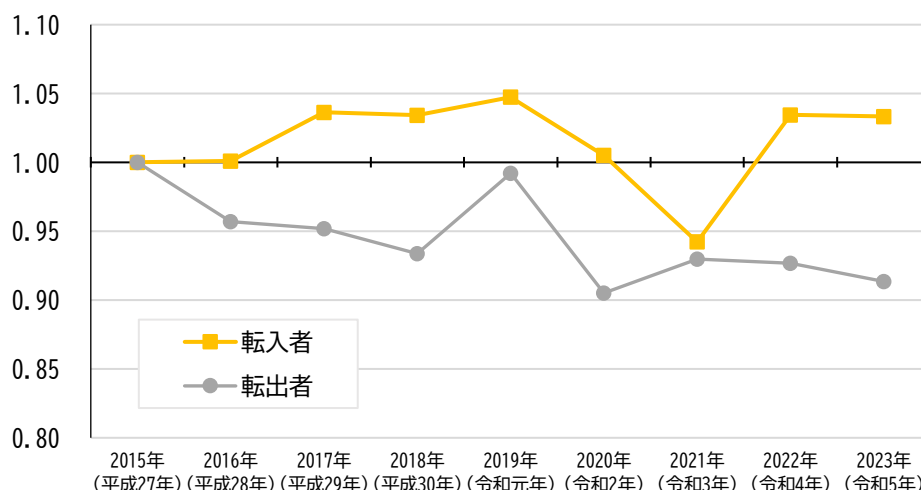
出典：「住民基本台帳（すべて年間の届出数による）」

<社会増減>

転出超過（転入者数＜転出者数）が続くものの、その大きさは変動しており、直近の2023年（令和5年）値は、2015年（平成27年）以降最も小さくなっている（図1.2-16）。

2015年（平成27年）値と2023年（令和5年）値とを比較すると、その間一時的な増減はありながらも、転入者は微増、転出者は微減している。年齢ごとの転入の状況をみると、30代が2022年（令和4年）以降に転入超過（転入者数＞転出者数）に転じた（図1.2-17）。20代の転出は依然として多く、特に関東や大阪府、京都市の転出超過が大きくなっている（図1.2-18）。

図1.3-2 宇治市の社会増減の推移（2015年（平成27年）を1とした場合）



出典：「住民基本台帳（すべて年間の届出数による）」

② 財政状況への影響

人口変化による財政状況への影響については、働き手の減少に伴い、個人市民税の税収減が懸念される一方で、高齢者の増加に伴って、老人福祉や介護保険特別会計、後期高齢者医療特別会計といった高齢者福祉に関わる費用の増加が予想される。したがって、働く場を創出しつつ、若い世代の就労支援をはじめ、女性や高齢者など様々な人が働きやすい環境を整えるとともに、高齢者が健康を保ち、介護や医療が必要な状態になりにくい環境づくりを進めていく必要がある。

③ 公共施設への影響

本市における多くの公共施設は、高度経済成長下のベッドタウンとして、人口の増加や市民ニーズの拡大にあわせて、1985年（昭和60年）頃までにその多くを整備しており、今後20～30年間に集中して改修・更新時期を迎える。その一方、人口減少・少子高齢化の進行等により、財政状況が厳しい見通しにある中で、老朽化等の対策にかかる費用が大きな課題となっている。また、年齢構成の変化や地方創生等の観点から、行政サービスや市民活動のニーズが多様化しており、公共施設がこれからのまちづくりにおいて求められる役割を見定めたうえで、公共施設のあり方を検討する必要がある。

(2) 第3期宇治市人口ビジョンの方向性

① 第2期宇治市人口ビジョンのふり返し

<第2期宇治市人口ビジョン策定以降の人口動態>

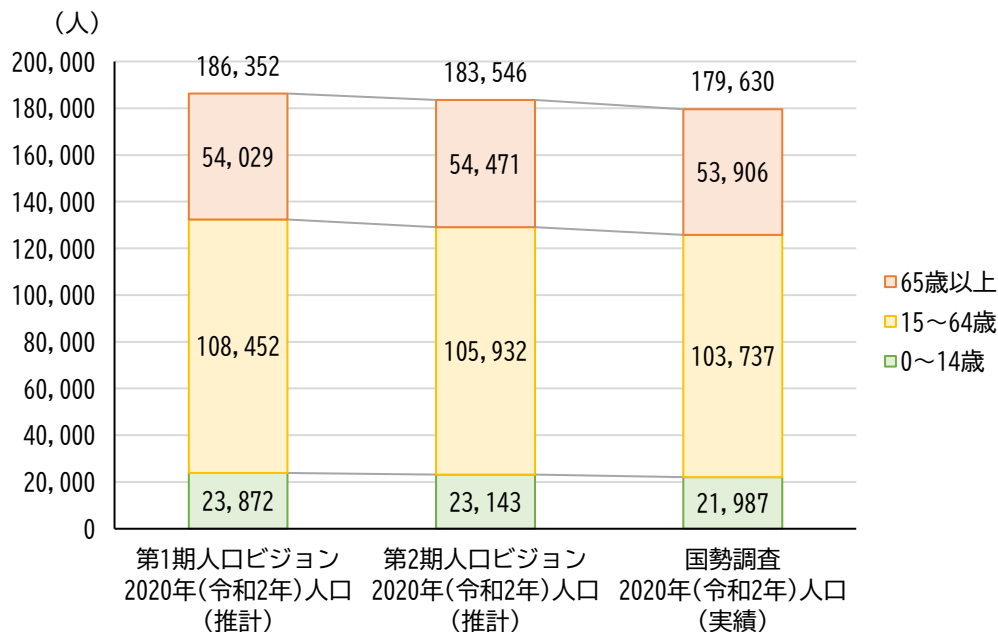
2020年（令和2年）以降の人口動態をみると、依然として人口減が続いているものの、生産年齢人口の減少率の低下、転入者数の増加や転出者数の減少、出生者数の大幅な減少の食い止め、合計特殊出生率が全国値を上回るなど、地方創生の取組の効果が一定、表れているものとも推測される。一方で、高齢者人口が減少に転じたことなど、これまでにない傾向もみられている。また、年少人口は減少し続けており、当該ビジョン実現のための効果的な施策を定めていくことが必要である。

<人口ビジョンと国勢調査人口の比較>

2020年（令和2年）3月に策定した第2期宇治市人口ビジョンでは、社人研が2015年（平成27年）の国勢調査人口を基準として推計した値を基に、国の長期ビジョンに示された合計特殊出生率及び2020年（令和2年）に社会増減が0人になることを目標として推計している。

これまでの宇治市人口ビジョンと2020年（令和2年）の国勢調査人口を比較すると、本市の2020年（令和2年）人口は、人口ビジョンを下回っている。

図 1.3-3 2020年（令和2年）の宇治市人口の比較



出典：総務省「国勢調査」

注）国勢調査の各年齢人口は不詳補完値。

② 合計特殊出生率・社会増減の目標

ア. 合計特殊出生率

2019 年（令和元年）の国の長期ビジョンにおいては、2060 年（令和 42 年）に 1 億人程度の人口を維持するために必要な合計特殊出生率は、2020 年（令和 2 年）に 1.60、2030 年（令和 12 年）に 1.80、2040 年（令和 22 年）以降は人口が長期的に増減しない水準である 2.07 と仮定している。

本市では、2040 年（令和 22 年）以降、人口水準を維持するため、国の長期ビジョンにおいて示された合計特殊出生率を直線的に補間した値を目標とする。

表 1.3-1 合計特殊出生率

	2020 年 (令和 2 年)	2025 年 (令和 7 年)	2030 年 (令和 12 年)	2035 年 (令和 17 年)	2040 年 (令和 22 年)	2045 年 (令和 27 年)	2050 年 (令和 32 年)	2055 年 (令和 37 年)	2060 年 (令和 42 年)
国の長期ビジョン	1.60 (1.33)	—	1.80	—	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
第 2 期宇治市人口ビジョン	1.60 (1.35)	1.70	1.80	1.94	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
第 3 期宇治市人口ビジョン	1.35	1.53	1.71	1.89	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07

※括弧内は実績値。

出典（2020 年（令和 2 年）実績値）：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」

イ. 社会増減

本市の社会増減の減少幅が改善してきている現状を踏まえ、引き続き地方創生に寄与する施策を推進していくことで、2025 年（令和 7 年）以降、社会増減を 0 人とすることを目標とする。

③ 人口減少への対応

人口減少への対応は、出生率を向上させることにより、人口の自然増を図ることが考えられるが、出生率の向上を図っても、今後、数十年間の人口減少は避けられない状況にある。社会移動の割合が高い 20 歳代と 30 歳代をターゲットに転出超過の解消及び転入超過の増大に向けた効果的・効率的な施策を実施していく必要がある。あわせて、この世代は子育て世代でもあると考えられることから、若年人口の増加につなげ、定住促進を図っていく必要がある。

(3) 第3期宇治市人口ビジョンの将来展望

合計特殊出生率や社会増減の目標を踏まえ、2020年（令和2年）の国勢調査人口を基に推計すると、本市の人口は2060年（令和42年）に14万1,798人、2070年（令和52年）に13万1,398人となる。第3期宇治市人口ビジョンでは、この値を目標として施策を推進していく。

第2期宇治市人口ビジョンでは、2060年（令和42年）の人口を15万786人とすることを目標としており、今回の推計の2060年（令和42年）人口と比較すると8,988人減少することとなるが、その要因は、推計の基礎としている2020年（令和2年）の国勢調査人口が第2期人口ビジョンの値と比較して減少したことによるものである。

なお、人口ビジョンにおいて目標とする人口は、本創生総合戦略に掲げる施策の実施により目指す人口であり、今後の市の各種計画等で採用する人口推計とは異なる場合がある。

図 1.3-4 第3期宇治市人口ビジョン

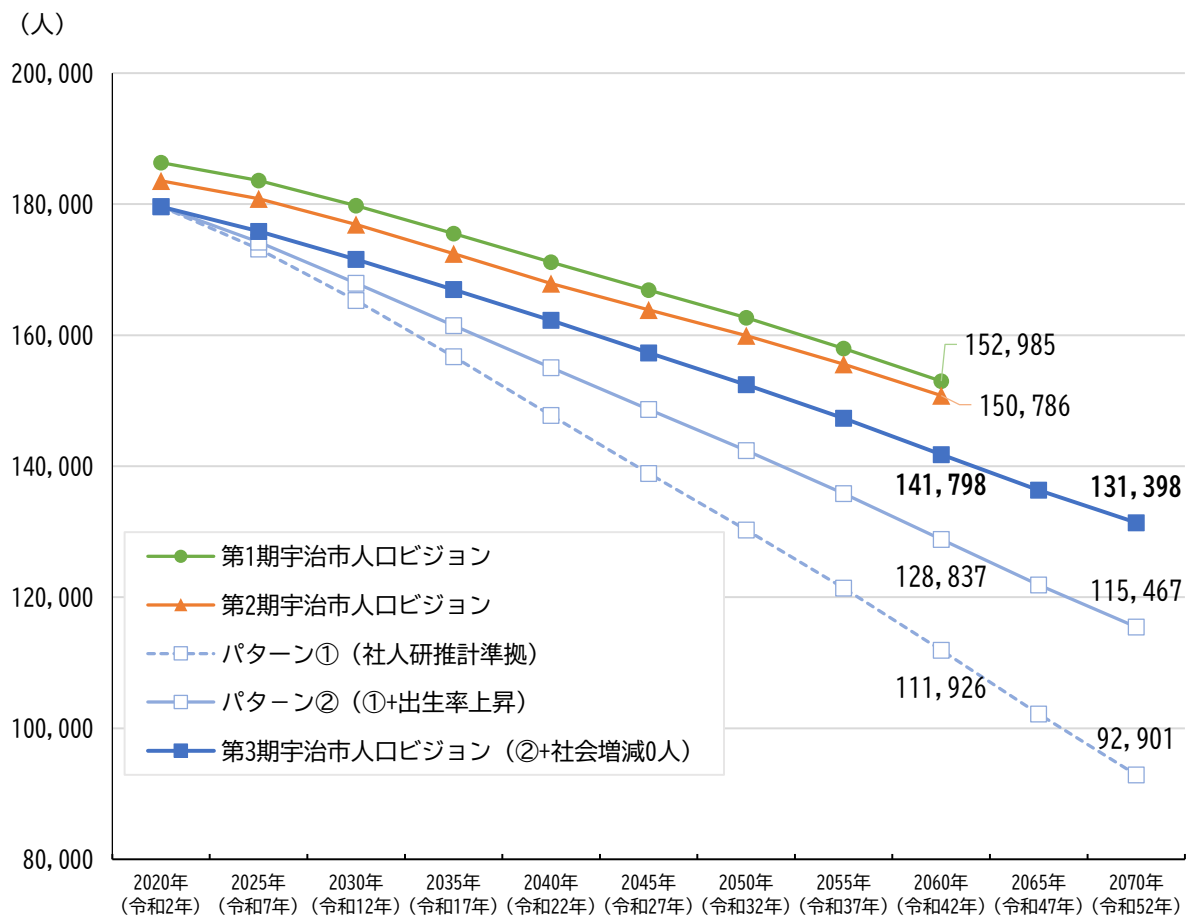


表 1.3-2 人口推計の手法

宇治市人口ビジョン		人口推計の仮定条件	
第 1 期人口ビジョン		【出生率】	国の長期ビジョンで示された合計特殊出生率の仮定と同じ。 2020 年(令和 2 年)=1.60、2030 年(令和 12 年)=1.80、 2040 年(令和 22 年)=2.07
		【社会移動】	2020 年(令和 2 年)に社会減が解消し、それ以降は社会増減が 0 人と仮定。
第 2 期人口ビジョン		【出生率】	国の長期ビジョン(2019 年(令和元年)改訂版)で示された合計特殊出生率の仮定と同じ。 2030 年(令和 12 年)=1.80、2040 年(令和 22 年)=2.07
		【社会移動】	第 1 期人口ビジョンの仮定条件と同じ。
第 3 期人口推計	パターン① (社人研推計準拠)	【出生率】	社人研推計に準拠。 ※2030 年(令和 12 年)≒1.30、2040 年(令和 22 年)≒1.34
		【社会移動】	社人研推計に準拠。 ※過去の純移動数をもとに推計。
	パターン② (①+出生率上昇)	【出生率】	国の長期ビジョンで示された合計特殊出生率 2.07 を 2040 年に達成。以後 2.07 を継続。 2020 年(令和 2 年)=1.35、2030 年(令和 12 年)=1.71、 2040 年(令和 22 年)=2.07
		【社会移動】	パターン①の仮定条件と同じ。
	パターン③ (②+社会増減 0 人) →第 3 期人口ビジョン	【出生率】	パターン②の仮定条件と同じ。
		【社会移動】	2025 年(令和 7 年)に社会減が解消し、それ以降は社会増減が 0 人と仮定。

表 1.3-3 推計結果

(人)							
	2020 年 (令和 2 年)	2025 年 (令和 7 年)	2030 年 (令和 12 年)	2040 年 (令和 22 年)	2050 年 (令和 32 年)	2060 年 (令和 42 年)	2070 年 (令和 52 年)
第 1 期人口ビジョン	186,352	183,636	179,782	171,151	162,666	152,985	—
第 2 期人口ビジョン	183,546	180,837	176,917	167,893	159,938	150,786	—
パターン①(社人研推計準拠)	179,630	173,162	165,299	147,778	130,287	111,926	92,901
パターン②(①+出生率上昇)	179,630	174,218	167,951	155,061	142,415	128,837	115,467
第 3 期人口ビジョン (②+社会増減 0 人)	179,630	175,851	171,575	162,287	152,454	141,798	131,398
(参考)住民基本台帳を基にした 推計人口	185,203	181,638	177,560	168,467	158,575	147,662	136,809

図 1.3-5 2020 年（令和 2 年）国勢調査人口の年代別構成

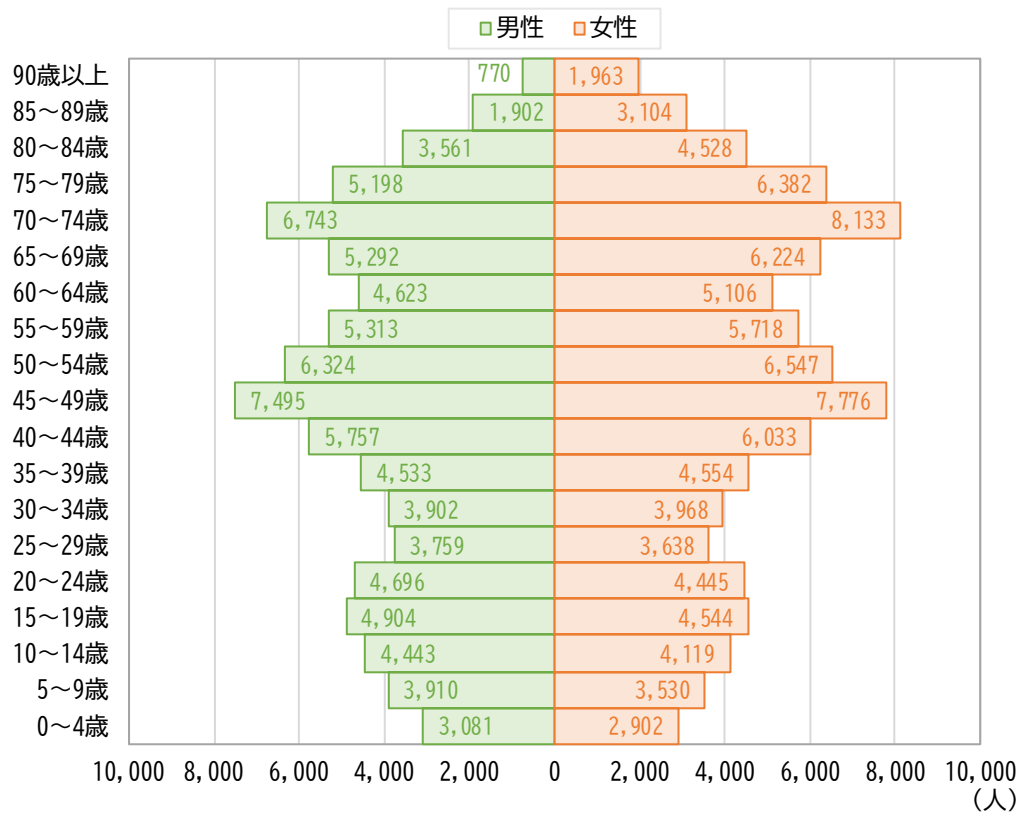


図 1.3-6 第 3 期宇治市人口ビジョンの 2070 年（令和 52 年）の年代別構成

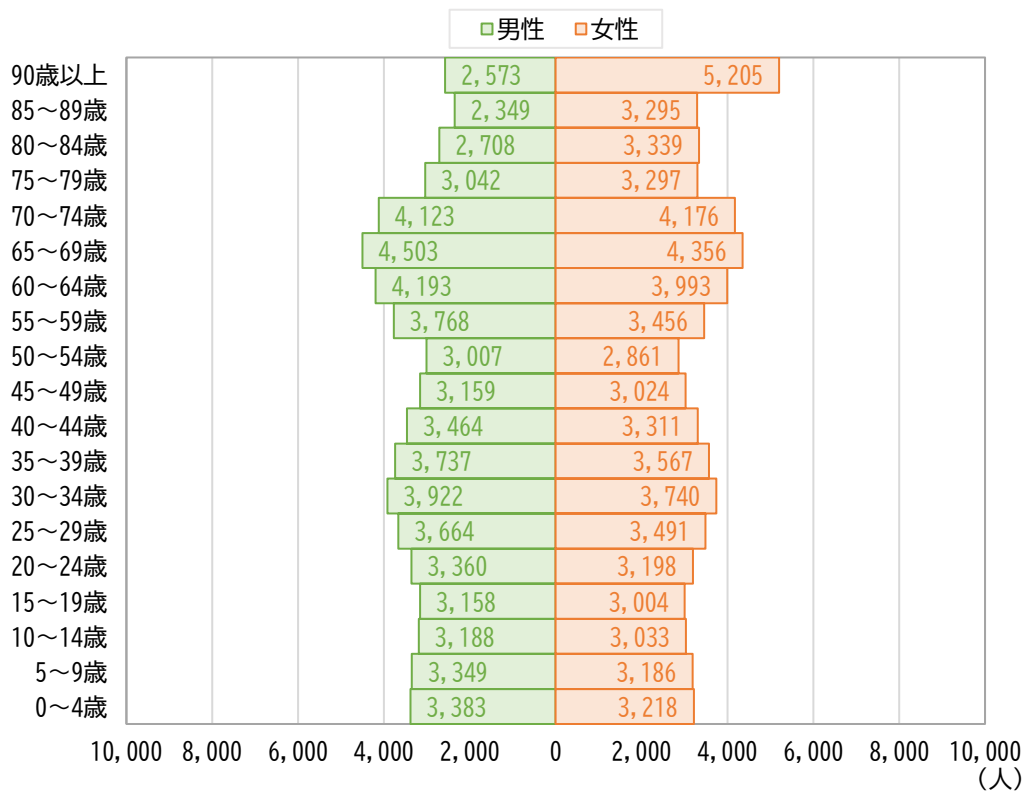


図 1.3-7 第3期宇治市人口ビジョンにおける年齢3区分別人口

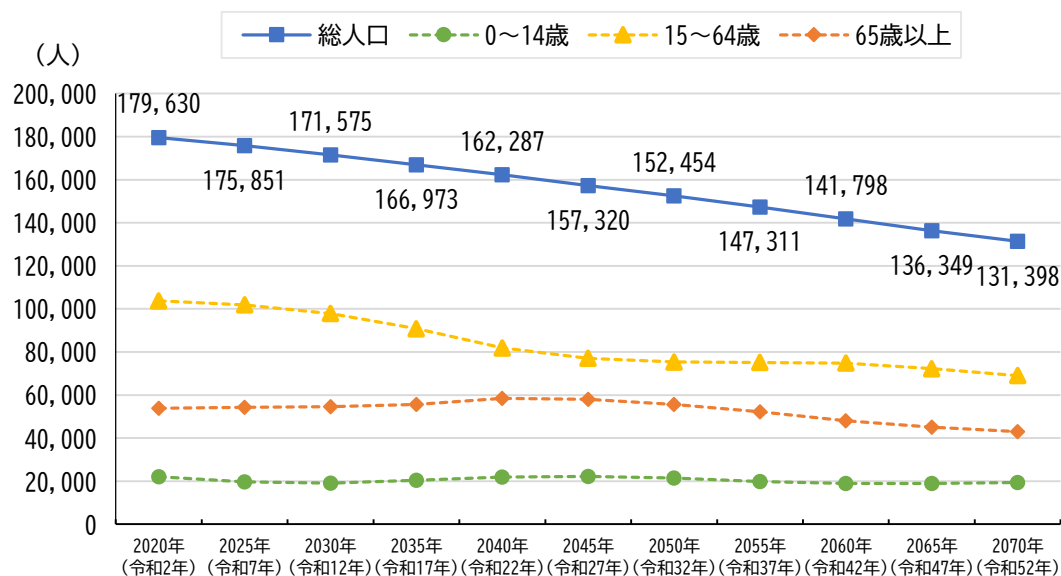
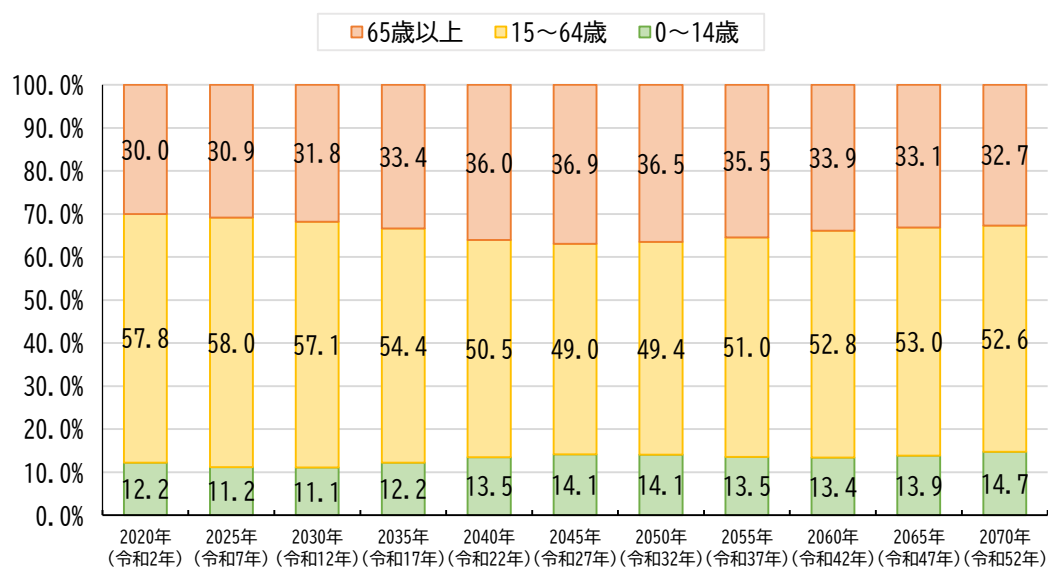


図 1.3-8 第3期宇治市人口ビジョンにおける年齢3区分別人口割合



2 宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和 7～11 年度)

2.1 基本的な考え方

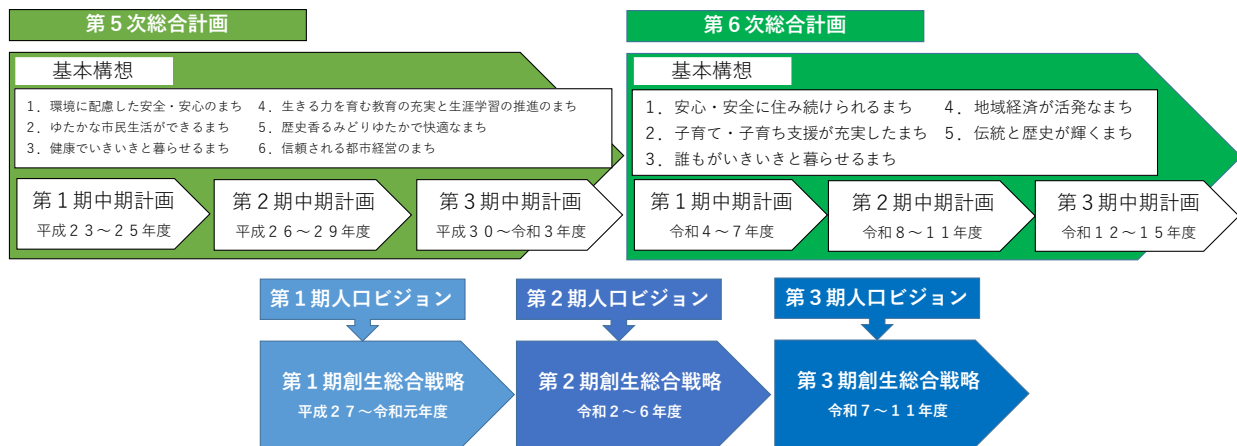
(1) 戦略の目的

人口減少及び少子高齢社会への迅速かつ的確な対応と、本市の特色を活かした施策の実施により、持続的に発展するまちを目指すことを目的とする。

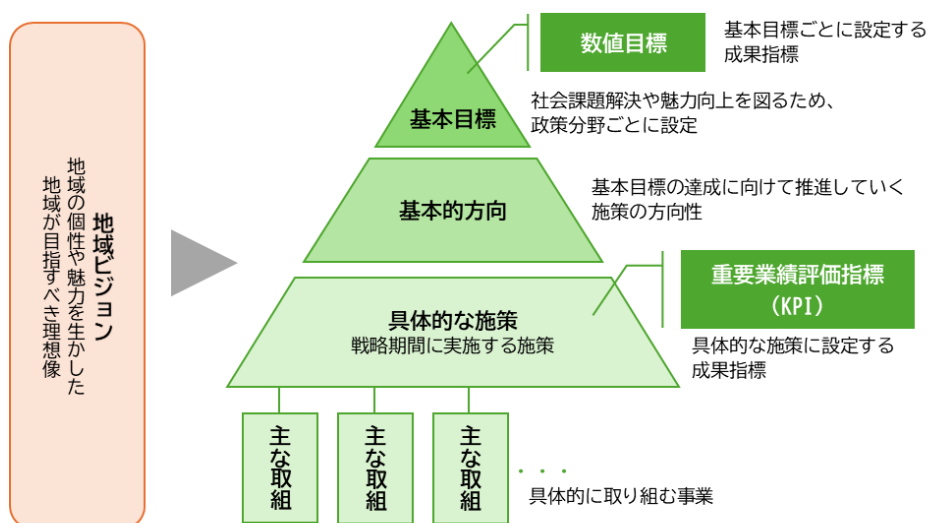
(2) 戦略の位置付け・計画期間

本市では、まちづくりの最上位計画である「宇治市第6次総合計画」において今後のまちづくりの基本的な方向性を網羅的に定め、幅広い施策に取り組んでいる。

本創生総合戦略においては、国の総合戦略を勘案するとともに、第6次総合計画との整合を十分に図りつつ、人口減少と少子高齢社会への対応を柱とした地方創生に効果的な取組を位置づけて推進することとし、令和7年度～令和11年度の5か年の計画として策定する。



(3) 戦略の構成



(4) 第 2 期創生総合戦略の中間総括

第 2 期創生総合戦略では人口減少及び少子高齢社会に向け、出生率の向上と社会増減 0 を目標として、本市の特色を活かした施策に取り組むことで持続的に発展するまちを目指してきたが、人口減少に歯止めをかけるには至っていない。

引き続き、人口減少及び少子高齢社会への対応に向け、具体的な施策の見直し・充実を行うこととする。

第 2 期創生総合戦略の各基本目標の中間総括

確固たる宇治ブランドの展開

数値目標に掲げた観光客の宇治市満足度とリピーター割合については目標値の達成には至らなかった。中でも交通状況に対する満足度が低いため、リピーター割合向上のためにも対策を行う必要がある。引き続き、魅力発信及び観光振興による宇治ブランドの強化に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく変化した観光客のニーズやスタイルに応じた取組を検討し、宇治ブランドの向上を推進する必要がある。

市民の宇治への愛着の醸成と市民によるふるさと宇治の創生

社会動態については社会減が続いているものの、令和 4 年・5 年と連続して創生総合戦略策定以降最も少ない減少幅となっており、これまで取り組んできた成果が一定表れていると考えられる。人口流出を抑制するため、引き続き市民と行政がともにまちづくりに取り組み、宇治への愛着醸成を図る必要がある。

まちの魅力を高める都市基盤の整備

J R 奈良線高速化・複線化第二期事業の開業や、それに伴う駅のバリアフリー化及び駅前広場の整備を進めるとともに、市民等と将来のまちの姿を共有し、パートナーシップによる都市づくりを推進したが、数値目標である滞在人口率は減少傾向にあり、昼夜間人口比率も基準値を下回る状況となった。滞在人口の増加に向け、観光客の滞在時間の延長や多様な働く場の創出に取り組む必要がある。

持続的に発展する地域経済の活力づくり

市内事業所数・従業員数が減少傾向にある中、産業支援拠点「宇治 N E X T」における市内事業者支援や産業交流拠点「うじらぼ」の開設など、地域経済の活性化に向けた取組を推進した。事業所数の減少抑制のため、市内企業の発展支援や企業誘致など各種事業に継続的に取り組むとともに、人材不足などの課題解決に向けて生産性向上を目的とした DX の推進などの取組を検討する必要がある。

若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり

出生数は令和 2 年以降減少傾向となった一方、社会動態では 0 ～ 1 7 歳の転入超過が続いていることから、子育て世帯に向けた施策については一定効果が出ているものと推測している。引き続き、結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、子育てにやさしい風土づくりをはじめ、子育て世代のニーズに応じた子育てにやさしいまちづくりを推進する必要がある。

(5) 地方創生の実現・推進に向けて

① 市民等との連携・協働

地方創生の実現・推進に向けては、地域住民をはじめ、事業者やNPO等を含めた宇治に関わるすべての人々との連携・協働が必要となる。

市民協働のまちづくりを推進するため、多様な主体が連携・協働できる地域活動の基盤づくりや担い手づくりを支援するとともに、それぞれの地域における課題解決に向けた取組事例などについて様々な手法を通じて情報共有することで、市民活動のサポートに取り組む。

② デジタルの力を活用した社会課題解決と魅力向上

国の『デジタル田園都市国家構想』においては、「どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指し、デジタルの力を活用しつつ、地方課題に取り組むことが示されており、本市においても、デジタル技術の活用の観点を取り入れながら、取組の推進を行う。

推進にあたっては、単なるデジタル技術の活用ではなく、利用者となる市民一人ひとりのニーズに合わせたサービスの提供や、行政事務の効率化による市民サービスを含めた自治体としての機能の維持・向上を図るとともに、誰もがデジタル技術の活用による利便性を実感できるよう、デジタルデバイス対策を実施し「人にやさしいデジタル社会の推進」に取り組む。

③ 持続可能な社会の実現に向けた取組

持続可能な開発目標（SDGs）は、気候変動や格差等の社会が抱える問題に対して、世界全体で解決していくことを目標に持続的な社会を実現するための国際社会共通指標であり、国においては、地域社会がSDGsの達成に取り組むことで地域における課題解決及び持続的な発展を実現し、地方創生につながるものとされている。

本市においても、今後も持続的に発展するまちを目指し、市の課題解決に向けたあらゆる事業の実施にあたってSDGsの観点を踏まえ、取組を推進する。



④ 客観的な効果検証の実施

各基本目標における数値目標や具体的な施策における重要業績評価指標（KPI）の達成度により、取組の効果を毎年度検証し、国の動向や社会経済情勢の変化、各種計画の更新も踏まえる中で、施策・事業とともに、数値目標やKPIについて見直しを図るなど、PDCAサイクルにより、創生総合戦略の実効性を高める。

効果検証に際しては、庁内で評価を行うとともに、その妥当性・客観性を確保するため、産学官金労言士等の有識者及び市民で構成される「宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」で検証を行う。

2.2 地域ビジョンと基本目標

(1) 地域ビジョン

本総合戦略における地域ビジョン（地域が目指すべき理想像）として、第6次総合計画に定める「目指す都市像」を位置づけることとする。

一人ひとりが輝き 伝統と新たな息吹を紡ぐまち・宇治

<目指す都市像の考え方>

個人を尊重しつつ、人と人がつながるまちづくりを進めることにより、市民一人ひとりが輝く社会を構築するとともに、お茶、歴史、文化など、これまで引き継がれてきた宇治の良さを継承しながら、新たなチャレンジを応援することにより、宇治の新たな魅力を創出し、これまで以上に誇りと愛着を感じることでできる宇治のまちを創造する。

(2) 基本目標

国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」においては、「地方に仕事をつくる」「人の流れをつくる」「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「魅力的な地域をつくる」という4つの取組を進めていくことが求められている。

上記を勘案するとともに、地域ビジョンの実現に向け、これまで取り組んできた地方創生の取組状況を踏まえた上で、本市の特色を最大限に活かした要素を盛り込み、次の5つを基本目標とする。

1	新たな時代の宇治ブランドの向上
2	希望をかなえる子育て・子育てにやさしいまちづくり
3	住み続けたい「ふるさと宇治」の創生
4	活力あふれる産業振興と多様な働く場の創出
5	未来を拓く都市基盤の整備

2.3 基本目標ごとの方向性・具体的な施策

(1) 基本目標 1 『新たな時代の宇治ブランドの向上』

■ 基本的方向

P O S T コロナ時代においても、「宇治茶」「源氏物語」をはじめとした歴史や文化などの伝統的な観光資源を活用し、宇治ブランドの魅力発信を行うとともに、新たな観光資源の創出や多様な主体との連携による広域的な情報発信・誘客促進に取り組むことで、本市への興味・関心につなげ、観光客をはじめとする交流人口の増加を図る。

また、実際に本市を訪れるだけでなく、多様な関わり方ができる仕組みを構築し、本市と継続的に関わる関係人口の増加につなげるとともに、宇治に住みたい思いを醸成し、転入者の増加につなげ、人口減少に歯止めをかけることを目指す。

(デジタルの力を活用した取組)

スマートフォンを使った体験型ゲーム、デジタルスタンプラリーの実施による周遊観光の活性化に向けた取組を通じて、宇治の持つ多様な魅力を発見し、何度でも来たくなるまちを目指す。

数値目標

数値目標	基準値	目標値
観光客の宇治市満足度（飲食・お土産・景観等）※	65.5～94.5% （令和4年度）	85.0～95.0% （令和11年度）
観光客のリピーター割合※	59.4% （令和4年度）	70%以上 （令和11年度）

※宇治市観光動向調査より

関連するSDGsのゴール



具体的な施策

①多様な主体と連携した魅力発信

市民や関係団体等との協働により、宇治ならではの魅力を様々な手段や機会を通じて発信することで、交流人口や関係人口の増加を図る。

重要事業評価指標（K P I）

指標	基準値	目標値
ふるさと応援寄附件数	8,812 件 (令和 5 年度)	12,000 件 (令和 11 年度)
S N S 情報発信件数	3,260 件 (令和 5 年度)	3,500 件 (令和 11 年度)
宇治フィルムコミッション情報発信件数	50 件 (令和 5 年度)	70 件 (令和 11 年度)

主な取組

1. 効果的な情報発信とプロモーションの強化

○戦略的広報の推進

- ・ターゲット別の情報発信を強化するため S N S 等を活用したプロモーションを展開

○ふるさと応援施策の推進

- ・魅力的なふるさと納税の返礼品を提供し、市の P R ・魅力発信を行うとともに、食事や体験、商品購入に利用できる現地消費型の返礼品により観光利用を促進

2. 観光大使やメディア等を活用した情報発信

○戦略的な観光情報の発信

- ・観光協会や商工会議所、観光事業者と連携し、パンフレットや S N S の活用をはじめ、訴求力の高い宇治のコンテンツや観光大使等と連携した情報発信

3. 市民や訪れた方が発信したくなる取組

○S N S を活用した市民参加型のプロモーション

- ・S N S においてハッシュタグを利用するなど、若者や子育て世代をターゲットに、気軽にアクセスしやすく市民や参加者自らが発信するように促す取組を実施

4. 宇治にまつわるコンテンツを通じた魅力発信

○魅力的な市内事業者情報の発信

- ・市内の飲食店や製造業、市内産宇治茶などの魅力を動画で発信

○源氏物語のまちを活かした魅力発信

- ・京都府内の宿泊施設に常設される観光情報誌への掲載や W E B 広告の配信、主要駅構内デジタルサイネージの掲出など様々な媒体において情報を発信

②豊富な観光資源の魅力の再発見

観光都市・宇治としてのブランド力を高めていくため、世界遺産である平等院や宇治上神社、宇治茶や源氏物語などをはじめとした歴史・文化などの恵まれた資源を活かし、宇治の魅力を再発見できる仕掛けづくりを行うことで、さらなる観光誘客を図る。

重要事業評価指標（KPI）

指標	基準値	目標値
1人あたりの観光消費額※	6,291円 (令和4年度)	6,500円以上 (令和11年度)
市営茶室対鳳庵 入席者数	14,568人 (令和5年度)	20,000人 (令和11年度)
源氏物語ミュージアム講座等参加者数	2,321人 (令和5年度)	2,500人 (令和11年度)

※宇治市観光動向調査より

主な取組

1. 伝統的な宇治茶の継承と情報発信

○宇治茶のおもてなしによる普及啓発

- ・宇治茶のふるまいなどによる市内産宇治茶の普及啓発

○市内産宇治茶のブランド力の強化

- ・宇治茶の伝統的な製法を継承し、高品質茶としてのブランド力の維持・発展に向けた支援を実施

2. 「源氏物語のまちづくり」の推進

○「源氏ろまん」の開催

- ・「源氏物語のまち」「紫式部ゆかりのまち」としての市の魅力をPRするため、紫式部文学賞・紫式部市民文化賞や宇治十帖ゆかりの地をめぐるデジタルスタンプラリーなどの関連事業を開催

○源氏物語ミュージアムにおける展示、講座

- ・「源氏物語」にまつわる歴史資料や美術工芸品の展示、各種講座や体験型教室を実施するとともに、体験型展示の更新やオリジナル動画制作等も含めた常設展示のリニューアルを検討

3. 伝統・文化を活かした観光の推進

○宇治茶や歴史・文化の体験

- ・お点前体験、宇治の歴史・文化に関するまちあるきツアーや体験型講座などを実施

○「京の七夕 in Uji」の開催

- ・旧暦の七夕に合わせ、京都各地で開催されている「京の七夕」と連携し、時間のうつろいを感じられる観光を推進

○放ち鵜飼への支援

- ・宇治にしかない観光資源として、放ち鵜飼を支援

○歴史や文化でつながる広域観光の推進

- ・京都府内外の関係地域や交通事業者等と連携し、広域での観光PRを実施

③新たな観光資源の創出

宇治川周辺や市内の多様なエリアにおける観光コンテンツの新たな発見とにぎわいの創出を図ることで、さらなる魅力の向上に取り組み、来る度に宇治の良さが体感できるよう新たな観光資源の創出を推進する。

重要事業評価指標（KPI）

指標	基準値	目標値
「体験・アクティビティ」の満足度※	80.6% (令和4年度)	85%以上 (令和11年度)
体験型川下り等のイベント開催回数（累計）	2回 (令和5年度)	20回 (令和11年度)

※宇治市観光動向調査より

主な取組

1. 天ヶ瀬ダム周辺の周遊観光の推進

○観光放流・体験型川下り等の水辺のにぎわいづくりの推進

- ・体験型ツアーの実施などにより、宇治川や天ヶ瀬ダムを知り、親しむ機会を創出

○天ヶ瀬ダム周辺エリアの展望スポット等の整備

- ・天ヶ瀬ダム周辺を訪れる観光客に向けた展望スポットや駐車場、休憩施設を整備

2. 小倉エリアから広がるにぎわいの創出

○ニンテンドーミュージアム開館に伴うにぎわいづくりの取組

- ・多言語対応デジタルマップのリニューアルや観光ガイドの作成、小倉地域と中宇治地域をつなぐ取組の実施

④観光客の受入環境整備

訪れた方が安心して快適に観光できる環境の整備に取り組むとともに、観光シーズンにおける交通渋滞の緩和など、市内の周遊性を高める取組を推進する。

重要事業評価指標（K P I）

指標	基準値	目標値
「観光施設、お店などの人たちのおもてなし」の満足度※	87.7% (令和4年度)	90%以上 (令和11年度)
観光地の授乳室設置数(累計)	2件 (令和5年度)	3件 (令和11年度)

※宇治市観光動向調査より

主な取組

1. 安心・快適な観光地づくりの推進

○観光案内サインの整備

- ・景観に調和した多言語対応型の観光案内サインを整備

○観光センター・観光案内所での情報発信

- ・宇治観光の拠点施設である観光センターと観光客の玄関口となる各駅前の観光案内所にて観光情報の案内を実施

○外国人観光客の誘客強化

- ・様々な国や地域のニーズを踏まえたプロモーション活動

○緊急時の観光客への支援

- ・緊急時の観光客への避難場所の周知や誘導方法、帰宅困難者支援に向けた検討

(2) 基本目標2『希望をかなえる子育て・子育てにやさしいまちづくり』

■ 基本的方向

子育て世代の本市への移住・定住につなげていくためには、宇治で結婚・出産・子育てをしたいと思えるイメージの形成とそれらの実現に向けた支援及び環境づくりにより、住みたい、住み続けたいまちになることが必要である。

子育て世代の希望をかなえ、安心して子どもを産み育てられるまちをつくるため、地域で子育てを支える仕組みづくりや子どもたちが健やかに育つ環境づくりを推進するとともに、一人ひとりの学びを最大限に引き出す教育施策の充実・強化と学習環境の向上など、社会全体で子育てや子どもの育ちを支える包摂的なまちづくりを目指す。

(デジタルの力を活用した取組)

子育て施設(保育所・学校等)のICT化により、保護者の利便性向上と現場の業務負担軽減によるサービスの質の向上に取り組むとともに、デジタル社会の担い手として子どもたちの必要な資質・能力の育成を図る「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、取組を推進する。

数値目標

数値目標	基準値	目標値
出生数	5,221 人 (令和 1～5 年)	6,900 人 (令和 7～11 年)
子育ての環境や支援への満足度※	19.9% (令和 5 年度)	22.9% (令和 11 年度)

※宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査より

関連するSDGsのゴール



具体的な施策

①若い世代の就労支援

若い世代の雇用の創出・拡充や就業に必要な知識・技術を習得するための研修やセミナーの実施により、若い世代の安定した雇用の創出に向けた取組を推進する。

重要事業評価指標（K P I）

指標	基準値	目標値
20歳代後半から30歳代前半の就業率※	69.1% (令和2年)	75.0% (令和7年)
会社説明会の来場者数	70人 (令和5年度)	70人 (令和11年度)

※国勢調査より

主な取組

1. 若い世代の経済的基盤の安定

○奨学金の返還支援

- ・若年層や子育て世帯の経済的負担を軽減するため、奨学金の返還を支援

2. 若い世代の就労機会の創出

○会社説明会の開催

- ・ハローワークや宇治商工会議所、京都ジョブパークと連携し、市内事業者の会社説明会を開催

○新たな雇用機会の創出に向けた取組

- ・国道24号沿道地区の企業立地を促進するとともに、市内に新たな事業所等を設置・増設する企業を支援

②結婚・出産支援

宇治で結婚・出産したいと思える環境づくりに取り組むとともに、妊娠期からの切れ目のない支援により、安心して出産できる支援を実施する。

重要事業評価指標（KPI）

指標	基準値	目標値
乳幼児健康診査受診率	97.6% (令和5年度)	100.0% (令和11年度)
新生児訪問等実施率	98.1% (令和5年度)	100.0% (令和11年度)

主な取組

1. 妊娠期から出産後までの切れ目のない支援

○不妊治療・不育治療への支援

- ・不妊治療・不育治療の相談や自己負担分の助成などを実施

○妊娠から出産・子育てまでの切れ目のないサポート体制

- ・妊産婦の健康診査や妊娠期からのきめ細やかな伴走型相談支援、パパママ教室の実施など、安心して出産・育児を行うための支援を実施

○一人ひとりの健やかな成長に向けた健診・発達相談

- ・乳幼児期の健全な成長・発達を図るため、身体発育や精神発達などから発育状況を把握し、疾病や特性を早期発見することにより適切な支援を実施

○母子保健DXの推進

- ・健康管理の充実や母子保健事業の質の向上のため、妊婦健診や乳幼児健診などの母子保健情報のデジタル化を推進

③子育て環境の充実

子育ての不安を解消し、安心して子どもを産み育てることができるよう、子育てに関する相談体制の充実や多様な保育ニーズに対応できる環境づくりに取り組む。

重要事業評価指標（KPI）

指標	基準値	目標値
保育所・認定こども園の待機児童数 (国定義後)	0人 (令和5年度)	0人 (令和11年度)
子育てをする上で気軽に相談できる人や場所がある(ある)割合※	就学前児童の保護者 90.8% 小学生の保護者 85.6% (令和5年度)	就学前児童の保護者 92.4% 小学生の保護者 87.9% (令和11年度)

※宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査より

主な取組

1. 多様な保育ニーズに対応できる環境づくり

○乳幼児教育・保育の推進

- ・すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークにより、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有しながら、連携、協働して教育・保育の質の向上を図るための取組を実施

○未就学児などの一時的な保育・養育

- ・保育所等に入所していない就学前児童の一時預かりや幼稚園での預かり保育、市内の医療機関における病児保育、児童養護施設でのショートステイなどを実施

○こども誰でも通園制度の実施

- ・すべての子どもの育ちを応援するため、就労要件を問わず柔軟に利用できる新たな環境を整備

2. 子育て家庭の経済的支援の充実

○子育て支援施設の利用料補助

- ・認可外保育施設やファミリー・サポート・センター事業における利用料の補助

○新婚・子育て世帯等の住宅確保支援

- ・新婚・子育て世帯への住宅購入・引っ越し費用等の補助や、市営住宅における子育て世帯を対象とした優先入居枠の設定等、育児をしやすい居住環境の確保を支援

○ひとり親家庭の自立に向けた支援

- ・ひとり親家庭の親に向けた自立支援員による相談窓口の開設と資格取得費用などの給付による就業促進

3. 仕事と子育てを両立できる環境づくり

○待機児童対策の推進

- ・家庭的保育事業や小規模保育事業の実施などにより、保育の質を保ちながら多様な保育サービスの充実に向けた取組を推進

○ファミリー・サポート・センターの運営

- ・子育てなどについて援助を行いたい人と受けたい人からなる会員組織を運営し、相互援助活動を実施

○学童保育の待機児童解消に向けた取組

- ・市内20校での育成学級の開設と民間学童クラブへの補助による放課後留守家庭児童の受入体制整備

○放課後子ども教室への支援

- ・平日の放課後及び土曜日の午前中に子どもの居場所を確保し、遊びや学びの場を提供する活動に対して支援を実施

4. 支援を要する子どもたちへの対応策の強化

○児童虐待の防止・早期発見に向けた取組

- ・育児不安の解消を図るため、乳児のいる家庭への全戸訪問を実施するとともに、支援を要する子どもたちの見守りを実施

○生活困窮世帯等の子どもの学習支援

- ・子どもたちの基礎学力の向上や学習習慣の定着に向けた学習支援、保護者への相談支援などを実施

○ヤングケアラーへの支援

- ・相談窓口を設置し、支援を行うとともに、ヤングケアラーについての研修や啓発を実施

○インクルーシブ教育・保育の充実

- ・障害のある子ども一人ひとりに適切な支援や学びの場を保障するため、医療的ケアも含めた多様な支援体制づくりや教員等の専門性の向上による支援の充実

5. 地域で子育てを支える仕組みづくり

○地域子育て支援拠点における支援

- ・市内10か所の地域子育て支援拠点において、子育て親子の交流促進や子育てについての相談などを実施

○子育て環境の整備に向けた取組

- ・地域で子育てを支える風土づくりや、地域の店舗や団体が実施する乳幼児のいる家庭が安心して外出できる環境整備を支援

④学校教育の充実と学校環境整備

小中一貫教育を柱として、個別最適な学びと協働的な学びを実現することにより、新しい時代を生きたために求められる資質・能力を育成するとともに、豊かな学びを支えるため、より良い学習環境の整備に取り組む。

重要事業評価指標（KPI）

指標	基準値	目標値
話し合い活動の定着割合※ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」に肯定的に回答した児童・生徒の割合	小学校6年生 78.3% 中学校3年生 76.4% (令和5年度)	全国平均以上 (令和11年度)
課題解決型学習の定着割合※ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。」に肯定的に回答した児童生徒の割合	小学校6年生 63.2% 中学校3年生 64.1% (令和5年度)	全国平均以上 (令和11年度)
中学校給食の実施	—	全校実施 (令和8年度)

※全国学力・学習状況調査より

主な取組

1. 小中一貫教育を柱とした学びの推進

○小中一貫教育の推進

- ・義務教育9年間における系統的・継続的な指導による学習意欲の向上と確かな学力の定着をねらいとして小中一貫教育を推進

○「宇治学」の推進

- ・「宇治で学ぶ、宇治を学ぶ、宇治のために学ぶ」をコンセプトとした探求的学習を実施

2. 豊かな学びを支える施設整備

○（仮称）西小倉地域小中一貫校の整備

- ・小中一貫教育を推進するため、西小倉地域にて本市2校目となる小中一貫校を整備

○小中学校の体育館空調設備の整備

- ・児童、生徒の熱中症予防や避難所としての活用を考慮し、学校体育館への空調設備を整備

○給食センターの整備

- ・中学校給食の実施に向け、給食センターや各中学校の配膳室を整備

3. 教育におけるICTの活用

○教育DX

- ・教員が子どもや学級の状況を多様なデータから分析し、子どもたちに寄り添ったきめ細やかな教育の充実を図るとともに、教員のICT指導力の向上に向けた研修の実施や保護者の利便性を向上

⑤家庭・学校・地域の連携・協働促進

家庭・学校・地域が連携・協働し、地域全体で子どもたちを育むコミュニティ・スクールの推進により、子どもたちの豊かな人間性を育むまちを目指す。

重要事業評価指標（KPI）

指標	基準値	目標値
地域学校協働活動（放課後子ども教室を含む）の取組事業数	137 事業 （令和5年度）	168 事業 （令和11年度）
学校の授業時間以外の勉強時間が平日1日あたり30分に満たない子どもの割合※	小学校6年生 23.2% 中学校3年生 21.4% （令和5年度）	全国平均以下 （令和11年度）

※全国学力・学習状況調査より

主な取組

1. 子育てや学校教育における連携・協働の推進

○コミュニティ・スクール（学校運営協議会と地域学校協働活動）の推進

- ・家庭・学校・地域が一体となって子どもたちを育むため、学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に行うコミュニティ・スクールを推進

○不登校児童生徒への対応

- ・不登校児童生徒の社会的な自立のため、支援教室の機能の充実や、医療・福祉などの関係機関との連携により、個々の児童生徒の状況に応じて支援

2. 子育てをきっかけとした地域の活性化

○公園でつなぐ子育てにやさしいまちづくり

- ・植物公園、黄檗公園及び西宇治公園の3つの公園を中心に、各種イベントや環境整備を実施

3. 地域による安全・安心なまちづくりに向けた連携・協働

○地域での見守り活動の推進

- ・地域の安全管理団体をはじめとした防犯ボランティアによる防犯活動の活性化や、市民・事業者との連携・協働による「ながら防犯」を推進

(3) 基本目標3『住みたい「ふるさと宇治」の創生』

■ 基本的方向

人口減少に歯止めをかけるためには、人口の流入とあわせて、人口の流出抑制を図ることが重要である。

市民の宇治への愛着の醸成を図るとともに、行政のみでなく市民自らが、地域のつながりを大切にし、様々な人々が共生する魅力あるふるさと宇治を築くことで、宇治に住みたい思いへとつなげ、定住の促進を図る。

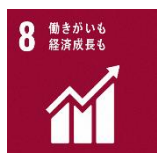
(デジタルの力を活用した取組)

I C Tの活用による効率化を促進し、地域コミュニティの活性化を図るとともに、健康データ分析やウォーキングアプリを活用した健康づくり、多様な学びの機会提供などに取り組むことで、誰もが健康で元気に暮らせるまちづくりを推進する。

数値目標

数値目標	基準値	目標値
市民の宇治への愛着度	69.0% (令和5年度)	75.0% (令和11年度)
社会増減数	-63人 (令和5年)	0人 (令和11年)

関連するSDGsのゴール



具体的な施策

①地域コミュニティの活性化

様々な分野における主体的な地域活動を促進するため、地域で活躍する人材の発掘・育成や多様な組織が相互に連携・協力できる仕組みづくり、交流空間の創出などに取り組む。

重要事業評価指標（K P I）

指標	基準値	目標値
自主防災組織の組織率	76.2% (令和 5 年度)	85.0% (令和 11 年度)
地域コミュニティ活性化意見交換会の実施	152 団体 (令和 5 年度)	261 団体 (令和 11 年度)

主な取組

1. 地域活動の活性化の促進

○自主防災組織の育成

- ・防災訓練や講習会など、地域の継続的な自主防災活動や避難行動要支援者への取組を支援

○町内会・自治会の活性化に向けた取組

- ・新たに取り組む地域のつながり強化や I C T を活用した町内会・自治会運営の効率化を目指す先進的かつ自主的な取組を支援

○集会所・コミュニティセンターの利用促進

- ・集会所におけるスマートキーやコミュニティセンターなどにおけるオンライン予約システムの導入を検討

2. 多様な交流空間の創出

○まちのリビングの創出支援

- ・地域の店舗などを活用し、人が集まるきっかけと継続的なつながりを生み出す「まちのリビング」の創出を支援

○市民協働推進拠点の整備

- ・魅力あるまちづくりに向け、市民が主役の交流・連携・協働・学習がうまれる拠点を整備

3. まちづくりにおける連携・協働

○まちづくり活動支援事業

- ・市民主体のまちづくりの推進するため、地区まちづくり協議会の設立や地区まちづくり計画の作成を支援

②多様な主体の共生社会づくり

年齢や性別、障害の有無、国籍などに関わらず、すべての人が知識や経験、才能などの能力を発揮し、自分らしく充実した生活を送ることができるまちを目指す。

重要事業評価指標（K P I）

指標	基準値	目標値
新たに立ち上げ支援した多様な居場所数	2 団体 (令和 5 年度)	2 団体 (令和 11 年度)
各種審議会等における女性委員が占める割合	31.8% (令和 5 年度)	40.0% (令和 11 年度)
福祉施設利用者の一般就労への移行者数	22 人 (令和 5 年度)	40 人 (令和 11 年度)

主な取組

1. 高齢者の生きがいがいづくりと社会参加の推進

○高齢者生きがい・助け合い活動への支援

- ・高齢者が主体となって活躍する「共生の居場所づくり」を支援

2. 男女共同参画のまちづくり

○男女共同参画施策の推進

- ・「真の男女平等と地域に根ざした男女共同参画社会の実現」に向け、広報・啓発、学習機会の提供・市民活動支援、相談事業などを実施

3. 地域共生社会の実現

○生活困窮者への自立支援

- ・生活困窮者の自立相談支援、家計改善支援、就労支援

○障害者訓練等への支援

- ・身体的または社会的なリハビリテーションや就労移行支援、就労継続支援などへの支援

○障害者文化芸術活動の振興

- ・障害者の作品を発表する機会や市民が障害者アートに触れる機会を提供

4. 多文化共生の推進

○行政情報の発信力強化

- ・視覚に障害がある人や識字が困難な人、外国人に向け、市政情報の音声化、多言語化による提供を実施

③健康づくりの推進

スポーツの機会の提供や、健康づくり・食育アライアンスを中心とした地域活動等での学ぶ機会の充実により、誰もが主体的に健康づくりに取り組み、生涯にわたって心身ともに健康に過ごせるよう支援する。

重要事業評価指標（KPI）

指標	基準値	目標値
健康づくり・食育アライアンス加入団体数	97 団体 (令和 5 年度)	150 団体 (令和 11 年度)
ウォーキングアプリ登録者数	—	3,000 人 (令和 11 年度)
スポーツを通じて連携した大学、企業等の数 (延べ)	18 件 (令和 5 年度)	20 件 (令和 11 年度)

主な取組

1. 健康づくりを通じた連携・協働

○地域での健康づくり・食育の推進

- ・地域での健康づくりや食育の取組の推進に向け、市民会議などを通じて関係団体の活動や相互連携を支援するとともに、料理教室など食育活動を通じた地域の交流の活性化を推進

○スマートウェルネスの推進

- ・健康データなどから、地域ごとの健康課題を明らかにし、市民・地域・行政が一体となってその地域特性に合わせた健康づくりを推進するとともに、ウォーキングアプリを活用し、運動の動機づけ、習慣化を支援

2. スポーツを通じた地域の活性化

○宇治川マラソン大会の開催

- ・市民の健康増進・スポーツの振興と地域の活性化に向け、市民との連携・協働による大会の開催

○フライングディスクのまち宇治の推進

- ・フライングディスクの講習会やイベントでの体験コーナーの設置などにより、ワールドマスタースゲームズ関西2027に向けた機運醸成やスポーツを通じた交流機会を創出

○スポーツイベントにおける交流機会の創出

- ・スポーツによる多世代の交流や運動機会の創出のため、地域の団体等と連携し、各種イベントを実施

○北小倉小学校跡地を活用したスポーツ・遊びの場の創出

- ・スポーツ活動を通じた心身の健康づくりと人や地域のつながりの促進や子どもが元気いっぱい遊ぶことができる場の創出に向けた検討・整備

(4) 基本目標4『活力あふれる産業振興と多様な働く場の創出』

■ 基本的方向

若年層の定住促進のためには、近隣での多様な働く場の創出が重要であり、市内産業への支援を実施することにより、市域内雇用の創出と拡充を促進するとともに、若者の雇用や起業に対する支援を行う必要がある。

市内産業が持続的に成長、発展するまちの実現に向け、市内産業の成長支援や事業者間の連携促進、新たな産業の創出に向けた起業支援などに取り組むことにより、市民や地域生活を支える地域経済の活性化を目指す。

(デジタルの力を活用した取組)

生産性・生産効率の向上のため、スマート農業の導入支援や先端設備導入等の設備投資への支援を実施することにより、地域経済の活性化を図る。

数値目標

数値目標	基準値	目標値
市内事業所数※	5,126 事業所 (令和3年度)	5,126 事業所 (令和11年度)
市内従業者数※	54,266 人 (令和3年度)	54,266 人 (令和11年度)

※経済センサスより

関連するSDGsのゴール



具体的な施策

①市内企業の成長支援

市内事業者の様々な経営課題やニーズへの対応や産業支援拠点宇治NEXTにおける伴走支援により、経営の安定とさらなる成長・発展を図るとともに、急速に変化する状況を踏まえたサポートを実施する。

重要事業評価指標（KPI）

指標	基準値	目標値
事業者支援数	165 社 (令和 5 年度)	165 社 (令和 11 年度)
市内産農産物等のPRイベント出店数	27 件 (令和 5 年度)	30 件 (令和 11 年度)

主な取組

1. 産業支援体制の充実

○産業支援拠点宇治NEXTによる支援

- ・市と商工会議所が共同運営する宇治NEXTにおいて、市内事業者の様々な課題やニーズに対応するため、幅広い支援を実施

2. 市内産業の成長支援

○低利融資制度の実施

- ・市内事業者の経営安定化を図るため、事業資金として低利融資等を実施

○先端設備等導入支援

- ・先端設備等導入計画に基づく設備導入を支援

○展示会への合同出展

- ・首都圏や海外で開催される展示商談会への合同出展により、市内企業の販路拡大を推進

○円滑な事業承継に向けた支援

- ・経営者の若返りや廃業抑制を図るため、円滑な事業承継に向けたイベント、セミナーを通じたアトツギネットワークの構築を支援

3. 持続可能な農業経営・新たなチャレンジへの支援

○農業における生産性向上の支援

- ・生産性向上、効率性、省エネ化等を目的とした資材・機器の導入を支援

○スマート農業等の導入支援

- ・農業者のICT技術等の導入など、新たなチャレンジを支援

○つながる農地づくりの推進

- ・農地と耕作者のマッチング支援による農地集積・保全を推進

②事業者間や産学等の交流・連携の強化

異業種交流や産学交流により事業者・産学等のつながり、交流を促進し、新商品や新技術の開発、販路の拡大につながる様々なイノベーションの創出を図る。

重要事業評価指標（K P I）

指標	基準値	目標値
異業種交流会の開催回数	5 回 (令和 5 年度)	5 回 (令和 11 年度)
うじらぼ利用者数	2, 663 人 (令和 5 年度)	3, 000 人 (令和 11 年度)

主な取組

1. 産業間・事業者間の交流促進

○京都フードテック基本構想との連携促進

- ・「京都フードテック基本構想」による中食等加工食品研究開発拠点を市内農業者が活用できるように異なる業種との研修会を実施

○市内企業や事業者間の交流促進

- ・事業者間の取引拡大、新たな技術開発や商品開発等を支援するため、うじらぼを活用した交流会やセミナーを開催

2. 産学連携につながる機会の提供

○産学交流連携の促進

- ・市内製造業の技術革新を促進するため、理系大学研究室と市内事業者との交流セミナーを開催

③新たな産業の創出と産業基盤の整備

産業交流拠点うじらぼを活用した創業支援により新たな産業の創出を促進するとともに、農業の新たな担い手確保に向けた支援を実施し、新規就農者の定着を図る。

また、産業立地の実現に向け、新たな工業用地の確保や市外からの企業誘致に取り組むことにより、市内経済の活性化を図る。

重要事業評価指標（K P I）

指標	基準値	目標値
認定新規就農者累計数	15 経営体 (令和 5 年度)	20 経営体 (令和 11 年度)
創業支援補助件数	10 件 (令和 5 年度)	10 件 (令和 11 年度)

主な取組

1. 農業の担い手の確保

○新規就農者への支援

- ・新規就農者の定着に向け、早期の経営確立及び経営発展に向けた資金や品質・技術の向上などを支援

2. 多様な起業家の輩出に向けた支援

○創業初期の経営安定化支援

- ・創業等に要する店舗購入・店舗改修・広告宣伝等の経費を補助

○ベンチャー企業の育成支援

- ・市内におけるベンチャー企業育成を目的として宇治ベンチャー企業育成工場を運営

○こども未来キャンパス

- ・産業交流拠点うじらぼにて、小学生から大学生を対象に起業・体験スクールを開催

3. 工業用地の確保と企業誘致

○企業立地等の促進

- ・市内に新たな事業所等を設置・増設する企業を支援

○新たな工業用地の確保

- ・国道 24 号沿道地区の企業立地を促進

④人材確保と勤労者支援

合同説明会等の開催や事業者の情報発信による市内事業者の人材確保と若い世代の就労機会の創出を図るとともに、企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進など、働きやすい環境づくりを促進する。

重要事業評価指標（K P I）

指標	基準値	目標値
製造業の情報発信数	121 回 (令和 5 年度)	121 回 (令和 11 年度)

主な取組

1. 求職者と市内企業のマッチングの促進

○市内事業者に向けた人材の確保支援

- ・市主催の製造業合同企業説明会の開催

○市内企業 P R 動画の作成

- ・求職者向け P R 動画の作成、動画活用セミナーの開催

2. 働きやすい環境整備

○労働に関する情報の周知・啓発

- ・労働者の福祉の向上や働きやすい労働環境の推進に向け、労働に関する情報誌を発行

○働きやすい環境づくりへの支援

- ・市内農業者の労働力不足の解消や規模拡大を目的とした従業員の労働環境整備に対する支援

(5) 基本目標5『未来を拓く都市基盤の整備』

■ 基本的方向

市外から通勤・通学、観光など様々な目的で本市を訪れる人（滞在人口）を増やし、地域経済の発展を支えるため魅力的な景観の保全や広域的な道路ネットワークの強化に取り組むとともに、市民生活の利便性や安全性の向上に向けた既存公共交通機関の維持や新たな移動ニーズへの対応、駅や周辺道路のバリアフリー化の推進など、未来の宇治の発展につながる都市基盤整備により、まちの活性化を図る。

（デジタルの力を活用した取組）

平安時代の宇治のまち並みを再現したARを作成し、歴史の体感、魅力の再発見に活用するとともに、多様化する移動ニーズに対応し、移動手段の安全性や利便性を向上させるために、ICTの活用やMa a Sの考え方の導入など新たな技術やサービスについての調査研究を行うなど「次世代交通サービスの研究」を進める。

数値目標

数値目標	基準値	目標値
滞在人口率 平日14時の滞在人口÷夜間人口（国勢調査）	0.86倍 （令和5年）	0.93倍 （令和11年）
昼夜間人口比率 昼間人口（国勢調査）÷夜間人口（国勢調査）	87.8% （令和2年）	90.0% （令和7年）

関連するSDGsのゴール



具体的な施策

①地域の活性化につながる整備

経済活動の活性化やまちのにぎわいの創出に向け、幹線道路や駅周辺道路の交通渋滞対策に取り組むとともに、駅前広場や周辺道路の整備を推進する。

重要事業評価指標（K P I）

指標	基準値	目標値
市道の拡幅整備の実施	—	7箇所 (令和11年度)

主な取組

1. 人の流れを呼び込む道路交通網の整備

○道路ネットワークの構築

- ・国や京都府の道路整備と連携し、道路ネットワークの構築に向けて、関連する市道を整備

2. 駅周辺のにぎわいづくり

○近鉄小倉駅周辺地区の整備

- ・「近鉄小倉駅周辺地区まちづくり基本構想」及び「近鉄小倉駅周辺地区まちづくり基本計画」に基づき、駅前広場等の整備、駅周辺地区のにぎわいを創出するまちづくりを推進

○ＪＲ黄檗駅前広場の再整備

- ・ＪＲ黄檗駅舎の改築に伴う駅前広場の再整備

○駅周辺道路の整備

- ・駅周辺のにぎわいを創出するため、地域特性を活かした駅前広場やアクセス道路の交通渋滞緩和、歩行空間確保の推進

②移動しやすい交通環境の充実

既存公共交通を維持していくため、公共交通機関の利用促進や利便性・安全性を高める駅及び周辺道路などのバリアフリー化を推進するとともに、駅やバス停までの移動が困難な方に対する新たな移動手段の検討を進める。

また、交通安全上の課題解決に向け、通学路の安全対策をはじめとした交通安全対策に取り組む。

重要事業評価指標（K P I）

指標	基準値	目標値
市内鉄道駅乗客数	2,440 万人 (令和 4 年度)	2,440 万人 (令和 11 年度)
交通事故発生件数	223 件 (令和 5 年度)	150 件 (令和 11 年度)

主な取組

1. 既存公共交通の利用促進と新たな移動ニーズの対応

○地域公共交通の活性化

- ・地域住民との協働による「宇治市のりあい交通事業」や、小中学生を対象としたバスの乗り方教室など公共交通の利用促進イベントを実施

○高齢者の買物移動支援

- ・駅やバス停留所から距離のある地域において、病院が運行する送迎車両を活用し、高齢者の買い物支援のための必要最低限の移動手段を確保

○将来の移動手段のあり方検討

- ・将来のまちづくりを見据え、病院・買物など生活に必要な施設等への外出機会の創出に向け、公共交通に限らない移動手段を検討

2. 交通安全対策の強化

○通学路等の安全対策の推進

- ・通学路等の安全確保や地域の防犯対策として、交差点改良や防犯灯、道路等を整備

○交通安全教室及び啓発活動

- ・警察と連携し、保育所、認定こども園、幼稚園、小・中・高等学校などにおいて、交通安全教室を開催

○自転車等駐車場及び自動車駐車場の整備・運営

- ・自転車等の放置を防止し、駐車秩序を維持するため、駐輪場や駐車場を整備・運営

③文化遺産・景観の保護

伝統的な家屋や重要な建築物、文化財の重要性についての理解を深め、地域の歴史・文化・伝統と調和した良好な景観の保全、形成に努めるとともに、地域における文化財の継承を図る。

重要事業評価指標（K P I）

指標	基準値	目標値
重要文化的景観に係る国の修理修景事業の実施件数	30 件 (令和 5 年度)	42 件 (令和 11 年度)
景観形成助成の件数	35 件 (令和 5 年度)	47 件 (令和 11 年度)

主な取組

1. 重要文化的景観の保存・活用

○文化的景観の保護

- ・重要文化的景観「宇治の文化的景観」の保存・活用を図るため、重要な構成要素となっている建物の修理・修景工事について支援

2. 良好な景観の保存・形成と支援の推進

○都市景観形成対策

- ・良好な景観形成を図るため、建築物等の規制誘導を行い、景観アドバイザーによる助言や景観計画重点区域における景観形成助成を実施

3. 文化財の保存・活用及び情報発信等の推進

○文化財指定の推進

- ・文化財調査、文化財の修理等に支援を行い、文化財の保護と活用を推進

○歴史・文化の情報発信

- ・宇治の歴史文化体験として、再現ARを活用した平安時代のまち並み、生活を疑似体験するツアーや体験講座等を実施

定住・転入・転出に関するアンケート調査
調査結果報告書

目次

1	調査の概要.....	1
(1)	調査の目的.....	1
(2)	調査方法.....	1
(3)	回収結果.....	1
(4)	調査結果の注意点.....	1
2	調査結果.....	2
2.1	アンケート結果による分析（クロス集計結果）.....	2
(1)	社会増減に関する要因分析について.....	2
(2)	宇治市への愛着に関する傾向について.....	21
(3)	宇治市への定住意向に関する傾向について.....	24
(4)	子育て世帯の満足度等について.....	27
(5)	学生の満足度等について.....	30
2.2	単純集計結果.....	1
(1)	定住に関するアンケート調査.....	1
(2)	転入に関するアンケート調査.....	1
(3)	転出に関するアンケート調査.....	1

1 調査の概要

(1) 調査の目的

次期創生総合戦略の策定にあたって、就職や結婚・出産などの世帯構成の変化など、社会移動のきっかけが多いと考えられる世代に対し、これまでの定住促進施策の効果測定や定住促進に寄与する取組の検討材料の収集等を目的とし、定住者・転入者・転出者それぞれを対象とした調査を実施した。

(2) 調査方法

調査対象	定住者	市内在住の 18 歳から 49 歳 (3,000 人)
	転入者	令和 2 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日の期間に転入した 18 歳以上 (1,500 人)
	転出者	令和 2 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日の期間に転出した 18 歳以上 (1,500 人)
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出	
配布方法	郵送	
回答方法	調査票への記入後返送または WEB から回答	
調査期間	令和 6 年 6 月 19 日～令和 6 年 7 月 5 日	

(3) 回収結果

	調査票配布数	回収票数	うち WEB 回答	回収率
定住者	3,000	829	305	27.6%
転入者	1,500	550	217	36.7%
転出者	1,500	372	141	24.8%

(4) 調査結果の注意点

- ・回答は、各質問の回答者数 (n) を基数とした百分率 (%) で示している。小数点第 2 位を四捨五入しているため、記載された比率を合計した際に 100.0%を前後することがある。
- ・複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0%を超える。なお、複数回答を求める質問については、図表上に「複数回答」と表記している。
- ・クロス集計では「無回答・無効」を除いて集計しているため、単純集計での合計値とは一致しない。

2 調査結果

2.1 アンケート結果による分析(クロス集計結果)

(1) 社会増減に関する要因分析について

1. 年齢別の転入出の傾向について

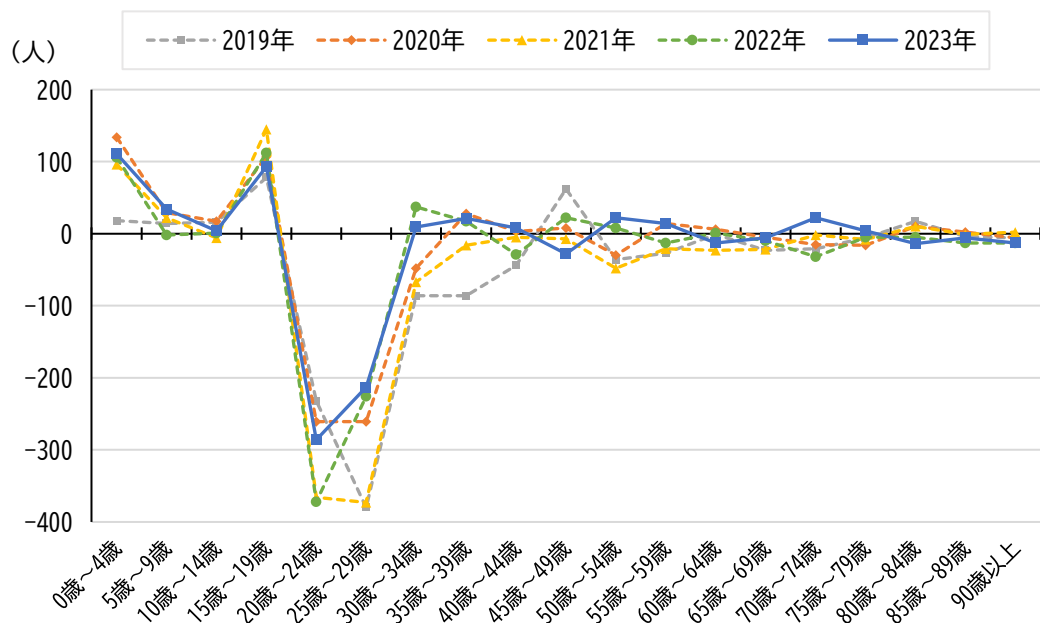
年齢別の転入出の要因について、以下の4点から集計を行った。

- ① 0～17歳の社会増について（子のいる20～40歳代の回答状況）
- ② 18歳から29歳の社会減について
- ③ 30歳代の転入について
- ④ 30歳代の転出について

【参考：宇治市における年齢ごとの社会増減の傾向】

年齢ごとの社会増減の傾向をみると、特に20歳代の転出超過が続いており、0～4歳、15歳～19歳では転入超過が続いている。また、2019年（令和元年）から2021年（令和3年）にかけて転出超過であった30歳代は、2022年（令和4年）から2023年（令和5年）では転入超過となっている。

図 年齢5歳階級別純移動数の比較（2019年（令和元年）～2023年（令和5年））



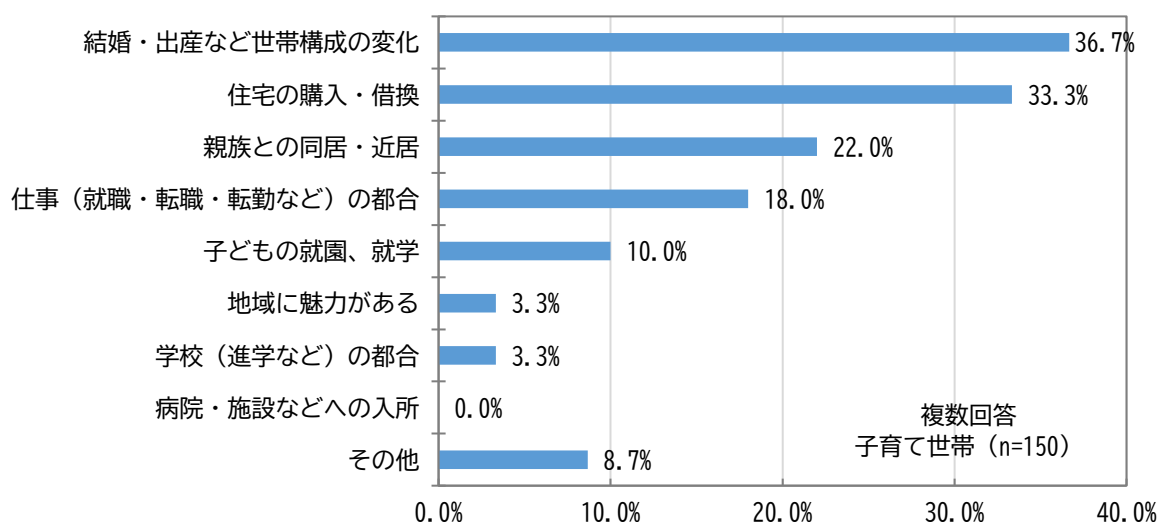
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

① 0～17歳の社会増について（子のいる20～40歳代の回答状況）

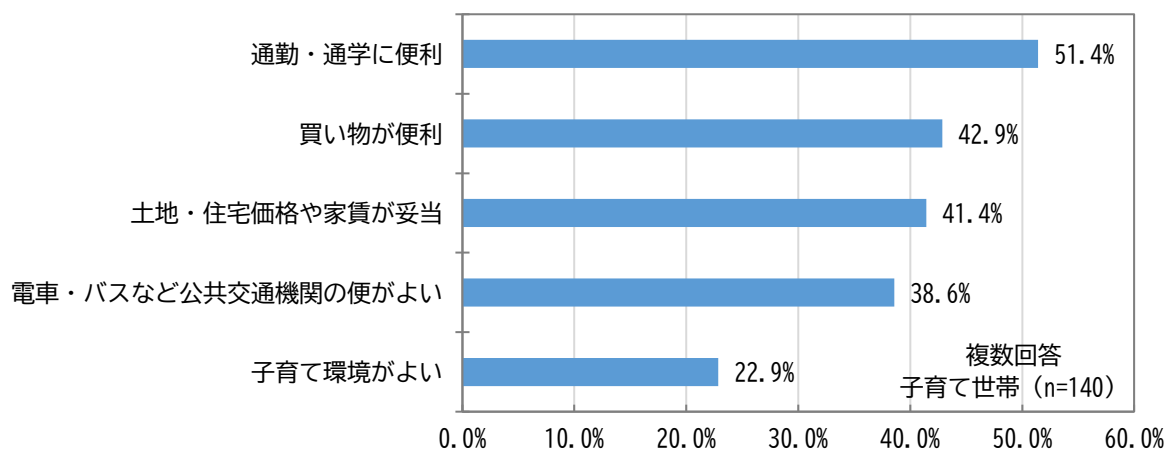
0～17歳で転入が多い理由のひとつとして、子育て世帯が、通勤や買い物等の利便性や土地価格、子育て環境の良さといった観点から、転出先として宇治市を選択していることが考えられる。

- ・子のいる20～40歳代を0～17歳の子育て世帯と想定し（以下、子育て世帯とする。）、該当者の転入理由をみると、結婚・出産に次いで「住宅の購入・借換」が多くなっている。また自由回答として、「子育て環境が良いと聞いた」といった子育てに関する意見が挙げられた。
- ・子育て世帯の転入について、住まいを決める際に重視した点をみると、最も多いのが「通勤・通学に便利」で51.4%、次いで「買い物が便利」が42.9%、「土地・住宅価格や家賃が妥当」が41.4%となっている。また、22.9%が「子育て環境がよい」と回答している。

子育て世帯×【転入問7】転入の理由



子育て世帯×【転入問8】住まいを決める際に重視した点（上位5項目）

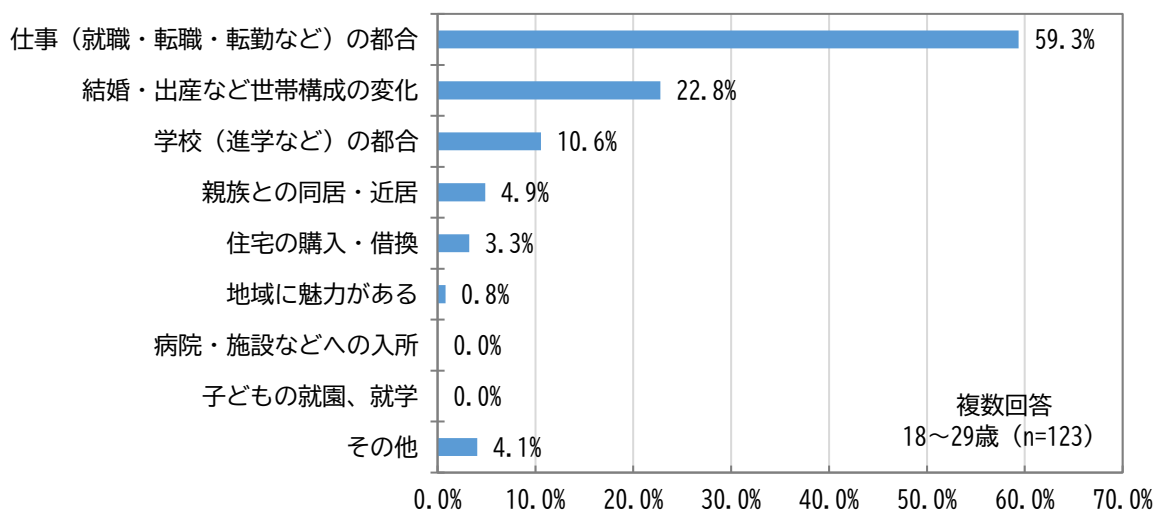


② 18歳から29歳の社会減について

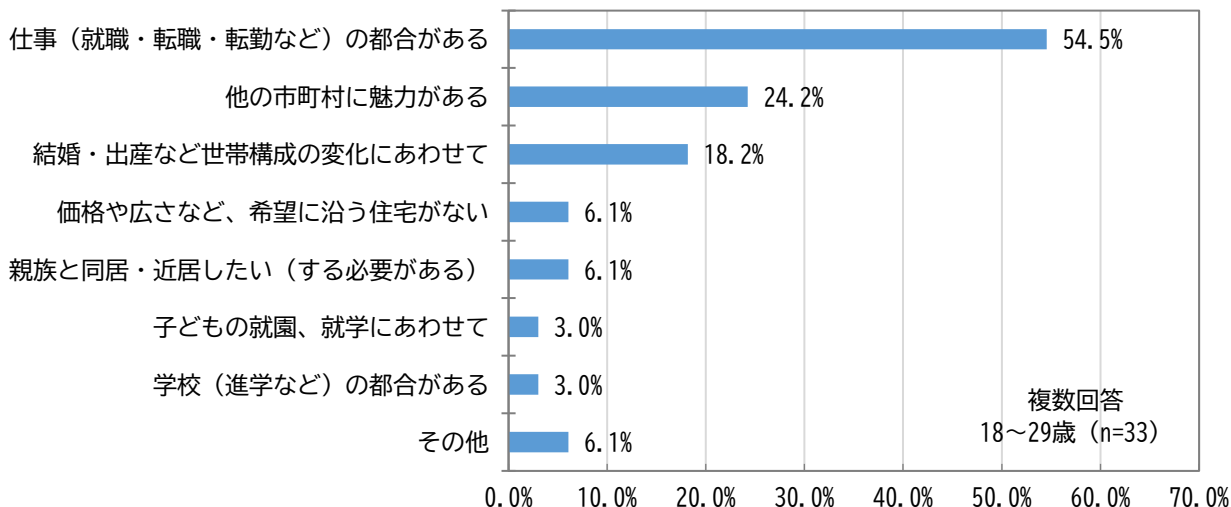
18～29歳の転出には、仕事の都合による影響が大きいと考えられる。また定住者の転出意向をみると、仕事の都合のほか、他市町村に魅力を感じるという意見も一定数みられた。

- ・18～29歳の転出理由をみると、最も多いのが「仕事（就職・転職・転勤など）の都合」で59.3%、次いで「結婚・出産など世帯構成の変化」が22.8%となっている。
- ・市外へ引っ越す意向がある18～29歳の宇治市在住者について、その理由をみると、上記転出理由と同様に「仕事の都合」が54.5%で最も多い。次いで多いのは「他の市町村に魅力がある」で24.2%となっている。その内容としては、京都市等の近隣市に魅力を感じる、行政サービス等の差、関東への転出意欲等が挙げられた。

年齢（18～29歳）×【転出問8】転出の理由



年齢（18～29歳）×【定住問26】「市外へ引っ越したい（引っ越す予定）」の理由

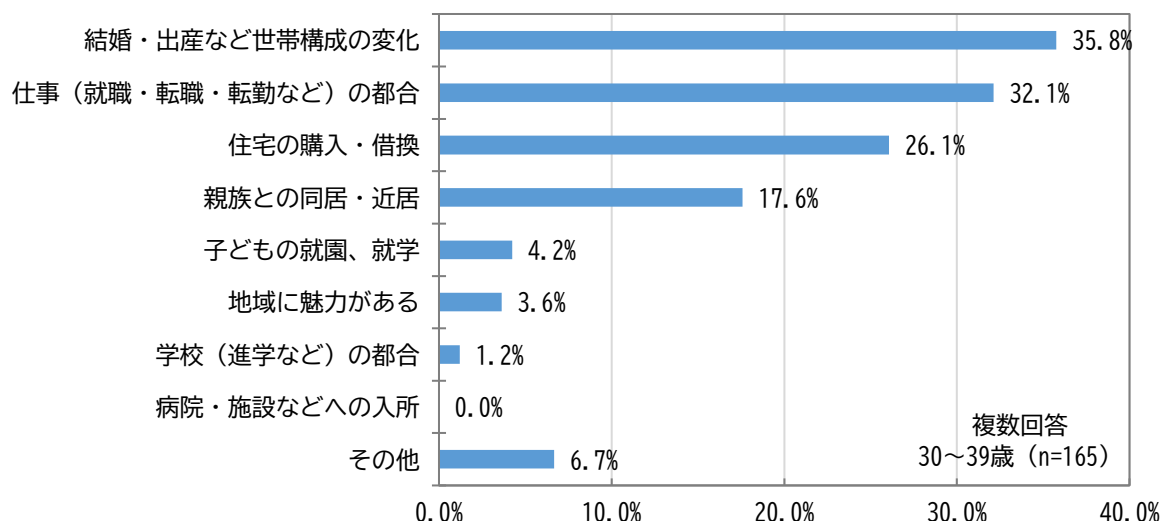


③ 30 歳代の転入について

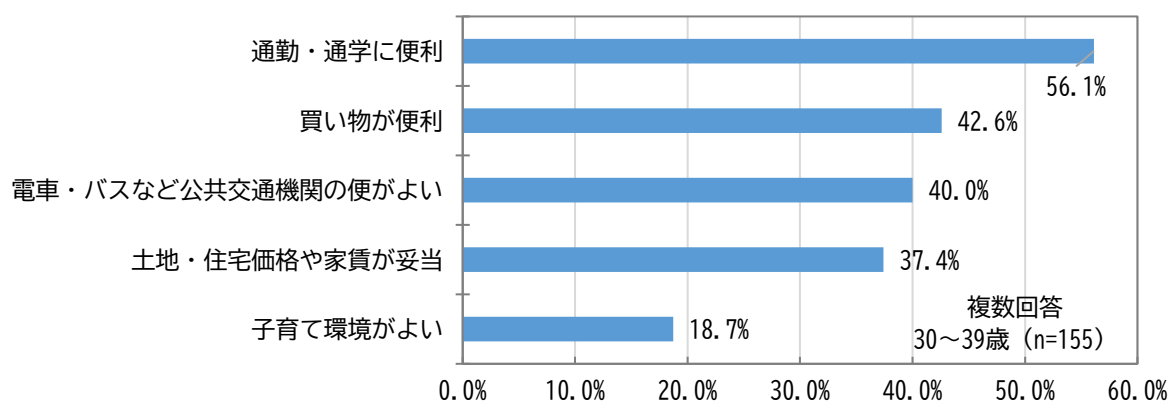
30 歳代では、結婚・出産を機に、通勤や買い物等の利便性、土地価格といった観点から宇治市へ転入する人が多く、これらが 30 歳代の社会増につながっていると考えられる。

- ・30 歳代の転入理由をみると、最も多いのが「結婚・出産など世帯構成の変化」の 35.8%、次いで「仕事（就職・転職・転勤など）の都合」が 32.1%となっている。
- ・30 歳代の転入について、住まいを決める際に重視した点をみると、最も多いのが「通勤・通学に便利」で 56.1%、次いで「買い物が便利」が 42.6%、「電車・バスなどの公共交通機関の便がよい」が 40.0%となっている。また、18.7%が「子育て環境がよい」と回答している。

年齢（30～39 歳）×【転入問 7】転入の理由



年齢（30～39 歳）×【転入問 8】住まいを決める際に重視した点（上位 5 項目）

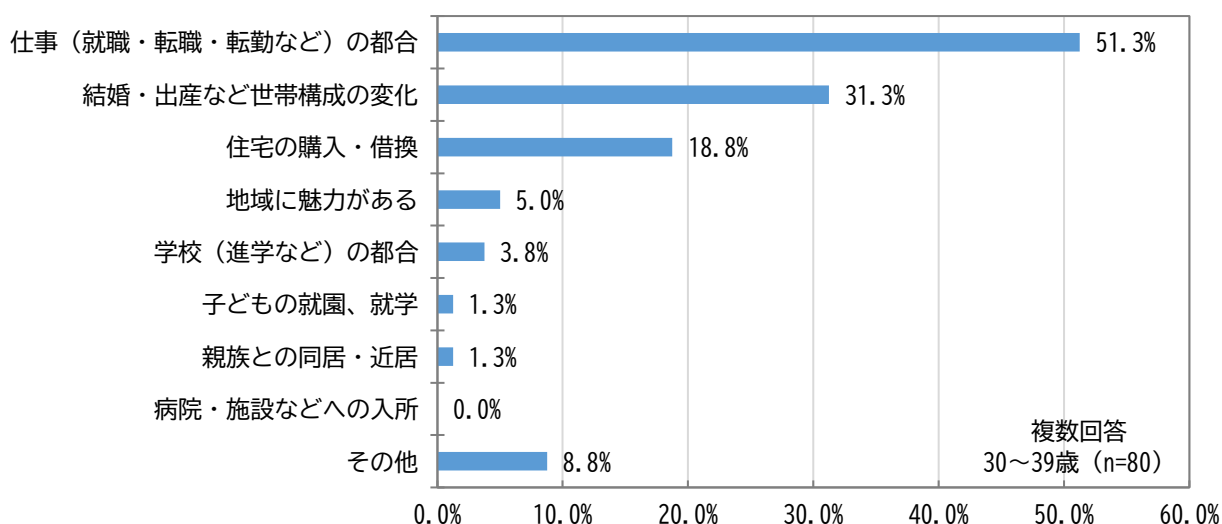


④ 30 歳代の転出について

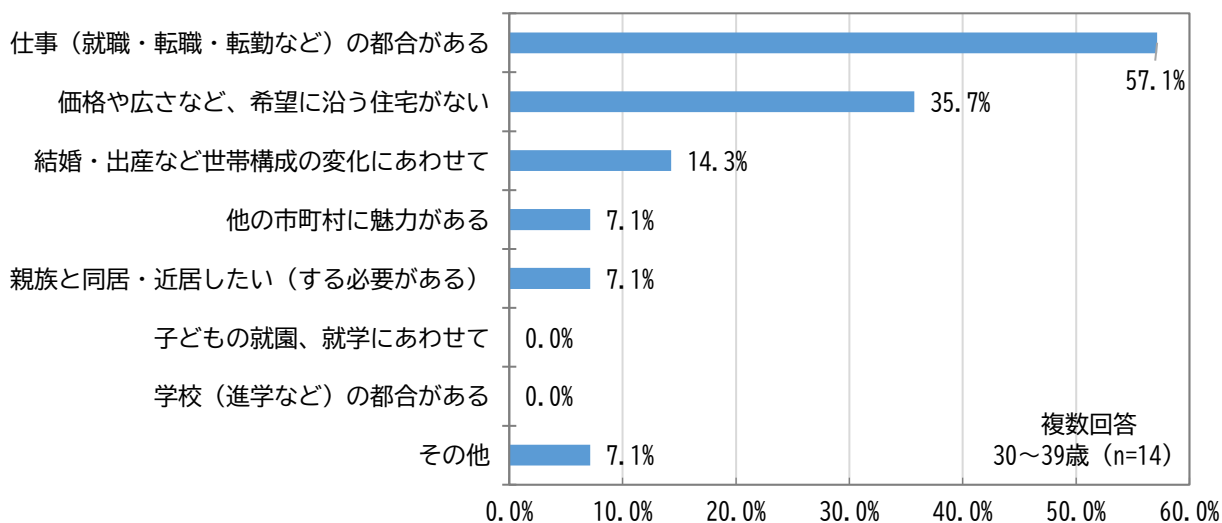
30 歳代の転出には、18～29 歳の転出と同様、仕事の都合による影響が大きいと考えられる。また、30 歳代になると結婚・出産や住宅購入を機とした転出が増え、希望に沿う住宅がないことによる転出もみられる。

- ・ 30 歳代の転出理由をみると、最も多いのが「仕事（就職・転職・転勤など）の都合」の 51.3%、次いで「結婚・出産など世帯構成の変化」の 31.3%となっている。
- ・ 市外へ引っ越す意向がある 30～39 歳の宇治市在住者について、その理由をみると、上記転出理由と同様に「仕事の都合」が 57.1%で最も多い。次いで多いのは「価格や広さなど、希望に沿う住宅がない」で 35.7%となっている。

年齢（30～39 歳）×【転出問 8】転出の理由



年齢（30～39 歳）×【定住問 26】「市外へ引っ越したい（引っ越す予定）」の理由

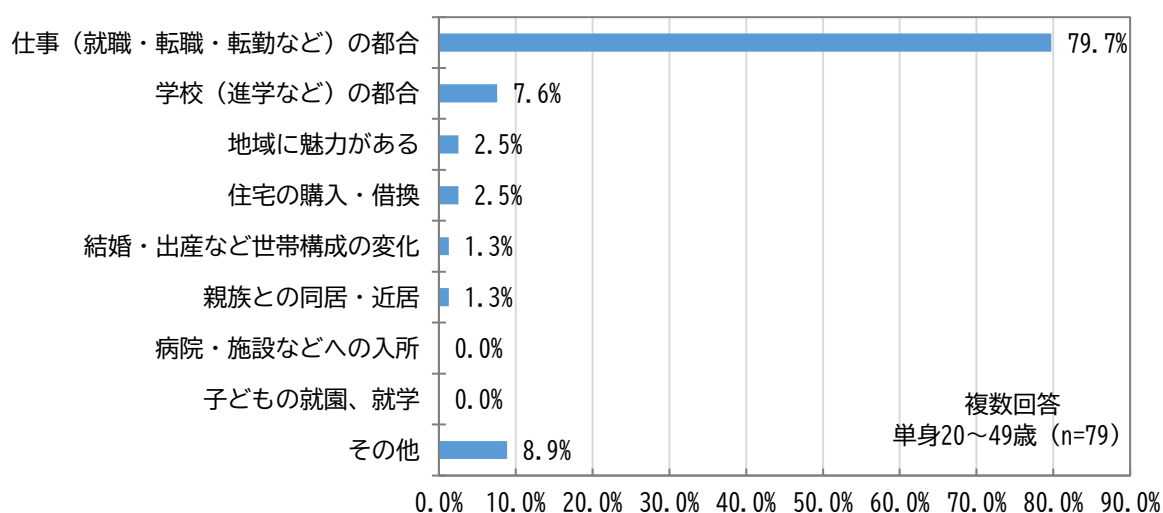


2. 単身世帯の転入出の傾向について

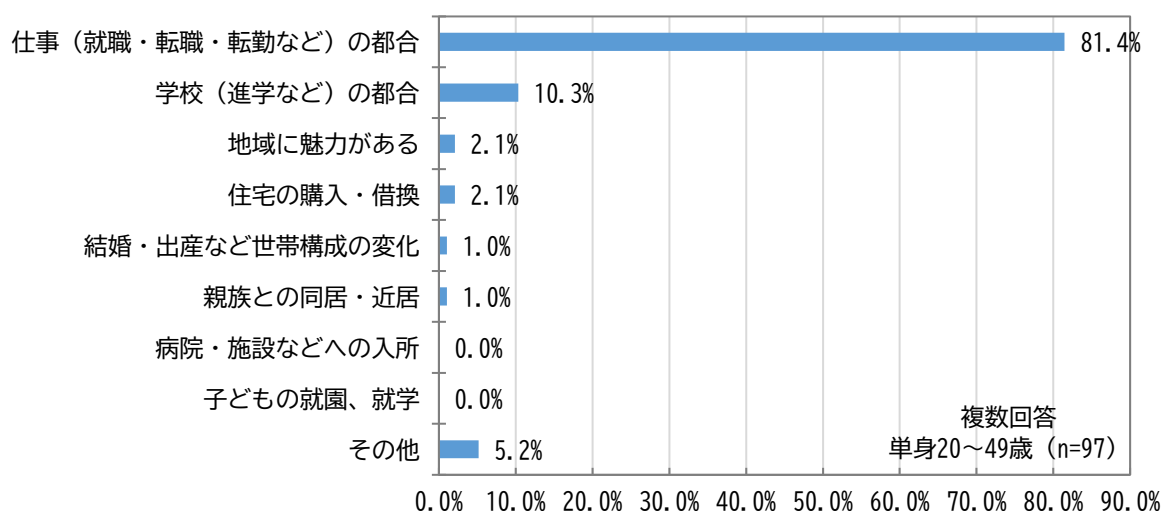
単身世帯では仕事の都合による転入出がほとんどで、仕事以外の理由による転入出は限られている。

- ・単身世帯の転入・転出理由をみると、どちらも「仕事（就職・転職・転勤など）の都合」が突出して多く、転入では79.7%、転出では81.4%となっている。
- ・「仕事（就職・転職・転勤など）の都合」以外の項目については、転出の「学校（進学など）の都合」の10.3%を除き、10%未満となっている。

単身世帯×年齢（20～49歳）×【転入問7】転入の理由



単身世帯×年齢（20～49歳）×【転出問8】転出の理由



3. 地域別の転入出の傾向について

地域別の転入出の要因について、以下の地域を対象に集計を行った。

- ①京都府下自治体の転入出の傾向について
- ②大阪府の転入出の傾向について
- ③関東（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）の転入出の傾向について

【参考：地域別の転入・転出状況】

2023 年（令和 5 年）における地域別の転入出の状況を下図に示す。

転入では、京都府内からの転入が約半数を占めており、特に京都市からの転入が最も多い。京都府外からの転入では、大阪府が最も多く 12.9%、ついで関東が 7.7%となっている。

転出では、転入と同様に京都府内、特に京都市の移動が多いものの、転入と比較するとその割合は小さくなっている。京都府外への転出では、大阪府が最も多く 15.3%、ついで関東が 10.2%となっており、どちらも転入よりも占める割合が大きくなっている。

図 転入元の内訳（2023 年（令和 5 年））

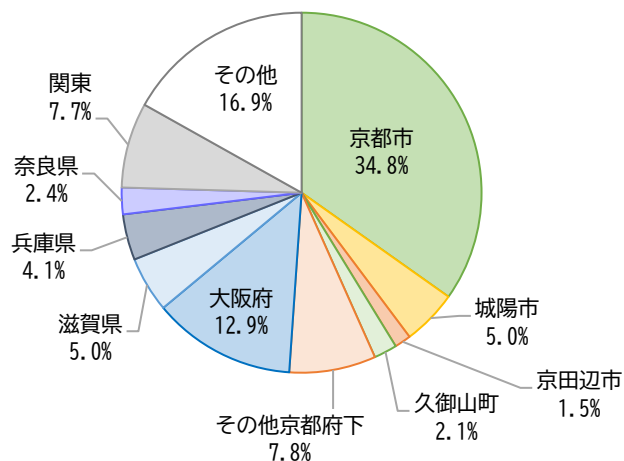
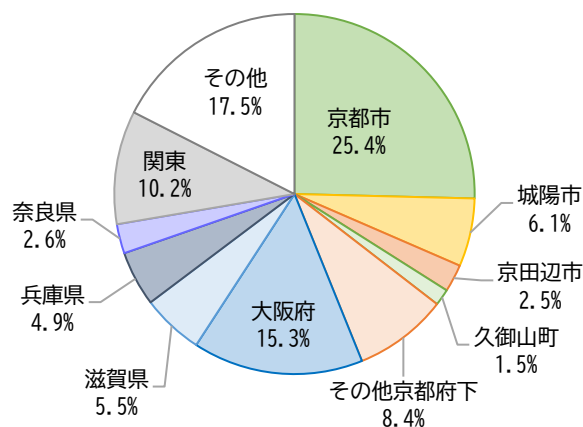


図 転出先の内訳（2023 年（令和 5 年））



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2023 年（令和 5 年））
 ※「関東」は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県を対象として抽出。

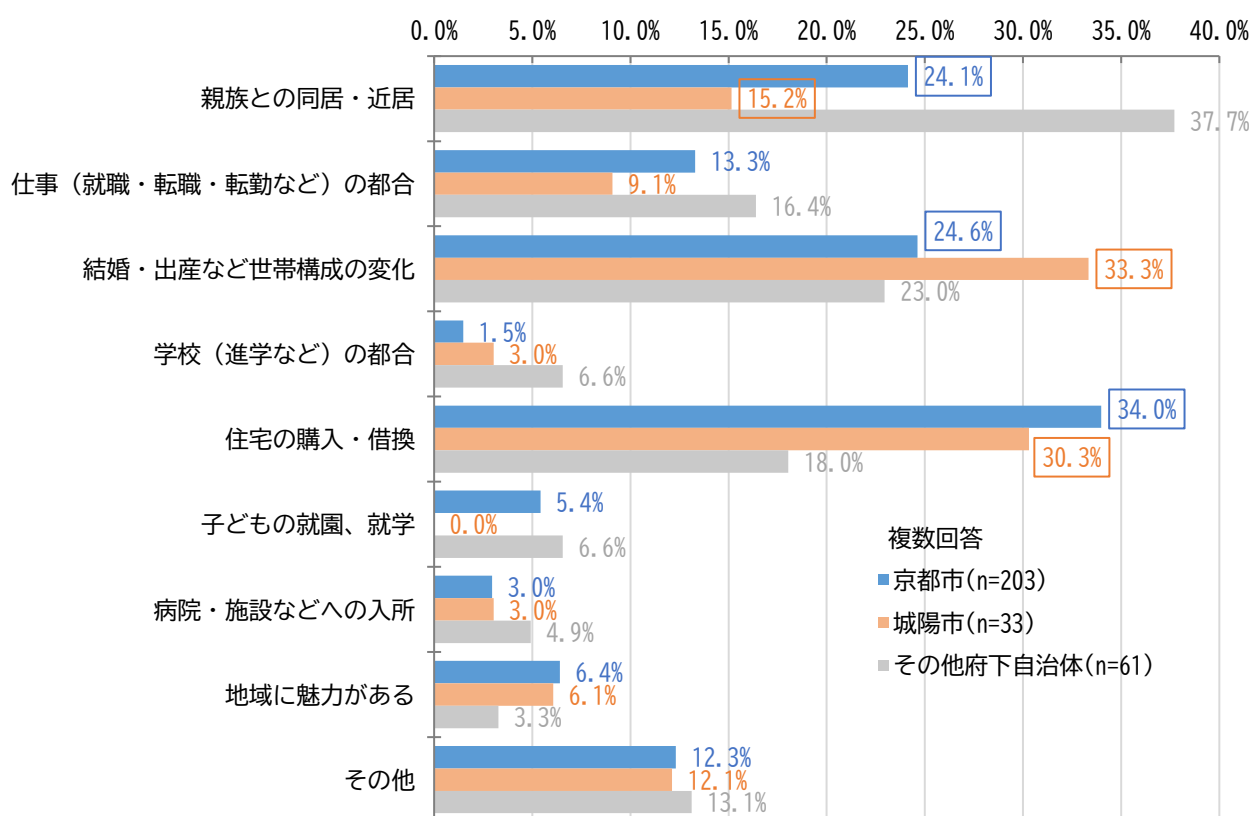
① 京都府下自治体の転入出の傾向について

【転入】

京都市、城陽市からの転入では、特に住宅の購入・借換、結婚・出産を機に宇治市に転入する人が多くみられる。住居を決める際に重視する点について、特に京都市からの転入者では、生活の利便性のほか、土地・住宅価格や家賃の妥当性を重視する割合が高くなっている。

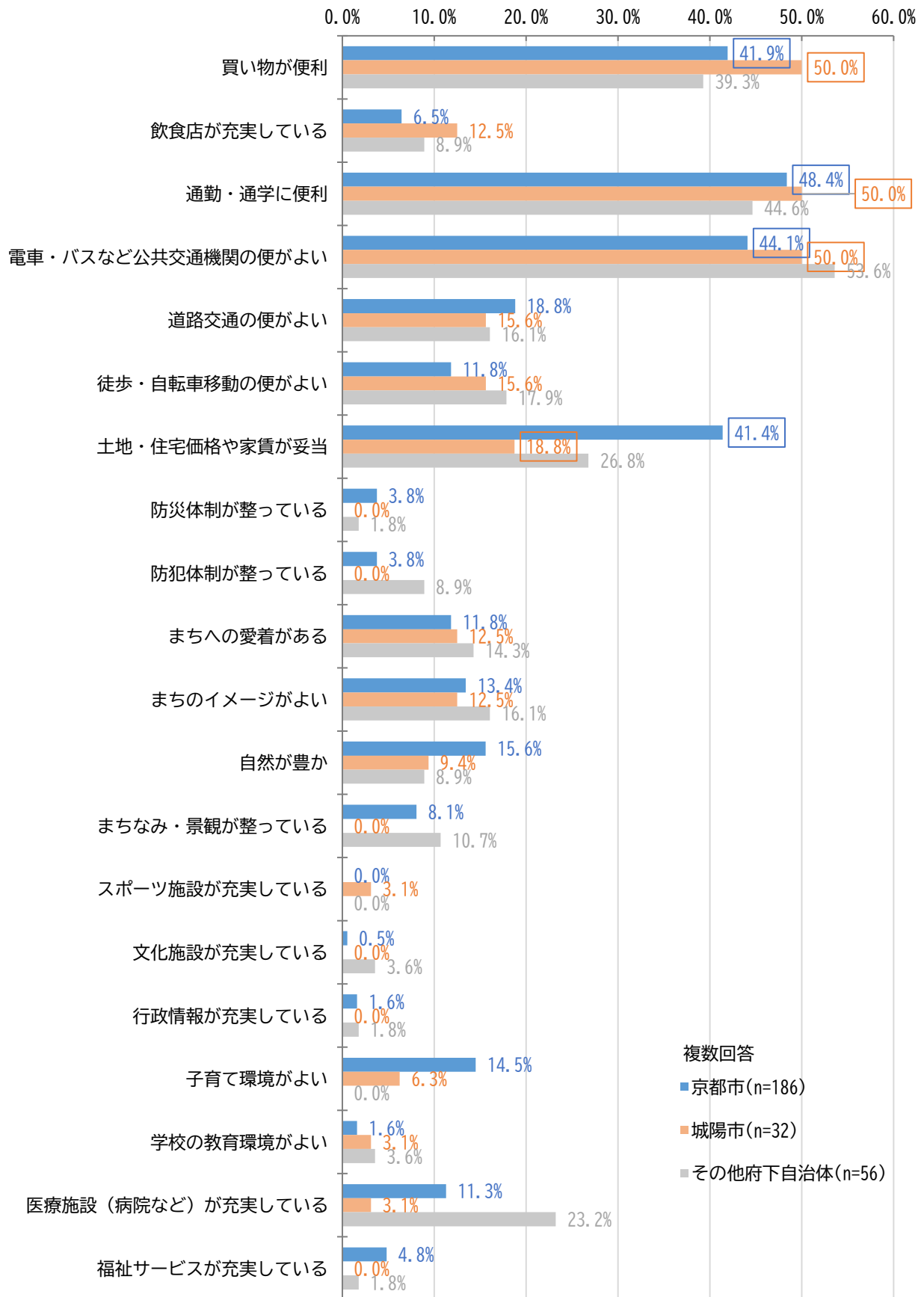
- ・京都市からの転入理由としては、「住宅の購入・借換」が34.0%と最も多く、ついで「結婚・出産など世帯構成の変化」が24.6%、「親族との同居・近居」が24.1%となっている。
- ・城陽市からの転入理由においても、京都市と同じく「住宅の購入・借換」、「結婚・出産など世帯構成の変化」、「親族との同居・近居」が上位を占めている。なお、城陽市では「結婚・出産など世帯構成の変化」が最も多くなっている。
- ・住まいを決める際に重視したことについては、主に「買い物が便利」、「通勤・通学に便利」、「電車・バスなど公共交通機関の便がよい」、「土地・住宅価格や家賃が妥当」が挙げられる。特に京都市においては「土地・住宅価格や家賃が妥当」の割合が高くなっている。

京都府下からの転入×【転入問7】転入の理由



2.1 アンケート結果による分析（クロス集計結果）

京都府下からの転入×【転入問 8】住まいを決める際に重視した点

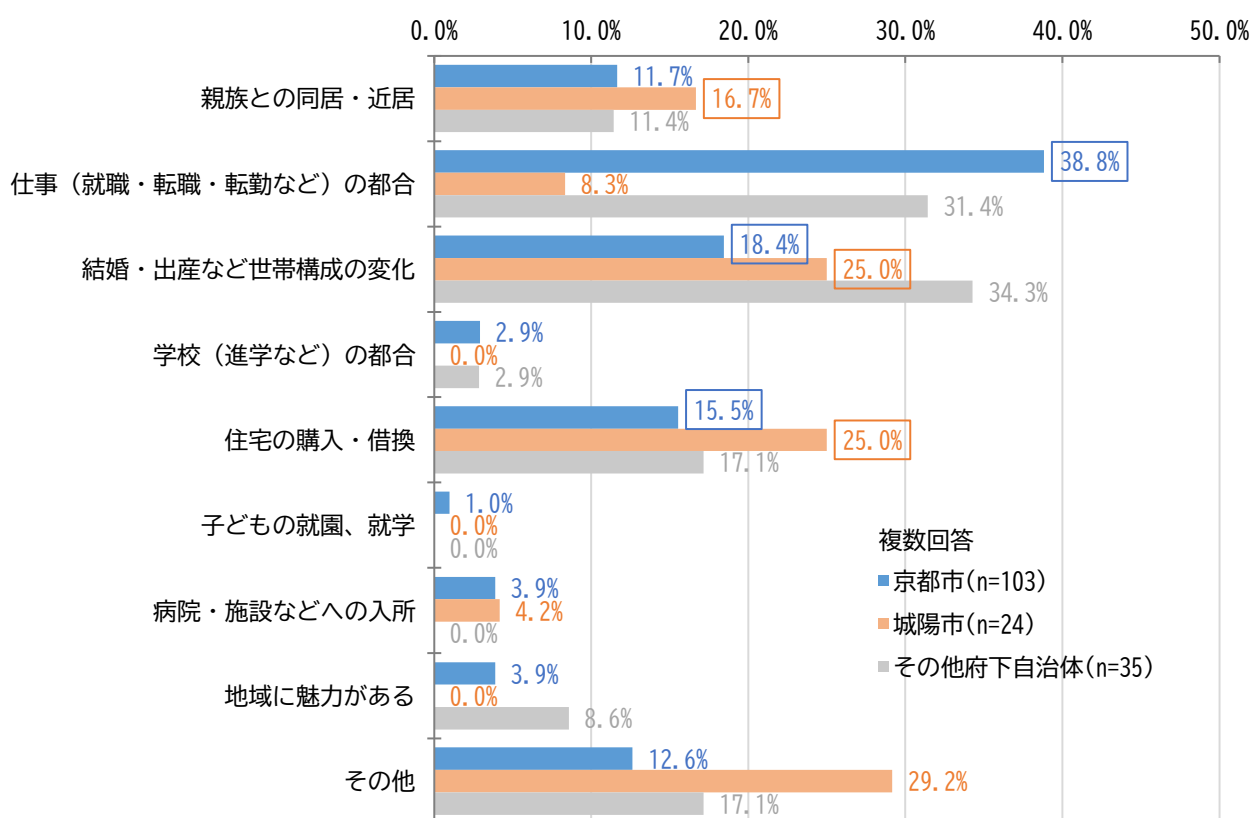


【転出】

京都市への転出では、仕事の都合が主な転出理由となっており、城陽市への転出では、結婚・出産や住宅購入等が主な理由となっている。住居を決める際に重視する点について、特に城陽市への転出者では、医療施設や子育て環境を重視する割合が高くなっている。

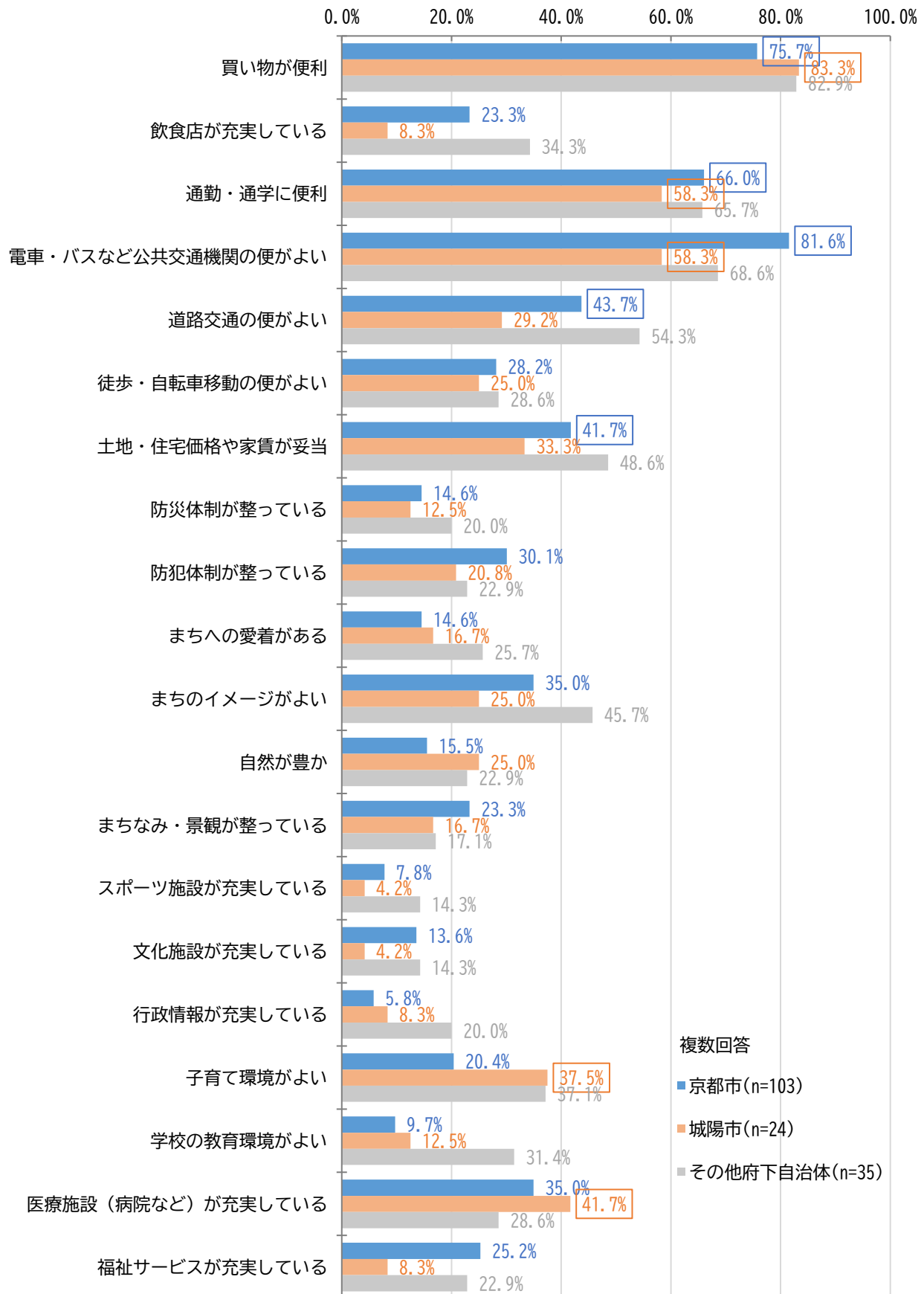
- ・京都市への転出理由としては、「仕事（就職・転職・転勤など）の都合」が38.8%と最も多く、ついで「結婚・出産など世帯構成の変化」が18.4%、「住宅の購入・借換」が15.5%となっている。
- ・城陽市の転出理由では、京都市と同じく「結婚・出産など世帯構成の変化」、「住宅の購入・借換」が上位を占めている一方で、「仕事（就職・転職・転勤など）の都合」は少なくなっている。「その他」の理由としては、施設への入所や通院に不便といった回答がみられた。
- ・住まいを決める際に重視したことについては、主に「買い物が便利」、「通勤・通学に便利」、「電車・バスなど公共交通機関の便がよい」が挙げられる。城陽市においては、それらに加え「医療施設（病院など）が充実している」や「子育て環境がよい」の割合が高くなっている。

京都府下への転出×【転出問 8】転出の理由



2.1 アンケート結果による分析（クロス集計結果）

京都府下への転出×【転出問 10】住まいを決める際に重視した点



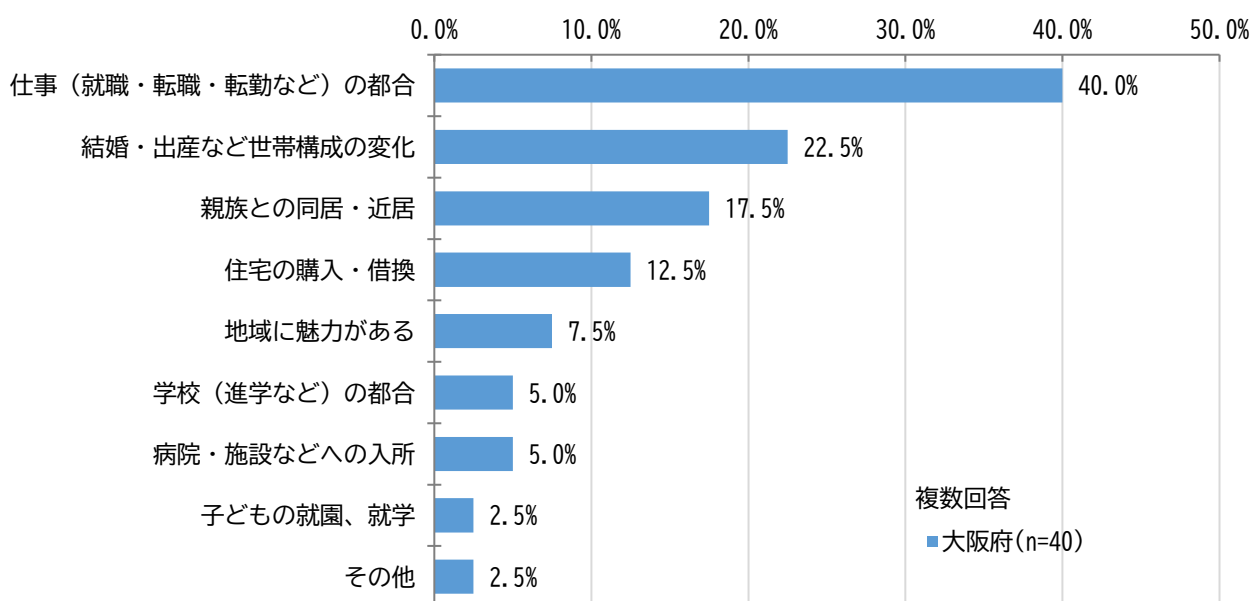
② 大阪府の転入出の傾向について

【転入】

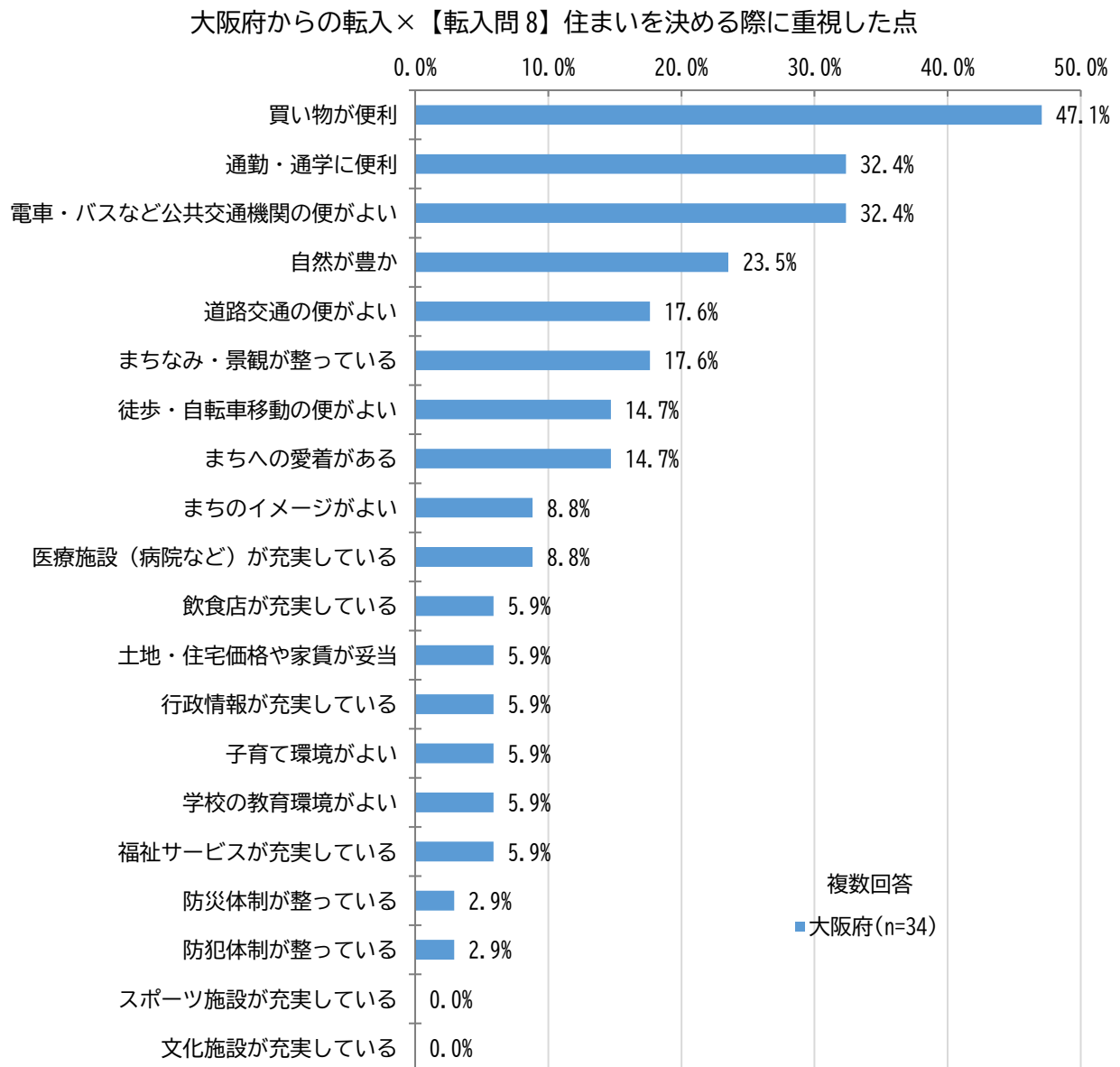
大阪府からの転入では、仕事の都合による転入が多くみられる。住居を決める際に重視する点については、特に生活の利便性に関する項目の割合が高くなっている。また施設や制度等の充実さよりも、自然が豊か、まちなみ・景観が整っている、まちへの愛着があるといった項目の割合が高く、大阪府からの転入にあたり、自然・歴史文化といった宇治市らしさが重視されていると考えられる。

- ・大阪府からの転入理由としては、「仕事の都合」が40.0%と最も多く、ついで「結婚・出産など世帯構成の変化」が22.5%、「親族との同居・近居」が17.5%となっている。
- ・宇治市で住まいを決める際に重視したことについては、「買い物が便利」が47.1%と最も多く、ついで「通勤・通学に便利」、「電車・バスなど公共交通機関の便がよい」が32.4%、「自然が豊か」が23.5%となっている。

大阪府からの転入×【転入問7】転入の理由



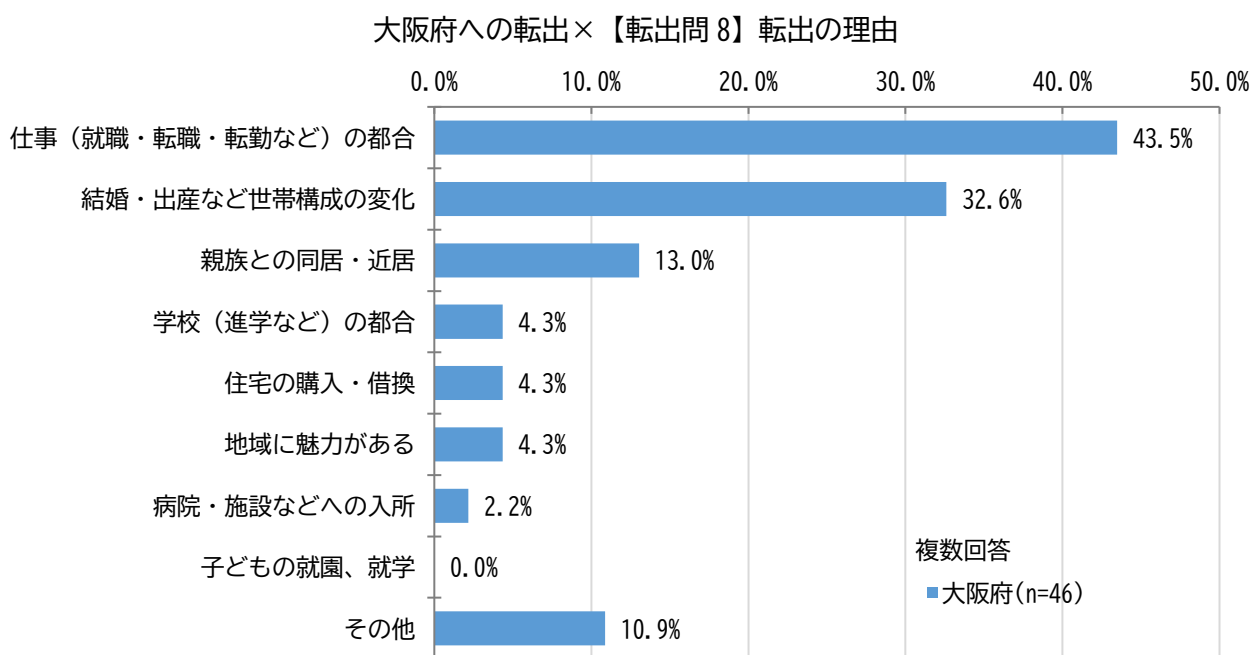
2.1 アンケート結果による分析（クロス集計結果）



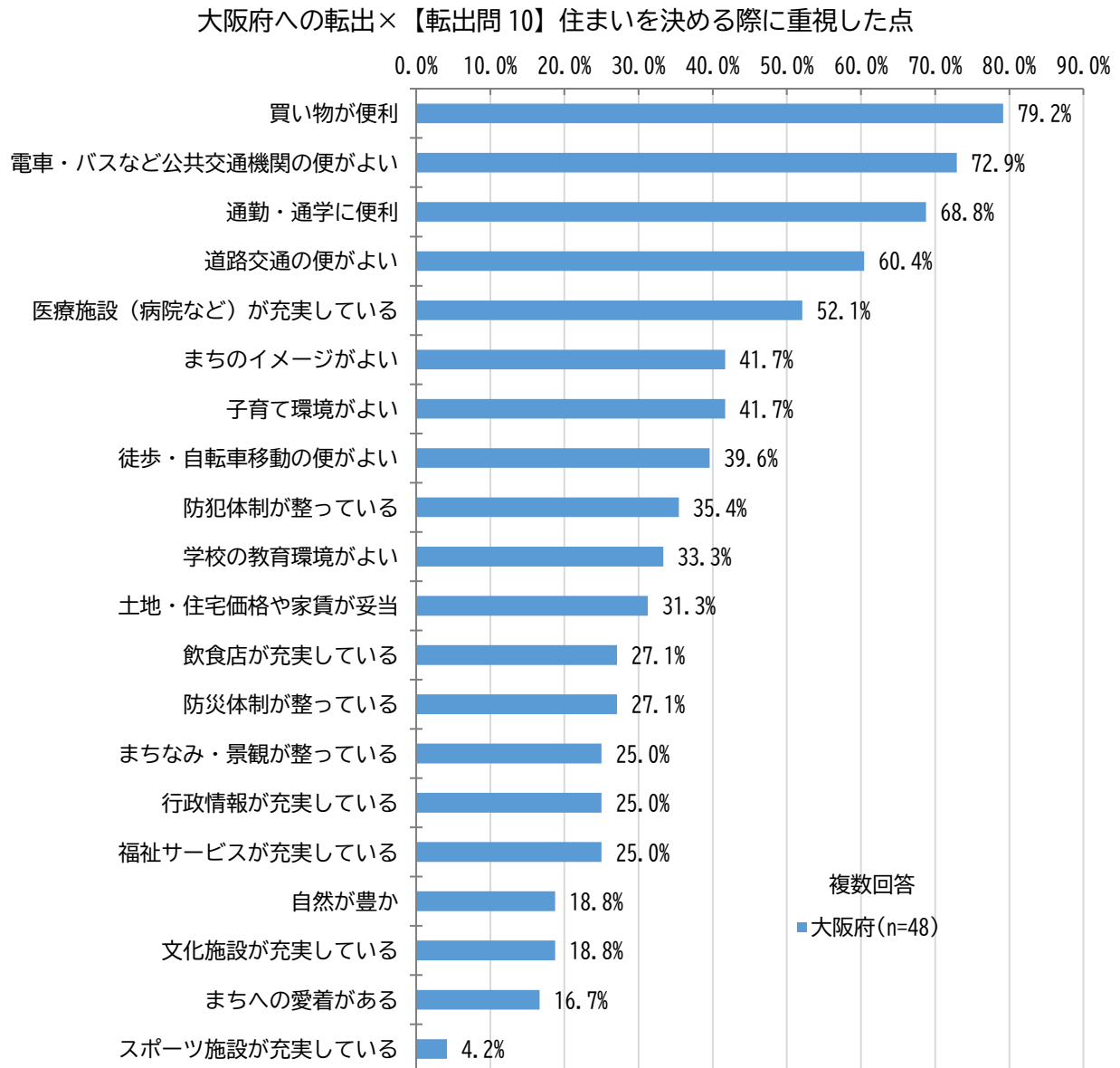
【転出】

大阪府への転出では、大阪府からの転入と同様に、仕事の都合が主な転出理由となっている。住居を決める際に重視する点についても、大阪府からの転入と同様に、特に生活の利便性に関する項目の割合が高くなっている。一方で、自然が豊か、まちへの愛着があるといった項目よりも、まちのイメージや子育て環境、防犯体制、住宅価格等の妥当性といった項目の割合が高くなっている。仕事等を機に大阪府へ転出する際は、まちのイメージのほか、制度面の充実がより重視されると考えられる。

- ・大阪府への転出理由としては、「仕事の都合」が43.5%と最も多く、ついで「結婚・出産など世帯構成の変化」が32.6%、「親族との同居・近居」が13.0%となっている。
- ・大阪府で住まいを決める際に重視したことについては、「買い物が便利」が79.2%と最も多く、ついで「電車・バスなど公共交通機関の便がよい」が72.9%、「通勤・通学に便利」が68.8%となっている。



2.1 アンケート結果による分析（クロス集計結果）



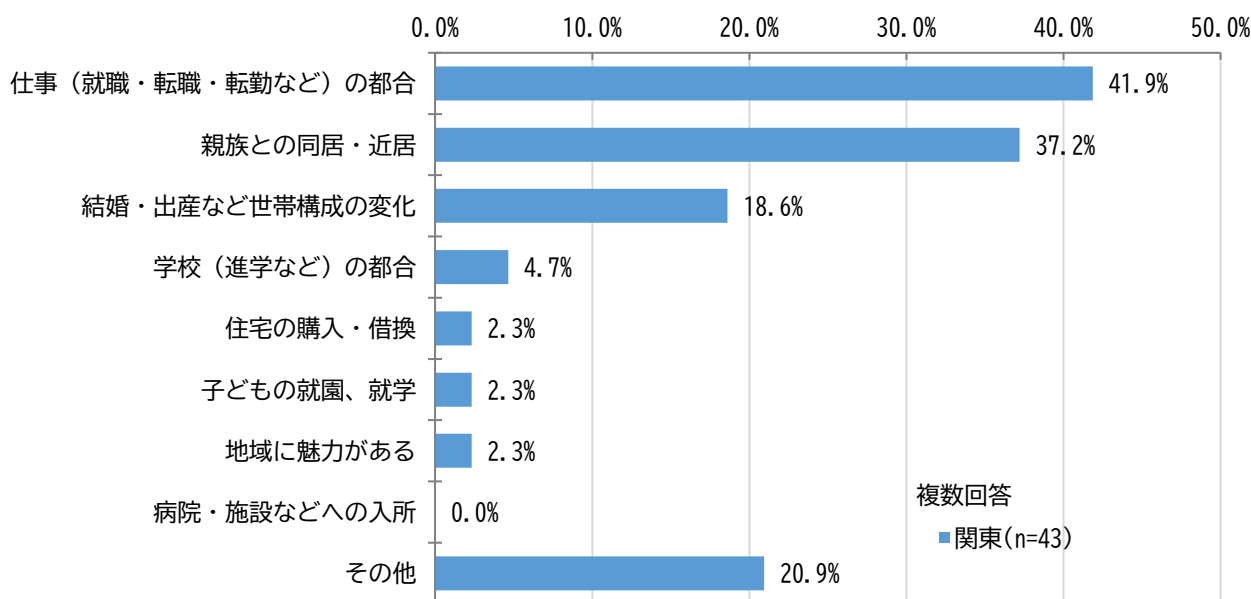
③ 関東（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）の転入出の傾向について

【転入】

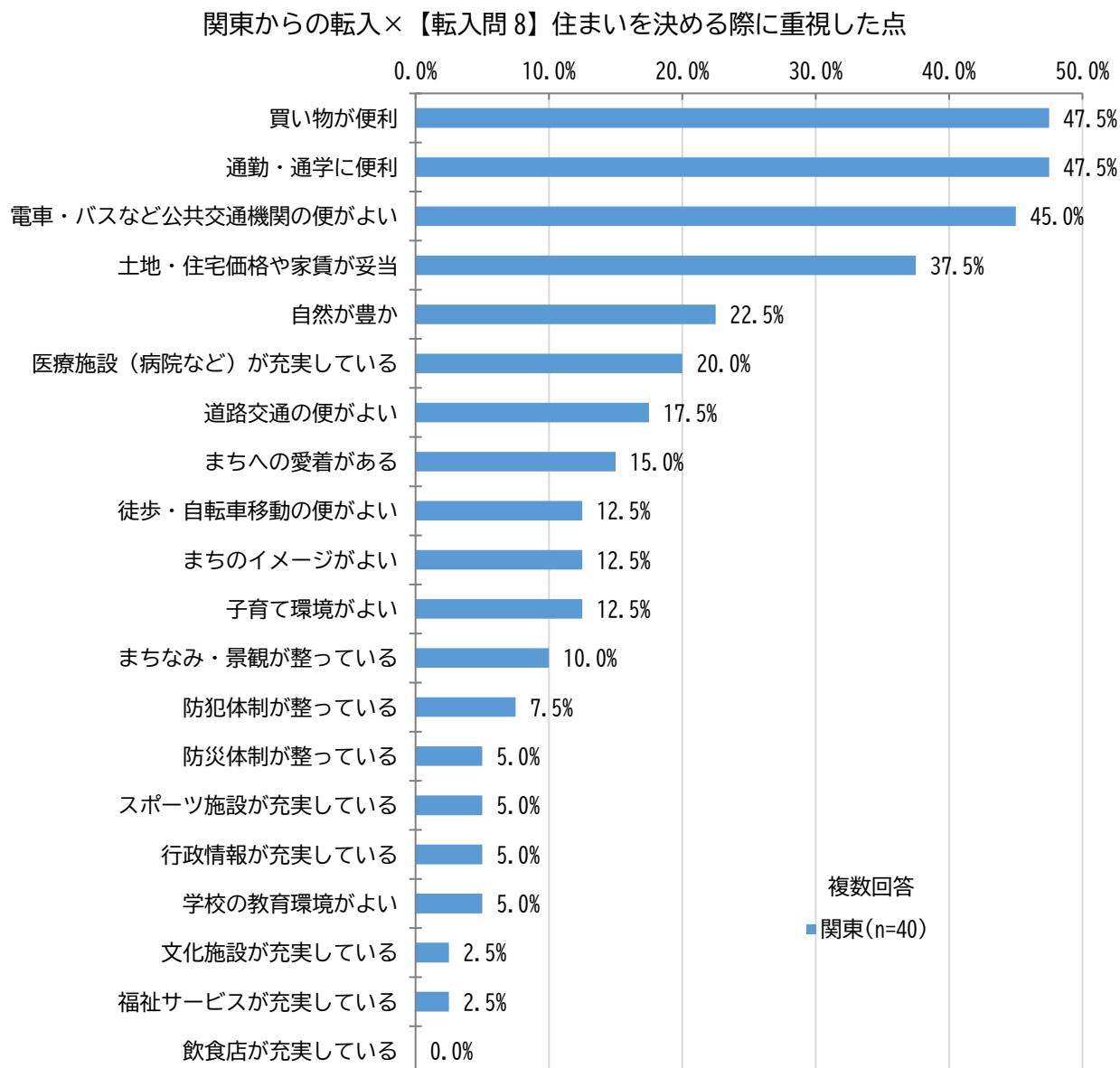
関東からの転入では、仕事の都合のほか、親族との同居・近居による転入が多くみられる。宇治市が出身という回答もみられ、一定数が仕事等を機に関東から宇治市にリターンしていると考えられる。住居を決める際に重視する点については、特に生活の利便性に関する項目の割合が高くなっている。利便性以外では土地・住宅価格の割合が高くなっている。

- ・ 関東からの転入理由としては、「仕事の都合」が41.9%と最も多く、ついで「親族との同居・近居」が37.2%、「結婚・出産など世帯構成の変化」が18.6%となっている。その他意見としては、主に退職等を機にリターンで宇治市に戻ってきたという意見が挙げられた。
- ・ 宇治市で住まいを決める際に重視したことについては、「買い物が便利」、「通勤・通学に便利」が47.5%と最も多く、ついで「電車・バスなど公共交通機関の便がよい」が45.0%、「土地・住宅価格や家賃が妥当」が37.5%となっている。

関東からの転入×【転入問7】転入の理由



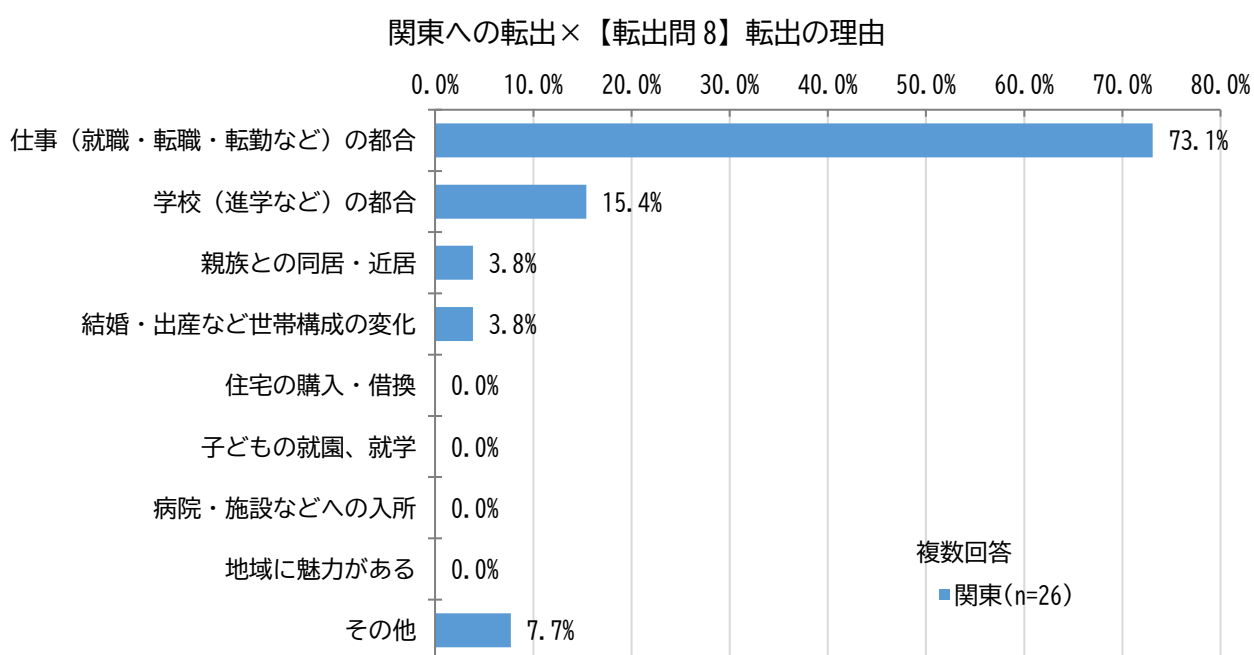
2.1 アンケート結果による分析（クロス集計結果）



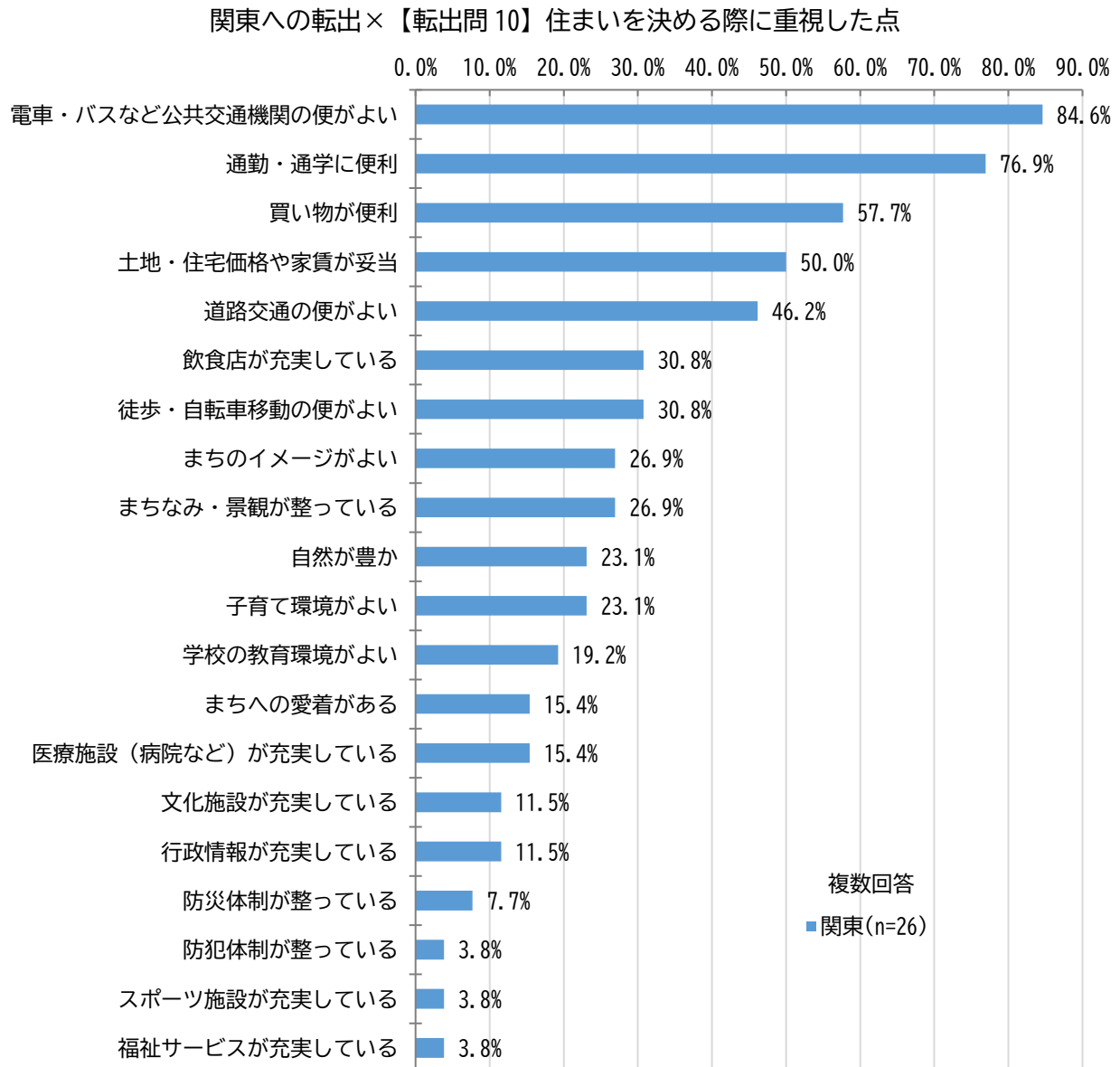
【転出】

関東への転出理由のほとんどは、仕事や進学 of 都合となっている。住居を決める際に重視する点については、特に生活の利便性に関する項目の割合が高くなっている。利便性以外では土地・住宅価格の割合が高くなっている。

- ・ 関東への転出理由としては、「仕事の都合」が 73.1%と最も多く、ついで「学校の都合」が 15.4%、「親族との同居・近居」、「結婚・出産など世帯構成の変化」が 3.8%となっている。
- ・ 関東で住まいを決める際に重視したことについては、「電車・バスなど公共交通機関の便がよい」が 84.6%と最も多く、ついで「通勤・通学に便利」が 76.9%、「買い物が便利」が 57.7%となっている。



2.1 アンケート結果による分析（クロス集計結果）

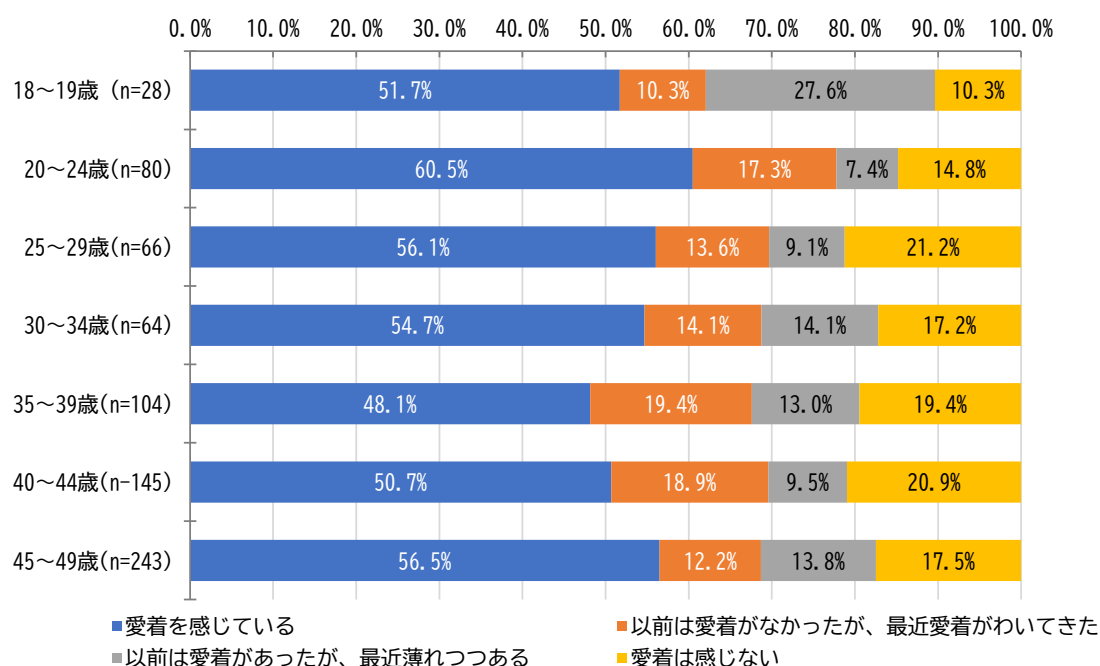


(2) 宇治市への愛着に関する傾向について

年代別の愛着度では 20～24 歳が最も高くなっている。また、現在のまちづくりについての満足度をみると、愛着を感じている人は、特に自然環境や日常生活に関する項目の満足度が高く、愛着が薄れつつある人では行政の情報発信や子育て支援に関する項目などで満足度が低くなっている。

- ・年代ごとの宇治市への愛着をみると、特に 20～24 歳で愛着を感じている人の割合が高くなっている。一方で、愛着が薄れつつある人の割合は、18～19 歳で最も高くなっている。

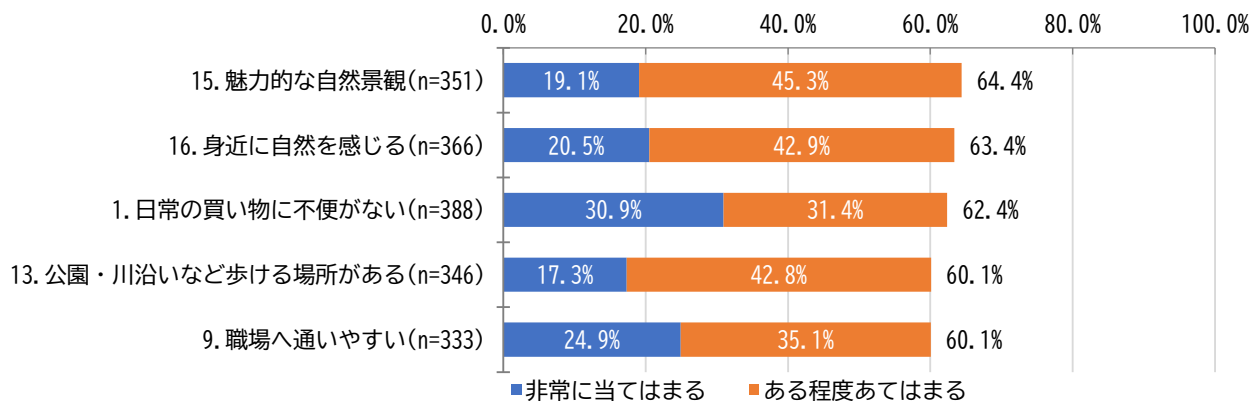
年齢×【定住問 23】宇治市への愛着



2.1 アンケート結果による分析（クロス集計結果）

- ・「愛着を感じている」人について、暮らしに関する項目ごとの満足度をみると、自然環境や日常生活に関する項目で満足度が高くなっている。

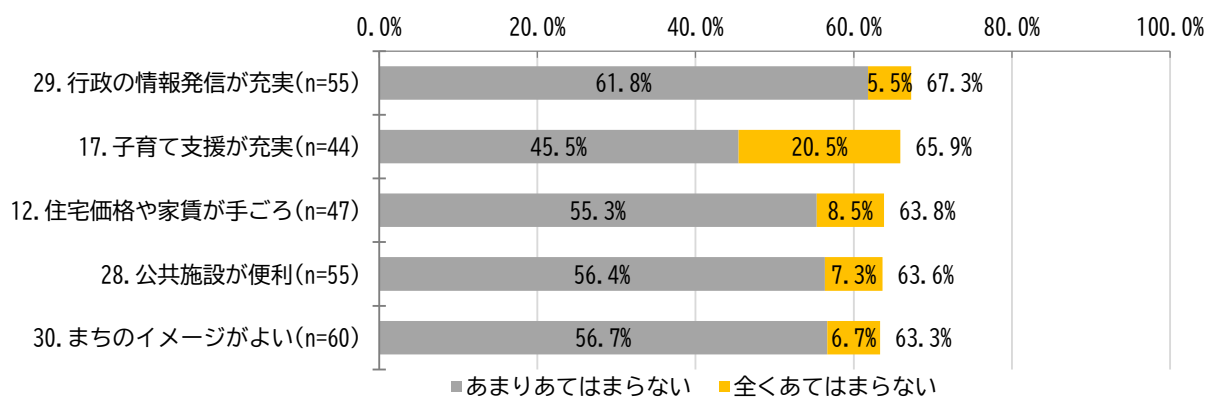
【定住問 30】満足度※（上位 5 項目）×【定住問 23】宇治市への愛着（愛着を感じている）



※「どちらともいえない」を除いたときの「非常にあてはまる」および「ある程度あてはまる」の割合

- ・「愛着が薄れつつある」人について、暮らしに関する項目ごとの満足度をみると、特に行政サービスに関する項目で満足度が低い。

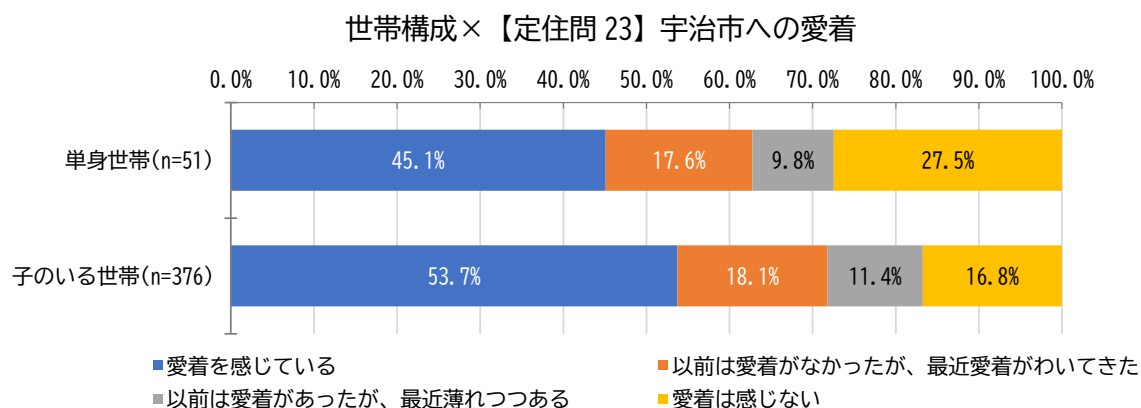
【定住問 30】不満度※（上位 5 項目）×【定住問 23】宇治市への愛着（愛着が薄れつつある）



※「どちらともいえない」を除いたときの「あまりあてはまらない」および「全くあてはまらない」の割合

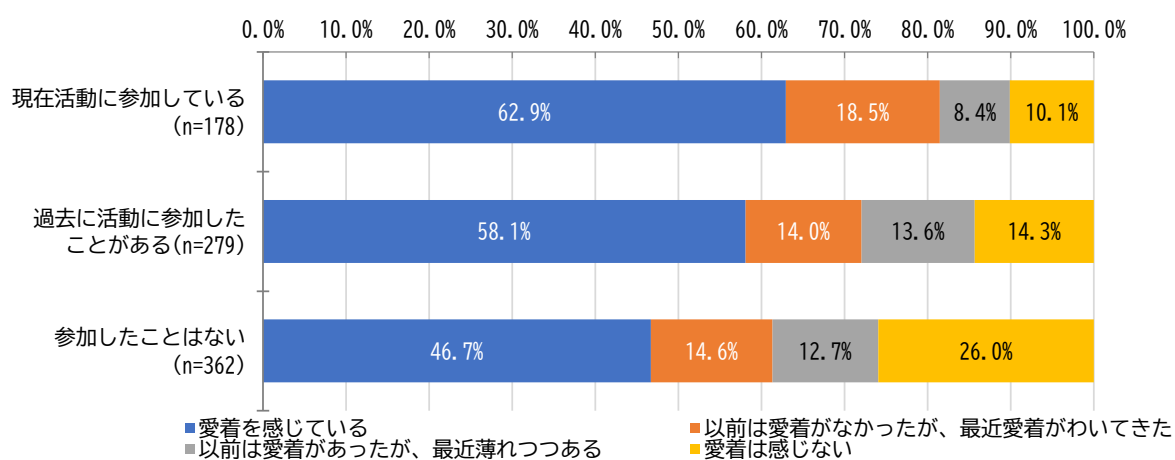
【参考：宇治市の愛着に関するその他のクロス集計結果】

- ・世帯構成別に宇治市への愛着をみると、愛着を感じない人の割合は、子のいる世帯よりも単身世帯の方が高くなっている。



- ・地域での活動経験別に宇治市への愛着をみると、参加したことがない人ほど愛着を感じない人の割合が高くなっている。

【定住問 22】身近な地域での活動経験×【定住問 23】宇治市への愛着



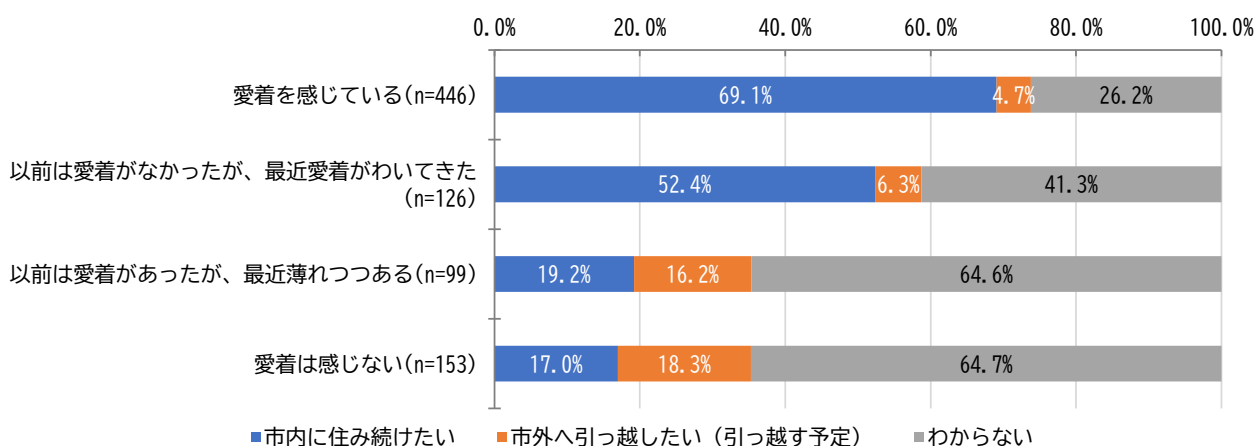
(3) 宇治市への定住意向に関する傾向について

宇治市への愛着がある人ほど定住意向がある一方で、愛着がないと回答した人であっても 17.0%は宇治市に住み続けたいと回答している。「市内に住み続けたい」と回答した人では、防犯・防災、交通の便、医療、子育てについて重要と考える割合が高かった。

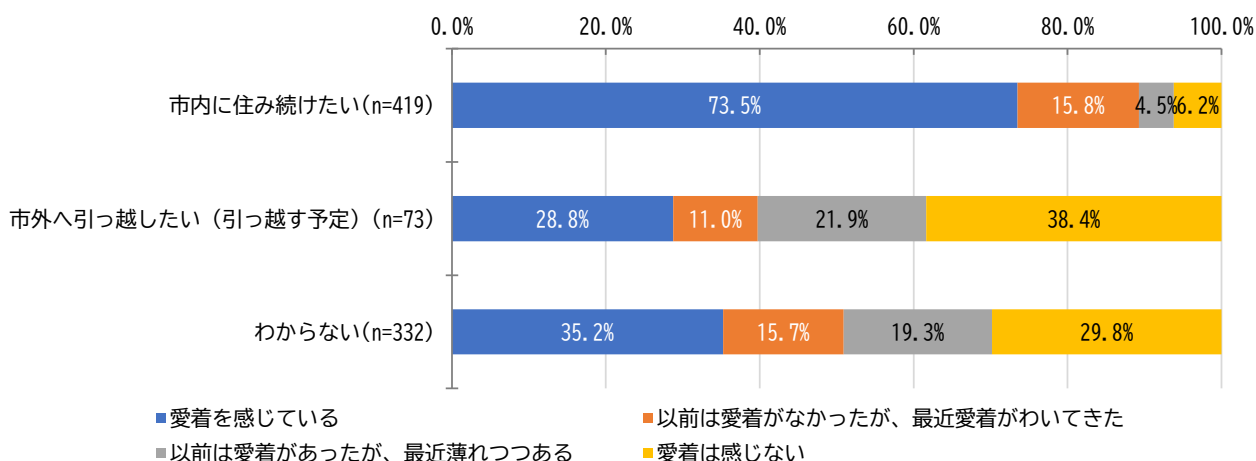
「市外へ引っ越したい（引っ越す予定）」と回答した人では「地元で就労しやすい」という項目について不満に思っている割合が高く、仕事の都合による転出が多い要因のひとつと考えられる。

- ・「愛着を感じている」人ほど「市内に住み続けたい」の割合が高くなっている。
- ・「市外へ引っ越したい（引っ越す予定）」であっても、約4割は「愛着を感じている」または「以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた」と回答している。

【定住問 23】 宇治市への愛着 × 【定住問 24】 宇治市への定住意向



【定住問 24】 宇治市への定住意向 × 【定住問 23】 宇治市への愛着

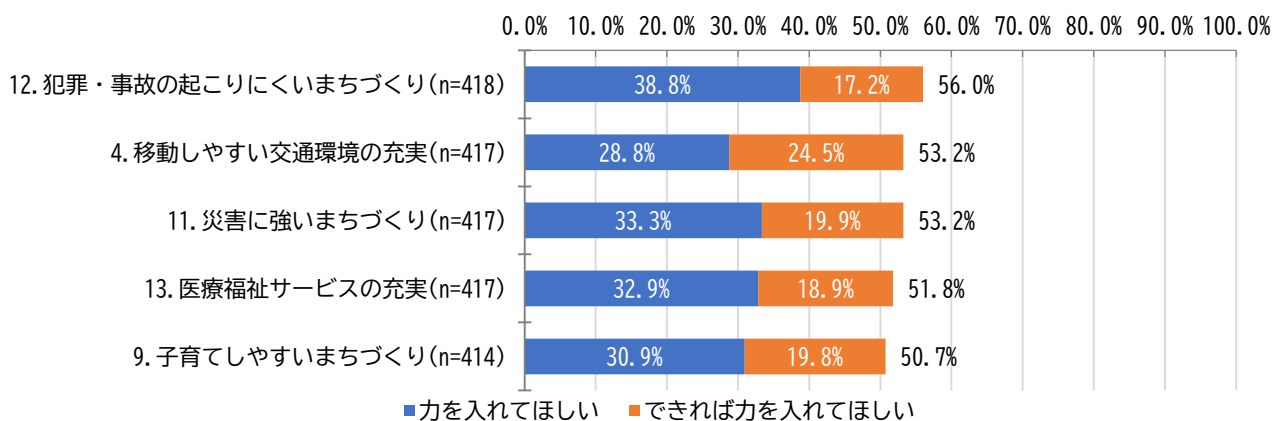


・宇治市のまちづくりに関する項目ごとの重要度について、「市内に住み続けたい」または「わからない」と回答した人の約半数が、以下の項目に力を入れてほしいとしている。

4. 移動しやすい交通環境の充実、9. 子育てしやすいまちづくり、11. 災害に強いまちづくり
12. 犯罪・事故の起こりにくいまちづくり、13. 医療福祉サービスの充実

【定住問 24】宇治市への定住意向で「市内に住み続けたい」と回答した人における、

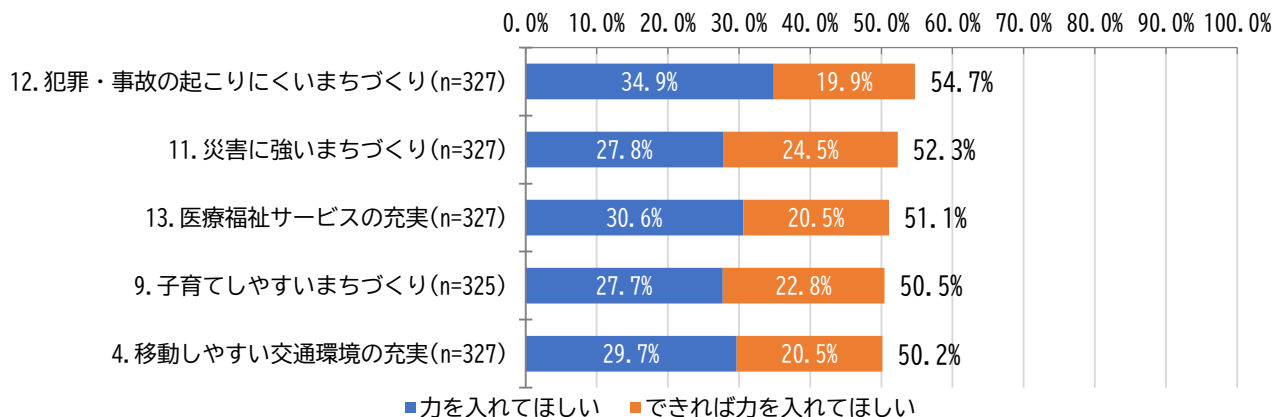
【定住問 31】重要度※の上位 5 項目



※「力を入れてほしい」および「できれば力を入れてほしい」の割合

【定住問 24】宇治市への定住意向で「わからない」と回答した人における、

【定住問 31】重要度※の上位 5 項目



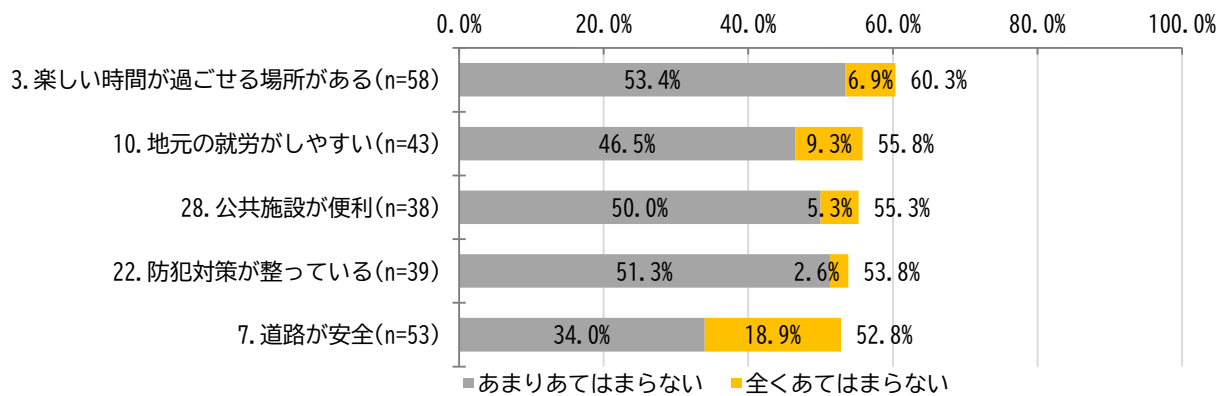
※「力を入れてほしい」および「できれば力を入れてほしい」の割合

2.1 アンケート結果による分析（クロス集計結果）

- ・暮らしに関する項目ごとの満足度について、「市外へ引っ越したい（引っ越す予定）」と回答した人で不満を感じる割合が高かった項目として、以下の項目が挙げられる。

3. 楽しい時間が過ごせる場所がある、7. 道路が安全、10. 地元の就労がしやすい、
22. 防犯体制が整っている、28. 公共施設が便利

【定住問 24】宇治市への定住意向で「市外へ引っ越したい（引っ越す予定）」と回答した人における、
【定住問 30】不満度※の上位 5 項目



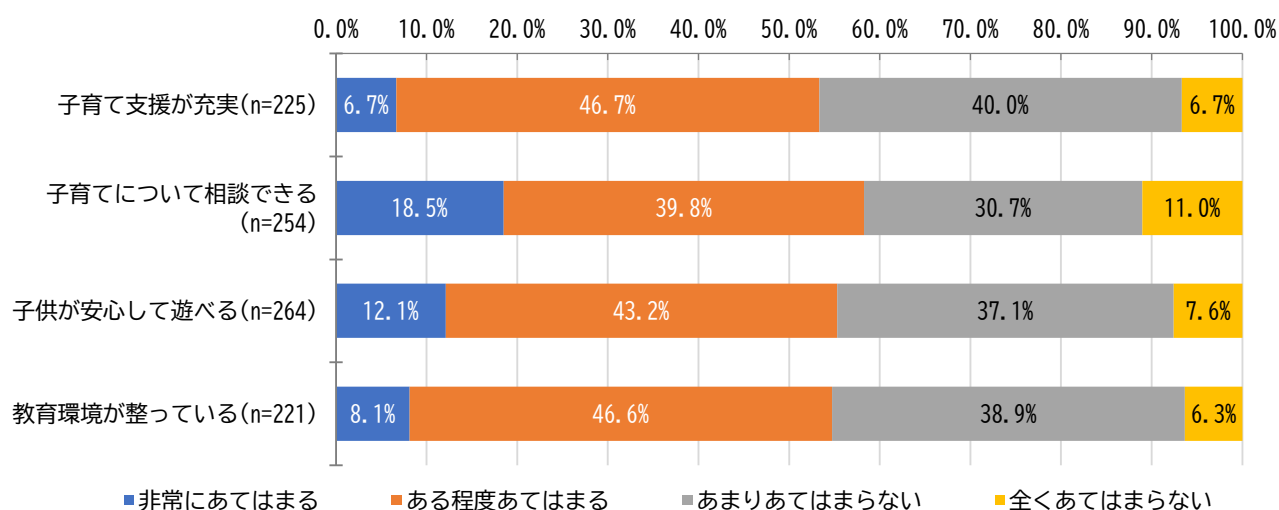
※「どちらともいえない」を除いたときの「あまりあてはまらない」および「全くあてはまらない」の割合

（4）子育て世帯の満足度等について

子育て世帯のおよそ 50～60%が、子育てに関する施策に対して一定の満足感を得ている。その一方で、約 1 割が子育てについて相談できる環境にないなど、満足度の低い層も一部みられ、情報発信の不足や防犯面への不満が挙がっている。特に防犯については、子育て世帯にとって最も力をいれてほしい項目となっており、重要度の高い項目といえる。

- ・子育て世帯における宇治市のまちづくりに関する満足度について、子育てに関する項目の満足度をみると、いずれの項目もおよそ 55～60%となっている。
- ・「子育てについて相談できる」は、子育てに関する項目の中で「非常にあてはまる」の割合が最も高い一方で、「全くあてはまらない」においても最も高くなっている。

子育て世帯×【定住問 30】子育てに関する満足度※

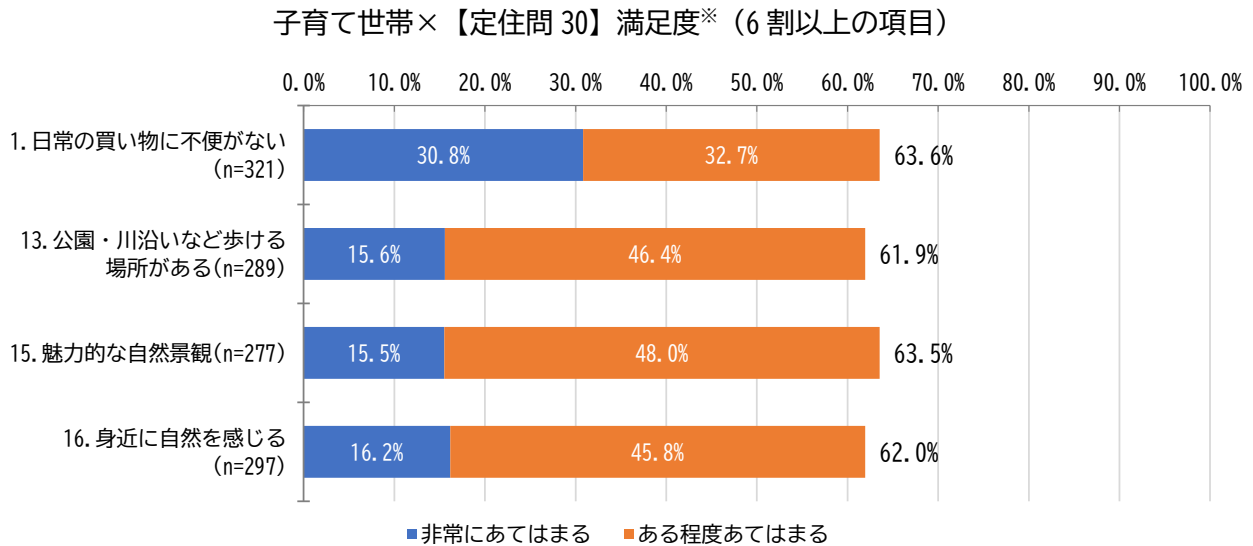


※「どちらともいえない」を除いたときの「非常にあてはまる」および「ある程度あてはまる」の割合

2.1 アンケート結果による分析（クロス集計結果）

- 子育て以外の項目のうち、満足度が6割を超えたものとして、以下の項目が挙げられる。

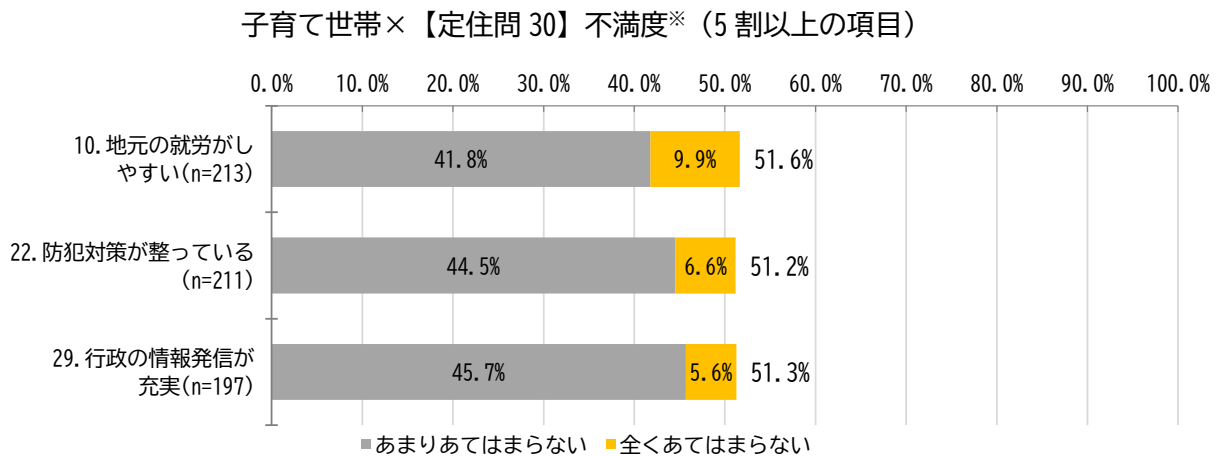
1. 日常の買い物に不便がない、13. 公園・川沿いなど歩ける場所がある、15. 魅力的な自然景観、16. 身近に自然を感じる



※「どちらともいえない」を除いたときの「非常にあてはまる」および「ある程度あてはまる」の割合

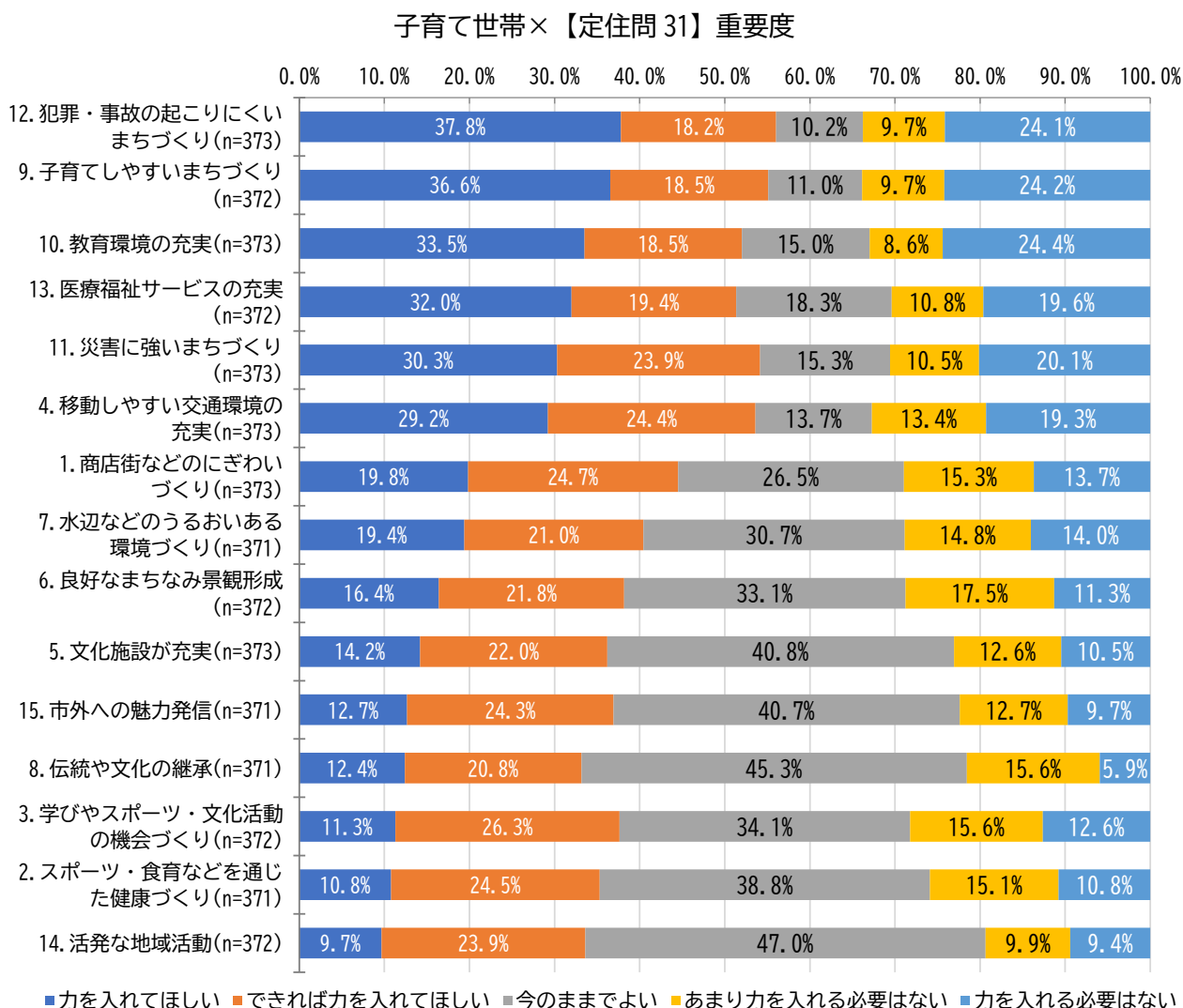
- 子育て以外の項目のうち、不満度が5割を超えたものとして、以下の項目が挙げられる。

10. 地元への就労がしやすい、22. 防犯対策が整っている、29. 行政の情報発信が充実



※「どちらともいえない」を除いたときの「あまりあてはまらない」および「全くあてはまらない」の割合

- ・子育て世帯における宇治市のまちづくりに関する項目ごとの重要度について、「力を入れてほしい」の割合が最も高いのは「12. 犯罪・事故の起こりにくいまちづくり」の 37.8%、ついで「9. 子育てしやすいまちづくり」の 36.6%、「10. 教育環境の充実」の 33.5%となっている。

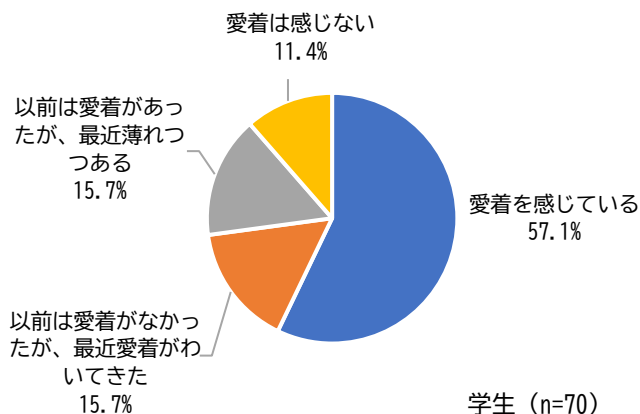


(5) 学生の満足度等について

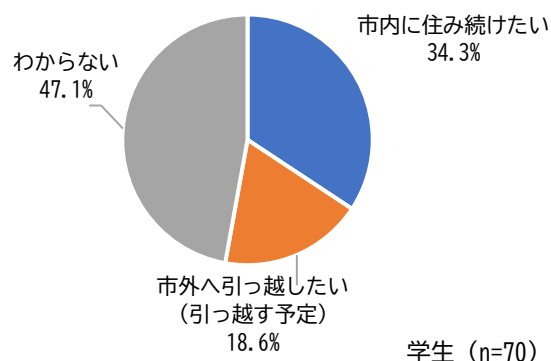
半数以上の学生が宇治市に愛着を感じており、約3割に定住の意向がみられた。定住意欲の理由としては、親族との同居・近居のほか、まちへの愛着も理由として挙げられており、また転出した学生の約3割にリターンの意向があることから、一定の学生が宇治市に魅力を感じていると考えられる。また、学生定住者の満足度をみると、主に生活の利便性や自然に関する項目のほか、愛着やイメージのよさに関する項目が上位となっている。

- ・ 学生における宇治市への愛着については、「愛着を感じている」が57.1%と最も多くなっている。
- ・ 学生における宇治市への定住意向については、「わからない」が47.1%と最も多く、ついで「市内に住み続けたい」が34.3%となっている。
- ・ 「市外へ引っ越したい（引っ越す予定）」の学生のうち、「いずれは戻りたい」と回答したのは20.0%で、40.0%は「戻りたくない」または「わからない」と回答している。一方で、転出している学生を対象とした設問では、「いずれは戻りたい」が36.4%と多くなっている。

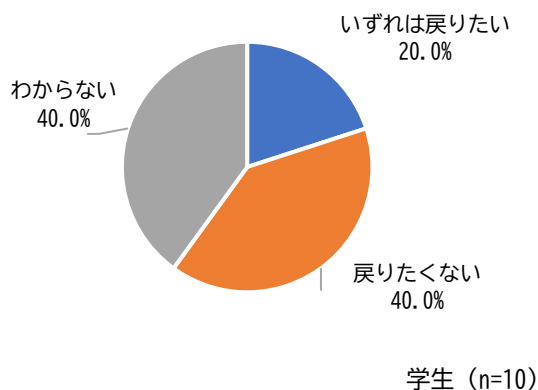
学生×【定住問23】宇治市への愛着



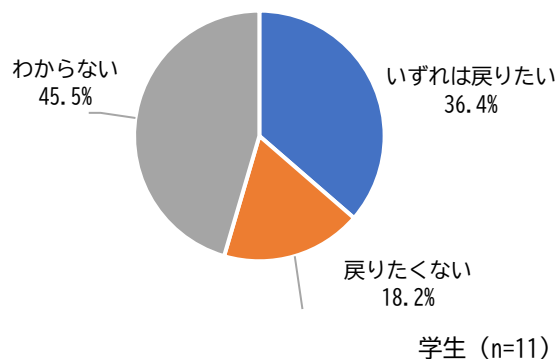
学生×【定住問24】宇治市への定住意向



学生×【定住問27】転出した際、宇治市へ戻りたいか

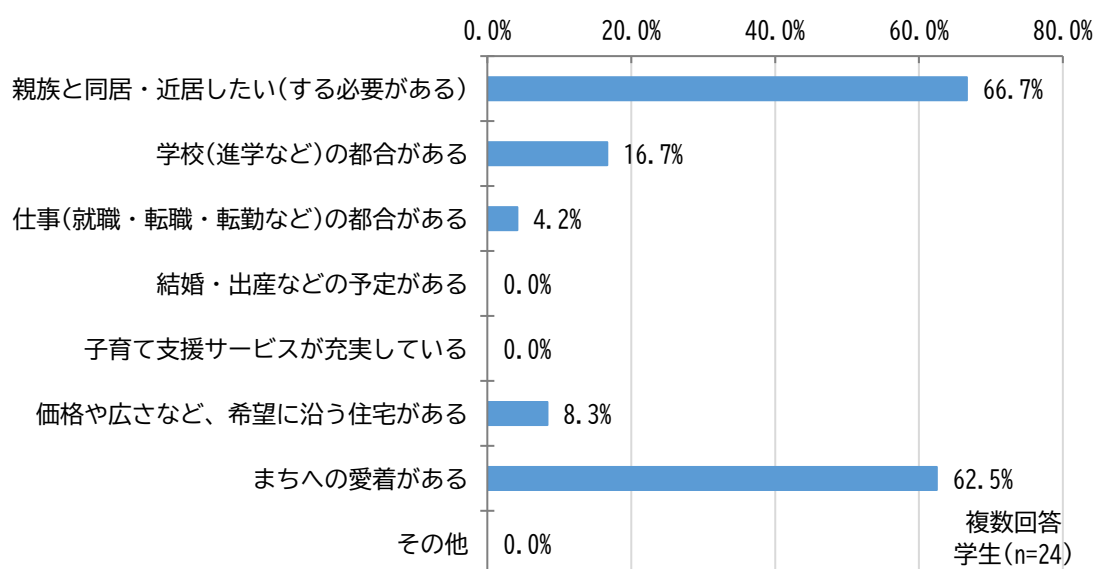


学生×【転出問9】宇治市へ戻りたいか

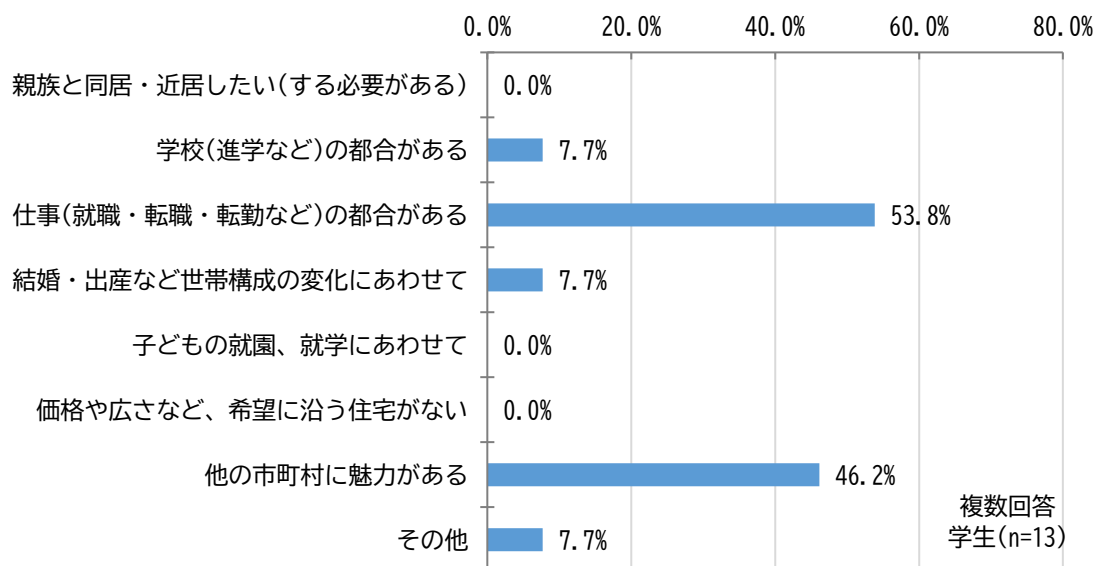


- ・定住意向のある学生の住み続けたい理由としては、特に「親族と同居・近居したい(する必要がある)」が 66.7%、「まちへの愛着がある」が 62.5%と多くなっている。
- ・「市外へ引っ越したい（引っ越す予定）」の理由としては、「仕事(就職・転職・転勤など)の都合がある」が 53.8%と最も多く、ついで「他の市町村に魅力がある」が 46.2%となっている。

学生×【定住問 25】市内に住み続けたい理由



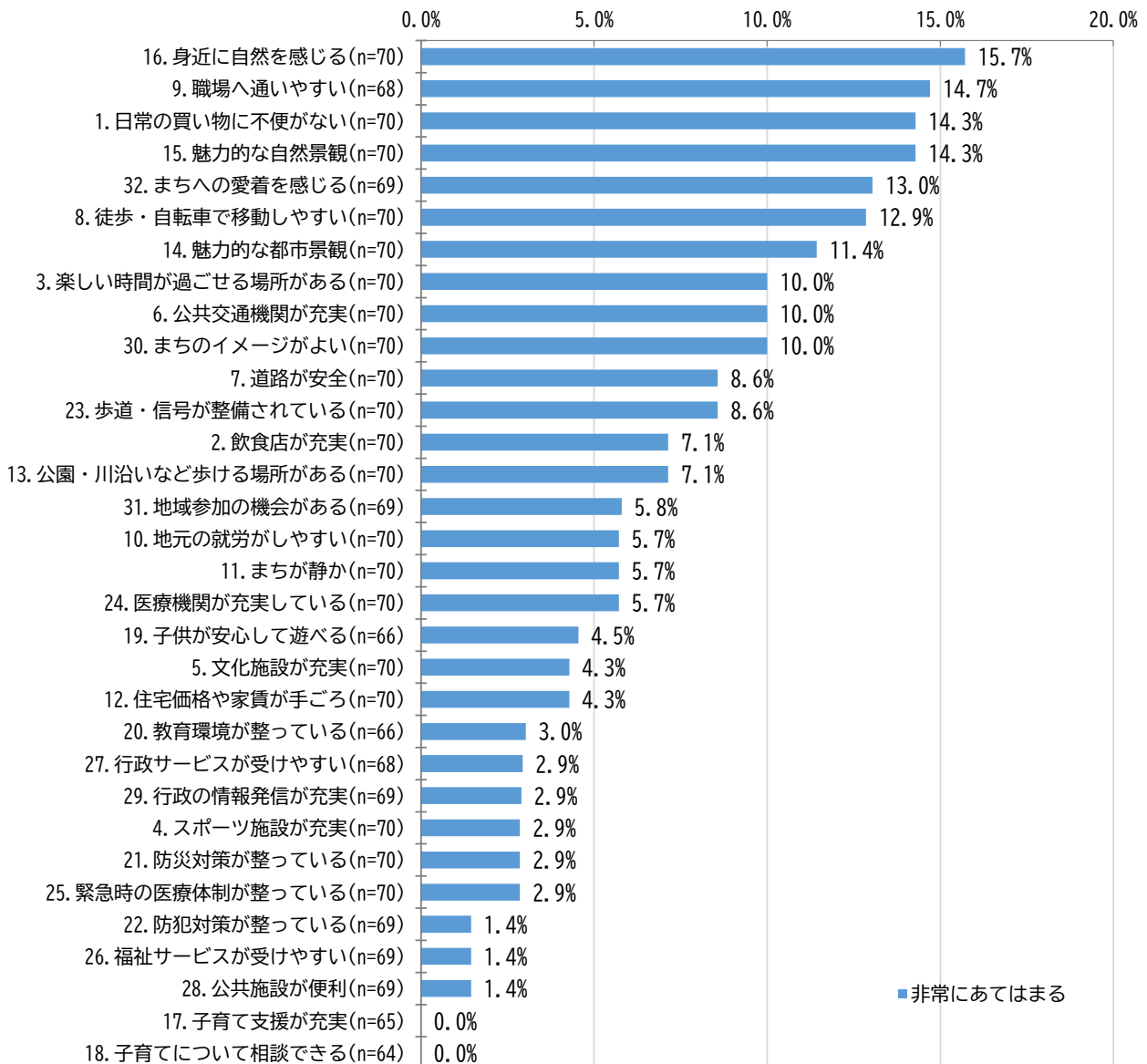
学生×【定住問 26】「市外へ引っ越したい（引っ越す予定）」の理由



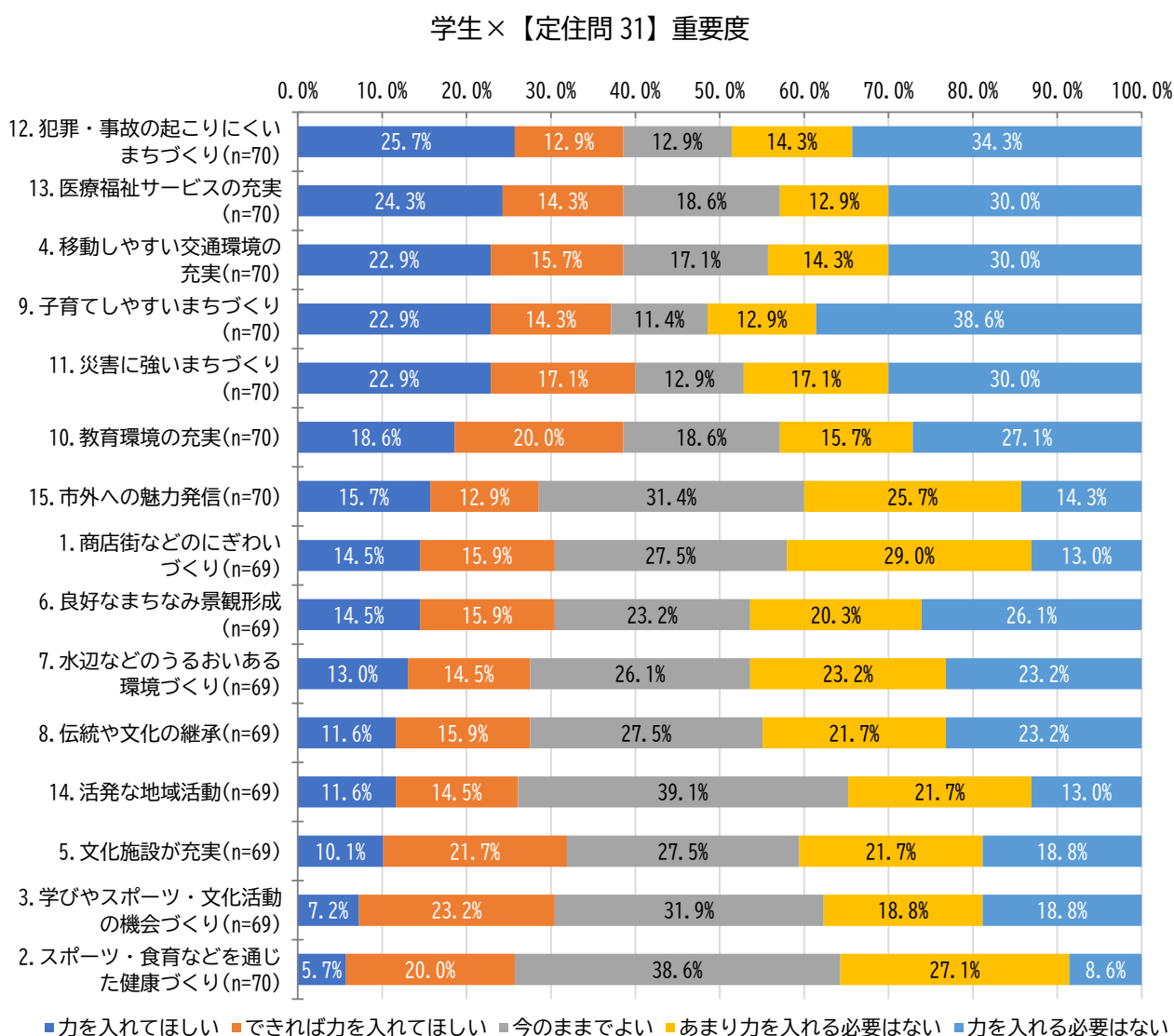
2.1 アンケート結果による分析（クロス集計結果）

- ・学生における宇治市のまちづくりに関する満足度について、「非常にあてはまる」では「身近に自然を感じる」が 15.7%と最も多く、ついで「職場へ通いやすい」が 14.7%、「日常の買い物に不便がない」、「魅力的な自然景観」が 14.3%となっている。
- ・主に生活の利便性や自然に関する項目のほか、愛着やイメージのよさに関する項目が上位となっている。

学生×【定住問 30】満足度（非常にあてはまる）



- ・学生における宇治市のまちづくりに関する項目ごとの重要度について、「力を入れてほしい」の割合が最も高いのは「12. 犯罪・事故の起こりにくいまちづくり」の25.7%、ついで「13. 医療福祉サービスの充実」の24.3%、「4. 移動しやすい交通環境の充実」、「4. 子育てしやすいまちづくり」、「11. 災害に強いまちづくり」の22.9%となっている。
- ・「力を入れてほしい」の割合と「力を入れる必要はない」の割合を比較すると、ほとんどの項目で「力を入れる必要はない」の割合の方が高くなっている。
- ・「力を入れてほしい」の割合の方が高い項目は、「1. 商店街などのにぎわいづくり」や「15. 市外への魅力発信」である。



2.2 単純集計結果

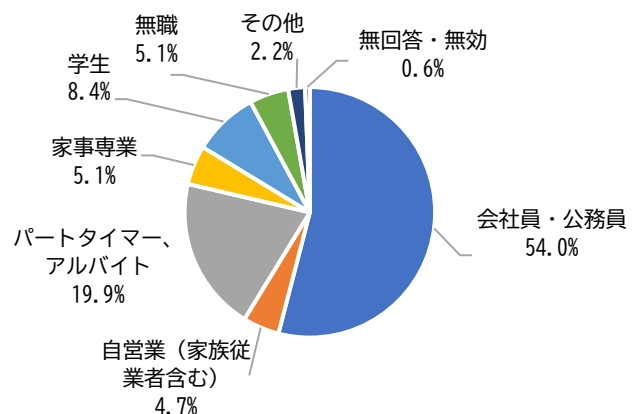
(1) 定住に関するアンケート調査

1. 仕事について

【問1】あなたのご職業について教えてください。(あてはまるもの1つに○)

「会社員・公務員」が54.0%と最も多く、ついで「パートタイマー、アルバイト」が19.9%、「学生」が8.4%となっている。

選択肢	合計	割合
会社員・公務員	448	54.0%
自営業（家族従業者含む）	39	4.7%
パートタイマー、アルバイト	165	19.9%
家事専業	42	5.1%
学生	70	8.4%
無職	42	5.1%
その他	18	2.2%
無回答・無効	5	0.6%
回答者数	829	100.0%



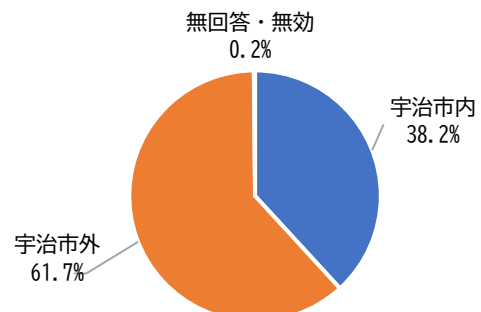
●その他の内容

「福祉施設職員」「団体・独立法人職員」「年度任用・派遣職員」「医療関係」など

【問2】問1で「会社員・公務員」、「自営業」、「パートタイマー、アルバイト」と回答された方にお伺いします。現在の職場はどちらですか。(あてはまるもの1つに○)

「宇治市外」が61.7%と最も多く、ついで「宇治市内」が38.2%となっています。

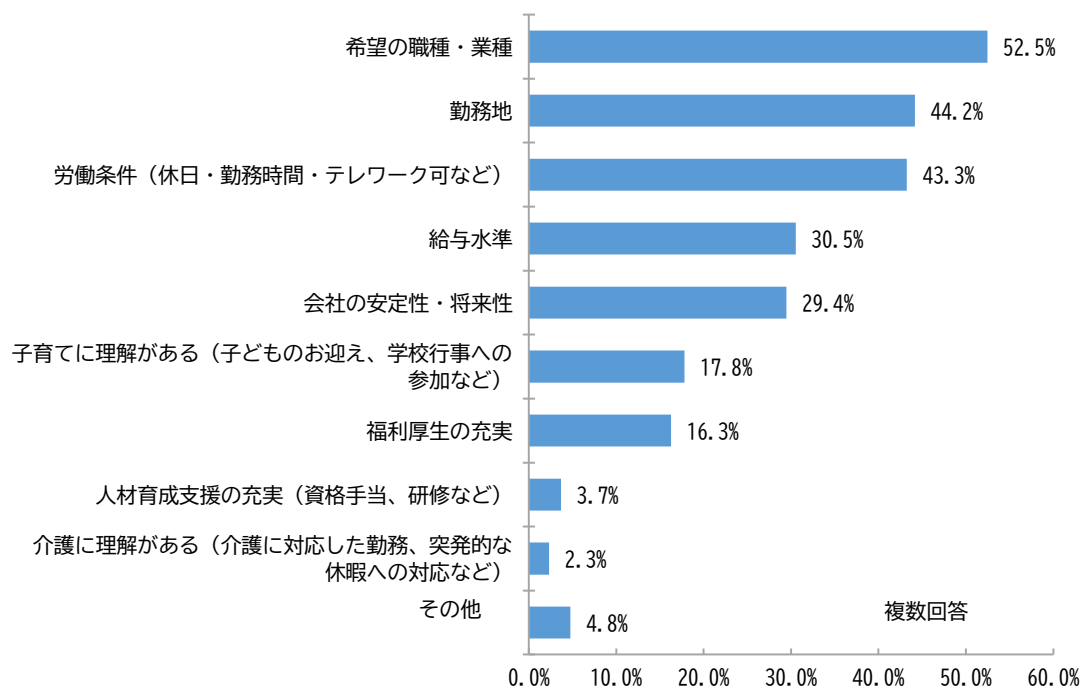
選択肢	合計	割合
宇治市内	249	38.2%
宇治市外	402	61.7%
無回答・無効	1	0.2%
回答者数	652	100.0%



【問3】問1で「会社員・公務員」、「自営業」、「パートタイマー、アルバイト」と回答された方にお伺いします。現在の仕事に就く際、重視したことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「希望の職種・業種」が52.5%と最も多く、ついで「勤務地」が44.2%、「労働条件（休日・勤務時間・テレワーク可など）」が43.3%となっている。

選択肢	合計	割合
希望の職種・業種	342	52.5%
給与水準	199	30.5%
会社の安定性・将来性	192	29.4%
勤務地	288	44.2%
労働条件（休日・勤務時間・テレワーク可など）	282	43.3%
福利厚生の充実	106	16.3%
人材育成支援の充実（資格手当、研修など）	24	3.7%
子育てに理解がある（子どものお迎え、学校行事への参加など）	116	17.8%
介護に理解がある（介護に対応した勤務、突発的な休暇への対応など）	15	2.3%
その他	31	4.8%
無回答・無効	3	0.5%
回答者数	652	100.0%



●その他の内容

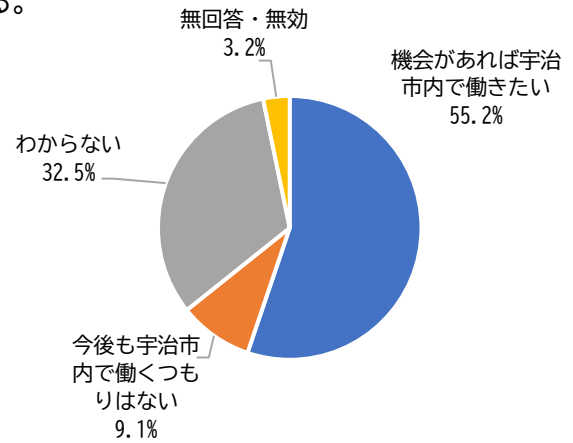
「スキルをつけたい」「スキル・経験がある」「家業のため」「タイミング・友人から」「会社の方針や雰囲気、人間関係」など

2.2 単純集計結果

【問4】問1で「家事専業」、「学生」、「無職」と回答された方にお伺いします。今後、宇治市内で働く機会があれば、働きたいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

「機会があれば宇治市内で働きたい」が55.2%と最も多く、ついで「わからない」が32.5%、「今後も宇治市内で働くつもりはない」が9.1%となっている。

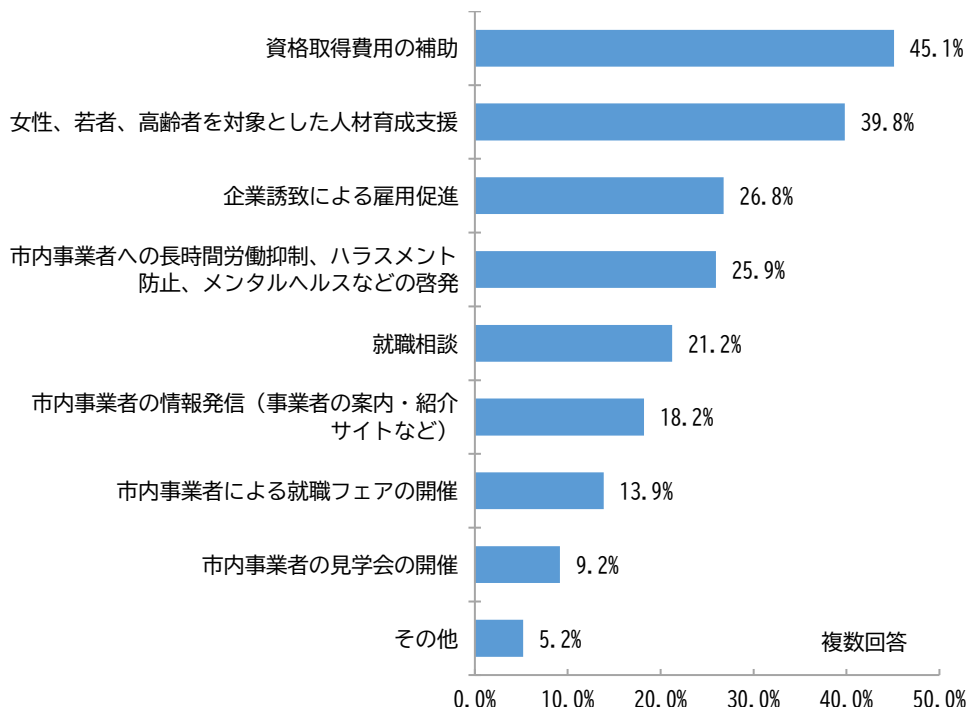
選択肢	合計	割合
機会があれば宇治市内で働きたい	85	55.2%
今後も宇治市内で働くつもりはない	14	9.1%
わからない	50	32.5%
無回答・無効	5	3.2%
回答者数	154	100.0%



【問5】就労・雇用について、行政にどのような支援を望みますか。（あてはまるものすべてに○）

「資格取得費用の補助」が45.1%と最も多く、ついで「女性、若者、高齢者を対象とした人材育成支援」が39.8%、「企業誘致による雇用促進」が26.8%となっている。

選択肢	合計	割合
女性、若者、高齢者を対象とした人材育成支援	330	39.8%
就職相談	176	21.2%
市内事業者による就職フェアの開催	115	13.9%
資格取得費用の補助	374	45.1%
企業誘致による雇用促進	222	26.8%
市内事業者の見学会の開催	76	9.2%
市内事業者の情報発信（事業者の案内・紹介サイトなど）	151	18.2%
市内事業者への長時間労働抑制、ハラスメント防止、メンタルヘルスなどの啓発	215	25.9%
その他	43	5.2%
無回答・無効	61	7.4%
回答者数	829	100.0%



●その他の内容

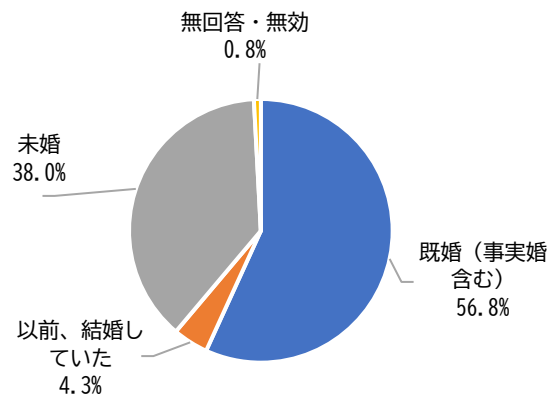
「子育て支援」「障がい者支援」「高齢者支援」「労働環境改善」「無職者支援」「情報発信」など

2. 結婚について

【問6】結婚の状況について教えてください。（あてはまるもの1つに○）

「既婚（事実婚含む）」が56.8%と最も多く、ついで「未婚」が38.0%、「以前、結婚していた」が4.3%となっている。

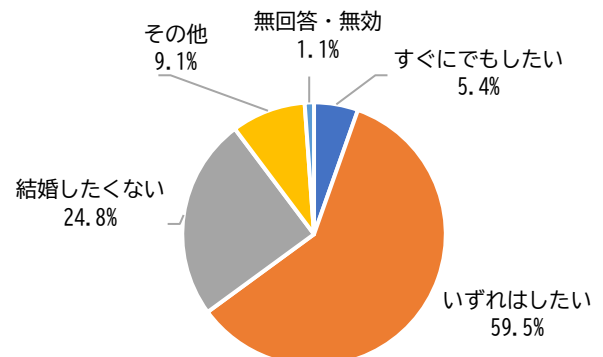
選択肢	合計	割合
既婚（事実婚含む）	471	56.8%
以前、結婚していた	36	4.3%
未婚	315	38.0%
無回答・無効	7	0.8%
回答者数	829	100.0%



【問7】問6で「以前、結婚していた」または「未婚」と回答された方にお伺いします。今後、結婚したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

「いずれはしたい」が59.5%と最も多く、ついで「結婚したくない」が24.8%、「すぐにでもしたい」が5.4%となっている。

選択肢	合計	割合
すぐにでもしたい	19	5.4%
いずれはしたい	209	59.5%
結婚したくない	87	24.8%
その他	32	9.1%
無回答・無効	4	1.1%
回答者数	351	100.0%



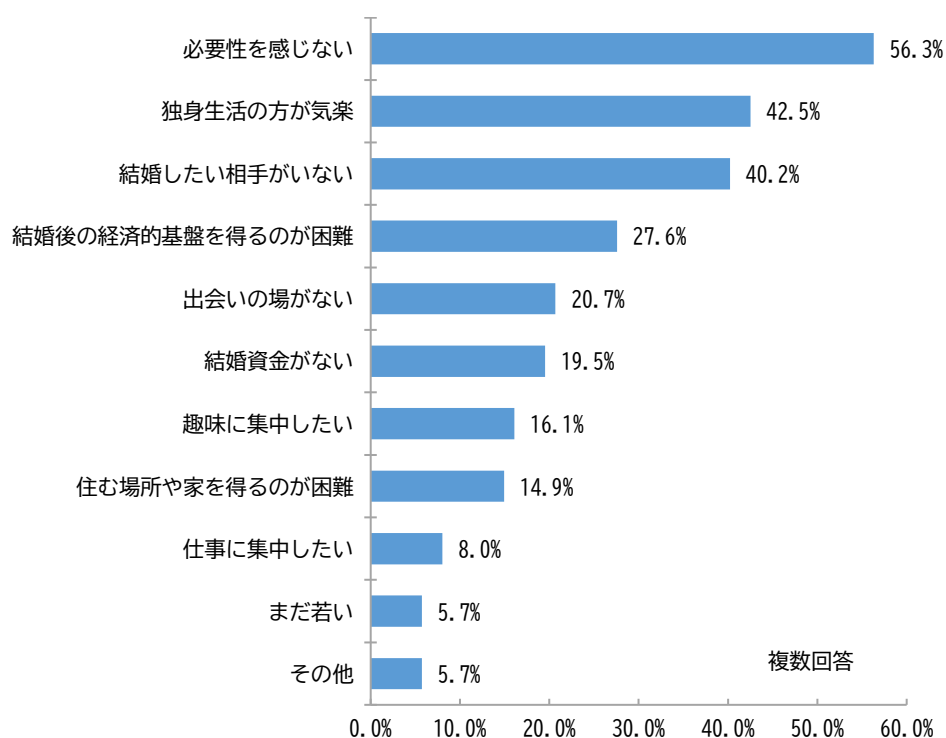
●その他の内容

「機会があれば」「わからない」「どちらでもいい」など

【問8】問7で「結婚したくない」と回答された方にお伺いします。結婚したくない理由について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「必要性を感じない」が56.3%と最も多く、ついで「独身生活の方が気楽」が42.5%、「結婚したい相手がいない」が40.2%となっている。

選択肢	合計	割合
まだ若い	5	5.7%
必要性を感じない	49	56.3%
仕事に集中したい	7	8.0%
趣味に集中したい	14	16.1%
独身生活の方が気楽	37	42.5%
結婚したい相手がいない	35	40.2%
出会いの場がない	18	20.7%
結婚資金がない	17	19.5%
結婚後の経済的基盤を得るのが困難	24	27.6%
住む場所や家を得るのが困難	13	14.9%
その他	5	5.7%
無回答・無効	1	1.1%
回答者数	87	100.0%



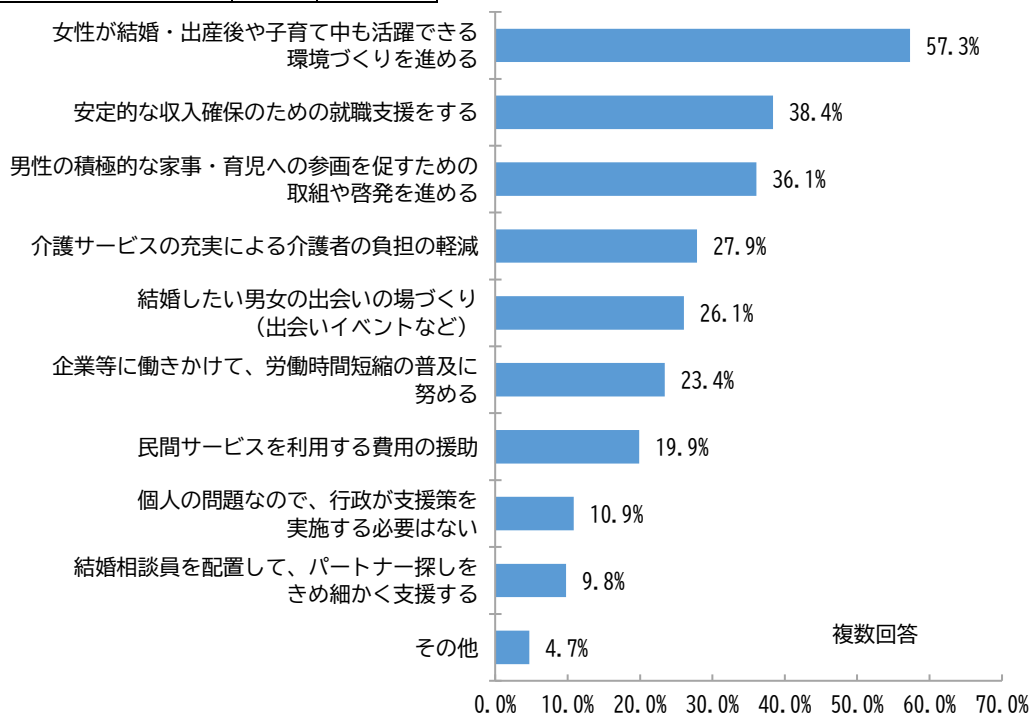
●その他の内容

「諦めている」「結婚のメリットがあまりない」など

【問9】結婚の支援のために、行政が実施することが望ましい施策はどのようなものと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

「女性が結婚・出産後や子育て中も活躍できる環境づくりを進める」が57.3%と最も多く、ついで「安定的な収入確保のための就職支援をする」が38.4%、「男性の積極的な家事・育児への参画を促すための取組や啓発を進める」が36.1%となっている。

選択肢	合計	割合
結婚したい男女の出会いの場づくり（出会いイベントなど）	216	26.1%
結婚相談員を配置して、パートナー探しをきめ細かく支援する	81	9.8%
民間サービスを利用する費用の援助	165	19.9%
安定的な収入確保のための就職支援をする	318	38.4%
企業等に働きかけて、労働時間短縮の普及に努める	194	23.4%
女性が結婚・出産後や子育て中も活躍できる環境づくりを進める	475	57.3%
男性の積極的な家事・育児への参画を促すための取組や啓発を進める	299	36.1%
介護サービスの充実による介護者の負担の軽減	231	27.9%
個人の問題なので、行政が支援策を実施する必要はない	90	10.9%
その他	39	4.7%
無回答・無効	45	5.4%
回答者数	829	100.0%



●その他の内容

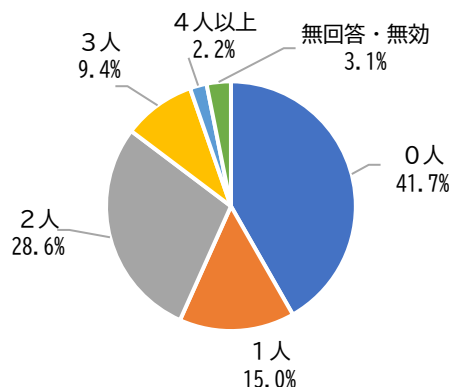
「学費・医療費などの支援」「結婚に対する魅力の向上」「保育施設の充実」「安定した将来ビジョンの整備」「必要ない」「わからない」など

3. 出産・子育てについて

【問 10】あなたのお子さんは何人ですか。(あてはまるもの1つに○)

「0人」が41.7%と最も多く、ついで「2人」が28.6%、「1人」が15.0%となっている。

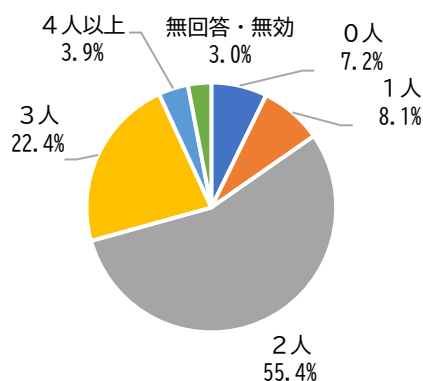
選択肢	合計	割合
0人	346	41.7%
1人	124	15.0%
2人	237	28.6%
3人	78	9.4%
4人以上	18	2.2%
無回答・無効	26	3.1%
回答者数	829	100.0%



【問 11】あなたが理想と考える子どもの数は何人ですか。(あてはまるもの1つに○)

「2人」が55.4%と最も多く、ついで「3人」が22.4%、「1人」が8.1%となっている。

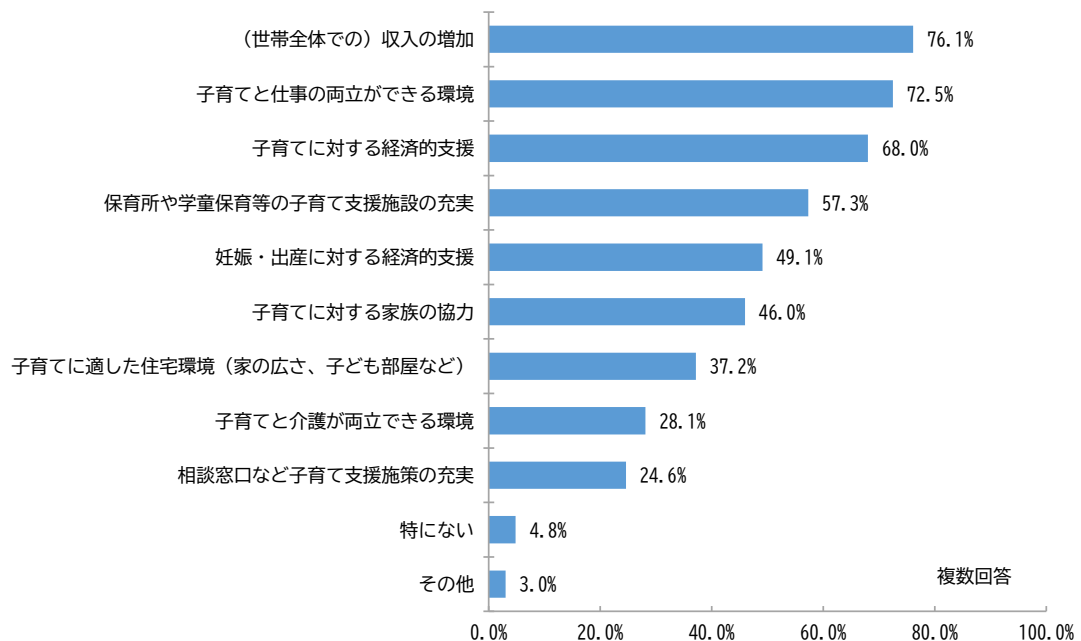
選択肢	合計	割合
0人	60	7.2%
1人	67	8.1%
2人	459	55.4%
3人	186	22.4%
4人以上	32	3.9%
無回答・無効	25	3.0%
回答者数	829	100.0%



【問 12】理想とする子どもの数をかなえるために、必要なことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「（世帯全体での）収入の増加」が 76.1%と最も多く、ついで「子育てと仕事の両立ができる環境」が 72.5%、「子育てに対する経済的支援」が 68.0%となっている。

選択肢	合計	割合
（世帯全体での）収入の増加	631	76.1%
子育てと仕事の両立ができる環境	601	72.5%
子育てと介護が両立できる環境	233	28.1%
妊娠・出産に対する経済的支援	407	49.1%
子育てに対する経済的支援	564	68.0%
子育てに対する家族の協力	381	46.0%
子育てに適した住宅環境（家の広さ、子ども部屋など）	308	37.2%
保育所や学童保育等の子育て支援施設の充実	475	57.3%
相談窓口など子育て支援施策の充実	204	24.6%
特にない	40	4.8%
その他	25	3.0%
無回答・無効	20	2.4%
回答者数	829	100.0%



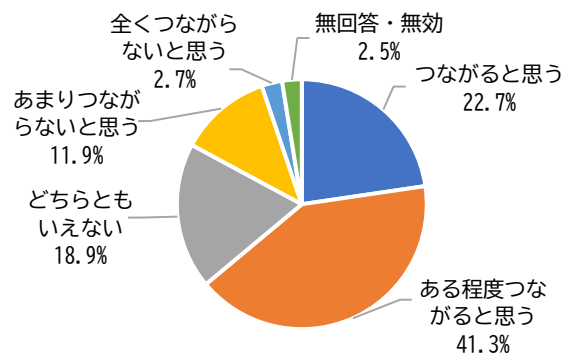
●その他の内容

「学費・医療費等の支援」「相談体制の整備」「病児保育施設等、施設の充実」「多子世帯への支援」「バリアフリー等、子育てしやすいまちづくり」など

【問 13】宇治市では子育てにやさしいまちの実現に向けた取組の一環として、下記のような取組を行っています。これらの取組は、子育てしやすい環境づくりにつながるといいますか。(あてはまるもの1つに○)

「ある程度つながると思う」が41.3%と最も多く、ついで「つながると思う」が22.7%、「どちらともいえない」が18.9%となっている。

選択肢	合計	割合
つながると思う	188	22.7%
ある程度つながると思う	342	41.3%
どちらともいえない	157	18.9%
あまりつながらないと思う	99	11.9%
全くつながらないと思う	22	2.7%
無回答・無効	21	2.5%
回答者数	829	100.0%

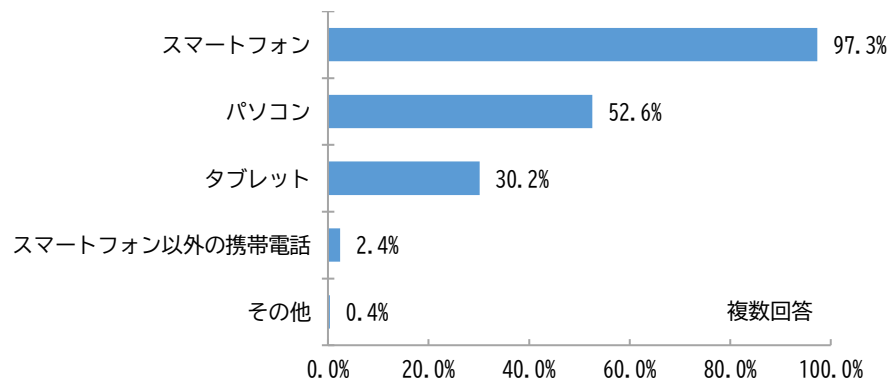


4. デジタルの活用について

【問 14】 あなたはどのような通信機器を利用していますか。（あてはまるものすべてに○）

「スマートフォン」が97.3%と最も多く、ついで「パソコン」が52.6%、「タブレット」が30.2%となっている。

選択肢	合計	割合
スマートフォン	807	97.3%
スマートフォン以外の携帯電話	20	2.4%
タブレット	250	30.2%
パソコン	436	52.6%
その他	3	0.4%
無回答・無効	9	1.1%
回答者数	829	100.0%



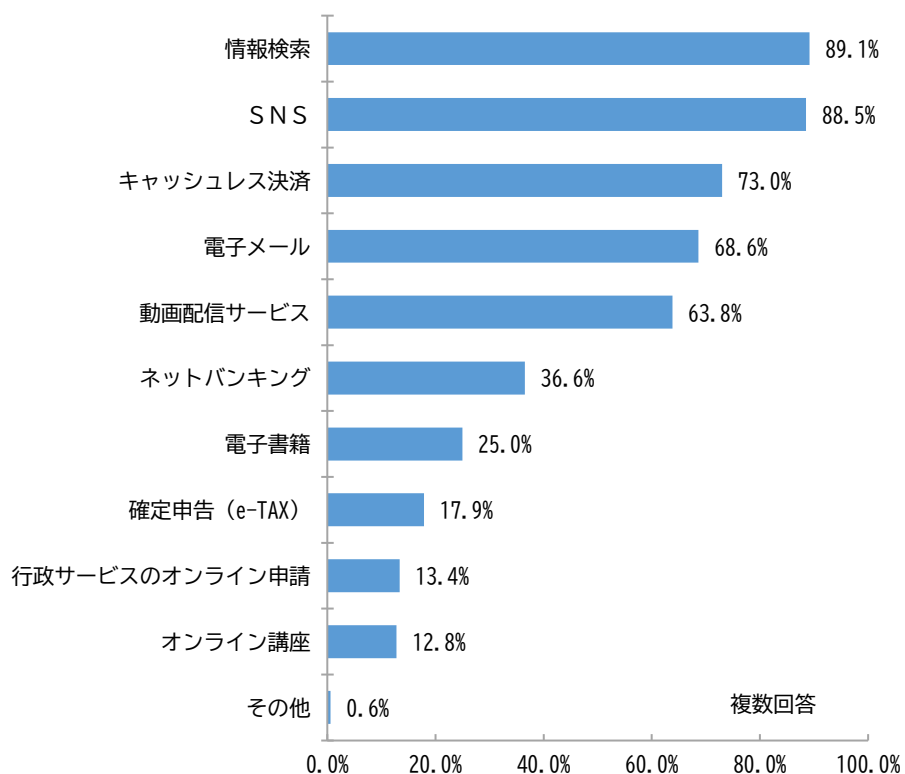
●その他の内容

「なし」「スマートウォッチ」「アップルウォッチ」など

【問 15】あなたが利用しているサービスはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「情報検索」が 89.1%と最も多く、ついで「SNS」が 88.5%、「キャッシュレス決済」が 73.0%となっている。

選択肢	合計	割合
情報検索	739	89.1%
電子メール	569	68.6%
SNS	734	88.5%
動画配信サービス	529	63.8%
電子書籍	207	25.0%
オンライン講座	106	12.8%
キャッシュレス決済	605	73.0%
ネットバンキング	303	36.6%
確定申告（e-TAX）	148	17.9%
行政サービスのオンライン申請	111	13.4%
その他	5	0.6%
無回答・無効	9	1.1%
回答者数	829	100.0%


●その他の内容

「なし」「ネットショッピング」「ポイント活動」など

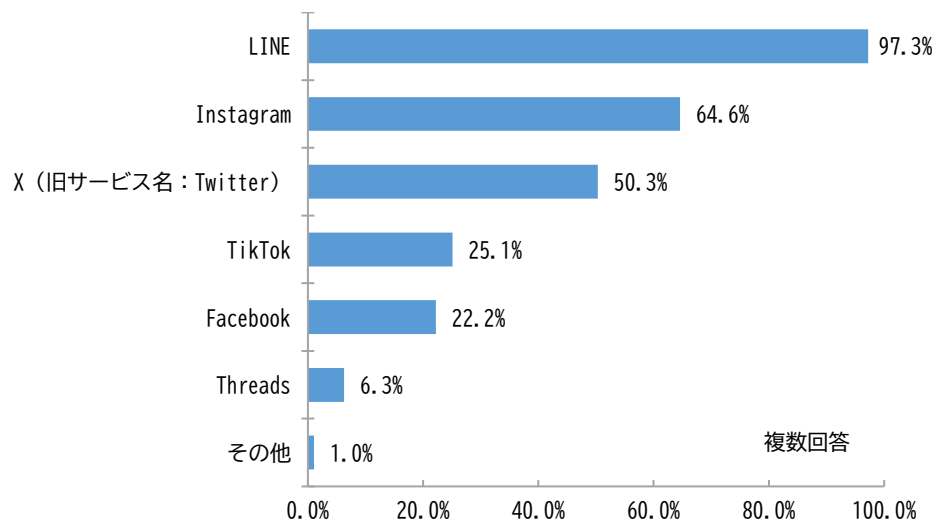
2.2 単純集計結果

【問 16】 問 15 で「SNS」と回答した方にお伺いします。あなたが利用しているSNSはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「LINE」が 97.3%と最も多く、ついで「Instagram」が 64.6%、「X（旧サービス名：Twitter）」が 50.3%となっている。

選択肢	合計	割合
LINE	744	97.3%
X（旧サービス名：Twitter）	385	50.3%
Instagram	494	64.6%
Threads	48	6.3%
Facebook	170	22.2%
TikTok	192	25.1%
その他	8	1.0%
無回答・無効	2	0.3%
回答者数	765	100.0%

※問 16 の集計結果は、問 15 で「SNS」と回答していない場合の回答も含む。



●その他の内容

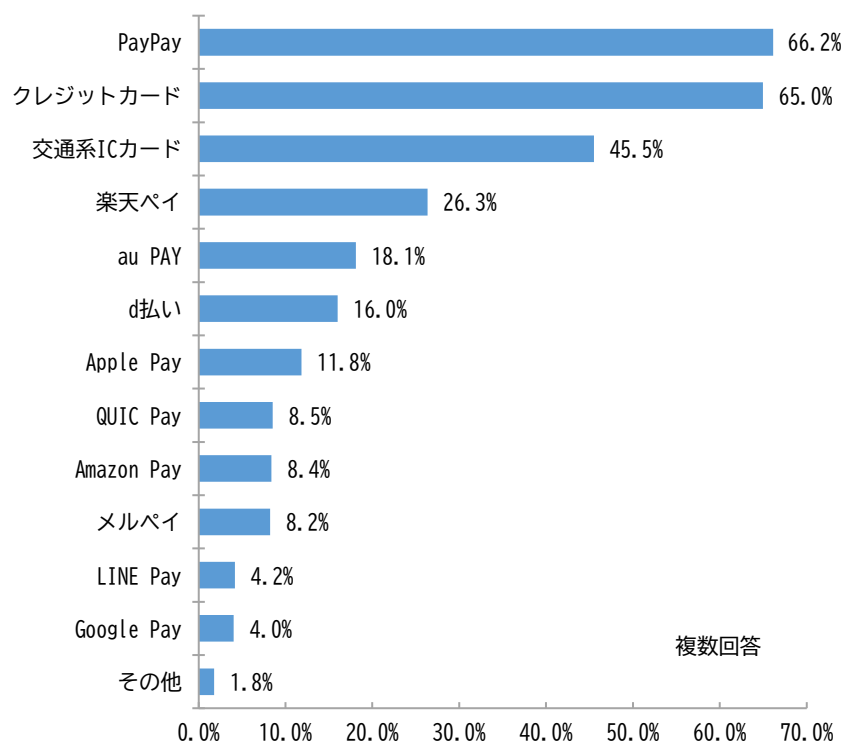
「Bluesky」「Discord」など

【問 17】 問 15 で「キャッシュレス決済」と回答した方にお伺いします。あなたが利用しているキャッシュレス決済はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「PayPay」が 66.2%と最も多く、ついで「クレジットカード」が 65.0%、「交通系 IC カード」が 45.5%となっている。

選択肢	合計	割合
PayPay	442	66.2%
LINE Pay	28	4.2%
d 払い	107	16.0%
au PAY	121	18.1%
楽天ペイ	176	26.3%
メルペイ	55	8.2%
Apple Pay	79	11.8%
Google Pay	27	4.0%
Amazon Pay	56	8.4%
QUIC Pay	57	8.5%
交通系 IC カード	304	45.5%
クレジットカード	434	65.0%
その他	12	1.8%
無回答・無効	5	0.7%
回答者数	668	100.0%

※問 17 の集計結果は、問 15 で「キャッシュレス決済」と回答していない場合の回答も含む。



●その他の内容

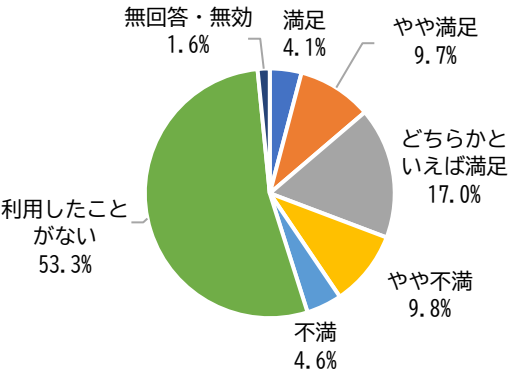
「QUO カード Pay」「ID」「WAON」など

2.2 単純集計結果

【問 18】宇治市のデジタル行政サービスの満足度を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

「利用したことがない」が53.3%と最も多く、ついで「どちらかといえば満足」が17.0%、「やや不満」が9.8%となっている。

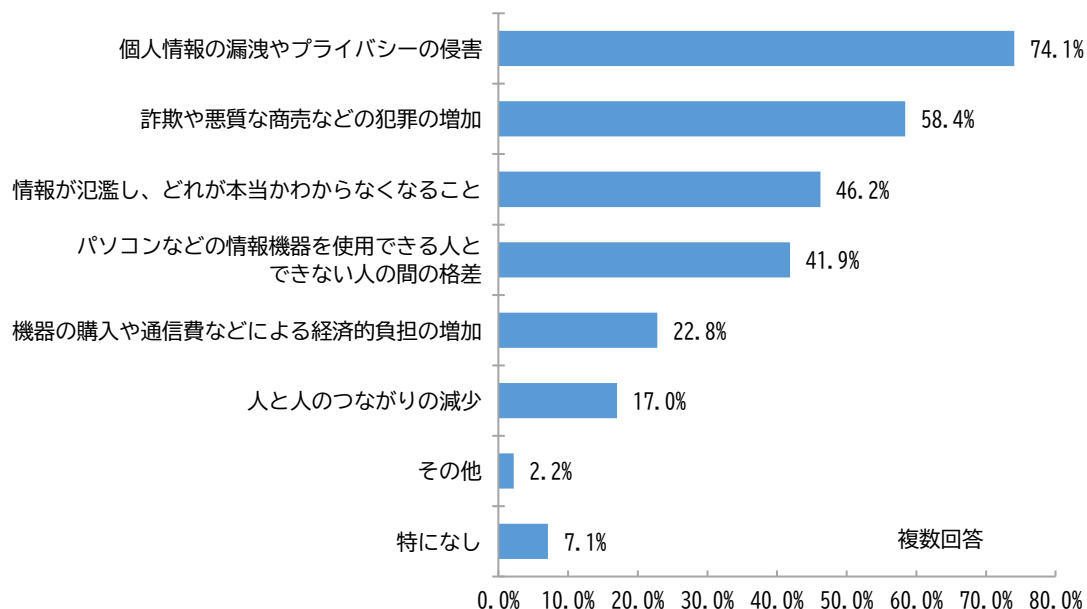
選択肢	合計	割合
満足	34	4.1%
やや満足	80	9.7%
どちらかといえば満足	141	17.0%
やや不満	81	9.8%
不満	38	4.6%
利用したことがない	442	53.3%
無回答・無効	13	1.6%
回答者数	829	100.0%



【問 19】 今後デジタル化が進むことについて不安に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「個人情報の漏洩やプライバシーの侵害」が74.1%と最も多く、ついで「詐欺や悪質な商売などの犯罪の増加」が58.4%、「情報が氾濫し、どれが本当かわからなくなること」が46.2%となっている。

選択肢	合計	割合
個人情報の漏洩やプライバシーの侵害	614	74.1%
情報が氾濫し、どれが本当かわからなくなること	383	46.2%
詐欺や悪質な商売などの犯罪の増加	484	58.4%
パソコンなどの情報機器を使用できる人とできない人の間の格差	347	41.9%
機器の購入や通信費などによる経済的負担の増加	189	22.8%
人と人のつながりの減少	141	17.0%
特になし	59	7.1%
その他	18	2.2%
無回答・無効	11	1.3%
回答者数	829	100.0%



●その他の内容

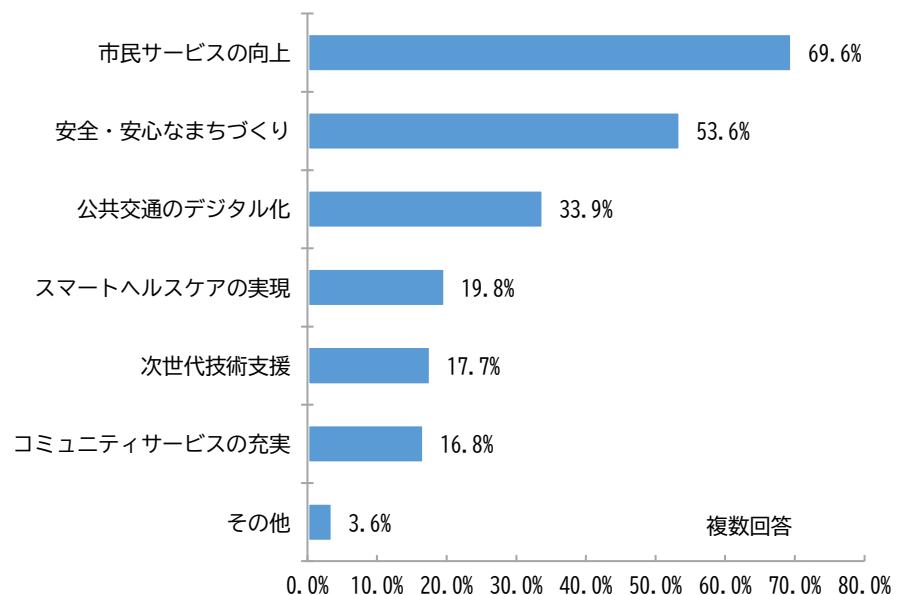
「デジタル機器への依存」「高齢者への配慮」「子供の教育に関する問題」「行政が運用することへの不安」「犯罪の原因になること」など

2.2 単純集計結果

【問 20】あなたが推進してほしいと思うデジタル化の取組は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「市民サービスの向上」が 69.6%と最も多く、ついで「安全・安心なまちづくり」が 53.6%、「公共交通のデジタル化」が 33.9%となっている。

選択肢	合計	割合
公共交通のデジタル化	281	33.9%
スマートヘルスケアの実現	164	19.8%
コミュニティサービスの充実	139	16.8%
市民サービスの向上	577	69.6%
次世代技術支援	147	17.7%
安全・安心なまちづくり	444	53.6%
その他	30	3.6%
無回答・無効	33	4.0%
回答者数	829	100.0%



●その他の内容

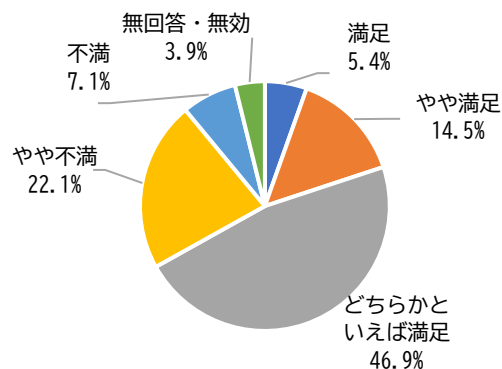
「行政の広報等」「選挙」「公共交通」「学校・図書館等」「防犯対策」「マイナンバーカード」「必要ない・わからない」など

5. 宇治市行政・市民参加について

【問 21】宇治市の行政サービスの評価（満足度）について教えてください。（あてはまるもの1つに○）

「どちらかといえば満足」が46.9%と最も多く、ついで「やや不満」が22.1%、「やや満足」が14.5%となっている。

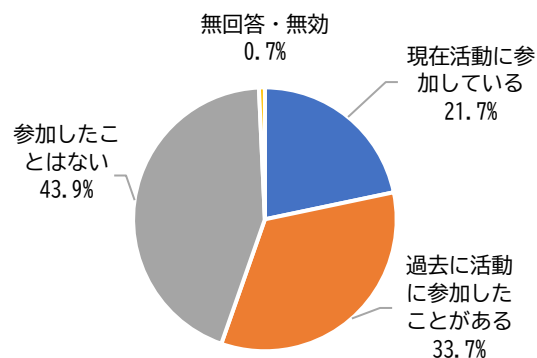
選択肢	合計	割合
満足	45	5.4%
やや満足	120	14.5%
どちらかといえば満足	389	46.9%
やや不満	183	22.1%
不満	59	7.1%
無回答・無効	32	3.9%
回答者数	828	99.9%



【問 22】身近な地域での活動経験について教えてください。（あてはまるもの1つに○）

「参加したことはない」が43.9%と最も多く、ついで「過去に活動に参加したことがある」が33.7%、「現在活動に参加している」が21.7%となっている。

選択肢	合計	割合
現在活動に参加している	180	21.7%
過去に活動に参加したことがある	279	33.7%
参加したことはない	364	43.9%
無回答・無効	6	0.7%
回答者数	829	100.0%

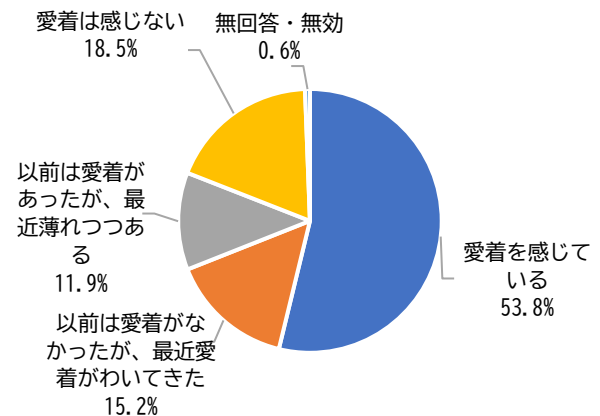


2.2 単純集計結果

【問 23】あなたは、宇治市に愛着を感じていますか。（あてはまるもの1つに○）

「愛着を感じている」が53.8%と最も多く、ついで「愛着は感じない」が18.5%、「以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた」が15.2%となっている。

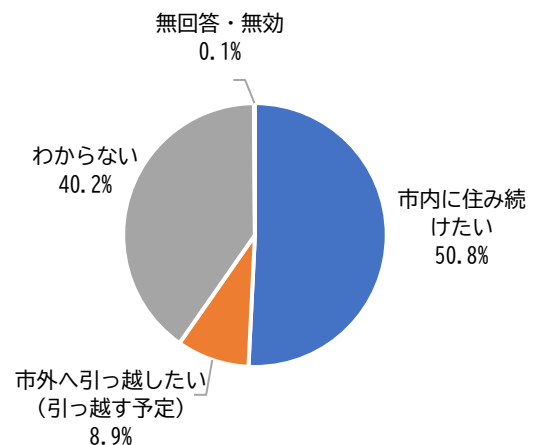
選択肢	合計	割合
愛着を感じている	446	53.8%
以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた	126	15.2%
以前は愛着があったが、最近薄れつつある	99	11.9%
愛着は感じない	153	18.5%
無回答・無効	5	0.6%
回答者数	829	100.0%



【問 24】あなたは、今後宇治市に住み続けたいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

「市内に住み続けたい」が50.8%と最も多く、ついで「わからない」が40.2%、「市外へ引っ越したい（引っ越す予定）」が8.9%となっている。

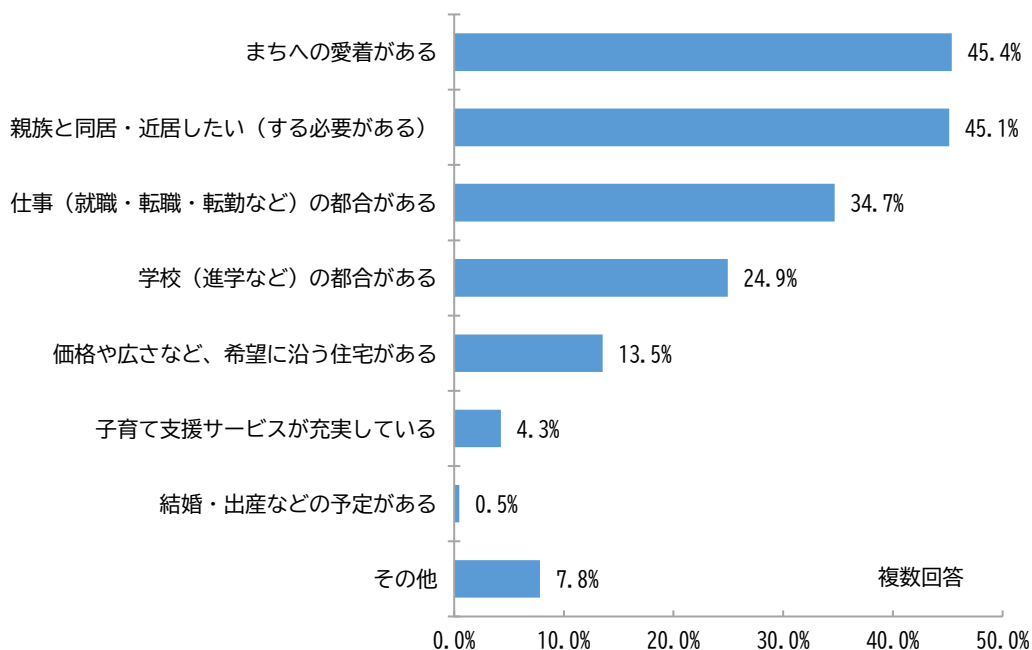
選択肢	合計	割合
市内に住み続けたい	421	50.8%
市外へ引っ越したい（引っ越す予定）	74	8.9%
わからない	333	40.2%
無回答・無効	1	0.1%
回答者数	829	100.0%



【問 25】 問 24 で「市内に住み続けたい」と回答された方にお伺いします。その理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「まちへの愛着がある」が 45.4%と最も多く、ついで「親族と同居・近居したい（する必要がある）」が 45.1%、「仕事（就職・転職・転勤など）の都合がある」が 34.7%となっている。

選択肢	合計	割合
親族と同居・近居したい（する必要がある）	190	45.1%
学校（進学など）の都合がある	105	24.9%
仕事（就職・転職・転勤など）の都合がある	146	34.7%
結婚・出産などの予定がある	2	0.5%
子育て支援サービスが充実している	18	4.3%
価格や広さなど、希望に沿う住宅がある	57	13.5%
まちへの愛着がある	191	45.4%
その他	33	7.8%
無回答・無効	7	1.7%
回答者数	421	100.0%



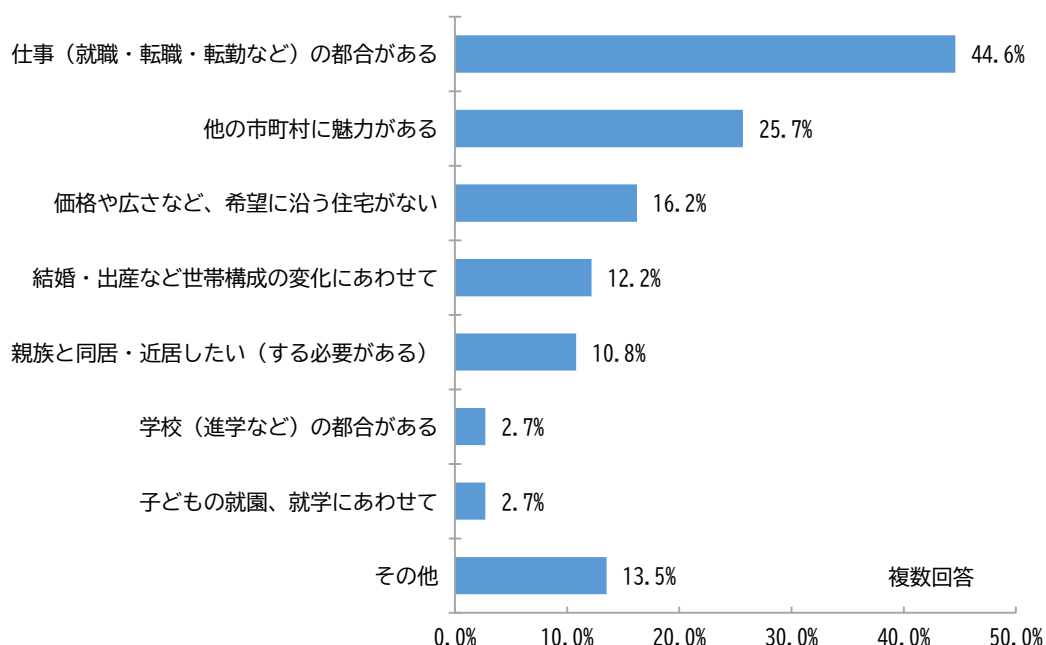
●その他の内容

「生まれ育った町だから」「景観が良い」「アクセスが良い」「家を購入したため」など

【問 26】 問 24 で「市外へ引っ越したい（引っ越す予定）」と回答された方にお伺いします。その理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「仕事（就職・転職・転勤など）の都合がある」が 44.6%と最も多く、ついで「他の市町村に魅力がある」が 25.7%、「価格や広さなど、希望に沿う住宅がない」が 16.2%となっている。

選択肢	合計	割合
親族と同居・近居したい（する必要がある）	8	10.8%
学校（進学など）の都合がある	2	2.7%
仕事（就職・転職・転勤など）の都合がある	33	44.6%
結婚・出産など世帯構成の変化にあわせて	9	12.2%
子どもの就園、就学にあわせて	2	2.7%
価格や広さなど、希望に沿う住宅がない	12	16.2%
他の市町村に魅力がある	19	25.7%
その他	10	13.5%
無回答・無効	1	1.4%
回答者数	74	100.0%



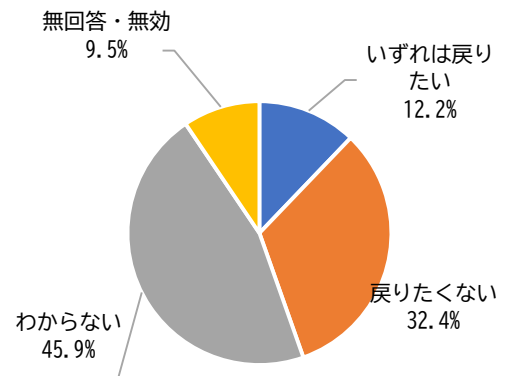
●その他の内容

「他市に住みたいから」「税金や住宅購入のサポートが充実していないから」「給与水準がよくないから」「自然があまりないから」など

【問 27】 問 24 で「市外へ引っ越したい（引っ越す予定）」と回答された方にお伺いします。いずれは宇治市に戻りたいと思いますか。（あてはまるもの 1 つに○）

「わからない」が 45.9%と最も多く、ついで「戻りたくない」が 32.4%、「いずれは戻りたい」が 12.2%となっている。

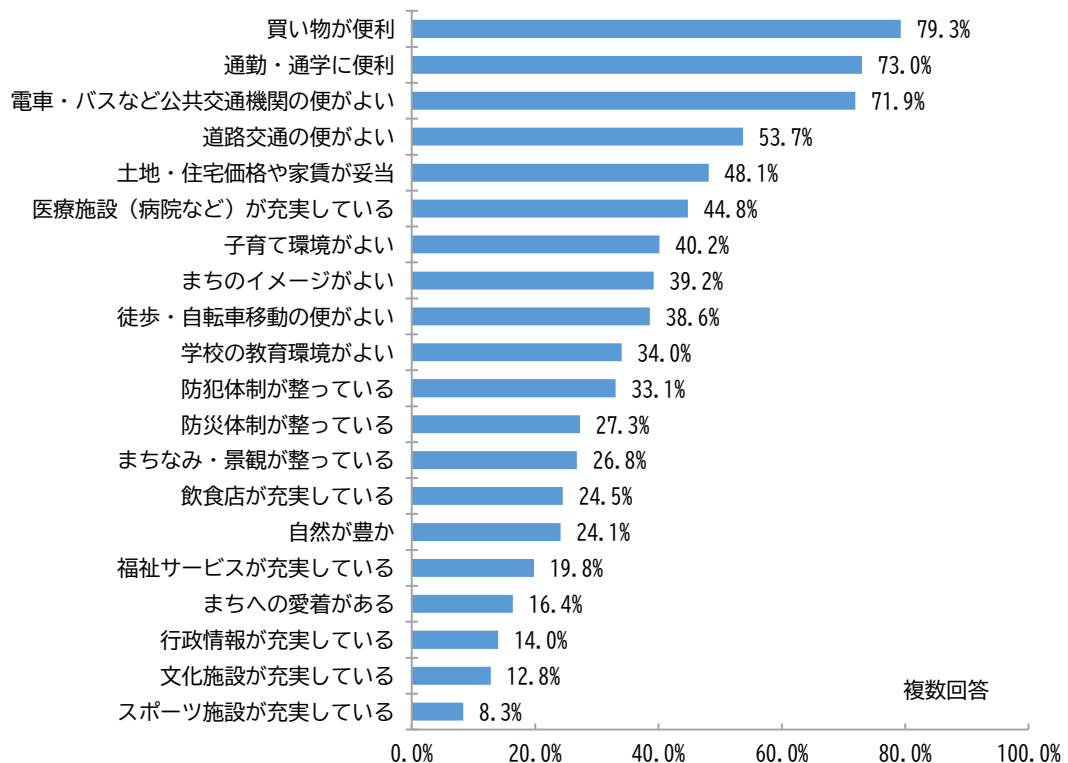
選択肢	合計	割合
いずれは戻りたい	9	12.2%
戻りたくない	24	32.4%
わからない	34	45.9%
無回答・無効	7	9.5%
回答者数	74	100.0%



【問 28】あなたは住む場所を選ぶ際、どのようなことを重視しますか。（あてはまるものすべてに○）

「買い物が便利」が 79.3%と最も多く、ついで「通勤・通学に便利」が 73.0%、「電車・バスなど公共交通機関の便がよい」が 71.9%となっている。

選択肢	合計	割合	選択肢	合計	割合
買い物が便利	657	79.3%	自然が豊か	200	24.1%
飲食店が充実している	203	24.5%	まちなみ・景観が整っている	222	26.8%
通勤・通学に便利	605	73.0%	スポーツ施設が充実している	69	8.3%
電車・バスなど公共交通機関の便がよい	596	71.9%	文化施設が充実している	106	12.8%
道路交通の便がよい	445	53.7%	行政情報が充実している	116	14.0%
徒歩・自転車移動の便がよい	320	38.6%	子育て環境がよい	333	40.2%
土地・住宅価格や家賃が妥当	399	48.1%	学校の教育環境がよい	282	34.0%
防災体制が整っている	226	27.3%	医療施設（病院など）が充実している	371	44.8%
防犯体制が整っている	274	33.1%	福祉サービスが充実している	164	19.8%
まちへの愛着がある	136	16.4%	無回答・無効	18	2.2%
まちのイメージがよい	325	39.2%	回答者数	829	100.0%



【問 29】 問 28 の選択肢以外で宇治市内に住むことを後押しするために必要だと思うものがあれば教えてください。

主な意見は下表のとおり。

分類	件数	回答抜粋
子育て支援・福祉サービスの充実	40	・子育て環境の充実を図って欲しい。近年共働き世帯が増えているので子供の預り先を充実させて欲しい。延長保育時間・学童保育（民間含む）、児童送迎サービスなど。 ・障害者が住みやすくしてほしい。交通機関が難しく、送迎などタクシーなど使いやすく。
交通インフラの改善	35	・自動車、歩行者を含めた道路環境。民間の路面店の駐車スペースの広さも「住みやすい町」かどうかを見るのにとっても重要な部分。 ・京都市や大阪市など周辺主要都市へのアクセスの良さが必要。
商業施設の充実	25	・宇治橋近辺のアーケード化による街の活性化、宇治駅近辺にショッピングモールの誘致。 ・食品以外を取り扱う複合施設の建設。
行政サービスの向上	22	・各種行政手続きがデジタルで出来ること。 ・市役所の行政サービスの充実。
教育費の補助・充実した教育環境	20	・子ども（高校生以上）の医療、教育費の無料化。 ・小中学校の設備環境の充実。
税負担の軽減	19	・地方税、住民税の軽減。
イベントの充実	17	・あがた祭り、京都大作戦だけでなく、宇治川花火大会等の魅力発信 ・夏祭り。
公共スペースの整備	15	・公園が小さくあそべるところが少ないからもっと充実した公園を作るべき。 ・平日は保育園に行っているが休日に外で子供が安全に遊べるところが屋内に必要なだと思います。寒い時や暑い時に行ける場所がない。
地域の美化	15	・4月～6・7月までは特にトビケラが多いため宇治駅や三室戸駅を使用しにくい。 ・ゴミの分別の簡素化。
就労支援・企業誘致	13	・仕事先があること。 ・大企業の誘致をして、行政サービスの向上をして欲しい。
人と人との居心地のよいつながり	6	・個人差はありますが、人と人との居心地の良い関係性が築けるコミュニティが創造できたらいいと思う。
暮らしやすい観光地	6	・観光公害の不安はないと言えるような対策。
魅力の発信	4	・平等院や宇治橋周辺に代表される歴史、文化を住みながら感じられるポイントを観光客以外にも移住者へもっとアピールしていくべき。
防犯・防災	3	・防犯・防災等安全性を強化してもらえれば、家をかまえるなど、長く住むことにつながるのではないかと思います。
その他	27	・土地、不動産的なメリットを感じる。 ・生活環境の豊かさが必要だと思う。

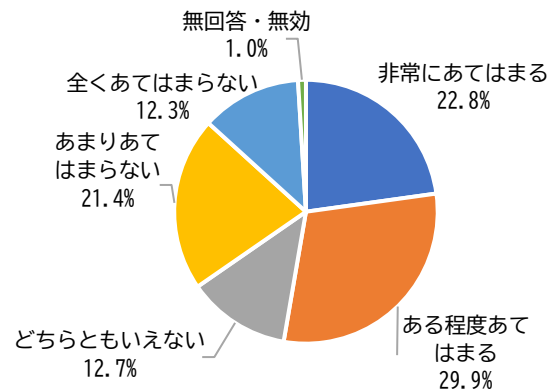
6. 宇治市の暮らしやすさについて

【問 30】宇治市のまちづくりについて、現在の満足度をお答えください。（項目ごとにあてはまるもの1つに○）

1. 日常の買い物に不便がない

「ある程度あてはまる」が29.9%と最も多く、ついで「非常にあてはまる」が22.8%、「あまりあてはまらない」が21.4%となっている。

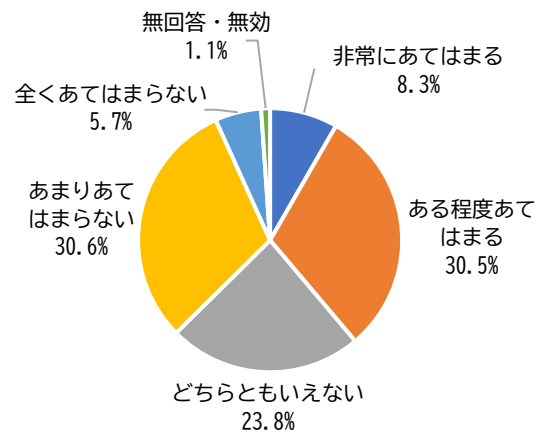
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	189	22.8%
ある程度あてはまる	248	29.9%
どちらともいえない	105	12.7%
あまりあてはまらない	177	21.4%
全くあてはまらない	102	12.3%
無回答・無効	8	1.0%
回答者数	829	100.0%



2. 飲食店が充実している

「あまりあてはまらない」が30.6%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が30.5%、「どちらともいえない」が23.8%となっている。

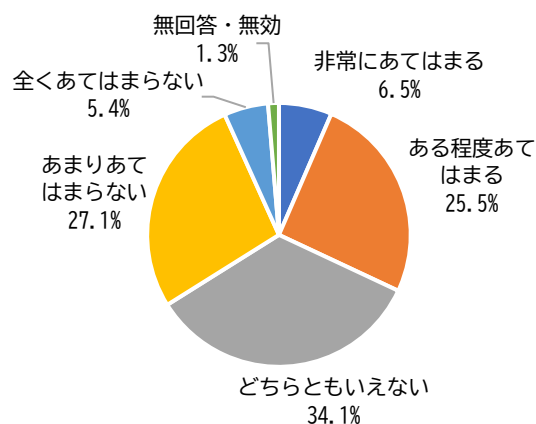
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	69	8.3%
ある程度あてはまる	253	30.5%
どちらともいえない	197	23.8%
あまりあてはまらない	254	30.6%
全くあてはまらない	47	5.7%
無回答・無効	9	1.1%
回答者数	829	100.0%



3. 楽しい時間を過ごせる場所がある

「どちらともいえない」が34.1%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が27.1%、「ある程度あてはまる」が25.5%となっている。

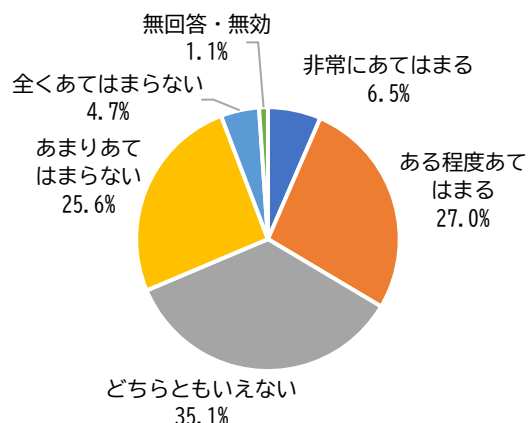
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	54	6.5%
ある程度あてはまる	211	25.5%
どちらともいえない	283	34.1%
あまりあてはまらない	225	27.1%
全くあてはまらない	45	5.4%
無回答・無効	11	1.3%
回答者数	829	100.0%



4. 体育館やジムなどの運動・スポーツ施設が充実している

「どちらともいえない」が35.1%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が27.0%、「あまりあてはまらない」が25.6%となっている。

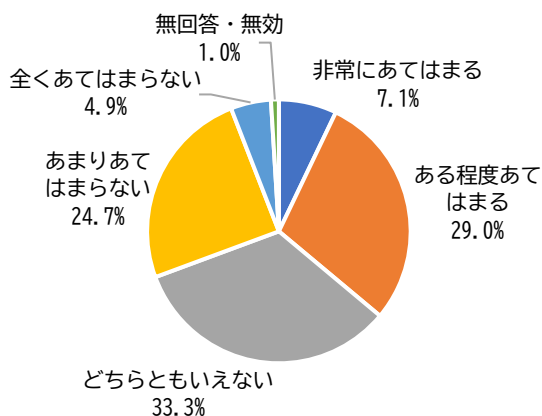
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	54	6.5%
ある程度あてはまる	224	27.0%
どちらともいえない	291	35.1%
あまりあてはまらない	212	25.6%
全くあてはまらない	39	4.7%
無回答・無効	9	1.1%
回答者数	829	100.0%



5. 図書館や文化会館など文化施設が充実している

「どちらともいえない」が33.3%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が29.0%、「あまりあてはまらない」が24.7%となっている。

選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	59	7.1%
ある程度あてはまる	240	29.0%
どちらともいえない	276	33.3%
あまりあてはまらない	205	24.7%
全くあてはまらない	41	4.9%
無回答・無効	8	1.0%
回答者数	829	100.0%

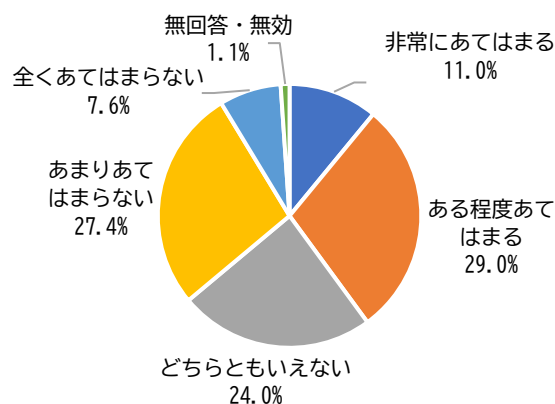


2.2 単純集計結果

6. バスや鉄道などの公共交通機関が充実している

「ある程度あてはまる」が29.0%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が27.4%、「どちらともいえない」が24.0%となっている。

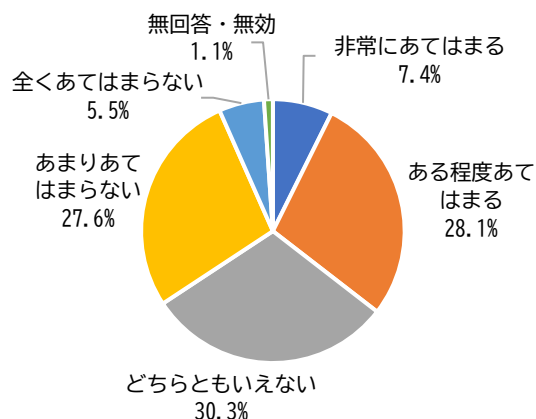
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	91	11.0%
ある程度あてはまる	240	29.0%
どちらともいえない	199	24.0%
あまりあてはまらない	227	27.4%
全くあてはまらない	63	7.6%
無回答・無効	9	1.1%
回答者数	829	100.0%



7. 市内の道路は安全で快適に利用できる

「どちらともいえない」が30.3%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が28.1%、「あまりあてはまらない」が27.6%となっている。

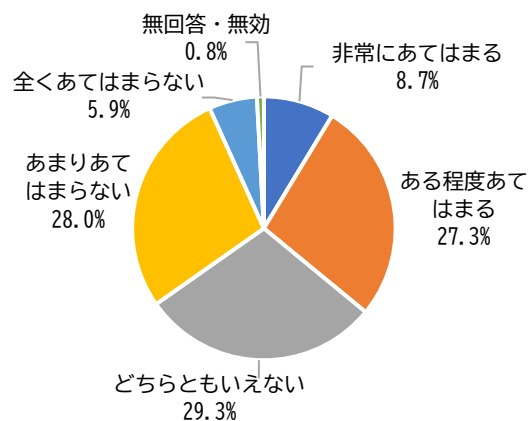
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	61	7.4%
ある程度あてはまる	233	28.1%
どちらともいえない	251	30.3%
あまりあてはまらない	229	27.6%
全くあてはまらない	46	5.5%
無回答・無効	9	1.1%
回答者数	829	100.0%



8. 徒歩や自転車での移動がしやすい

「どちらともいえない」が29.3%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が28.0%、「ある程度あてはまる」が27.3%となっている。

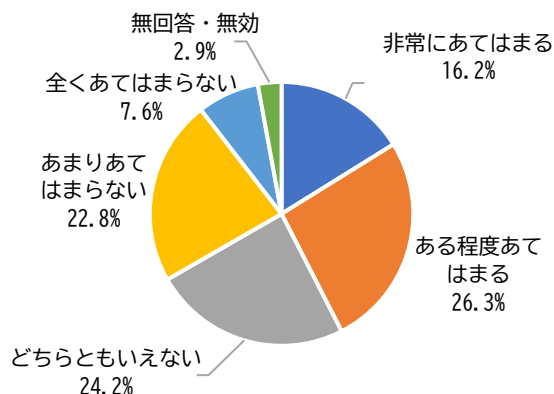
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	72	8.7%
ある程度あてはまる	226	27.3%
どちらともいえない	243	29.3%
あまりあてはまらない	232	28.0%
全くあてはまらない	49	5.9%
無回答・無効	7	0.8%
回答者数	829	100.0%



9. 自宅から職場へ通いやすい

「ある程度あてはまる」が26.3%と最も多く、ついで「どちらともいえない」が24.2%、「あまりあてはまらない」が22.8%となっている。

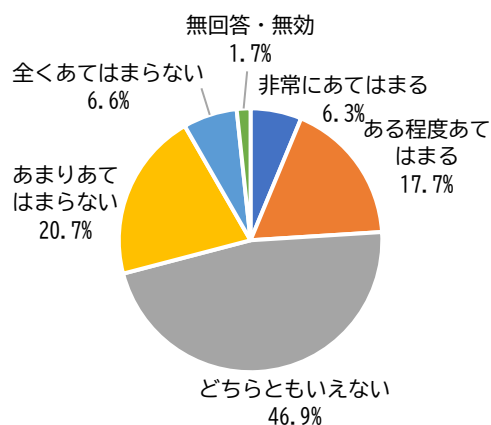
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	134	16.2%
ある程度あてはまる	218	26.3%
どちらともいえない	201	24.2%
あまりあてはまらない	189	22.8%
全くあてはまらない	63	7.6%
無回答・無効	24	2.9%
回答者数	829	100.0%



10. 地元で就労しやすい

「どちらともいえない」が46.9%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が20.7%、「ある程度あてはまる」が17.7%となっている。

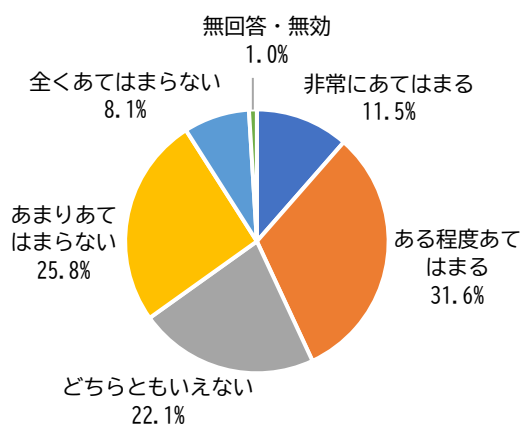
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	52	6.3%
ある程度あてはまる	147	17.7%
どちらともいえない	389	46.9%
あまりあてはまらない	172	20.7%
全くあてはまらない	55	6.6%
無回答・無効	14	1.7%
回答者数	829	100.0%



11. 騒音などが少なく、まちが静かである

「ある程度あてはまる」が31.6%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が25.8%、「どちらともいえない」が22.1%となっている。

選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	95	11.5%
ある程度あてはまる	262	31.6%
どちらともいえない	183	22.1%
あまりあてはまらない	214	25.8%
全くあてはまらない	67	8.1%
無回答・無効	8	1.0%
回答者数	829	100.0%

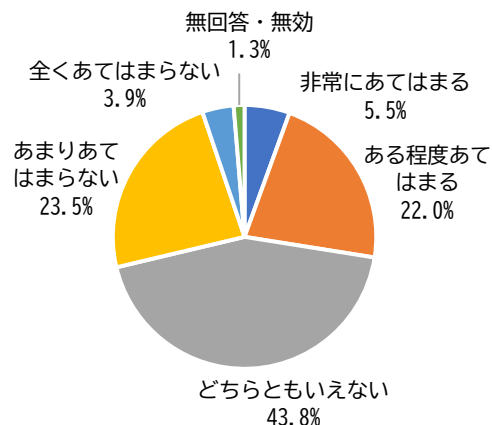


2.2 単純集計結果

12. 土地・住宅価格や家賃が手頃である

「どちらともいえない」が43.8%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が23.5%、「ある程度あてはまる」が22.0%となっている。

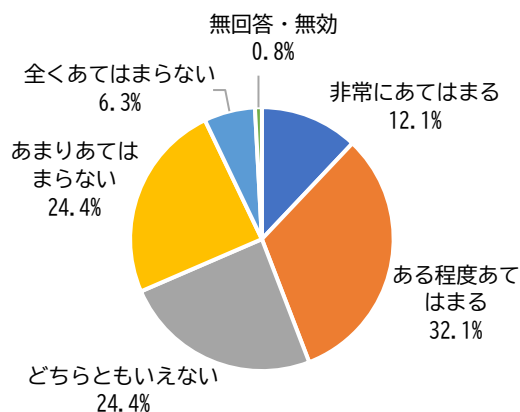
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	46	5.5%
ある程度あてはまる	182	22.0%
どちらともいえない	363	43.8%
あまりあてはまらない	195	23.5%
全くあてはまらない	32	3.9%
無回答・無効	11	1.3%
回答者数	829	100.0%



13. 公園や川沿いなど心地よく歩ける場所がある

「ある程度あてはまる」が32.1%と最も多く、ついで「どちらともいえない」、「あまりあてはまらない」が24.4%、「非常にあてはまる」が12.1%となっている。

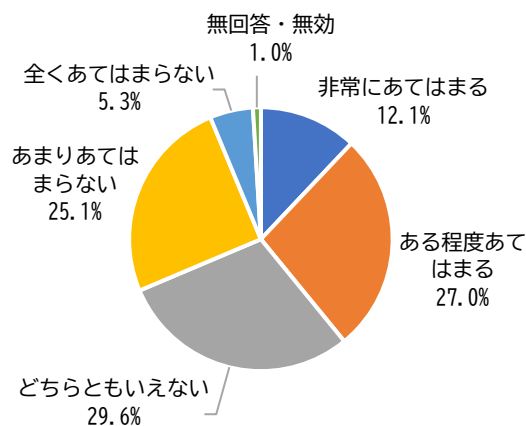
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	100	12.1%
ある程度あてはまる	266	32.1%
どちらともいえない	202	24.4%
あまりあてはまらない	202	24.4%
全くあてはまらない	52	6.3%
無回答・無効	7	0.8%
回答者数	829	100.0%



14. 魅力的な都市景観がある

「どちらともいえない」が29.6%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が27.0%、「あまりあてはまらない」が25.1%となっている。

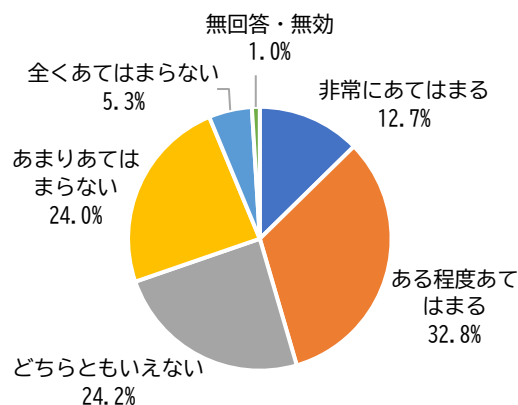
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	100	12.1%
ある程度あてはまる	224	27.0%
どちらともいえない	245	29.6%
あまりあてはまらない	208	25.1%
全くあてはまらない	44	5.3%
無回答・無効	8	1.0%
回答者数	829	100.0%



15. 魅力的な自然景観がある

「ある程度あてはまる」が32.8%と最も多く、ついで「どちらともいえない」が24.2%、「あまりあてはまらない」が24.0%となっている。

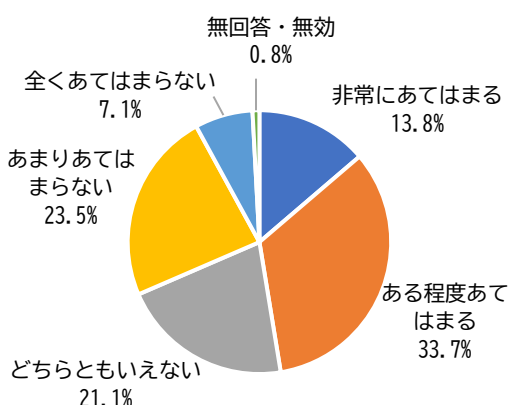
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	105	12.7%
ある程度あてはまる	272	32.8%
どちらともいえない	201	24.2%
あまりあてはまらない	199	24.0%
全くあてはまらない	44	5.3%
無回答・無効	8	1.0%
回答者数	829	100.0%



16. 身近に自然を感じることができる

「ある程度あてはまる」が33.7%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が23.5%、「どちらともいえない」が21.1%となっている。

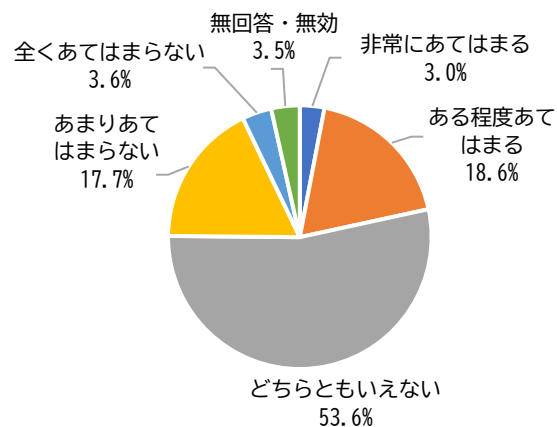
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	114	13.8%
ある程度あてはまる	279	33.7%
どちらともいえない	175	21.1%
あまりあてはまらない	195	23.5%
全くあてはまらない	59	7.1%
無回答・無効	7	0.8%
回答者数	829	100.0%



17. 自治体による出産・子育て支援の施策が充実している

「どちらともいえない」が53.6%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が18.6%、「あまりあてはまらない」が17.7%となっている。

選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	25	3.0%
ある程度あてはまる	154	18.6%
どちらともいえない	444	53.6%
あまりあてはまらない	147	17.7%
全くあてはまらない	30	3.6%
無回答・無効	29	3.5%
回答者数	829	100.0%

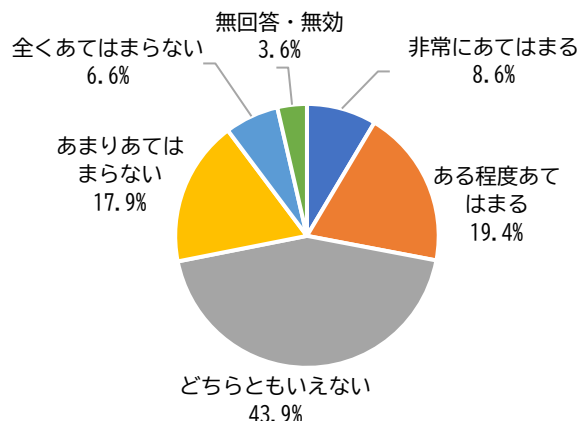


2.2 単純集計結果

18. 子育てについて相談できる相手が近くにいる

「どちらともいえない」が43.9%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が19.4%、「あまりあてはまらない」が17.9%となっている。

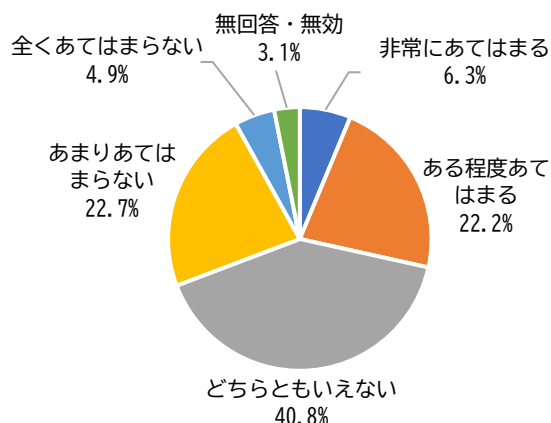
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	71	8.6%
ある程度あてはまる	161	19.4%
どちらともいえない	364	43.9%
あまりあてはまらない	148	17.9%
全くあてはまらない	55	6.6%
無回答・無効	30	3.6%
回答者数	829	100.0%



19. 子どもが安心して遊べる場所がある

「どちらともいえない」が40.8%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が22.7%、「ある程度あてはまる」が22.2%となっている。

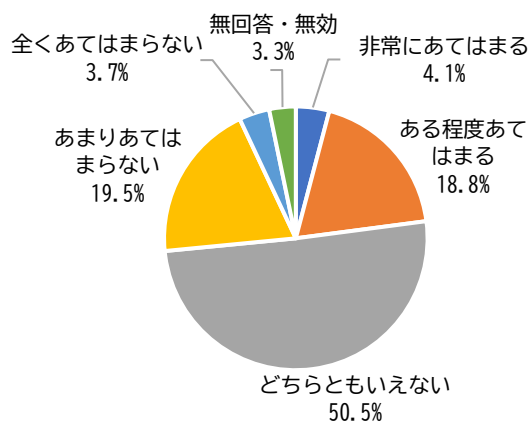
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	52	6.3%
ある程度あてはまる	184	22.2%
どちらともいえない	338	40.8%
あまりあてはまらない	188	22.7%
全くあてはまらない	41	4.9%
無回答・無効	26	3.1%
回答者数	829	100.0%



20. 教育環境が整っている

「どちらともいえない」が50.5%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が19.5%、「ある程度あてはまる」が18.8%となっている。

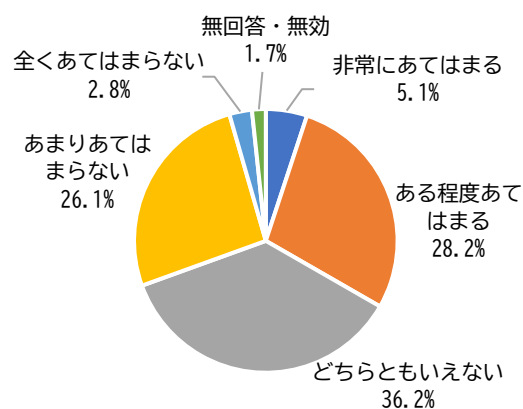
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	34	4.1%
ある程度あてはまる	156	18.8%
どちらともいえない	419	50.5%
あまりあてはまらない	162	19.5%
全くあてはまらない	31	3.7%
無回答・無効	27	3.3%
回答者数	829	100.0%



21. 自宅の近くに避難場所があるなど防災対策が整っている

「どちらともいえない」が36.2%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が28.2%、「あまりあてはまらない」が26.1%となっている。

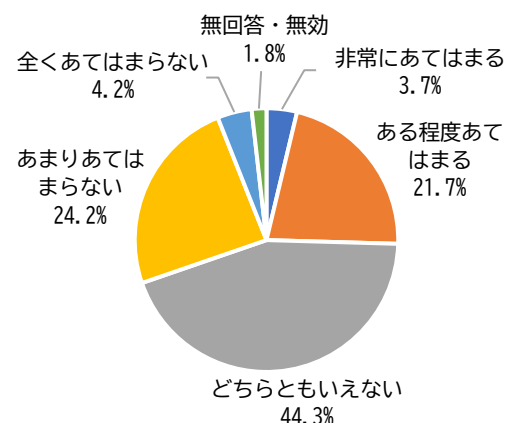
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	42	5.1%
ある程度あてはまる	234	28.2%
どちらともいえない	300	36.2%
あまりあてはまらない	216	26.1%
全くあてはまらない	23	2.8%
無回答・無効	14	1.7%
回答者数	829	100.0%



22. 交番・街灯・防犯カメラや住民による見守りなど防犯対策が整っている

「どちらともいえない」が44.3%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が24.2%、「ある程度あてはまる」が21.7%となっている。

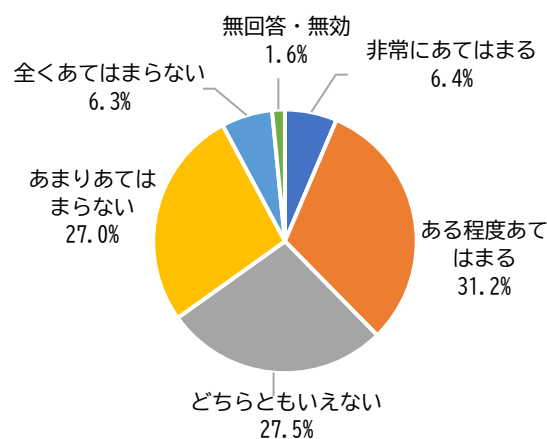
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	31	3.7%
ある程度あてはまる	180	21.7%
どちらともいえない	367	44.3%
あまりあてはまらない	201	24.2%
全くあてはまらない	35	4.2%
無回答・無効	15	1.8%
回答者数	829	100.0%



23. 歩道や信号が整備されている

「ある程度あてはまる」が31.2%と最も多く、ついで「どちらともいえない」が27.5%、「あまりあてはまらない」が27.0%となっている。

選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	53	6.4%
ある程度あてはまる	259	31.2%
どちらともいえない	228	27.5%
あまりあてはまらない	224	27.0%
全くあてはまらない	52	6.3%
無回答・無効	13	1.6%
回答者数	829	100.0%

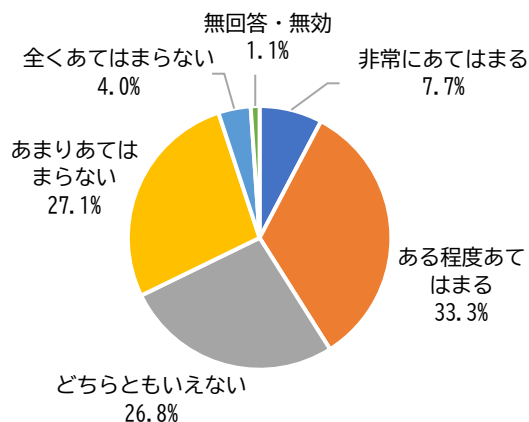


2.2 単純集計結果

24. 医療機関が充実している

「ある程度あてはまる」が33.3%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が27.1%、「どちらともいえない」が26.8%となっている。

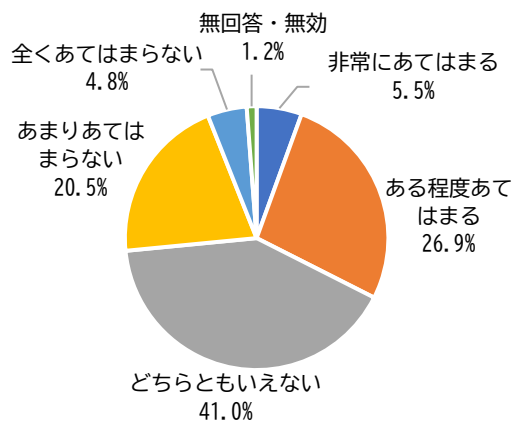
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	64	7.7%
ある程度あてはまる	276	33.3%
どちらともいえない	222	26.8%
あまりあてはまらない	225	27.1%
全くあてはまらない	33	4.0%
無回答・無効	9	1.1%
回答者数	829	100.0%



25. 夜間や緊急時の医療体制が整っている

「どちらともいえない」が41.0%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が26.9%、「あまりあてはまらない」が20.5%となっている。

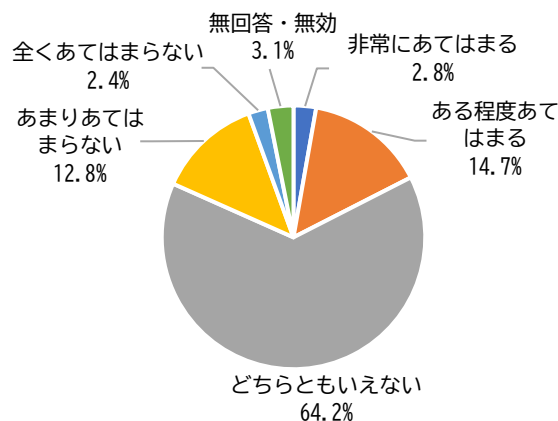
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	46	5.5%
ある程度あてはまる	223	26.9%
どちらともいえない	340	41.0%
あまりあてはまらない	170	20.5%
全くあてはまらない	40	4.8%
無回答・無効	10	1.2%
回答者数	829	100.0%



26. 介護・福祉施設のサービスが受けやすい

「どちらともいえない」が64.2%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が14.7%、「あまりあてはまらない」が12.8%となっている。

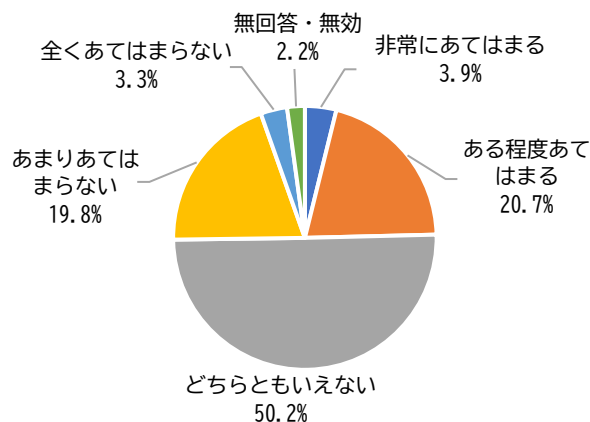
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	23	2.8%
ある程度あてはまる	122	14.7%
どちらともいえない	532	64.2%
あまりあてはまらない	106	12.8%
全くあてはまらない	20	2.4%
無回答・無効	26	3.1%
回答者数	829	100.0%



27. 行政サービスを利用しやすい

「どちらともいえない」が50.2%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が20.7%、「あまりあてはまらない」が19.8%となっている。

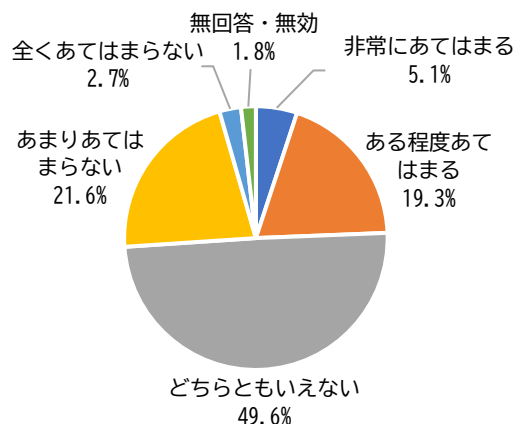
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	32	3.9%
ある程度あてはまる	172	20.7%
どちらともいえない	416	50.2%
あまりあてはまらない	164	19.8%
全くあてはまらない	27	3.3%
無回答・無効	18	2.2%
回答者数	829	100.0%



28. 公共施設は使い勝手がよく便利である

「どちらともいえない」が49.6%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が21.6%、「ある程度あてはまる」が19.3%となっている。

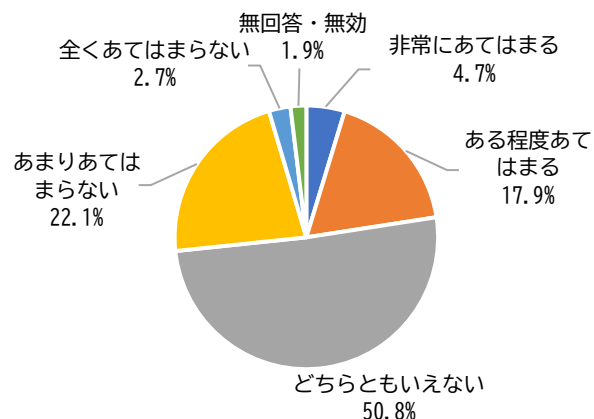
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	42	5.1%
ある程度あてはまる	160	19.3%
どちらともいえない	411	49.6%
あまりあてはまらない	179	21.6%
全くあてはまらない	22	2.7%
無回答・無効	15	1.8%
回答者数	829	100.0%



29. 行政の情報発信が充実している

「どちらともいえない」が50.8%と最も多く、ついで「あまりあてはまらない」が22.1%、「ある程度あてはまる」が17.9%となっている。

選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	39	4.7%
ある程度あてはまる	148	17.9%
どちらともいえない	421	50.8%
あまりあてはまらない	183	22.1%
全くあてはまらない	22	2.7%
無回答・無効	16	1.9%
回答者数	829	100.0%

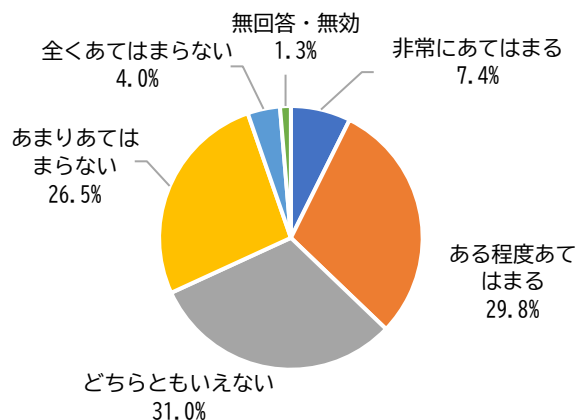


2.2 単純集計結果

30. まちのイメージがよい

「どちらともいえない」が31.0%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が29.8%、「あまりあてはまらない」が26.5%となっている。

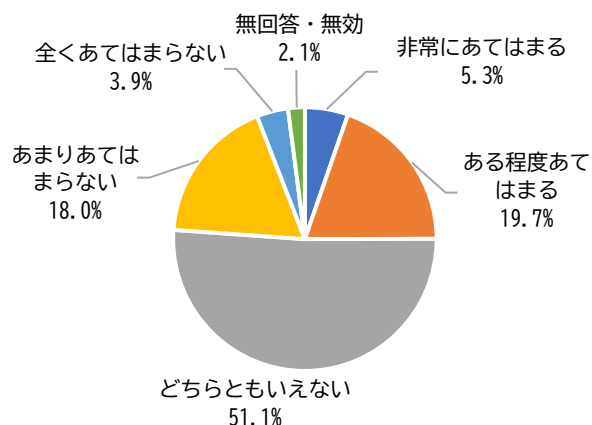
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	61	7.4%
ある程度あてはまる	247	29.8%
どちらともいえない	257	31.0%
あまりあてはまらない	220	26.5%
全くあてはまらない	33	4.0%
無回答・無効	11	1.3%
回答者数	829	100.0%



31. 様々な地域参加の機会がある

「どちらともいえない」が51.1%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が19.7%、「あまりあてはまらない」が18.0%となっている。

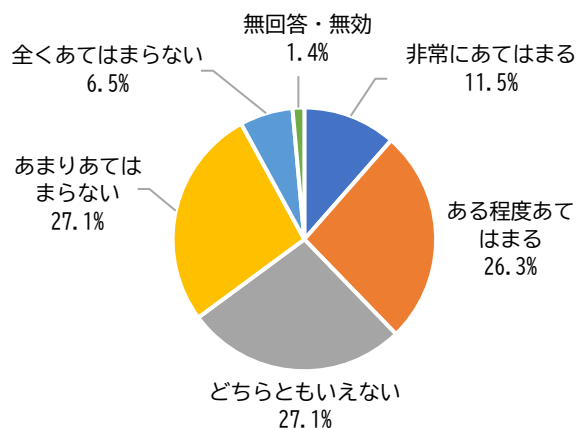
選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	44	5.3%
ある程度あてはまる	163	19.7%
どちらともいえない	424	51.1%
あまりあてはまらない	149	18.0%
全くあてはまらない	32	3.9%
無回答・無効	17	2.1%
回答者数	829	100.0%



32. まちへの愛着を感じる

「どちらともいえない」、「あまりあてはまらない」が27.1%と最も多く、ついで「ある程度あてはまる」が26.3%となっている。

選択肢	合計	割合
非常にあてはまる	95	11.5%
ある程度あてはまる	218	26.3%
どちらともいえない	225	27.1%
あまりあてはまらない	225	27.1%
全くあてはまらない	54	6.5%
無回答・無効	12	1.4%
回答者数	829	100.0%



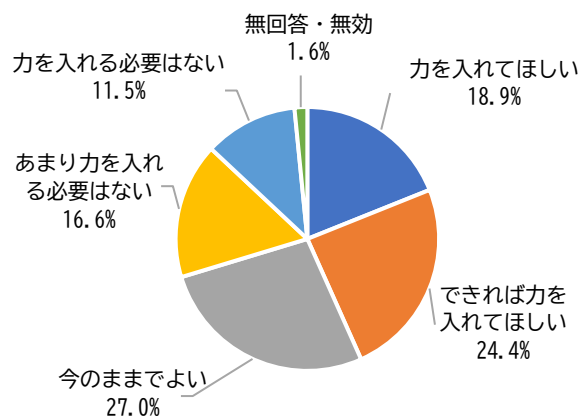
7. これからのまちづくりについて

【問 31】宇治市のまちづくりについて、今後の重要度をお答えください。（項目ごとにあてはまるもの1つに○）

1. 商店街などのにぎわいづくり

「今のままでよい」が27.0%と最も多く、ついで「できれば力を入れてほしい」が24.4%、「力を入れてほしい」が18.9%となっている。

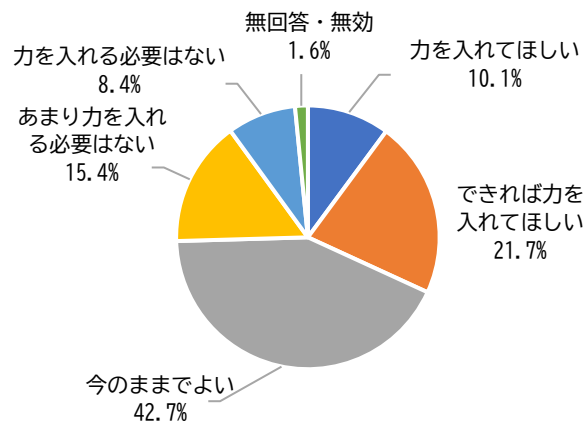
選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	157	18.9%
できれば力を入れてほしい	202	24.4%
今のままでよい	224	27.0%
あまり力を入れる必要はない	138	16.6%
力を入れる必要はない	95	11.5%
無回答・無効	13	1.6%
回答者数	829	100.0%



2. スポーツ・食育などを通じた健康づくり

「今のままでよい」が42.7%と最も多く、ついで「できれば力を入れてほしい」が21.7%、「あまり力を入れる必要はない」が15.4%となっている。

選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	84	10.1%
できれば力を入れてほしい	180	21.7%
今のままでよい	354	42.7%
あまり力を入れる必要はない	128	15.4%
力を入れる必要はない	70	8.4%
無回答・無効	13	1.6%
回答者数	829	100.0%

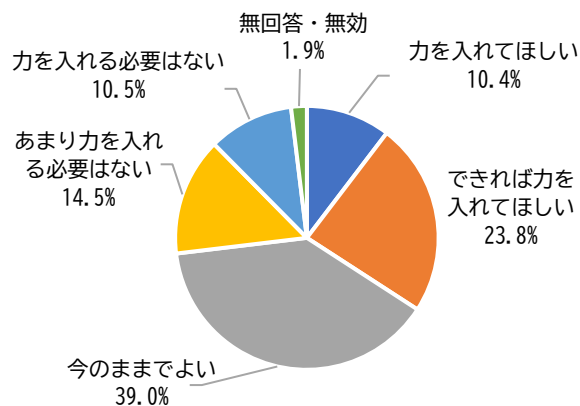


2.2 単純集計結果

3. 学びやスポーツ・文化活動の機会づくり

「今のままでよい」が39.0%と最も多く、ついで「できれば力を入れてほしい」が23.8%、「あまり力を入れる必要はない」が14.5%となっている。

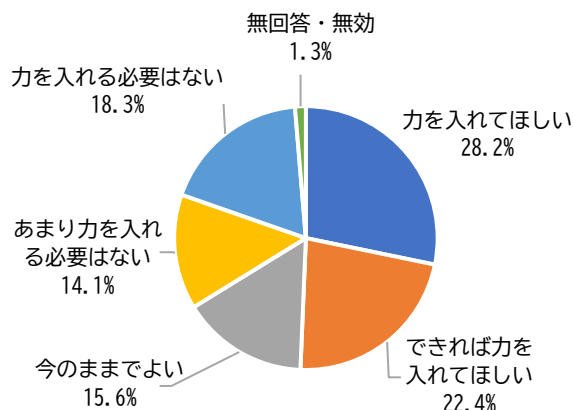
選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	86	10.4%
できれば力を入れてほしい	197	23.8%
今のままでよい	323	39.0%
あまり力を入れる必要はない	120	14.5%
力を入れる必要はない	87	10.5%
無回答・無効	16	1.9%
回答者数	829	100.0%



4. 誰もが移動しやすい交通環境の充実

「力を入れてほしい」が28.2%と最も多く、ついで「できれば力を入れてほしい」が22.4%、「力を入れる必要はない」が18.3%となっている。

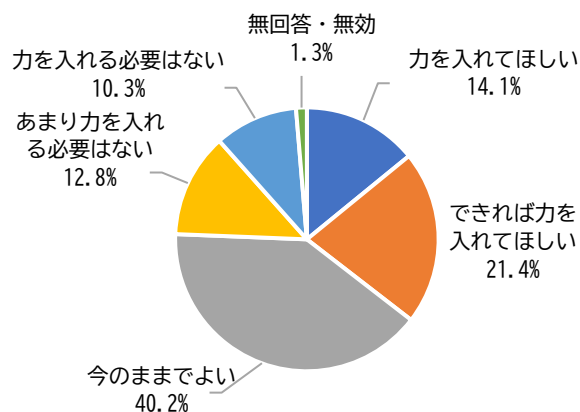
選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	234	28.2%
できれば力を入れてほしい	186	22.4%
今のままでよい	129	15.6%
あまり力を入れる必要はない	117	14.1%
力を入れる必要はない	152	18.3%
無回答・無効	11	1.3%
回答者数	829	100.0%



5. 豊かな自然環境

「今のままでよい」が40.2%と最も多く、ついで「できれば力を入れてほしい」が21.4%、「力を入れてほしい」が14.1%となっている。

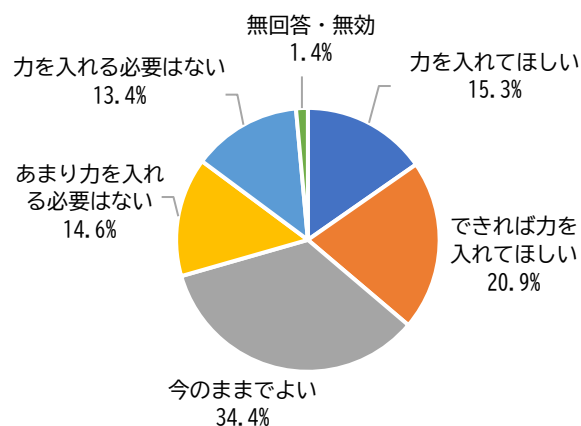
選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	117	14.1%
できれば力を入れてほしい	177	21.4%
今のままでよい	333	40.2%
あまり力を入れる必要はない	106	12.8%
力を入れる必要はない	85	10.3%
無回答・無効	11	1.3%
回答者数	829	100.0%



6. 良好なまちなみ・景観の形成

「今のままでよい」が34.4%と最も多く、ついで「できれば力を入れてほしい」が20.9%、「力を入れてほしい」が15.3%となっている。

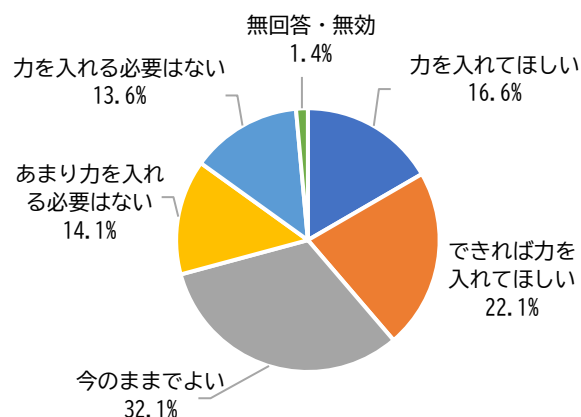
選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	127	15.3%
できれば力を入れてほしい	173	20.9%
今のままでよい	285	34.4%
あまり力を入れる必要はない	121	14.6%
力を入れる必要はない	111	13.4%
無回答・無効	12	1.4%
回答者数	829	100.0%



7. 公園や水辺などのうろおいある環境づくり

「今のままでよい」が32.1%と最も多く、ついで「できれば力を入れてほしい」が22.1%、「力を入れてほしい」が16.6%となっている。

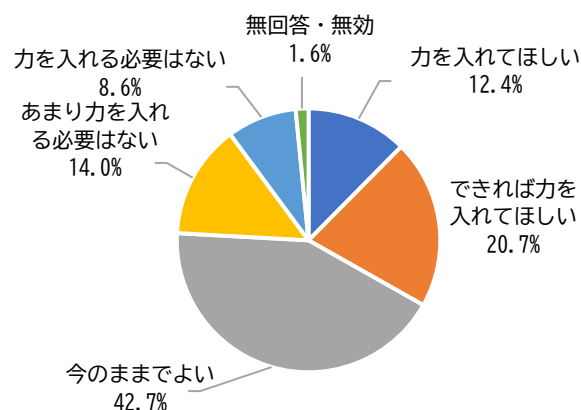
選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	138	16.6%
できれば力を入れてほしい	183	22.1%
今のままでよい	266	32.1%
あまり力を入れる必要はない	117	14.1%
力を入れる必要はない	113	13.6%
無回答・無効	12	1.4%
回答者数	829	100.0%



8. 伝統や文化の継承・発展

「今のままでよい」が42.7%と最も多く、ついで「できれば力を入れてほしい」が20.7%、「あまり力を入れる必要はない」が14.0%となっている。

選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	103	12.4%
できれば力を入れてほしい	172	20.7%
今のままでよい	354	42.7%
あまり力を入れる必要はない	116	14.0%
力を入れる必要はない	71	8.6%
無回答・無効	13	1.6%
回答者数	829	100.0%

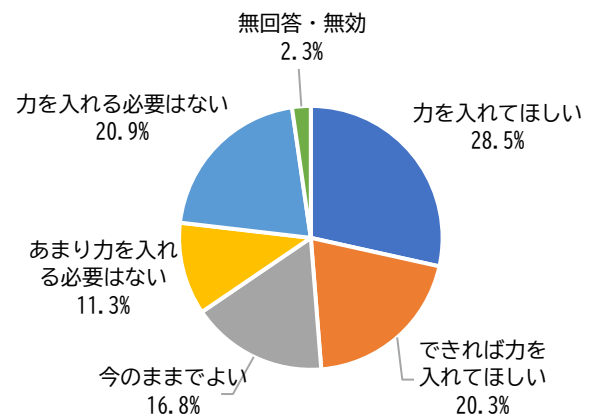


2.2 単純集計結果

9. 子育てしやすいまちづくり

「力を入れてほしい」が28.5%と最も多く、ついで「力を入れる必要はない」が20.9%、「できれば力を入れてほしい」が20.3%となっている。

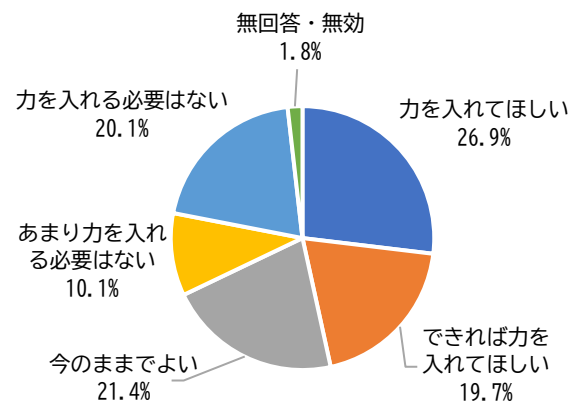
選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	236	28.5%
できれば力を入れてほしい	168	20.3%
今のままでよい	139	16.8%
あまり力を入れる必要はない	94	11.3%
力を入れる必要はない	173	20.9%
無回答・無効	19	2.3%
回答者数	829	100.0%



10. 教育環境の充実

「力を入れてほしい」が26.9%と最も多く、ついで「今のままでよい」が21.4%、「力を入れる必要はない」が20.1%となっている。

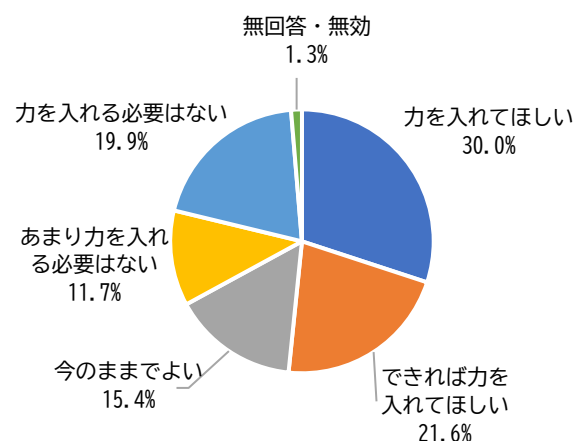
選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	223	26.9%
できれば力を入れてほしい	163	19.7%
今のままでよい	177	21.4%
あまり力を入れる必要はない	84	10.1%
力を入れる必要はない	167	20.1%
無回答・無効	15	1.8%
回答者数	829	100.0%



11. 災害に強いまちづくり

「力を入れてほしい」が30.0%と最も多く、ついで「できれば力を入れてほしい」が21.6%、「力を入れる必要はない」が19.9%となっている。

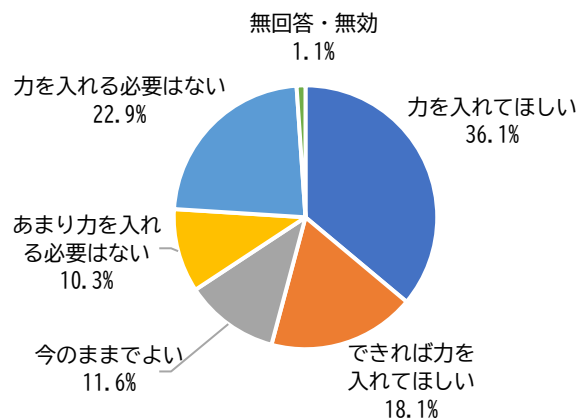
選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	249	30.0%
できれば力を入れてほしい	179	21.6%
今のままでよい	128	15.4%
あまり力を入れる必要はない	97	11.7%
力を入れる必要はない	165	19.9%
無回答・無効	11	1.3%
回答者数	829	100.0%



12. 犯罪や事故が起こりにくいまちづくり

「力を入れてほしい」が36.1%と最も多く、ついで「力を入れる必要はない」が22.9%、「できれば力を入れてほしい」が18.1%となっている。

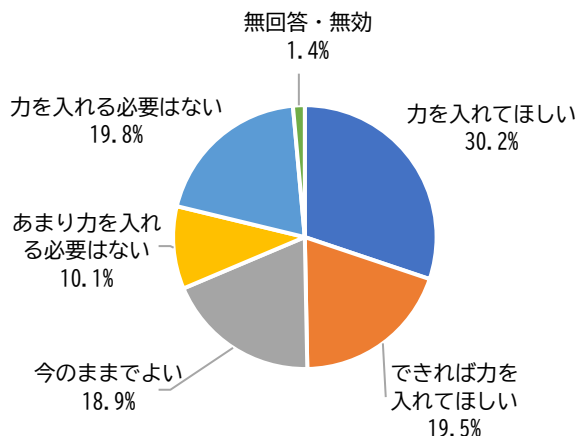
選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	299	36.1%
できれば力を入れてほしい	150	18.1%
今のままでよい	96	11.6%
あまり力を入れる必要はない	85	10.3%
力を入れる必要はない	190	22.9%
無回答・無効	9	1.1%
回答者数	829	100.0%



13. 医療・福祉サービスの充実

「力を入れてほしい」が30.2%と最も多く、ついで「力を入れる必要はない」が19.8%、「できれば力を入れてほしい」が19.5%となっている。

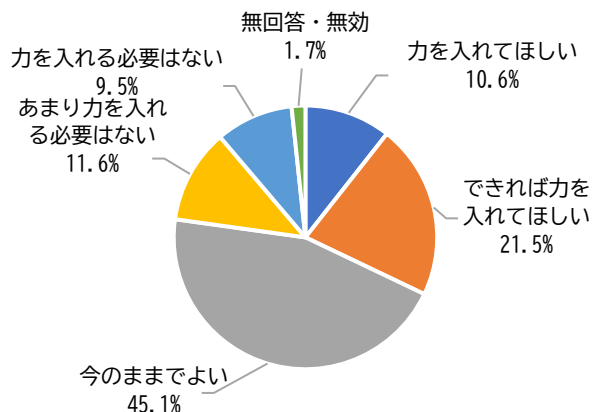
選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	250	30.2%
できれば力を入れてほしい	162	19.5%
今のままでよい	157	18.9%
あまり力を入れる必要はない	84	10.1%
力を入れる必要はない	164	19.8%
無回答・無効	12	1.4%
回答者数	829	100.0%



14. 活発な地域活動の促進

「今のままでよい」が45.1%と最も多く、ついで「できれば力を入れてほしい」が21.5%、「あまり力を入れる必要はない」が11.6%となっている。

選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	88	10.6%
できれば力を入れてほしい	178	21.5%
今のままでよい	374	45.1%
あまり力を入れる必要はない	96	11.6%
力を入れる必要はない	79	9.5%
無回答・無効	14	1.7%
回答者数	829	100.0%

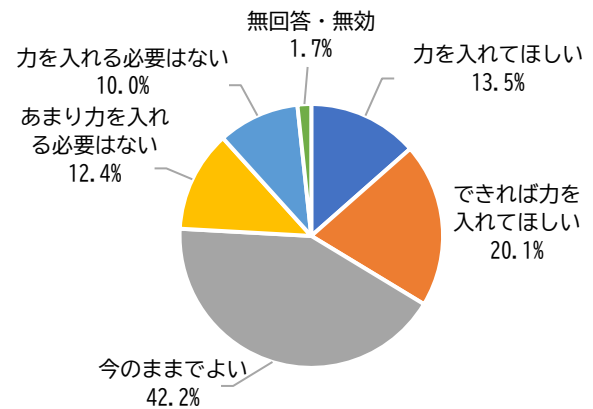


2.2 単純集計結果

15. 市外への魅力発信、イメージの向上

「今のままでよい」が42.2%と最も多く、ついで「できれば力を入れてほしい」が20.1%、「力を入れてほしい」が13.5%となっている。

選択肢	合計	割合
力を入れてほしい	112	13.5%
できれば力を入れてほしい	167	20.1%
今のままでよい	350	42.2%
あまり力を入れる必要はない	103	12.4%
力を入れる必要はない	83	10.0%
無回答・無効	14	1.7%
回答者数	829	100.0%



【問 32】 問 31 の項目以外に力を入れてほしい項目があれば記入してください。

主な意見は下表のとおり。

分類	件数	回答抜粋
交通インフラの改善	50	・高齢者が増えるので市民バスを考えてほしい。 ・道路の整備、人と車が共存できるような街づくり。
子育て支援・福祉サービスの充実	41	・高校生以上の子供を育てやすいまちづくり。 ・単身者の老後が安心して過ごせる環境作り。
地域の美化	25	・トビケラ対策を考えてほしい。なぜ、発生しているのか、原因等も知りたい。 ・歩きタバコやポイ捨てに対する規制をちゃんとしてほしい。
行政サービスの向上	22	・行政サービスのデジタル化、DXを推進してほしい。
公共スペースの整備	22	・安全に子供が遊べる場所づくり。 ・公園の遊具の塗装がはがれていたり、雑草だらけなので整備してほしい。
商業施設の充実・地域活性化	21	・宇治橋商店街の活気、にぎわい。 ・近鉄小倉駅周辺の活性化。
観光政策	13	・観光客へのアピール、宿泊も含めた長時間滞在できる環境をつくる。
教育費の補助・充実した教育環境	12	・子供達の教育にさらに力を入れて欲しい。 ・高校生、大学生の子供がいる家庭への支援。
防災・防犯	12	・防犯カメラの設置など防犯対策の強化を切望します。 ・水害対策に力を入れてほしい。
イベントの充実	11	・孤立しない様なイベント等でつながりがあれば嬉しいです。 ・老人が参加しやすく、お父さん一人でも行きたいと思ってもらえるようなイベント等。
就労支援・安定した就労環境	8	・地元企業への就業マッチング。 ・仕事安定・給料安定。
税負担の軽減	7	・住民税の減額。
その他	56	・海外の国とのつながり。 ・発信(Instagram、YouTube、駅や電車のポスターなどの広告を活用して、宇治市周辺の人の目に触れる機会を増やす)

【問 33】 市外の友人・知人に勧めたい宇治市の魅力は何ですか。

主な意見は下表のとおり。

分類	件数	回答抜粋
伝統・歴史	107	・歴史的な建造物や文化。 ・平等院、宇治上神社。
お茶	80	・お茶がおいしい。 ・宇治茶を中心とした飲食店。
自然とまちなみのバランス	70	・都会と自然、両方感じられる。 ・自然がほどよくあり、新興住宅地は道が整備されているので歩きやすい。
生活しやすさ	63	・一般的な地域であれば土地価格も高すぎず、都市部へも出やすい。混雑も多くない。店もそれなりにある。大型公園等もあると非常に便利と感じる。新婚等、住居を深めている人には必ず宇治を勧めている。
アクセスの良さ	57	・京都市内・大阪へのアクセスの良さ、高速道路へのアクセスも良い。
景観の良さ	41	・宇治川の景観が魅力。 ・美しく日本らしい景観。
様々な観光スポット	32	・任天堂ミュージアムができる。 ・アニメの舞台も多い。
充実した飲食店	27	・宇治橋商店街に色々なお店があること。 ・飲食店が多いのでこまらない。
その他	62	・ゴミ袋が有料で無い事。 ・人の良さ。

【問 34】 あなたにとって大切なものを教えてください。キーワードだけでも構いません。

主な意見は下表のとおり。

分類	件数	回答抜粋
家族・ペット	434	・家族、子どもの未来 ・ペットの猫 ・家族と過ごす時間
自分の時間	180	・自分の時間 ・自由な時間
仕事	103	・安定した仕事があること ・ワークライフバランス
友人等との交流	91	・人と人とのつながり ・友だちと過ごす時間
収入・生活の安定	86	・安定した収入 ・経済的余裕
健康	59	・心身の健康 ・健康第一
自分の趣味や興味	55	・カフェでほっとする ・趣味の時間
生活環境・場所	54	・いこいの場 ・子どもが元気に楽しく過ごせる環境
安全・安心	33	・安心、安全に暮らせること ・犯罪のない平和な環境
その他	56	・希望 ・平和 ・部活

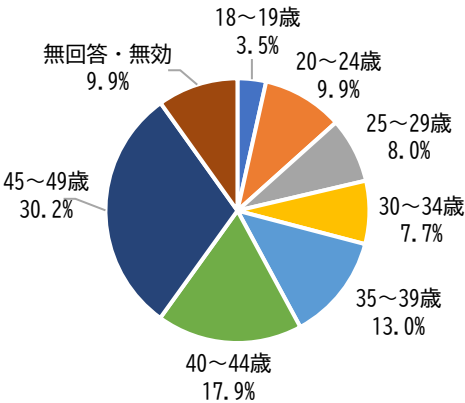
8. 回答者属性

【問 35】 あなたの年齢（令和6年4月1日時点）と性別をご記入ください。

【年齢】

「45～49 歳」が 30.2%と最も多く、ついで「40～44 歳」が 17.9%、「35～39 歳」が 13.0%となっている。

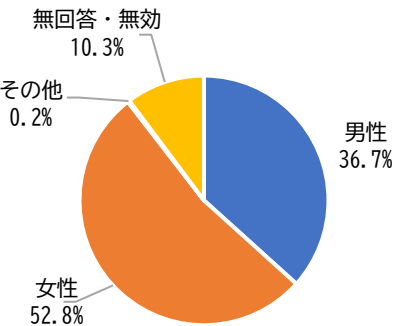
選択肢	合計	割合
18～19 歳	29	3.5%
20～24 歳	82	9.9%
25～29 歳	66	8.0%
30～34 歳	64	7.7%
35～39 歳	108	13.0%
40～44 歳	148	17.9%
45～49 歳	250	30.2%
無回答・無効	82	9.9%
回答者数	829	100.0%



【性別】

「女性」が 52.8%、ついで「男性」が 36.7%となっている。

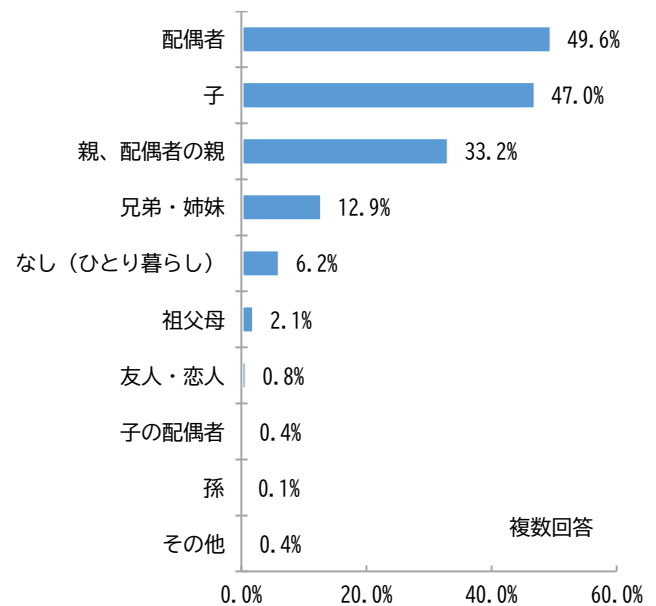
選択肢	合計	割合
男性	304	36.7%
女性	438	52.8%
その他	2	0.2%
無回答・無効	85	10.3%
回答者数	829	100.0%



【問 36】一緒に暮らしている方について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者」が49.6%と最も多く、ついで「子」が47.0%、「親、配偶者の親」が33.2%となっている。

選択肢	合計	割合
なし（ひとり暮らし）	51	6.2%
配偶者	411	49.6%
子	390	47.0%
子の配偶者	3	0.4%
親、配偶者の親	275	33.2%
兄弟・姉妹	107	12.9%
祖父母	17	2.1%
孫	1	0.1%
友人・恋人	7	0.8%
その他	3	0.4%
無回答・無効	82	9.9%
回答者数	829	100.0%

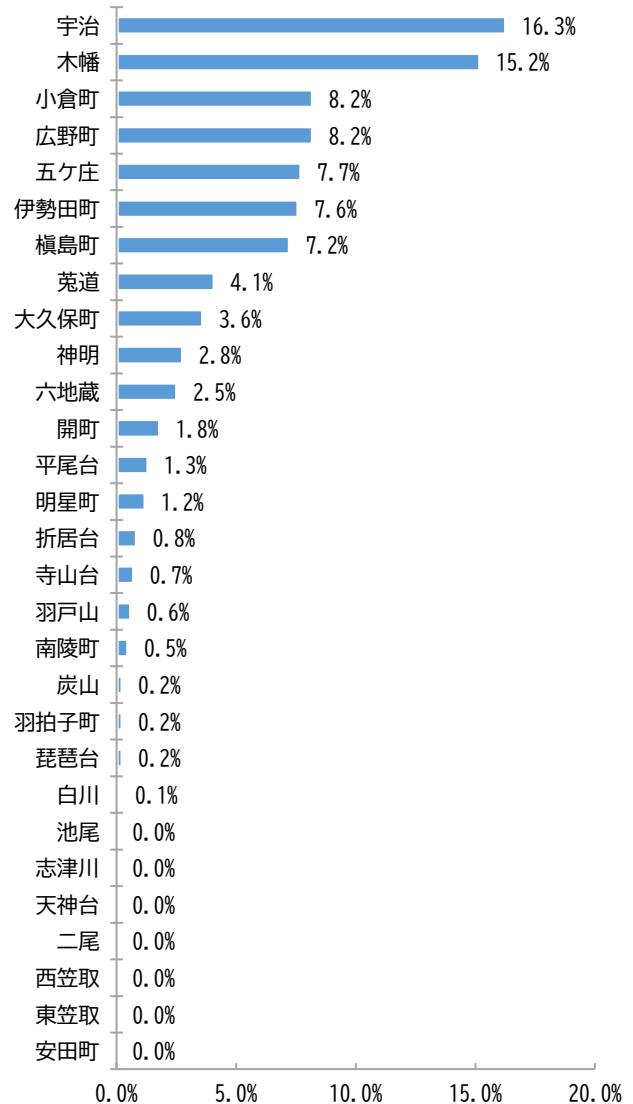

●その他の内容

「親族」「犬・猫」など

【問 37】あなたのお住まいはどちらですか。(あてはまるもの1つに○)

「宇治」が16.3%と最も多く、ついで「木幡」が15.2%、「小倉町」、「広野町」が8.2%となっている。

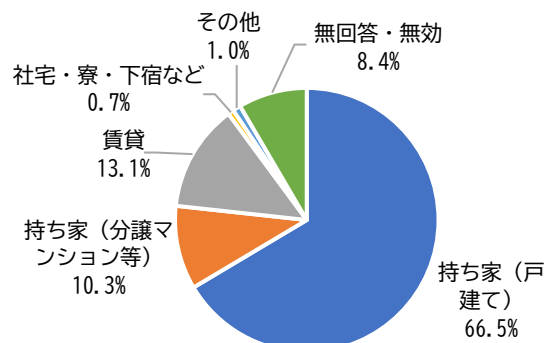
選択肢	合計	割合
六地藏	21	2.5%
木幡	126	15.2%
平尾台	11	1.3%
羽戸山	5	0.6%
五ヶ庄	64	7.7%
菟道	34	4.1%
明星町	10	1.2%
志津川	0	0.0%
宇治	135	16.3%
白川	1	0.1%
折居台	7	0.8%
琵琶台	2	0.2%
神明	23	2.8%
開町	15	1.8%
羽拍子町	2	0.2%
南陵町	4	0.5%
天神台	0	0.0%
広野町	68	8.2%
寺山台	6	0.7%
大久保町	30	3.6%
槇島町	60	7.2%
小倉町	68	8.2%
伊勢田町	63	7.6%
安田町	0	0.0%
東笠取	0	0.0%
西笠取	0	0.0%
二尾	0	0.0%
池尾	0	0.0%
炭山	2	0.2%
無回答・無効	72	8.7%
回答者数	829	100.0%



【問 38】 現在の住居について教えてください。（あてはまるもの1つに○）

「持ち家（戸建て）」が 66.5%と最も多く、ついで「賃貸」が 13.1%、「持ち家（分譲マンション等）」が 10.3%となっている。

選択肢	合計	割合
持ち家（戸建て）	551	66.5%
持ち家（分譲マンション等）	85	10.3%
賃貸	109	13.1%
社宅・寮・下宿など	6	0.7%
その他	8	1.0%
無回答・無効	70	8.4%
回答者数	829	100.0%

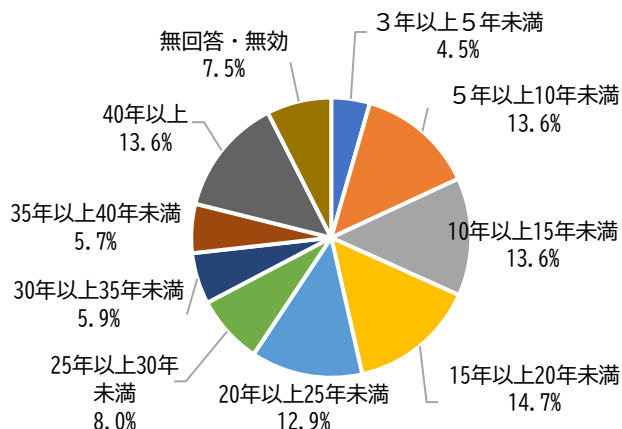

●その他の内容

「公営住宅」「持ち家（親名義）」など

【問 39】 宇治市での居住年数について教えてください。（あてはまるもの1つに○）

「15年以上20年未満」が 14.7%と最も多く、ついで「5年以上10年未満」、「10年以上15年未満」、「40年以上」が 13.6%、「20年以上25年未満」が 12.9%となっている。

選択肢	合計	割合
3年以上5年未満	37	4.5%
5年以上10年未満	113	13.6%
10年以上15年未満	113	13.6%
15年以上20年未満	122	14.7%
20年以上25年未満	107	12.9%
25年以上30年未満	66	8.0%
30年以上35年未満	49	5.9%
35年以上40年未満	47	5.7%
40年以上	113	13.6%
無回答・無効	62	7.5%
回答者数	829	100.0%



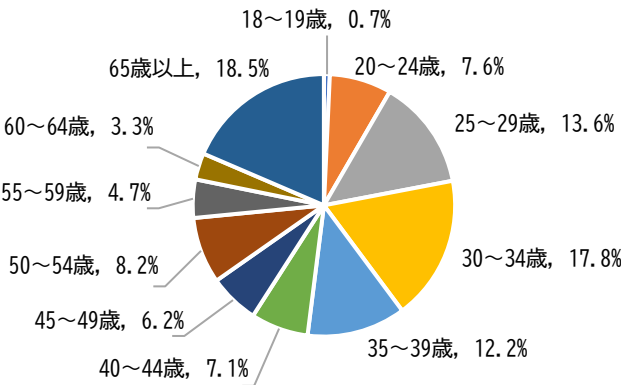
(2) 転入に関するアンケート調査

【問1】 あなたの年齢（令和6年4月1日時点）と性別をご記入ください。

【年齢】

「65歳以上」が18.5%と最も多く、ついで「30～34歳」が17.8%、「25～29歳」が13.6%となっている。

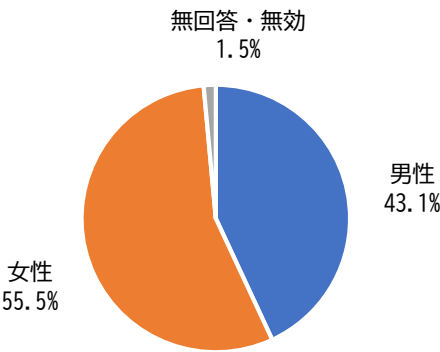
選択肢	合計	割合
18～19歳	4	0.7%
20～24歳	42	7.6%
25～29歳	75	13.6%
30～34歳	98	17.8%
35～39歳	67	12.2%
40～44歳	39	7.1%
45～49歳	34	6.2%
50～54歳	45	8.2%
55～59歳	26	4.7%
60～64歳	18	3.3%
65歳以上	102	18.5%
無回答・無効	0	0.0%
回答者数	550	100.0%



【性別】

「女性」が55.5%、ついで「男性」が43.1%となっている。

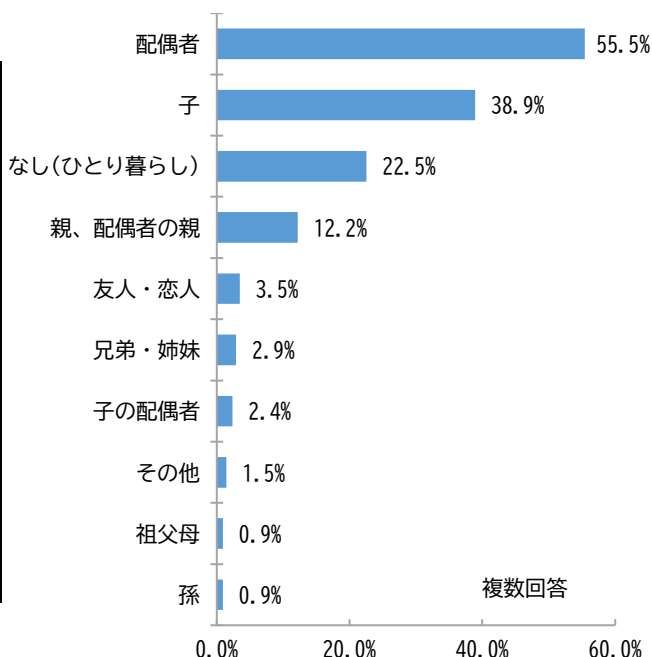
選択肢	合計	割合
男性	237	43.1%
女性	305	55.5%
無回答・無効	8	1.5%
回答者数	550	100.0%



【問2】一緒に暮らしている方について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者」が55.5%と最も多く、ついで「子」が38.9%、「なし(ひとり暮らし)」が22.5%となっている。

選択肢	合計	割合
なし(ひとり暮らし)	124	22.5%
配偶者	305	55.5%
子	214	38.9%
子の配偶者	13	2.4%
親、配偶者の親	67	12.2%
兄弟・姉妹	16	2.9%
祖父母	5	0.9%
孫	5	0.9%
友人・恋人	19	3.5%
その他	8	1.5%
無回答・無効	6	1.1%
回答者数	550	100.0%

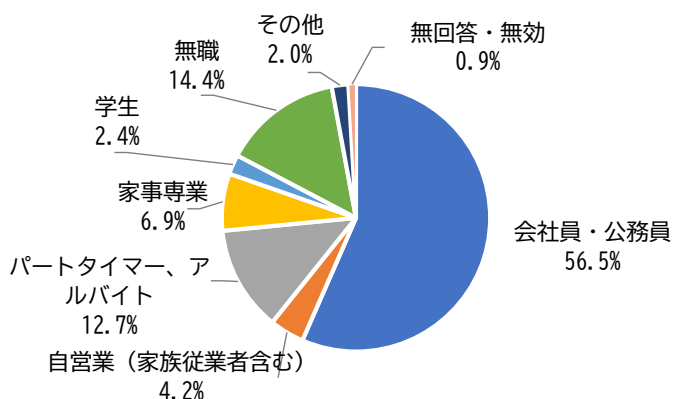

●その他の内容

「福祉施設に入所」「会社員」など

【問3】あなたのご職業について教えてください。（あてはまるもの1つに○）

「会社員・公務員」が56.5%と最も多く、ついで「無職」が14.4%、「パートタイマー、アルバイト」が12.7%となっている。

選択肢	合計	割合
会社員・公務員	311	56.5%
自営業（家族従業者含む）	23	4.2%
パートタイマー、アルバイト	70	12.7%
家事専業	38	6.9%
学生	13	2.4%
無職	79	14.4%
その他	11	2.0%
無回答・無効	5	0.9%
回答者数	550	100.0%


●その他の内容

「医療従事者」「大学教員」「派遣」など

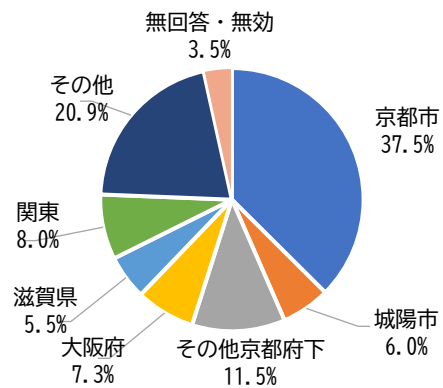
2.2 単純集計結果

【問4】あなたの転入前のお住まいはどちらですか。

「その他」を除き、「京都市」が37.5%と最も多く、ついで「その他京都府下」が11.5%、「関東」が8.0%となっている。

選択肢	合計	割合
京都市	206	37.5%
城陽市	33	6.0%
その他京都府下	63	11.5%
大阪府	40	7.3%
滋賀県	30	5.5%
関東	44	8.0%
その他	115	20.9%
無回答・無効	19	3.5%
回答者数	550	100.0%

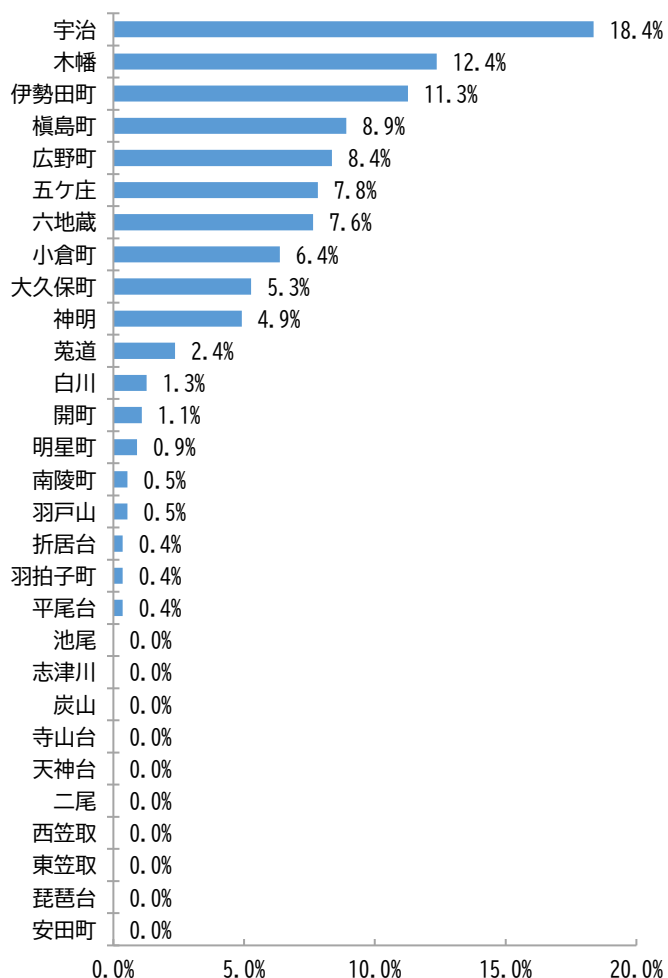
※関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県



【問5】あなたの転入後の住まいはどちらですか。(あてはまるもの1つに○)

「宇治」が18.4%と最も多く、ついで「木幡」が12.4%、「伊勢田町」が11.3%となっている。

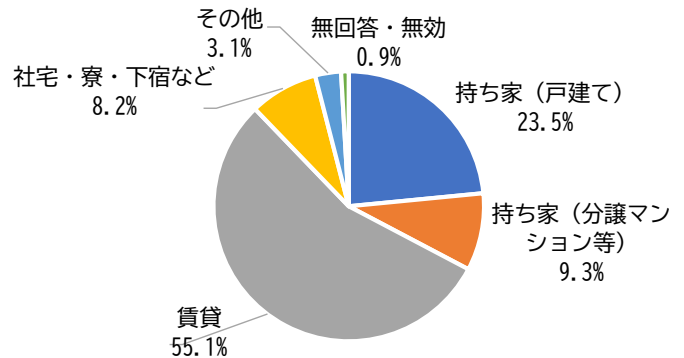
選択肢	合計	割合
六地藏	42	7.6%
木幡	68	12.4%
平尾台	2	0.4%
羽戸山	3	0.5%
五ヶ庄	43	7.8%
菟道	13	2.4%
明星町	5	0.9%
志津川	0	0.0%
宇治	101	18.4%
白川	7	1.3%
折居台	2	0.4%
琵琶台	0	0.0%
神明	27	4.9%
開町	6	1.1%
羽拍子町	2	0.4%
南陵町	3	0.5%
天神台	0	0.0%
広野町	46	8.4%
寺山台	0	0.0%
大久保町	29	5.3%
槇島町	49	8.9%
小倉町	35	6.4%
伊勢田町	62	11.3%
安田町	0	0.0%
東笠取	0	0.0%
西笠取	0	0.0%
二尾	0	0.0%
池尾	0	0.0%
炭山	0	0.0%
無回答・無効	5	0.9%
回答者数	550	100.0%



【問6】転入前後の住居について教えてください。（あてはまるものそれぞれ1つに○）
【転入前】

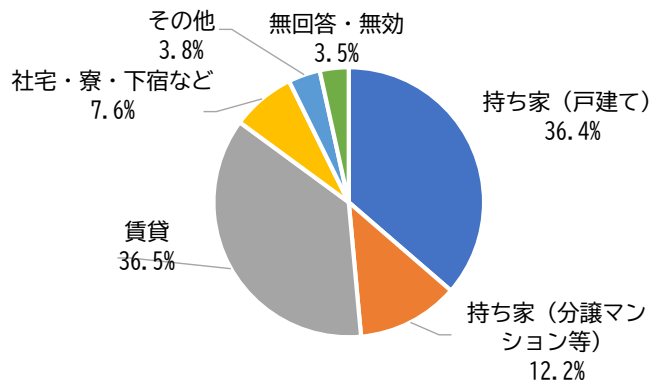
「賃貸」が55.1%と最も多く、ついで「持ち家（戸建て）」が23.5%、「持ち家（分譲マンション等）」が9.3%となっている。

選択肢	合計	割合
持ち家（戸建て）	129	23.5%
持ち家（分譲マンション等）	51	9.3%
賃貸	303	55.1%
社宅・寮・下宿など	45	8.2%
その他	17	3.1%
無回答・無効	5	0.9%
回答者数	550	100.0%


【転入後】

「賃貸」が36.5%と最も多く、ついで「持ち家（戸建て）」が36.4%、「持ち家（分譲マンション等）」が12.2%となっている。

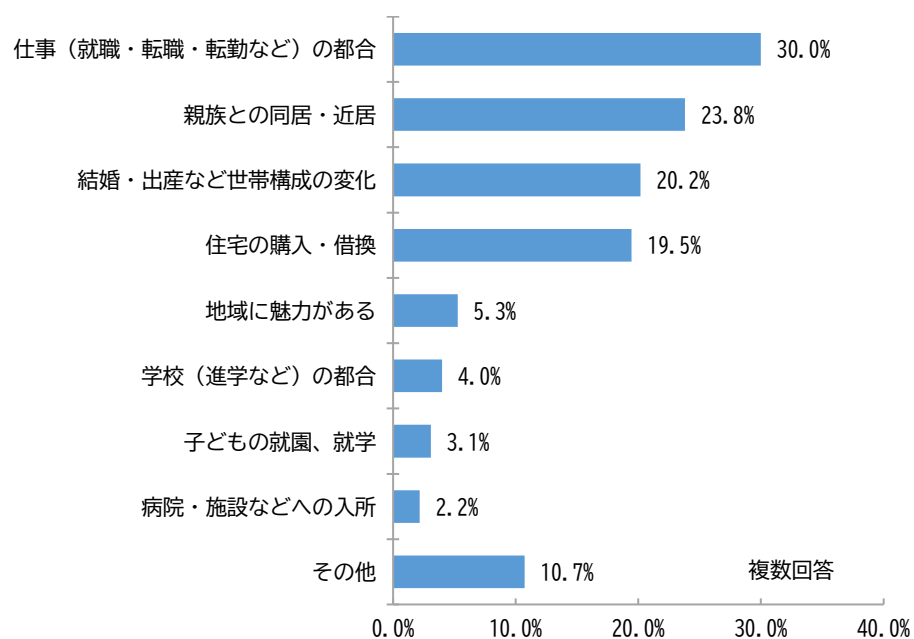
選択肢	合計	割合
持ち家（戸建て）	200	36.4%
持ち家（分譲マンション等）	67	12.2%
賃貸	201	36.5%
社宅・寮・下宿など	42	7.6%
その他	21	3.8%
無回答・無効	19	3.5%
回答者数	550	100.0%



【問7】 転入された理由について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「仕事（就職・転職・転勤など）の都合」が30.0%と最も多く、ついで「親族との同居・近居」が23.8%、「結婚・出産など世帯構成の変化」が20.2%となっている。

選択肢	合計	割合
親族との同居・近居	131	23.8%
仕事（就職・転職・転勤など）の都合	165	30.0%
結婚・出産など世帯構成の変化	111	20.2%
学校（進学など）の都合	22	4.0%
住宅の購入・借換	107	19.5%
子どもの就園、就学	17	3.1%
病院・施設などへの入所	12	2.2%
地域に魅力がある	29	5.3%
その他	59	10.7%
無回答・無効	9	1.6%
回答者数	550	100.0%


●「地域に魅力がある」の内容

「交通の利便性」「自然環境」「公共料金の安さ・助成制度の充実」「歴史・文化」「以前在住していた」など

●その他の内容

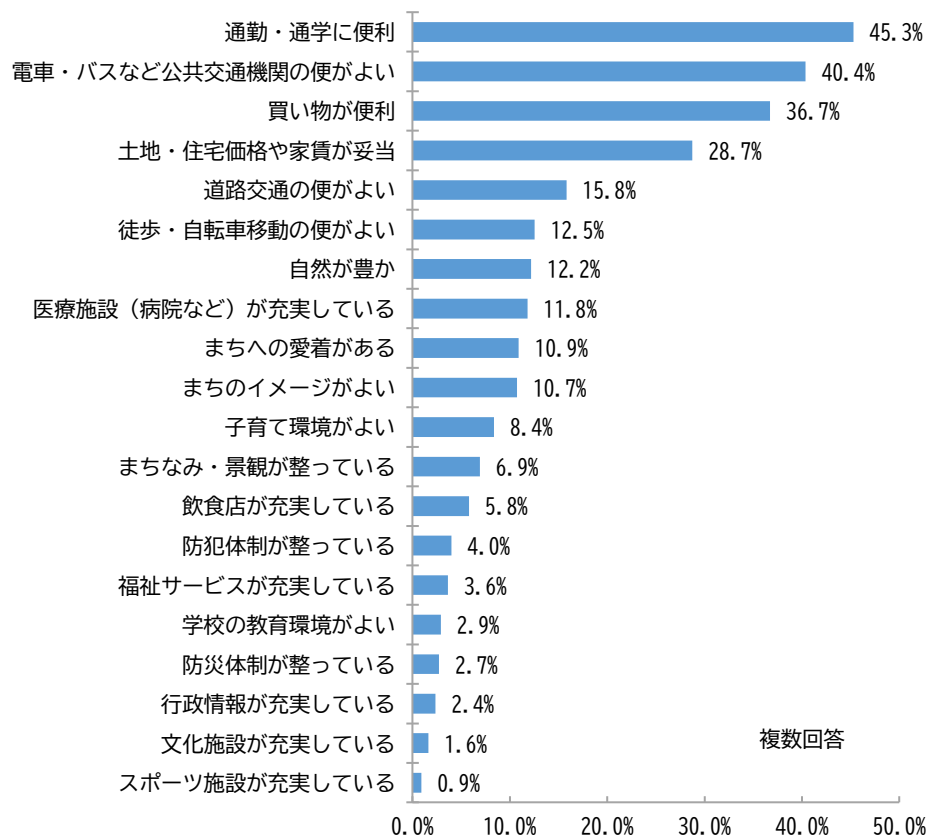
「家庭の事情」「帰郷・以前在住」など

2.2 単純集計結果

【問8】お住まいを決める際に重視した点について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「通勤・通学に便利」が45.3%と最も多く、ついで「電車・バスなど公共交通機関の便がよい」が40.4%、「買い物に便利」が36.7%となっている。

選択肢	合計	割合	選択肢	合計	割合
買い物が便利	202	36.7%	自然が豊か	67	12.2%
飲食店が充実している	32	5.8%	まちなみ・景観が整っている	38	6.9%
通勤・通学に便利	249	45.3%	スポーツ施設が充実している	5	0.9%
電車・バスなど公共交通機関の便がよい	222	40.4%	文化施設が充実している	9	1.6%
道路交通の便がよい	87	15.8%	行政情報が充実している	13	2.4%
徒歩・自転車移動の便がよい	69	12.5%	子育て環境がよい	46	8.4%
土地・住宅価格や家賃が妥当	158	28.7%	学校の教育環境がよい	16	2.9%
防災体制が整っている	15	2.7%	医療施設（病院など）が充実している	65	11.8%
防犯体制が整っている	22	4.0%	福祉サービスが充実している	20	3.6%
まちへの愛着がある	60	10.9%	無回答・無効	54	9.8%
まちのイメージがよい	59	10.7%	回答者数	550	100.0%

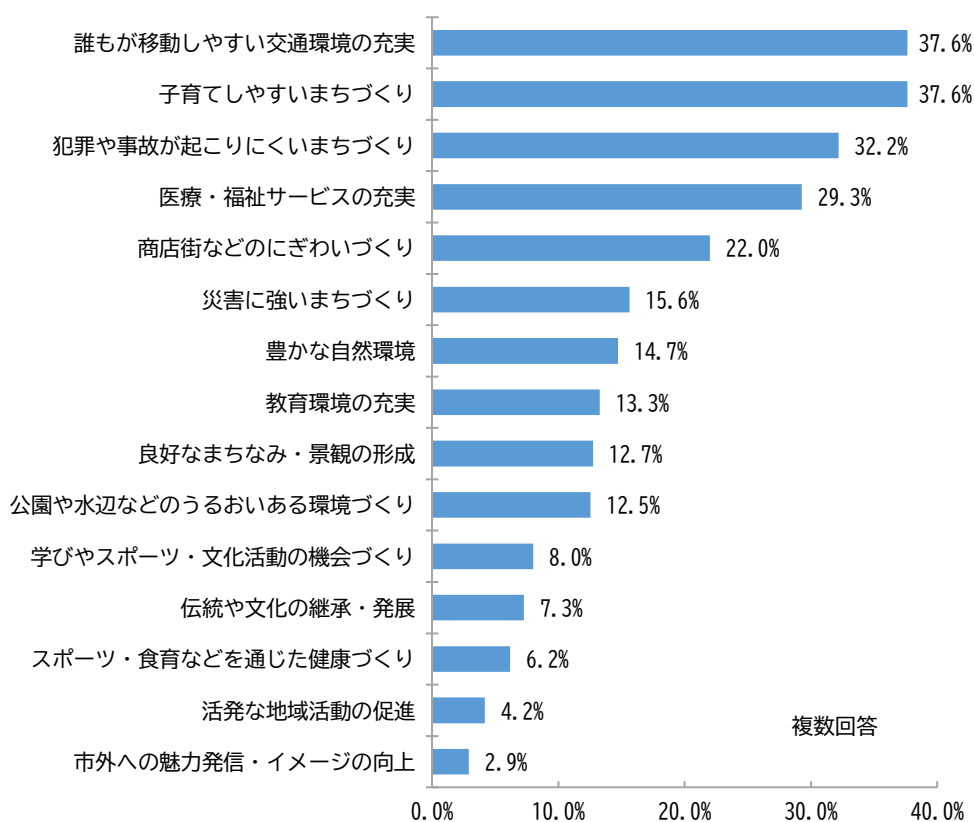


【問9】宇治市のまちづくりに対して特にどんなことを期待しますか。（あてはまるものに3つまで○）

「誰もが移動しやすい交通環境の充実」、「子育てしやすいまちづくり」が37.6%と最も多く、ついで「犯罪や事故が起こりにくいまちづくり」が32.2%となっている。

選択肢	合計	割合
商店街などのにぎわいづくり	121	22.0%
スポーツ・食育などを通じた健康づくり	34	6.2%
学びやスポーツ・文化活動の機会づくり	44	8.0%
誰もが移動しやすい交通環境の充実	207	37.6%
豊かな自然環境	81	14.7%
良好なまちなみ・景観の形成	70	12.7%
公園や水辺などのうるおいある環境づくり	69	12.5%
伝統や文化の継承・発展	40	7.3%

選択肢	合計	割合
子育てしやすいまちづくり	207	37.6%
教育環境の充実	73	13.3%
災害に強いまちづくり	86	15.6%
犯罪や事故が起こりにくいまちづくり	177	32.2%
医療・福祉サービスの充実	161	29.3%
活発な地域活動の促進	23	4.2%
市外への魅力発信・イメージの向上	16	2.9%
無回答・無効	16	2.9%
回答者数	538	100.0%



2.2 単純集計結果

【問 10】 問 9 の選択肢以外に期待する項目があれば記入してください。

主な意見は下表のとおり。

分類	件数	回答抜粋
交通インフラの改善	57	・伊勢田地区にコミニティーバスがないのが不便。 ・渋滞の緩和。
子育て支援・福祉サービスの充実	17	・不妊治療などの、“生むため”の支援を充実させてほしい。 ・もっと色々な子育て支援や福祉サービスなどがあれば良いと感じます。
商業施設の充実	14	・買い物しやすい環境(ショッピングモールなど)。 ・スーパー、コンビニエンスストアを誘致するなどして欲しい。五ヶ庄野添周辺にはスーパー、コンビニエンスストアが徒歩圏内に無くとても不便。
行政サービスの向上	12	・コンビニで住民票など印刷できるなど行政サービスの充実。 ・宇治生活応援クーポン良かったです。またあると嬉しい。
地域の美化	12	・住宅地の側溝の定期的な清掃及び草刈り。 ・道路、河川のごみが多く、また、老朽化した家屋が放置されているため町の美化に力を入れてほしい。
観光資源を活用した街づくり	11	・世界遺産を中心にした街づくり。 ・観光業サポート(観光強化は賛成だが、そのための道路整備、混雑対応策が練られていることに期待)。
イベントの充実	7	・アニメ聖地として積極的なイベント開催。 ・マルシェ等盛んなイベント開催。
税負担の軽減	7	・市民税の減税。
高齢者の生活支援	5	・高齢者の暮らしやすいまちづくり。 ・高齢者への生活支援。
人と人との交流の場	3	・地元の人と新しい人との繋がる場が増えたら、いいと思います。
その他	18	・長く住みやすい治安の良い地域を望みます。

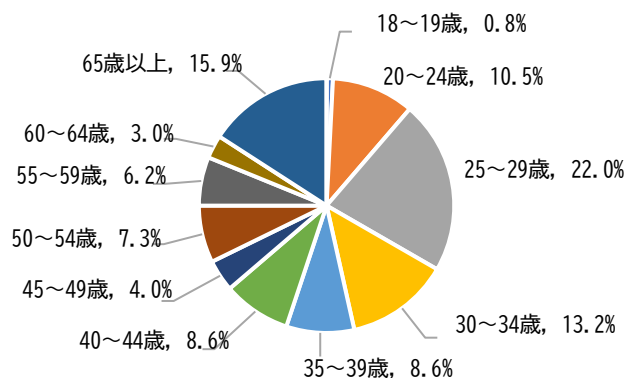
(3) 転出に関するアンケート調査

【問1】あなたの年齢（令和6年4月1日時点）と性別をご記入ください。

【年齢】

「25～29歳」が22.0%と最も多く、ついで「65歳以上」が15.9%、「30～34歳」が13.2%となっている。

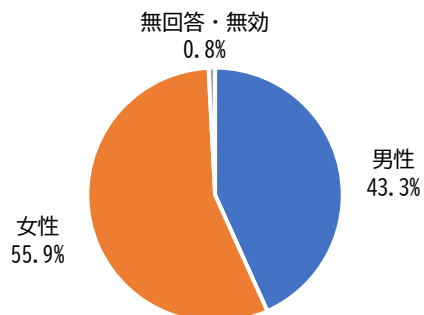
選択肢	合計	割合
18～19歳	3	0.8%
20～24歳	39	10.5%
25～29歳	82	22.0%
30～34歳	49	13.2%
35～39歳	32	8.6%
40～44歳	32	8.6%
45～49歳	15	4.0%
50～54歳	27	7.3%
55～59歳	23	6.2%
60～64歳	11	3.0%
65歳以上	59	15.9%
無回答・無効	0	0.0%
回答者数	372	100.0%



【性別】

「女性」が55.9%、ついで「男性」が43.3%となっている。

選択肢	合計	割合
男性	161	43.3%
女性	208	55.9%
無回答・無効	3	0.8%
回答者数	372	100.0%

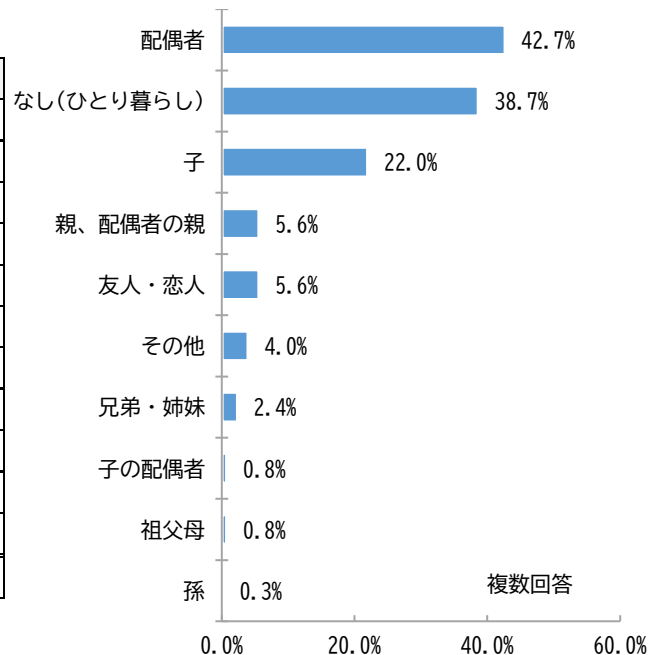


2.2 単純集計結果

【問2】一緒に暮らしている方について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

「配偶者」が42.7%と最も多く、ついで「なし(ひとり暮らし)」が38.7%、「子」が22.0%となっている。

選択肢	合計	割合
なし(ひとり暮らし)	144	38.7%
配偶者	159	42.7%
子	82	22.0%
子の配偶者	3	0.8%
親、配偶者の親	21	5.6%
兄弟・姉妹	9	2.4%
祖父母	3	0.8%
孫	1	0.3%
友人・恋人	21	5.6%
その他	15	4.0%
無回答・無効	4	1.1%
回答者数	372	100.0%



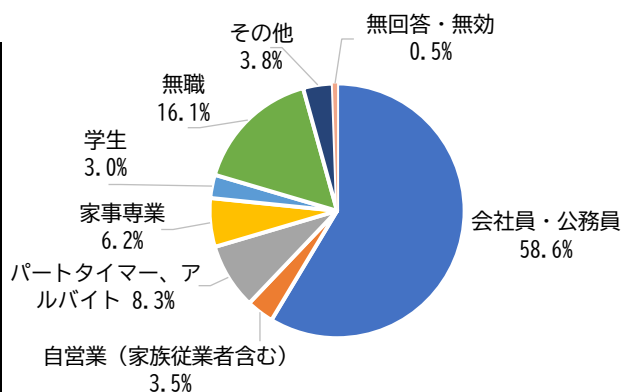
●その他の内容

「福祉施設に入所」など

【問3】あなたのご職業について教えてください(あてはまるもの1つに○)

「会社員・公務員」が58.6%と最も多く、ついで「無職」が16.1%、「パートタイマー、アルバイト」が8.3%となっている。

選択肢	合計	割合
会社員・公務員	218	58.6%
自営業(家族従業者含む)	13	3.5%
パートタイマー、アルバイト	31	8.3%
家事専業	23	6.2%
学生	11	3.0%
無職	60	16.1%
その他	14	3.8%
無回答・無効	2	0.5%
回答者数	372	100.0%



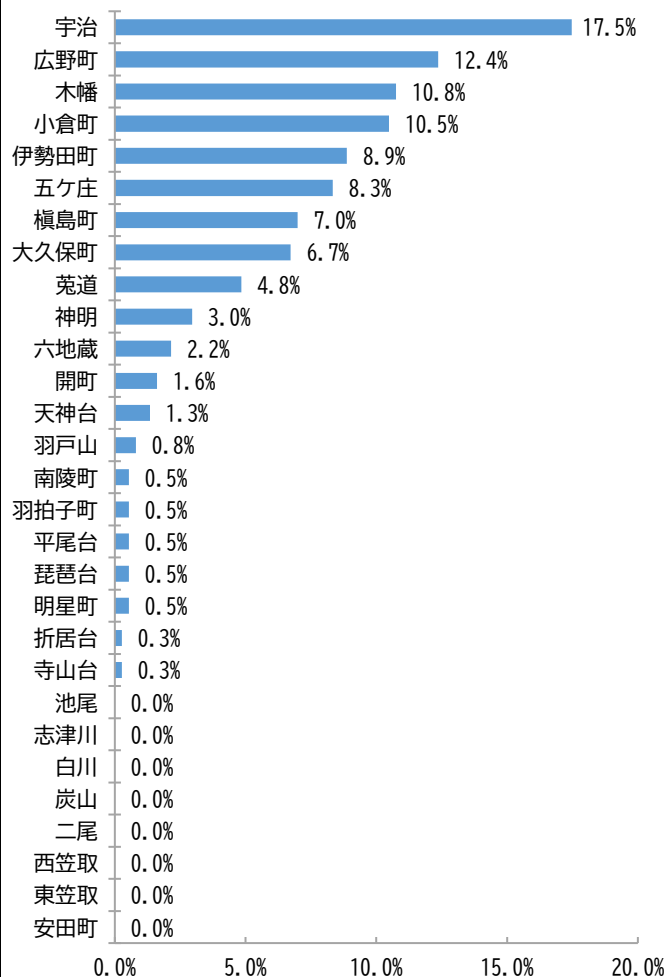
●その他の内容

「医療職」「福祉就労」「団体職員」など

【問4】あなたの転出前のお住まいはどちらですか。

「宇治」が17.5%と最も多く、ついで「広野町」が12.4%、「木幡」が10.8%となっている。

選択肢	合計	割合
六地蔵	8	2.2%
木幡	40	10.8%
平尾台	2	0.5%
羽戸山	3	0.8%
五ヶ庄	31	8.3%
菟道	18	4.8%
明星町	2	0.5%
志津川	0	0.0%
宇治	65	17.5%
白川	0	0.0%
折居台	1	0.3%
琵琶台	2	0.5%
神明	11	3.0%
開町	6	1.6%
羽拍子町	2	0.5%
南陵町	2	0.5%
天神台	5	1.3%
広野町	46	12.4%
寺山台	1	0.3%
大久保町	25	6.7%
槇島町	26	7.0%
小倉町	39	10.5%
伊勢田町	33	8.9%
安田町	0	0.0%
東笠取	0	0.0%
西笠取	0	0.0%
二尾	0	0.0%
池尾	0	0.0%
炭山	0	0.0%
無回答・無効	4	1.1%
回答者数	372	100.0%



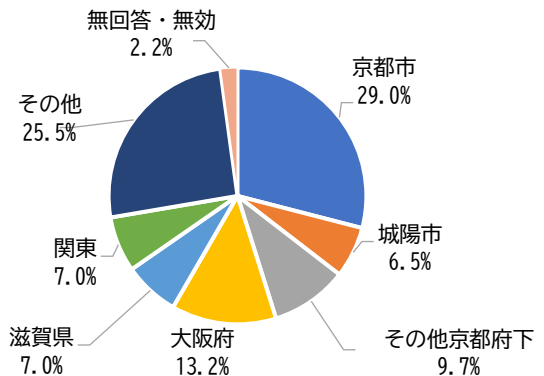
2.2 単純集計結果

【問5】あなたの転出後の住まいをご記入ください。

「その他」を除き、「京都市」が29.0%と最も多く、ついで「大阪府」が13.2%、「その他京都府下」が9.7%となっている。

選択肢	合計	割合
京都市	108	29.0%
城陽市	24	6.5%
その他京都府下	36	9.7%
大阪府	49	13.2%
滋賀県	26	7.0%
関東	26	7.0%
その他	95	25.5%
無回答・無効	8	2.2%
回答者数	372	100.0%

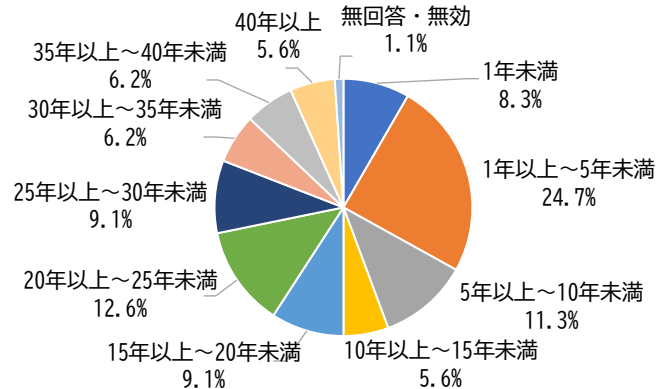
※関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県



【問6】宇治市での居住年数について教えてください。(あてはまるもの1つに○)

「1年以上～5年未満」が24.7%と最も多く、ついで「20年以上～25年未満」が12.6%、「5年以上～10年未満」が11.3%となっている。

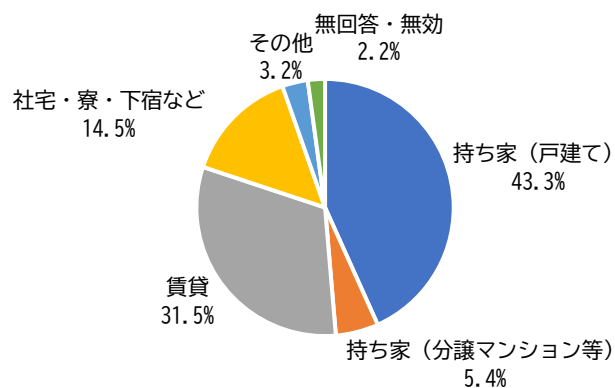
選択肢	合計	割合
1年未満	31	8.3%
1年以上～5年未満	92	24.7%
5年以上～10年未満	42	11.3%
10年以上～15年未満	21	5.6%
15年以上～20年未満	34	9.1%
20年以上～25年未満	47	12.6%
25年以上～30年未満	34	9.1%
30年以上～35年未満	23	6.2%
35年以上～40年未満	23	6.2%
40年以上	21	5.6%
無回答・無効	4	1.1%
回答者数	372	100.0%



【問7】 転出前後の住居について教えてください。（あてはまるものそれぞれ1つに○）
【転出前】

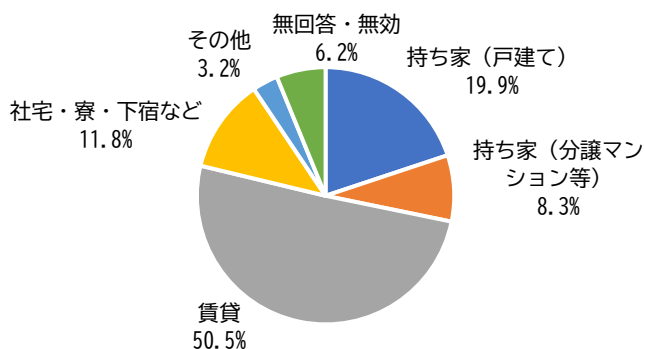
「持ち家（戸建て）」が43.3%と最も多く、ついで「賃貸」が31.5%、「社宅・寮・下宿など」が14.5%となっている。

選択肢	合計	割合
持ち家（戸建て）	161	43.3%
持ち家（分譲マンション等）	20	5.4%
賃貸	117	31.5%
社宅・寮・下宿など	54	14.5%
その他	12	3.2%
無回答・無効	8	2.2%
回答者数	372	100.0%


【転出後】

「賃貸」が50.5%と最も多く、ついで「持ち家（戸建て）」が19.9%、「社宅・寮・下宿など」が11.8%となっている。

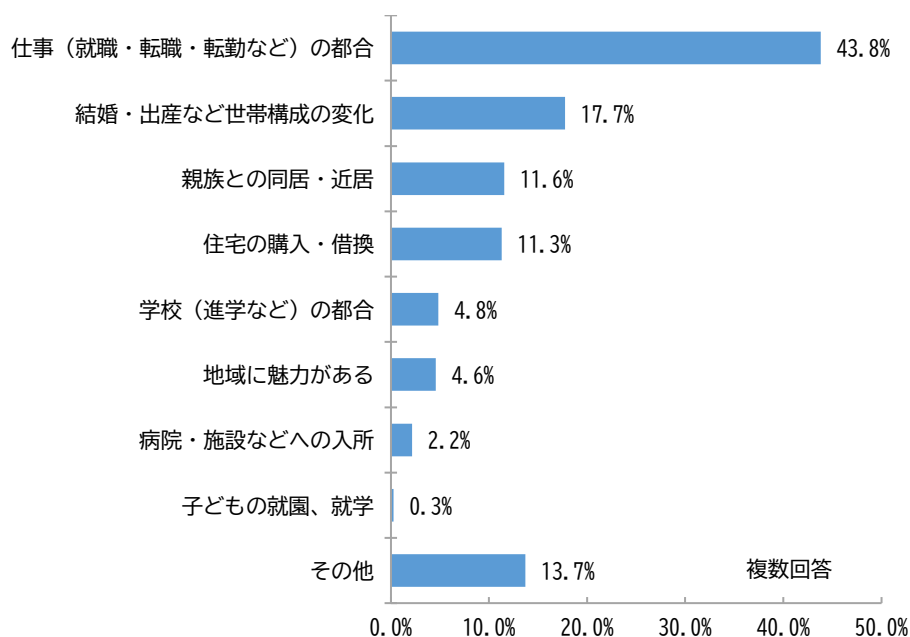
選択肢	合計	割合
持ち家（戸建て）	74	19.9%
持ち家（分譲マンション等）	31	8.3%
賃貸	188	50.5%
社宅・寮・下宿など	44	11.8%
その他	12	3.2%
無回答・無効	23	6.2%
回答者数	372	100.0%



【問8】 転出された理由について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「その他」を除き、「仕事（就職・転職・転勤など）の都合」が43.8%と最も多く、ついで「結婚・出産など世帯構成の変化」が17.7%、「親族との同居・近居」が11.6%となっている。

選択肢	合計	割合
親族との同居・近居	43	11.6%
仕事（就職・転職・転勤など）の都合	163	43.8%
結婚・出産など世帯構成の変化	66	17.7%
学校（進学など）の都合	18	4.8%
住宅の購入・借換	42	11.3%
子どもの就園、就学	1	0.3%
病院・施設などへの入所	8	2.2%
地域に魅力がある	17	4.6%
その他	51	13.7%
無回答・無効	10	2.7%
回答者数	372	100.0%



●「地域に魅力がある」の内容

「利便性」「家賃・土地の安さ」「家族の事情」「自然環境」「通勤・通学」など

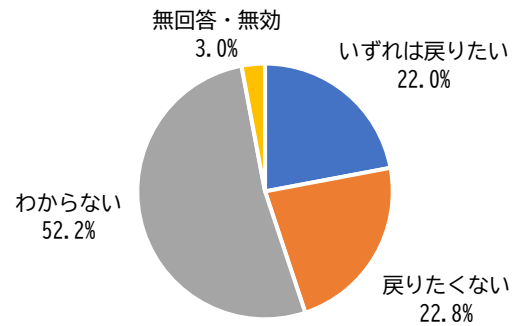
●その他の内容

「施設への入所」「家庭の事情」「帰郷」など

【問9】 今後、宇治市に戻りたいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

「わからない」が52.2%と最も多く、ついで「戻りたくない」が22.8%、「いずれは戻りたい」が22.0%となっている。

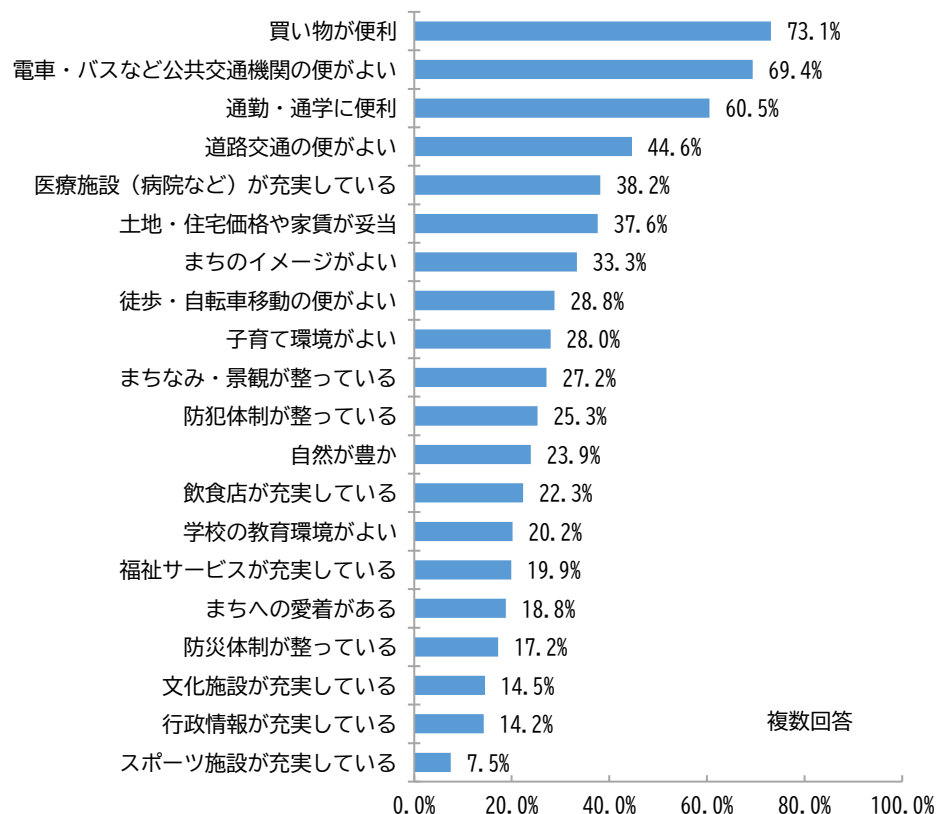
選択肢	合計	割合
いずれは戻りたい	82	22.0%
戻りたくない	85	22.8%
わからない	194	52.2%
無回答・無効	11	3.0%
回答者数	372	100.0%



【問 10】 あなたは住む場所を選ぶ際、どのようなことを重視しますか。（あてはまるものすべてに○）

「買い物が便利」が 73.1%と最も多く、ついで「電車・バスなど公共交通機関の便がよい」が 69.4%、「通勤・通学に便利」が 60.5%となっている。

選択肢	合計	割合	選択肢	合計	割合
買い物が便利	272	73.1%	自然が豊か	89	23.9%
飲食店が充実している	83	22.3%	まちなみ・景観が整っている	101	27.2%
通勤・通学に便利	225	60.5%	スポーツ施設が充実している	28	7.5%
電車・バスなど公共交通機関の便がよい	258	69.4%	文化施設が充実している	54	14.5%
道路交通の便がよい	166	44.6%	行政情報が充実している	53	14.2%
徒歩・自転車移動の便がよい	107	28.8%	子育て環境がよい	104	28.0%
土地・住宅価格や家賃が妥当	140	37.6%	学校の教育環境がよい	75	20.2%
防災体制が整っている	64	17.2%	医療施設（病院など）が充実している	142	38.2%
防犯体制が整っている	94	25.3%	福祉サービスが充実している	74	19.9%
まちへの愛着がある	70	18.8%	無回答・無効	7	1.9%
まちのイメージがよい	124	33.3%	回答者数	372	100.0%



【問 11】 問 10 の選択肢以外で宇治市内に住むことを後押しするために必要だと思うものがあれば教えてください。

主な意見は下表のとおり。

分類	件数	回答抜粋
交通インフラの改善	35	・宇治市内の道路がよく渋滞しますので、渋滞対策が必要だと思います。 ・宇治市役所周辺の地域が坂になっている部分があったと思いますので、その周辺地域のためのシャトルバスがあればいいかと思います。
子育て支援・福祉サービスの充実	30	・保育園の無償化や公立保育園のサービス充実などがあるといいと思います。 ・福祉課にケースワーカーが常設されてる事に心強く感じる。
商業施設の充実	17	・遊べる場所の充実(ラウンドワンのような全年齢が楽しめる場所) ・スーパーなど日常必要な施設が減っている。気軽に立ち寄れるカフェなどが多数あると良い。
行政サービスの向上	13	・居住年数に応じて税金が安くなる、一定の年数居住すると商品券や割引券が貰える、居住日数に応じてポイントが貯まる等の、居住すると良いことがあるという宇治市独自の取組。
人と人との交流	7	・地域と人とが密着していて良かったと思います。ボランティア活動も楽しくさせてもらっていました。 ・人とのつながりがある。
地域の美化	6	・ゴミ問題にもっと力を入れてほしい。 ・トビケラの駆除。
観光資源を活用した街づくり	6	・特に、源氏物語のゆかりの地、宇治川べり、大吉山からのながめ。お茶、風光明媚な土地が、なつかしいです。落ちついた風情を大切にしていってほしいと思います。 ・もっと平等院や源氏ミュージアムを出せると、興味のある人は住みたくなるんじゃないのか。
公共スペースの整備	6	・アクティビティも出来る施設があれば良いと思う。 ・子どもを安心して遊ばせられる公園。
イベントの充実	5	・マルシェやその他の何かのイベントがあればいいと思います。 ・花火がみたい。
税負担の軽減	4	・住民税の安さ。 ・経済的支援。
その他	31	・地域医療の充実 ・若い世代が興味を持った際、すぐに情報が得られる SNS の充実 ・宇治市は 自然と都会の中間でとても住みやすい所でした。仕事のために転居したので、住み続けたかったです。

意見募集について

宇治市人口ビジョン・創生総合戦略（初案）への意見募集につきまして、下記のとおり実施いたします。

記

1. 対象者

- （1）本市の在住、在勤、在学者
- （2）本市の区域内に事務所又は事業所を有する個人及び法人その他の団体
- （3）本市に対して納税義務を有する個人及び法人
- （4）前各号に掲げるもののほか、本計画初案に利害関係を有するもの

2. 意見の募集期間

令和6年11月20日（水）から令和6年12月20日（金）まで

3. 初案の公表方法

- （1）市ホームページへの掲載
- （2）政策戦略課及び行政資料コーナーへの配架
- （3）市の主な公共施設への配架

4. 意見の募集方法

- （1）政策戦略課への持参
- （2）郵便
- （3）FAX
- （4）電子メール
- （5）ホームページの専用フォーム
- （6）「市民の声投書箱」への投函